

## 業績目録(貫和敏博)

著者	東北大学史料館
号	1174
発行年	2012-03
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10097/62894">http://hdl.handle.net/10097/62894</a>

貫和敏博教授業績目録

平成 24 年 3 月  
東北大学史料館  
(著作目録第 1174 号)



## 貫 和 敏 博 教 授 略 歴

生年月日	昭和22年 4 月26日
本 籍 地	富山県
職 名	教授
所 属	東北大学大学院医学系研究科内科病態学講座呼 吸器病態学分野

### 最終学歴

昭和48年 9 月	東京大学医学部医学科卒業
昭和58年10月	東京大学大学院医学系研究科医学専攻博士号取得

### 職 歴

昭和53年 6 月	自治医科大学医学部呼吸器内科シニアレジデント
昭和54年 6 月	同大学医学部助手
昭和57年 4 月	同大学医学部講師
昭和58年12月	National Institute of Health (National Heart , Lung, and Blood Institute; Pulmonary Branch, Chief: Dr. Ronal G Crystal), Guest Researcher (Eli Lilly International Fellow from Japan)
昭和60年12月	同 Visiting Associate
昭和63年 1 月	順天堂大学医学部呼吸器内科助教授
平成 5 年 3 月	東北大学抗酸菌病研究所内科部門教授
平成 5 年 4 月	東北大学加齢医学研究所腫瘍制御研究部門呼吸器腫瘍研究分野教授
平成 5 年 4 月	東北大学加齢医学研究所附属病院胸部腫瘍内科科長 (併任)
平成12年10月	東北大学病院遺伝子・呼吸器内科科長 (併任)
平成19年12月	東北大学大学院医学系研究科内科病態学講座呼吸器病態学分野教授
平成20年 4 月	東北大学病院呼吸器内科科長 (併任)
平成23年 9 月	東北大学を定年退職

## 学 位

昭和58年10月 医学博士（東京大学）

## 受賞

平成4年5月 日本呼吸器学会熊谷賞  
平成19年11月 Asian Pacific Society of Respiriology,  
The Harasawa Memorial Award

## 学会等における活動（役職等）

日本呼吸器学会 理事（1996年～）  
日本呼吸器学会 学術講演会会長（2006年～2007年）  
日本呼吸器学会 理事長（2008年～2009年）  
日本呼吸器学会 常務理事（2010年～）  
日本呼吸器学会 評議員（1988年～）  
日本癌学会 評議員（2001年～）  
日本肺癌学会 理事（2000年～）  
日本肺癌学会 評議員（1994年～）  
日本内科学会 評議員（2007年～）  
日本臨床分子医学会 評議員（1998年～）  
日本臨床腫瘍学会 評議員（2005年～）  
日本結核病学会 評議員（2005年～）  
日本サルコイドーシス・肉芽腫性疾患学会 評議員（1996年～）  
日本サルコイドーシス・肉芽腫性疾患学会 会長（2008年）  
The American Physiological Society, Editorial Board of American Journal of Physiology  
（1994年～1999年）  
American Thoracic Society, Editorial Board of American Journal of  
Respiratory Cell and Molecular Biology（1998年～2010年）  
Editorial Board of American journal of Respiratory and Critical Care Medicine（2005年～2010年）  
Asian Pacific Society of Respiriology, Councilor（2007年～2011年）  
Asian Pacific Society of Respiriology, Associate Editor of Respiriology（2003年～2006年）  
日本癌治療学会 Editorial Board of International Journal of Clinical Oncology（1998年～）

## 社会における活動

独立行政法人大学評価・学位授与機構 大学機関別認証評価委員会評価部会委員  
（2009年～2010年）  
独立行政法人日本学術振興会 科学研究費委員会専門委員（1997年～）  
独立行政法人日本学術振興会 特別研究員等審査会専門委員・国際事業委員会書面審査員  
（2009年～2010年）  
厚生労働省医政局 医師試験委員（2006年～2010年）  
厚生労働省薬事・食品衛生審議会 臨時委員（2007年～2011年）  
独立行政法人医薬品医療機器総合機構 専門委員（2001年～2012年）  
宮城県医師会 副会長（2008年～2010年）  
宮城県肺がん対策協議会 対策委員（1993年～）  
結核予防会宮城県支部 理事（1995年～）



## 業 績 目 録

## I. 著書・編書（共著書等含む）

## 著書・編書（英文）

1. Nukiwa T, Ogushi F, Crystal RG: Alpha1-antitrypsin deficiency: a1AT gene evolution. in Alpha1-antitrypsin Deficiency. a new volume in a series of "Lung Biology in Health and Disease", pp33-34,1992, Marcel Dekker Inc.
2. Nukiwa T, Seyama K, Kira S: Alpha1-antitrypsin deficiency: Prevalence outside of USA and Europe. in Alpha 1-antitrypsin Deficiency. A new volume in a series of "Lung Biology in Health and Disease", pp293-302,1992, Marcel Dekker, Inc.
3. Nukiwa T, Homma S, Kira S : Insulin-like growth factor - I in pulmonary fibrosis. in Basic and Clinical Aspects of Pulmonary Fibrosis (ed, Takishima T). pp197-203, 1994, CRC press, Boca Raton.
4. Nukiwa T: The role of biomarkers in management of interstitial lung disease: implications of biomarkers derived from type II pneumocytes. Interstitial Lung Diseases (ed. R.M. du Bois, L. Richeldi), pp47-66, European Respiratory Monograph, 2009, European Respiratory Society.

## 著書・編書（和文）

1. 吉良枝郎, 荒井達郎, 名取博, 貫和敏博 他：目でみる症例診断3：呼吸器病。（編集 吉良枝郎）1983. メジカルビュー社.
2. 貫和敏博：肺の代謝機能・内分泌機能（1）肺細胞機能の物質的基礎と分子生物学. NIM lectures 呼吸器病学（第3版）本間日臣編集, pp.204-217, 1990, 医学書院.
3. 貫和敏博：閉塞性肺疾患の診断と治療（2）肺細胞の病態と分子生物学. NIM lectures 呼吸器病学（第3版）本間日臣編集, pp.218-235, 1990, 医学書院.
4. 貫和敏博：間質性肺炎症例における BALF 情報解析上の問題点. びまん性肺疾患における気管支肺胞洗浄法（BAL）の手技と応用に関する指針. 厚生省特定疾患びまん性肺疾患調査研究班編, pp.8-10, 1991.

5. 貫和敏博, 瀬戸口靖弘: パラコート肺障害, 別冊医学のあゆみ 呼吸器疾患 State of Arts, pp.62-64, 1991, 医歯薬出版.
6. 鈴木修治, 貫和敏博: 呼吸器疾患の遺伝子学的診断, 呼吸器疾患 - state of arts 1995-98. pp.225-226, 1994, 医歯薬出版.
7. 貫和敏博: 肺気腫の病因・病態, 最新内科医学体系60, 肺気腫, 間質性肺疾患. pp.170-181, 1994, 中山書店.
8. 貫和敏博: 呼吸器疾患の分子医学 - その分野と展望 -, 臨床医ための実験医学シリーズ11: 呼吸器系の分子医学 (貫和敏博編). pp.12-23, 1994, 羊土社.
9. 瀬山邦明, 貫和敏博:  $\alpha 1$ -アンチトリプシン欠損症と cystic fibrosis. 臨床医のための実験医学シリーズ11呼吸器系の分子医学, pp.82-101, 1994, 羊土社.
10. 檀原高, 貫和敏博, 吉良枝郎: 肺胞蛋白症 図説病態内科講座 8 : pp.78-82, 1994, メジカル・レビュー社.
11. 佐藤研, 鳴海晃, 貫和敏博: 9.呼吸器疾患. 細胞外マトリックス - 基礎と臨床 - (小出輝ら編). 1995, 愛智出版.
12. 貫和敏博: 全身性疾患・他臓器疾患に伴う呼吸器障害, 内科学書 2 (島田馨編). pp.1400-1403, 1995, 中山書店.
13. 貫和敏博: BALの臨床応用, 気管支肺胞腺症 [BAL] 法の臨床ガイドライン (田村昌士編). pp.6-13, 東京, 1995, 克誠堂出版.
14. 佐藤秀隆, 貫和敏博: 3.呼吸器内科 受診にあたっての注意, 医師のための紹介状・返信の正しい書き方 (市村恵一編). pp.71-77, 1995, 金原出版.
15. 瀬山邦明, 貫和敏博, 吉良枝郎: 4.  $\alpha 1$ -アンチトリプシン欠損症, 遺伝子診断実践ガイド (中井利昭他編). pp.333-342, 1995, 中外医学社.
16. 貫和敏博: 西野流呼吸法 体が喜んでモコモコと膨れてくる!, 名医の語る健康法 最新医学の知恵と病気予兆チェック (荒井魏編), pp.61-68, 1995, 社会思想社.
17. 貫和敏博: 肺の機能と  $\alpha 1$ アンチトリプシン欠損症による肺気腫形成の病態, 分子医科学シリーズ 4 システムとしての身体 (井村裕夫編). pp.163-190, 1996, メディカルビュー社.

18. 貫和敏博：肺，症例で学ぶ生化学，分子生物学（井廻道夫他編）。pp.186-190, 1996, Maruzen and Wiley.
19. 貫和敏博： $\alpha 1$ アンチトリプシン遺伝子型，Key Word 1996-97（小倉剛他編）。pp.28-31, 1996, 先端医学社.
20. 貫和敏博：マイクロサテライト，Key Word 1996-97（小倉剛他編）。pp.204-205, 1996, 先端医学社.
21. 貫和敏博：気管支肺胞洗浄液検査，チャートによる内科診断学（寺本民生他編）。pp.66-67, 1996, 中外医学社.
22. 貫和敏博：呼吸器疾患における臨床検査，検査データの考え方，チャートによる内科診断学（寺本民生他編）。pp.68-69, 1996, 中外医学社.
23. 貫和敏博，前門戸任：咳・痰・咯血，内科総論 3. 主要症候－症候から診断へ（井村裕夫他編）。pp.213-217, 1996, 中山書店.
24. 三木誠，貫和敏博：胸痛，症候。異常値診断マニュアル（中井利昭他編）。pp.28-29, 1996, 中外医学社.
25. 三木誠，貫和敏博：呼吸困難，症候。異常値診断マニュアル（中井利昭他編）。pp.32-33, 1996, 中外医学社.
26. 松原信行，貫和敏博：細胞内刺激伝達系をめぐって，Annual Review 呼吸器 1996（工藤翔二他編）。pp.1-8, 1996, 中外医学社.
27. 菅原俊一，西條康夫，貫和敏博：肺腫瘍。認定医・専門医のための内科学レビュー '97,（酒井紀，早川弘一，西崎統，小林祥泰，福井次矢編集）。pp.19-24, 1997, 総合医学社.
28. 貫和敏博（編集幹事）：最新内科学大系プログレス11呼吸器疾患。1997, 中山書店.
29. 貫和敏博：呼吸器の分子細胞生物学。EBM 現代内科学（黒川清，齊藤英彦，矢崎義雄編集）。pp.239-245, 1997, 金芳堂.
30. 貫和敏博：肺ランゲルハンス細胞肉芽腫症。今日の診断指針第4版ポケット版。pp.921-922, 1997, 医学書院.
31. 貫和敏博：特発性間質性肺炎。新臨床内科学（第7版高久史磨，尾形悦郎監修，吉良枝郎・齋藤厚ら編集）。pp.205-210, 1997, 医学書院.



32. 阿部達也, 貫和敏博: 呼吸器疾患. 臨床遺伝子医学ガイドンス (小沢敬也編集). 1998, 南山堂.
33. 西條康夫, 貫和敏博: 癌性胸膜炎. 症候・病態の分子メカニズム (松澤佑次編, Molecular Medicine 35臨時増刊号). 1998, 中山書店.
34. 田中昌史, 貫和敏博: 腫瘍マーカー, DNA 診断. プラクティカル内科シリーズ 1 肺癌. pp.48-51, 1998, 南江堂.
35. 貫和敏博: 特発性間質性肺炎の病態と新しい治療法開発の展望. 呼吸器疾患最新の治療1998-2000 (工藤翔二, 中田絏一郎, 貫和敏博編集). pp.14-18, 1998, 南江堂.
36. 貫和敏博: 拘束障害を特徴とする肺疾患 特発性間質性肺炎. 新臨床内科学コンパクト版 (第2版, 高久史磨・尾形悦郎監修, 和田攻・橋本信也編集). pp.84-86, 1998, 医学書院.
37. 貫和敏博: 間質性肺炎, 肺線維症. 呼吸器疾患の分子生物学. pp.37-40, 1998, 医学書院.
38. 貫和敏博, 八重柏政宏: 肺線維症 (間質性肺炎). HGF の分子医学. pp.193-199, 1998, メディカルビュー社.
39. 白井一裕, 貫和敏博: 呼吸器系の生物学 呼吸器疾患における遺伝子異常. Annual Review 呼吸器1999: pp.9-13, 1999, 中外医学社.
40. 海老名雅仁, 貫和敏博: 特発性間質性肺炎. 別冊・医学のあゆみ, 呼吸器疾患 -state of arts 3: pp.351-353, 1999, 医歯薬出版.
41. 佐藤研, 鳴海晃, 貫和敏博: 呼吸器疾患と細胞外マトリックスー基礎と臨床 (小出輝ら編). pp.378-392, 1999, 愛智出版.
42. 貫和敏博 (編集幹事): 原発性肺癌. 内科学 I. pp.272-276, 1999, 文光堂.
43. 貫和敏博 (編集幹事): 呼吸器疾患の症候と問診. 内科学 I. pp.294-301, 1999, 文光堂.
44. 貫和敏博: 分子医学的診断. 呼吸器腫瘍外科学. pp.99-104, 1999, 南光堂.
45. 貫和敏博: 肺癌手術前後における内科的対応. 呼吸器腫瘍外科学. pp.202-214, 1999, 南光堂.

46. 貫和敏博：呼吸器治療の現況。KeyWord 呼吸器疾患。1999, 先端医学社。
47. 阿部達也, 貫和敏博：特発性間質性肺炎の定義・概念。難病の最新情報（大野良之他編集）。pp.256, 2000, 南山堂。
48. 貫和敏博（編集幹事）：肺の診察。内科診断学。pp.101-109, 2000, 医学書院。
49. 前門戸任, 貫和敏博：胸膜炎。内科診断学。pp.710-711, 2000, 医学書院。
50. 三木誠, 貫和敏博：間質性肺炎の治療戦略と将来展望。Annual Review 呼吸器2000。pp256-265, 2000. 中外医学社。
51. 鈴木拓児, 貫和敏博：呼吸器内科。医療禁忌マニュアル ver.2, (富野康日己)。pp.4-5, pp.74-81, pp.258-263, pp.336-343, pp.602-603, 2001, 医歯薬出版株式会社。
52. 田原稔, 貫和敏博：肺における HGF の役割。Annual Review 呼吸器2001：pp.1-7, 2001, 中外医学社。
53. 中村晃, 貫和敏博, 高井俊行：免疫疾患。Fc レセプター欠損マウスと免疫異常。Annual Review 免疫：pp.283-289, 2001, 中外医学社。
54. 貫和敏博（編者）：第2巻呼吸器疾患 序。看護のための最新医学講座 SYMPHONIA MEDICA NURSING。2001, 中山書店。
55. 貫和敏博：特発性肺線維症（特発性間質性肺炎の慢性型）。今日の治療指針 2001年ポケット版。pp.320-321, 2001, 医学書院。
56. 貫和敏博：呼吸器疾患における遺伝子治療。呼吸器疾患最新の治療（工藤翔二, 中田絃一郎, 貫和敏博編集）2001-2003。pp.54-58, 2001, 南江堂。
57. 萩原弘一, 貫和敏博：呼吸器病態解明のゲノム医学。呼吸器疾患最新医療と21世紀への展望。pp.1-4, 2001, 先端医療技術研究所。
58. 海老名雅仁, 貫和敏博：「間質性肺炎の病因」間質性肺炎－びまん性肺疾患呼吸器病 New Approach 7。pp.35-39, 2002, メジカルビュー社。
59. 西條康夫, 貫和敏博：肺腫瘍。認定医・専門医のための内科学レビュー2002（酒井紀, 早川弘一, 西崎統, 小林祥泰, 福井次矢編集）。pp.19-22, 2002, 総合医学社。

60. 貫和敏博 (編集幹事) : I 総論・呼吸器・循環器. 新臨床内科学第8版. 2002, 医学書院.
61. 海老名雅仁, 貫和敏博 : 特発性間質性肺炎の慢性型 (特発性肺線維症) の診断と治療 (工藤翔二, 永井厚志編集), 呼吸器疾患第2版. pp.165-169, 2003, 中外医学社.
62. 菊地利明, 貫和敏博 : 呼吸器疾患の遺伝子治療. 別冊呼吸器疾患 - state of arts - 2003-2005. pp.153-156, 2003, 医歯薬出版株式会社.
63. 西條康夫, 前門戸任, 菊地利明, 貫和敏博 : 先端医療シリーズ20・癌 肺癌の最新医療 HGF アンタゴニスト (HGF/NK4). 遺伝子治療 (末外恵一監修). pp.291-297, 2003, 先端医療技術研究所.
64. 清水川稔, 海老名雅仁, 貫和敏博 : 3. 特発性間質性肺炎 (IIP). 内科学レビュー最新主要文献と解説2003. pp.14-18, 2003, 総合医学社.
65. 貫和敏博 : 老年病分野 肺腫瘍, 肺良性腫瘍, 肺腫瘍のマーカー, 肺癌, 癌性リンパ管症転移肺癌, バンコースト症候群, ホルナー症候群. 長寿科学事典. pp.452-456, 2003, 医学書院.
66. 貫和敏博, 西條康夫 : C. 呼吸器疾患 腫瘍性肺疾患 小細胞肺癌. 外来診療のすべて 改訂第3版. pp.534-535, 2003, Medical View.
67. 貫和敏博, 木村雄一郎 : 間質性肺疾患と発癌. 呼吸器診療二頁の秘訣. pp.142-143, 2003, 金原出版.
68. 海老名雅仁, 貫和敏博 : VIII. 間質性肺炎 慢性好酸球形肺炎. 呼吸器疾患最新の治療 2004-2006. 2004, 南江堂.
69. 海老名雅仁, 貫和敏博 : 特発性間質性肺炎 診断と治療の手引き (編集 日本呼吸器学会びまん性肺疾患 診断・治療ガイドライン作成委員会). 2004, 南江堂.
70. 田澤立之, 貫和敏博 : 肺胞蛋白症のトランスレーショナル研究と新しい治療 (工藤翔二, 中田絃一郎, 貫和敏博編). 「呼吸器疾患最新の治療2004-2006」. pp.26-31, 2004, 南江堂.
71. 貫和敏博 : F. 腫瘍 肺癌 / 原発性肺癌. 講義録 呼吸器学. pp.266-277, 2004, Medical View.

72. 貫和敏博：第1節 癌遺伝子治療 第5章 肺癌の外科成績向上の戦略. 先端医療シリーズ26呼吸器外科 呼吸器外科の最新医療. pp.130-135, 2004, 先端医療技術研究所.
73. 貫和敏博：呼吸器疾患発症のメカニズム. 「看護のための最新医学講座」改訂2004 第2巻 (貫和敏博編集)：pp.20-40, 2004, 中山書店.
74. 貫和敏博：特発性間質性肺炎の新しい診断基準 (第4次改訂) 特発性間質性肺炎の診断のためのフローチャート (貫和敏博監修). 2004, 南江堂.
75. 田澤立之, 貫和敏博：「症状から診る内科疾患」. 喀痰を主徴とする疾患. 渡辺純夫, 澤田賢一編：pp.173-178, 2005, メディカルビュー社.
76. 田澤立之, 貫和敏博：17 特発性間質性肺炎. EBM呼吸器疾患の治療2006-2007. pp.259-275, 2005, 中外医学社.
77. 貫和敏博：呼吸器疾患発症のメカニズム. 看護のための最新医学講座第2版 第2巻呼吸器疾患 (貫和敏博編). pp.20-40, 2005, 中山書店.
78. 海老名雅仁, 貫和敏博：I.呼吸器系の生物学-6. 肺疾患とHGF. Annual Review 呼吸器2005：pp.39-44, 2005, 中外医学社.
79. 貫和敏博：II. 主要な呼吸器疾患 40.呼吸と肺癌. 呼吸の事典 (有田秀穂編集). pp.457-475, 2006, 朝倉書店.
80. 貫和敏博：3. 難病研究班におけるサルコイドーシス研究の動向. サルコイドーシスとその他の肉芽腫性疾患. pp.330-331, 2006. 克誠堂出版.
81. 貫和敏博：急性間質性肺炎 (特発性間質性肺炎の急性型). 今日の治療指針2007年度版. 2006, 医学書院.
82. 貫和敏博：構造と機能. 臨床病態学1 (北村聖, 楠進, 貫和敏博, 後藤英司, 藤代健太郎編集)：pp.230-238, 2006, ヌーヴェルヒロコワ.
83. 海老名雅仁, 貫和敏博：HGFと肺線維症. 細胞増殖因子と再生医療. 2006, メジカルレビュー社.
84. 大河内真也, 貫和敏博：呼吸器専門医テキスト 特発性間質性肺炎レビュー；疾患概念の変遷. pp.414-419, 2007, 南江堂.
85. 海老名雅仁, 貫和敏博：特発性間質性肺炎. 今日の診断基準. pp.26-31, 2007, 南江堂.

86. 鯉沼代造, 貫和敏博: Hermansky-Pudlak 症候群. 今日の診断基準. pp.120-121, 2007, 南江堂.
87. 田澤立之, 貫和敏博: 特発性間質性肺炎. 別冊「医学のあゆみ」呼吸器疾患 state of arts Ver.5 (北村論, 工藤翔二, 石井芳樹編). 2007, 医歯薬出版.
88. 貫和敏博: 特発性肺線維症. 内科学第9版. 2007, 朝倉書店.
89. 貫和敏博: 間質性肺炎. 内科学第9版. pp.710-717, 2007, 朝倉書店.
90. 貫和敏博 (編集): 第2章呼吸器系. 疾患からまとめた病態生理 FIRST AID 呼吸器疾患の最新の治療2007-2009 (奈良信雄編). pp.68-149, 2007, メディカルサイエンス・インターナショナル.
91. 貫和敏博 (編集): 演習問題. 疾患からまとめた病態生理 FIRST AID 呼吸器疾患最新の治療2007-2009 (奈良信雄編). pp.143-149, 2007, メディカルサイエンス・インターナショナル.
92. 貫和敏博: 第二部 加齢はどのように進むのかー臓器, 個体の老化ー 第二章肺は身体の入りの口. 加齢医学エイジングファイン (帯刀益夫・佐竹正延編). pp.86-105, 2007, 東北大学出版会.
93. 井上彰, 貫和敏博: 【外科医に必要ながん化学療法の知識】がん化学療法の実際 肺癌 非小細胞肺癌の補助化学療法. 外科治療98巻増刊. pp.665-670, 2008, 永井書店.
94. 貫和敏博: 【呼吸器症候群 (第2版) その他の呼吸器疾患を含めて】びまん性肺疾患間質性肺炎 特発性間質性肺炎. 日本臨床別冊呼吸器症候群 I. pp.406-409, 2008, 日本臨床社.
95. 貫和敏博: BAL 法の歴史的背景. 気管支肺胞洗浄 BAL 法の手引き (貫和敏博編). 日本呼吸器学会びまん性肺疾患学術部会・厚生労働省難治性疾患克服研究事業びまん性肺疾患調査研究班. pp.3-4, 2008, 克誠堂出版.
96. 貫和敏博: ガイドラインーグローバルな共通認識とその後の展開ー. 最新医学別冊新しい診断と治療のABC 55 呼吸器7特発性間質性肺線維症 pp.163-170, 2008, 最新医学社
97. 貫和敏博: 肺線維症. 炎症・再生医学事典. 2009, 朝倉書店.
98. 貫和敏博, 太田洋充: IV. IPF の病因論. 特発性肺線維症 IPF (杉山幸比古編), 2010, 医薬ジャーナル社.

99. 貫和敏博：肺腺癌の分子標的（EGFR 活性型変異）と今後の展開。呼吸器疾患最新の治療（貫和敏博，杉山幸比古，門田淳一編）。2010-2012，2010，南江堂。
100. 久田修，貫和敏博：I-C 間質性肺疾患関連ガイドラインの概要 1. わが国のガイドライン紹介。間質性肺疾患診療マニュアル，pp.16-17，2010，南江堂。
101. 久田修，貫和敏博：膠原病に伴う肺疾患。病気と薬パーフェクトBOOK 2011，2010，南山堂。
102. 貫和敏博，玉田勉：東北大学病院呼吸器内科。医者がすすめる専門病院 東北版，2010，ライフ企画。

## II. 調査報告書（科研費報告書など）

1. 吉良枝郎，荒井達夫，荒木高明，貫和敏博：当科入院症例の喫煙習慣の実態。昭和53年度喫煙と健康に関する委託研究報告，1979。
2. 吉良枝郎，荒井達夫，名取博，中村泰三，荒木高明，貫和敏博，飯島福生，松岡緑郎，玉城繁，檀原高，小池盛雄：経気管支肺生検によるびまん性汎細気管支炎の診断。公害対策協力財団昭和53年度研究助成報告書，1979。
3. 貫和敏博，玉城繁，檀原高，岡崎宣夫，荒木高明，名取博，荒井達夫，吉良枝郎：当科における呼吸不全症例の実態。厚生省特定疾患呼吸不全研究班昭和54年度研究業績，pp89-92，1979。
4. 飯島福生，貫和敏博，原洋，松岡緑郎，名取博，荒木達夫，吉良枝郎：呼吸器疾患症例にみられる体位変換時の動脈血ガス変動。厚生省特定疾患呼吸不全調査研究班昭和54年度研究業績，pp13-16，1980。
5. 倉富雄四郎，岡崎宣夫，石原輝夫，大川藤夫，松岡緑郎，飯島福生，貫和敏博，荒井達夫，吉良枝郎：インピーダンスニューモグラフィを基本としたマイクロコンピューター患者監視システム。呼吸不全調査研究班昭和54年度研究業績，pp141-145，1980。
6. 檀原高，飯島福生，石原照夫，岡崎宣夫，貫和敏博，名取博，荒井達夫，吉良枝郎：酸素濃縮装置による在宅酸素療法の1例。厚生省特定疾患呼吸不全調査研究班昭和55年度研究業績，pp158-160，1980。

7. 吉良枝郎, 荒井達夫, 松岡緑郎, 飯島福生, 貫和敏博: 実験的に作成した一側性肺水腫の特性. 文部省総合研究 A 螺良班. 「肺における生理活性物質の代謝並びに調節とその臨床的意義に関する研究」第 2 回班会議, 東京, 1980.
8. 松岡緑郎, 高橋英気, 高木寛, 玉城繁, 泉三郎, 貫和敏博, 名取博, 荒井達夫, 吉良枝郎: 新基準による呼吸不全の実態. 厚生省特定疾患呼吸不全調査研究班昭和56年研究業績, pp10-13, 1981.
9. 吉良枝郎, 松岡緑郎, 高木寛, 原洋, 玉城繁, 貫和敏博, 荒井達夫, 横山武, 小池盛雄, 二の村信正: びまん性汎細気管支炎 - 4 剖検例について - 厚生省特定疾患間質性肺炎患調査研究班昭和55年度研究報告書: pp62-65, 1981.
10. 檀原高, 飯島福生, 石原照夫, 岡崎宣夫, 貫和敏博, 名取博, 荒井達夫, 吉良枝郎: 酸素濃縮装置による在宅酸素療法の一例. 厚生省特定疾患呼吸不全調査研究班昭和55年度第 2 回総会, 東京, 1981.
11. 貫和敏博, 荒井達夫, 松岡緑郎, 吉良枝郎: 片側性オレイン酸肺水腫犬モデルによる検討 - 特に肺表面活性物質およびアンジオテンシン変換酵素活性について -. 文部省総合研究螺良班「肺における生理活性物質の代謝並びに調節とその臨床的意義に関する研究」最終班会議講演抄録, 東京, 1981.
12. 倉富雄四郎, 岡崎宣夫, 福井順一, 三重野龍彦, 城下葉子, 玉城繁, 貫和敏博, 名取博, 荒井達夫, 吉良枝郎: インピーダンスニューモグラフィによる呼吸モニター -  $V_T$  ヒストグラムの疾患特性について -. 厚生省特定疾患呼吸不全調査研究班昭和57年度研究業績, pp73-78, 1982.
13. 石原照夫, 檀原高, 福井順一, 三重野龍彦, 高橋英気, 城下葉子, 松岡緑郎, 貫和敏博, 名取博, 荒井達夫, 吉良枝郎: 長期在宅酸素療法 - 当科における 22 例の経験から -. 厚生省特定疾患呼吸不全調査研究班昭和57年度研究業績, pp193-197, 1982.
14. 岡崎宣夫, 石原照夫, 檀原高, 高橋英気, 倉富雄四郎, 玉城繁, 松岡緑郎, 貫和敏博, 名取博, 荒井達夫, 吉良枝郎: 当科における呼吸不全症例の経年の血液ガスデータの推移. 厚生省特定疾患呼吸不全調査研究班昭和57年度研究業績, pp223-237, 1982.
15. 名取博, 松岡緑郎, 玉城繁, 岡崎宣夫, 檀原高, 石原照夫, 倉富雄四郎, 高木寛, 三重野龍彦, 福井順一, 高橋英気, 城下葉子, 泉三郎, 貫和敏博, 荒井達夫, 吉良枝郎: パラコート中毒症生存例 11 例の検討. 第 2 回パラコート中毒症研究会報告, pp34-40, 1984.

16. 三重野龍彦, 青木茂行, 小林英夫, 貫和敏博, 名取博, 荒井達夫, 吉良枝郎: 各種呼吸器疾患における PaO<sub>2</sub> と PvO<sub>2</sub> の相関. 厚生省特定疾患呼吸不全調査研究班昭和58年度研究業績, pp87-90, 1984.
17. 瀬戸口康弘, 高橋さつき, 貫和敏博, 吉良枝郎: リンパ性間質性肺炎 (LIP) 4例における病態: 血清 sIL-2値と HTLV-1の抗体. 厚生省特定疾患びまん性肺炎患調査研究班, 昭和63年度研究報告書, pp74-76, 1989.
18. 家永浩樹, 饗庭三代治, 山口芳, 鈴木勉, 貫和敏博, 吉良枝郎: 呼吸器疾患症例における肺動脈平均圧および混合静脈四酸素分圧の予測に関する研究. 厚生省特定疾患呼吸不全調査研究班平成元年度研究報告書, p157, 1990.
19. 瀬戸口康弘, 高橋さつき, 瀬山邦明, 川畑政治, 貫和敏博, 吉良枝郎: びまん性肺炎患時に LIP, DPB, IIP に於ける human T cell lymphotropic virus type-I (HTLV-I) 抗体の検索. 厚生省特定疾患びまん性肺炎患調査研究班平成元年報告書, p157, 1990.
20. 瀬戸口康弘, 松田州弘, 大和田明彦, 檀原高, 貫和敏博, 吉良枝郎: 生検リンパ節抽出 DNA に HTLV- I 遺伝子 (pX 領域) を認め, BAL にて経過を追跡した25歳発症 LIP の一例. 厚生省特定疾患びまん性肺炎患調査研究班平成2年度研究報告書, pp106-109, 1991.
21. 貫和敏博: 末梢気腔破壊の機序における蛋白分解酵素阻害物質の異常に関する分子生物学的研究. 平成3年度科学研究費補助金 (一般研究 A) 研究成果報告書, 1991.
22. 高橋さつき, 貫和敏博, 清水一枝, 田村尚亮, 高橋英気, 吉良枝郎: 気管支肺胞洗浄検査法における標本作製に伴うリンパ球比率への影響. 厚生省特定疾患びまん性肺炎患調査研究班平成元年度研究報告書, pp31-33, 1991.
23. 高橋さつき, 田村尚亮, 高橋和久, 貫和敏博, 吉良枝郎: 肉芽腫性肺疾患で増加する  $\gamma\delta$  +T 細胞. 厚生省特定疾患びまん性肺炎患調査研究班平成2年度研究報告書, pp202-205, 1991.
24. 大西正浩, 本間栄, 貫和敏博, 吉良枝郎: 当科における間質性肺炎症例の臨床実態. 厚生省特定疾患びまん性肺炎患調査研究班平成3年度研究報告書, pp66-68, 1992.
25. 田村尚亮, 鈴木孝次, 貫和敏博, 吉良枝郎, 関川巖, 橋本博史: 抗核抗体高値を呈した間質性肺炎症例の BALF 中に認めた C 型レトロウイルス様粒子に関する検討. 厚生省特定疾患びまん性肺炎患調査研究班平成3年度研究報告書, pp84-86, 1992.



26. 貫和敏博：気道上皮細胞塩素イオンチャンネル及びその制御蛋白の異常と気道湿性病態の解析（課題番号03454235）。平成4年度科学研究費補助金（一般研究B）研究成果報告書 pp1-10, 1993.
27. 本間栄, 高橋和久, 瀬山邦明, 長岡功, 貫和敏博, 吉良枝郎：肺線維化関連増殖因子（PDGF, UGF-I）のBAL細胞及び肺組織染色による間質性肺疾患の解析。厚生省特定疾患びまん性肺疾患調査研究班平成4年度研究報告書 pp136-138, 1993.
28. 佐藤昇, 大西正浩, 瀬山邦明, 本間栄, 貫和敏博, 吉良枝郎：自験特発性間質性肺炎における背景代謝性因子の解析。厚生省特定疾患びまん性肺疾患調査研究班平成4年度研究報告書 pp177-179, 1993.
29. 酒井俊彦, 佐藤研, 新藤哲, 鳴海晃, 松島桂子, 貫和敏博, 本宮雅吉, 河端美則, 中村敏一：びまん性肺疾患のBALFを対象としたHGF蛋白及びHGFmRNAの検討。厚生省特定疾患びまん性肺疾患調査研究班平成5年度研究報告書 pp.105-105, 1994.
30. 内山美寧, 鈴木修治, 貫和敏博, 檀原高, 吉良枝郎, 本間行彦：4家系における特発性間質性肺炎の家族内発生。厚生省特定疾患びまん性肺疾患調査研究班平成5年度研究報告書 pp37-40, 1994.
31. 森亨, 徳田均, 清田明宏, 岩井和郎, 貫和敏博, 折洋愈, 倉島篤行, 武内浩一郎, 杉田博宜, 山口哲生, 鈴木光, 工藤宏一郎：DPB発症に対する家族性要因の寄与－症例対照研究－。厚生省特定疾患びまん性肺疾患調査研究班平成5年度研究報告書 pp28-33, 1994.
32. 貫和敏博, 阿部達也, 富永泰之：慢性気道障害防御機序としての分泌型白血球蛋白分解酵素阻害物質の遺伝子工学的検討。平成6年度喫煙科学研究財団研究年報：pp467-469, 1995.
33. 八重柏政宏, 大沼一也, 酒井俊彦, 森ゆり子, 阿部達也, 佐藤研, 貫和敏博, 高橋徹, 中村敏一：Hepatocyte growth factor (HGF)による薬剤誘起性肺障害の抑制効果の検討。厚生省特定疾患びまん性肺疾患調査研究班平成6年度研究報告書：pp150-152, 1995.
34. 貫和敏博, 阿部達也, 菊地利明, 富永泰之：慢性気道障害防御機序としての分泌型白血球蛋白分解酵素阻害物質の遺伝子工学的検討。平成7年度喫煙科学研究財団研究年報：pp502-507, 1996.

35. 内山美寧, 五十嵐孝之, 阿部達也, 佐藤研, 中井祐之, 貫和敏博: びまん性肺疾患の家族内集積解析: 間質性肺炎家系と肺気腫家系. 厚生省特定疾患びまん性肺疾患調査研究班, 平成7年度研究報告書: pp117-120, 1996.
36. 八重柏政宏, 中山昇一, 酒井俊彦, 森ゆり子, 大沼一也, 阿部達也, 佐藤研, 高橋徹, 中村敏一, 貫和敏博: Hepatocyte growth factor (HGF) 後投与によるBleomycin 誘起性肺傷害の抑制効果の検討. 厚生省特定疾患びまん性肺疾患調査研究平成7年度研究報告書: pp157-159, 1996.
37. 八重柏政宏, 中山昇一, 西條康夫, 阿部達也, 佐藤研, 中村敏一, 貫和敏博: 薬剤性肺傷害に対する HGFcDNA 組込み Adenovirus vector による遺伝子治療. 厚生省特定疾患びまん性肺疾患調査研究班研究平成7年度報告書: pp51-53, 1996.
38. 貫和敏博, 阿部達也, 菊地利明, 富永泰之, 星幸子: マウス SLPI cDNA のクローニング. 厚生省特定疾患呼吸器系疾患調査研究班平成8年度研究報告書: pp15-17, 1997.
39. 内山美寧, 八重柏政宏, 阿部達也, 富永泰之, 中村晃, 清水川稔, 佐藤研, 貫和敏博: 共同研究 (I) 家族集積性を認める線維化肺の現状: アンケート調査の結果. 厚生省特定疾患呼吸器系疾患調査研究班平成9年度報告書: pp7-10, 1998.
40. 菊地利明, 阿部達也, 星幸子, 富永泰之, 佐藤研, 貫和敏博: 遺伝子の構造と局在から推定される好中球エラスターゼ阻害活性の redundancy. 厚生省特定疾患呼吸器系疾患調査研究班平成9年度研究報告書: pp51-55, 1998.
41. 貫和敏博, 阿部達也, 八重柏政宏, 三木誠, 阿部成房, 中村晃, 森ゆり子, 西條康夫, 海老名雅仁, 佐藤研, 岸一馬, 中田紘一郎, 松村栄久, 田口善夫: 特発性間質性肺炎の重症度分類策定と考え方. 厚生省特定疾患呼吸器系疾患調査研究班平成10年度研究報告書: pp36-41, 1999.
42. 海老名雅仁, 清水川稔, 猪岡望, 阿部達也, 貫和敏博: 肺線維症における血管新生に関する研究. 厚生省特定疾患呼吸器系疾患調査研究班平成10年度研究報告書: pp84-88, 1999.
43. 三木誠, 秋山健一, 海老名雅仁, 萩原弘一, 中村晃, 森ゆり子, 貫和敏博: 特発性間質性肺炎に対するコルヒチンの臨床評価. 厚生省特定疾患対策研究事業 特発性間質性肺炎の細胞分子病態に基づく疾病の病態に応じた治療法の開発研究 平成11年度研究報告書, pp30-34, 2000.

44. 高橋洋, 五味和紀, 三木誠, 海老名雅仁, 渡辺彰, 貫和敏博: 繰り返し気道感染症例の背景因子としての MBL 遺伝子多型の意義. 厚生省特定疾患研究事業 びまん性肺疾患に関する調査研究班 平成11年度研究報告書, pp119-123, 2000.
45. 海老名雅仁, 清水川稔, 木村雄一郎, 秋山健一, 中村晃, 三木誠, 貫和敏博: 早期肺線維化病変における血管新生の病態への影響. 厚生省特定疾患びまん性肺疾患調査研究班 平成11年度研究報告, pp69-73, 2000.
46. 三木誠, 秋山健一, 海老名雅仁, 萩原弘一, 中村晃, 森ゆり子, 貫和敏博: 特発性間質性炎に対するコルヒチンの臨床評価. 厚生省特定疾患びまん性肺疾患調査研究班平成11年度研究報告, pp90-94, 2000.
47. 海老名雅仁, 渡辺正樹, 鯉沼代造, 清水川稔, 三木誠, 貫和敏博: 肺線維化機序に関する血管新生の意義の解明. 厚生省特定疾患研究事業 びまん性肺疾患に関する調査研究班 平成12年度研究報告書, pp181-185, 2001.
48. 中村晃, 湯浅貴恵, 氏家あづさ, 小野栄夫, 貫和敏博, 高井俊行: Goodpasture 症候群のモデルマウスの作成. 厚生省特定疾患研究事業 びまん性肺疾患に関する調査研究班 平成12年度研究報告書, pp216-223, 2001.
49. 三木誠, 秋山健一, 海老名雅仁, 渡辺正之, 鯉沼代造, 萩原弘一, 中村晃, 貫和敏博: HGF による肺線維症遺伝子治療の臨床応用. 厚生省特定疾患研究事業 びまん性肺疾患に関する調査研究班 平成12年度研究報告書, pp245-252, 2001.
50. 海老名雅仁, 渡辺正樹, 秋山健一, 清水川稔, 中村晃, 三木誠, 貫和敏博: 肝細胞増殖因子発現プラスミドによる肺線維化抑制. 厚生省特定疾患びまん性肺疾患調査研究班平成13年度研究報告, 2002.
51. 海老名雅仁, 渡辺正樹, 鯉沼代造, 清水川稔, 三木誠, 貫和敏博: 肺線維化機序に関する血管新生の意義の解明. 厚生省特定疾患びまん性肺疾患調査研究班平成13年度研究報告: pp181-185, 2002.
52. 中村晃, 湯浅貴恵, 氏家あづさ, 小野栄夫, 貫和敏博, 高井俊行: Goodpasture 症候群モデルマウスの作製. 厚生省特定疾患びまん性肺疾患調査研究班平成13年度研究報告: pp216-223, 2002.
53. 三木誠, 秋山健一, 海老名雅仁, 渡辺正樹, 鯉沼代造, 萩原弘一, 中村晃, 貫和敏博: HGF による肺線維症遺伝子治療の臨床応用. 厚生省特定疾患びまん性肺疾患調査研究班平成13年度研究報告: pp245-252, 2002.

54. 海老名雅仁, 渡辺正樹, 秋山健一, 清水川稔, 中村晃, 三木誠, 貫和敏博: 肝細胞増殖因子発現プラスミドによる肺線維化抑制. 厚生労働省特定疾患びまん性肺疾患調査研究班平成14年度研究報告: pp256-262, 2003.
55. 貫和敏博: 顆粒球マクロファージコロニー刺激因子 (GM-CSF) 吸入による肺胞蛋白症患者の治療に関する研究. 厚生労働省基礎研究成果の臨床応用推進研究事業 GM-CSF 吸入による重症特発性肺胞蛋白症の治療研究 平成14年度分担研究報告書, pp15-17, 2003.
56. 貫和敏博: 総括研究報告. 厚生労働省特定疾患研究事業 びまん性肺疾患に関する調査研究班 平成14年度研究報告書, pp3-10, 2003.
57. 秋山健一, 海老名雅仁, 大河内眞也, 鈴木拓児, 太田洋充, 田澤立之, 貫和敏博: 骨髓幹細胞による肺組織修復機序の検討. 厚生労働省特定疾患研究事業 びまん性肺疾患に関する調査研究班 平成14年度研究報告書, pp77-81, 2003.
58. 木村雄一郎, 海老名雅仁, 田澤立之, 秋山健一, 清水川稔, 小野修一, 貫和敏博: 特発性肺線維症の早期診断の可能性に関する研究. 厚生労働省特定疾患研究事業 びまん性肺疾患に関する調査研究班 平成14年度研究報告書, pp82-85, 2003.
59. 吾妻安良太, 工藤翔二, 菅守隆, 阿部庄作, 貫和敏博, 中田紘一郎, 坪井永保, 長井苑子, 田口善夫, 大井元春, 伊藤春海, 佐藤篤彦: Pirfenidone (S-7701) 無作為化臨床比較第II相試験成績の第2報 (9ヶ月間の盲検比較). 厚生労働省特定疾患研究事業 びまん性肺疾患に関する調査研究班 平成14年度研究報告書, pp117-122, 2003.
60. 海老名雅仁, 大河内眞也, 太田洋充, 木村雄一郎, 田澤立之, 貫和敏博: HGF による線維化肺組織修復における骨髓由来幹細胞の役割. 厚生労働省特定疾患びまん性肺疾患調査研究班平成15年度研究報告: pp96-100, 2004.
61. 大河内眞也, 海老名雅仁, 木村雄一郎, 田澤立之, 貫和敏博: ステロイド抵抗性, ステロイド減量困難の間質性肺炎に対するシクロスポリン A の有効性に関する研究. 厚生労働科学研究費補助金 (特発性間質性肺炎の画期的治療に関する臨床研究事業) 平成15年度分担研究報告書, 2004.
62. 貫和敏博, 田澤立之: 特発性肺胞蛋白症患者の GM-CSF 吸入治療. 厚生労働省基礎研究成果の臨床応用推進事業 GM-CSF 吸入による重症特発性肺胞蛋白症の治療研究 平成15年度分担研究報告書, pp31-36, 2004.

63. 貫和敏博, 田澤立之, 濱野栄美, 井上義一, 新井徹, 中田光: GM-CSF と特発性肺胞蛋白症患者の肺内の免疫学的微小環境. 厚生労働省基礎研究成果の臨床応用推進研究事業 GM-CSF 吸入による重症特発性肺胞蛋白症の治療研究 平成16年度研究報告書, pp81-88, 2005.
64. 秋山弘匡, 内田隆史, 田澤立之, 貫和敏博: プロリン異性化酵素 Pin1 による転写因子 PU.1 の活性化. 厚生労働省基礎研究成果の臨床応用推進研究事業 GM-CSF 吸入による重症特発性肺胞蛋白症の治療研究 平成16年度分担研究報告書, pp107-116, 2005.
65. 井上義一, 中田光, 前田優華, 松尾さとみ, 新井徹, 是枝幸子, 小堂直彦, 坂谷光則, 工藤宏一郎, 慶長直人, 田澤立之, 貫和敏博, 檜澤伸之, 山口悦郎, 江田良輔, 大石和徳: 特発性肺胞蛋白症の全国疫学調査と長期経過例の検討. 厚生労働省基礎研究成果の臨床応用推進事業 GM-CSF 吸入による重症特発性肺胞蛋白症の治療研究 平成16年度分担研究報告書, pp117-121, 2005.
66. 貫和敏博: 総括研究報告. 厚生労働省難治性疾患克服研究事業 びまん性肺疾患に関する調査研究班 平成16年度研究報告書, pp3-17, 2005.
67. 海老名雅仁, 木村雄一郎, 大河内眞也, 小西一央, 榊原智博, 田澤立之, 貫和敏博: リンパ管構築変化の間質性肺炎病態に与える影響. 厚生労働省難治性疾患克服研究事業 びまん性肺疾患に関する調査研究班 平成16年度研究報告書, pp85-90, 2005.
68. 岡田克典, 大石久, 菊地利明, 佐渡哲, 松村輔二, 田畑俊治, 星川康, 鈴木聡, 貫和敏博, 近藤丘: ラット移植肺への IL-10 遺伝子経機動的導入による拒絶反応抑制の試み. 厚生労働省難治性疾患克服研究事業 びまん性肺疾患に関する調査研究班 平成16年度研究報告書, pp251-255, 2005.
69. 貫和敏博: びまん性肺疾患に関する研究 主任研究者統括. 厚生労働省難治性疾患克服研究事業 びまん性肺疾患に関する調査研究班 平成14年度～平成16年度総合研究報告書, pp3-12, 2005.
70. 貫和敏博: 総括研究報告. 厚生労働省難治性疾患克服研究事業 びまん性肺疾患に関する調査研究班 平成17年度研究報告書, pp3-16, 2006.
71. 小山正平, 海老名雅仁, 谷口博之, 宮庄拓, 西村秀一, 佐々木ときわ, 木村雄一郎, 田澤立之, 石坂彰敏, 近藤丘, 貫和敏博: 特発性肺線維症の急性憎悪に關与する免疫血清学的因子の検討. 厚生労働省難治性疾患克服研究事業 びまん性肺疾患に関する調査研究班 平成17年度研究報告書, pp67-72, 2006.

72. 貫和敏博：総括研究報告．厚生労働省難治性疾患克服研究事業 びまん性肺疾患に関する調査研究班 平成18年度研究報告書，pp3-13，2007.
73. 田口善夫，海老名雅仁，菅守隆，井上義一，谷口博之，貫和敏博：WEB登録によるIPF急性増悪症例のレトロスペクティブ調査の解析結果報告．厚生労働省難治性疾患克服研究事業 びまん性肺疾患に関する調査研究班 平成18年度研究報告書，pp39-45，2007.
74. 森本泰介，吾妻安良太，阿部信二，白杵二郎，工藤翔二，杉崎勝教，折津愈，貫和敏博：2004年サルコイドーシス疫学調査．厚生労働省難治性疾患克服研究事業 びまん性肺疾患に関する調査研究班 平成18年度研究報告書，pp55-60，2007.
75. 海老名雅仁，小山正平，柴田直子，谷口博之，宮庄拓，木村雄一郎，田澤立之，石坂彰敏，近藤丘，貫和敏博：特発性肺線維症患者肺の血管・リンパ管構築変化による急性増悪の発症機序．厚生労働省難治性疾患克服研究事業 びまん性肺疾患に関する調査研究班 平成18年度研究報告書，pp105-112，2007.
76. 五味和紀，田澤立之，海老名雅仁，貫和敏博：サルコイドーシスの病態に関わる宿主因子の研究．厚生労働省難治性疾患克服研究事業 びまん性肺疾患に関する調査研究班 平成18年度研究報告書，pp197-202，2007.
77. 貫和敏博：総括研究報告．厚生労働省難治性疾患克服研究事業 びまん性肺疾患に関する調査研究班 平成19年度研究報告書，pp3-15，2008.
78. 海老名雅仁，貫和敏博：特発性間質性肺炎患者の前向きWEB登録の経過報告．総括研究報告．厚生労働省難治性疾患克服研究事業 びまん性肺疾患に関する調査研究班 平成19年度研究報告書，pp53-61，2008.
79. 谷口博之，海老名雅仁，田口善夫，菅守隆，井上義一，貫和敏博：特発性肺線維症の急性増悪に関する2次アンケート調査の解析結果報告．総括研究報告．厚生労働省難治性疾患克服研究事業 びまん性肺疾患に関する調査研究班 平成19年度研究報告書，pp67-72，2008.
80. 大石久，岡田克典，菊地利明，松村輔二，貫和敏博，近藤丘：ラット移植肺へのインターロイキン-10経機動的遺伝子導入が同種免疫反応に伴うグラフと細気管支上皮細胞傷害に及ぼす影響．総括研究報告．厚生労働省難治性疾患克服研究事業 びまん性肺疾患に関する調査研究班 平成19年度研究報告書，pp223-227，2008.

81. 貫和敏博：びまん性肺疾患に関する研究 主任研究者統括，厚生労働省難治性疾患克服研究事業 びまん性肺疾患に関する調査研究班 平成17年度～平成19年度総合研究報告書，pp3-40，2008.
82. 貫和敏博：特発性肺線維症に対する新しい治療法の構築，厚生労働省難治性疾患克服研究事業 特発性肺線維症の予後改善を目指したサイクロスポリン＋ステロイド療法ならびにNアセチルシステイン吸入療法に関する臨床研究 平成20年度分担研究報告書，pp34-35，2009.
83. 貫和敏博：肺線維症と進行予防－新しい研究と考え方－，平成19年度厚生労働省科学研究費補助金難治性疾患克服研究推進事業研究成果発表会記録集「難治性疾患克服研究の成果 治療の進歩と将来への展望」，pp45-57，2009.
84. 廣田直，海老名雅仁，太田洋充，玉井ときわ，小野学，久田修，大河内真也，玉田勉，光石陽一郎，本間栄，貫和敏博：サイクロスポリンAの線維化抑制効果に関する遺伝子発現プロファイリング，厚生労働省難治性疾患克服研究事業 特発性肺線維症の予後改善を目指したサイクロスポリン＋ステロイド療法ならびにNアセチルシステイン吸入療法に関する臨床研究 平成20年度分担研究報告書，pp36-39，2009.
85. 貫和敏博：特発性肺線維症に対する新しい治療法の構築，厚生労働省難治性疾患克服研究事業 特発性肺線維症の予後改善を目指したサイクロスポリン＋ステロイド療法ならびにNアセチルシステイン吸入療法に関する臨床研究 平成20年度総合研究報告書，pp9-16，2009.
86. 貫和敏博：潜在的呼吸不全の早期発見における低酸素負荷の有用性に関する研究，厚生労働省難治性疾患克服研究事業 呼吸不全に関する調査研究 平成20年度分担研究報告書，pp208-212，2009.
87. 貫和敏博：潜在的呼吸不全の検出方法の確立およびその臨床応用に関する研究，厚生労働省難治性疾患克服研究事業 呼吸不全に関する調査研究 平成21年度分担研究報告書，pp88-95，2010.
88. 海老名雅仁，高橋徹，柴田道子，玉田勉，太田洋充，久田修，大河内真也，貫和敏博：脈管系からみた肺気腫病変：その病態形成機序に関する研究，厚生労働省難治性疾患克服研究事業 呼吸不全に関する調査研究 平成21年度分担研究報告書，pp200-204，2010.
89. 貫和敏博：典型的自己免疫性肺胞蛋白症症例の明確化に関する研究，厚生労働省難治性疾患克服研究事業 肺胞蛋白症の難治化要因の解明と診断，治療，管理の標準化と指針の確立 平成21年度分担研究報告書，pp115-127，2010.

90. 大河内眞也, 貫和敏博: 「典型的自己免疫性肺胞蛋白症症例の明確化」に関する研究. 厚生労働科学研究費補助金(難治性疾患克服研究事業) 分担研究報告書. 2010.
91. 玉井ときわ, 廣田直, 柴田尚子, 太田洋充, 久田修, 貫和敏博, 佐藤靖史, 海老名雅仁: 血管抑制因子 *vasohibin* の線維化病態における役割. 厚生労働省科学研究費補助金難治性疾患克服研究事業 びまん性肺疾患に関する調査研究班 平成21年度研究報告書: pp257-262, 2010.

### Ⅲ. 研究論文 (単独執筆・共同執筆)

#### 原著論文 (英文)

1. Ichiyama A, Hori S, Mashimo Y, Nukiwa T, Makuuchi H: The activation of bovine pineal tryptophan 5-monoxygenase. *FEBS Letter* **40**: 88-91, 1974.
2. Nukiwa T, Tohyama C, Okita C, Kataoka T, Ichiyama A: Purification and some properties of bovine pineal tryptophan 5-monoxygenase. *Biochem Biophys Res Commun* **60**: 1029-1035, 1974.
3. Fujiwara M, Shibata M, Watanabe Y, Nukiwa T, Hirata F, Mizuno N, Hayaishi O: Indoleamine 2,3-dioxygenase- Formation of L-kynurenine from L-tryptophan in cultured from L-tryptophan in cultured rabbit pineal organ. *J Biol Chem* **253**: 6801-6805, 1978.
4. Yoshida R, Nukiwa T, Watanabe Y, Fujiwara M, Hirata F, Mizuno N, Hayaishi O: Regulation of indoleamine 2,3-dioxygenase activity in the small intestine and the epididymis of mice. *Arch Biochem Biochem Biophys* **203**: 343-351, 1980.
5. Nukiwa T, Matsuoka R, Takagi H, Ishii Y, Arai T, Kira S: Responses of serum and lung angiotensin-converting enzyme activities in the early phase of pulmonary damage induced by oleic acid in dogs. *Am Rev Respir Dis* **126**: 1080-1086, 1982.
6. Takahashi H, Nukiwa T, Matsuoka R, Dannbara T, Natori H, Arai T, Kira S: Carcinoembryonic antigen in bronchoalveolar lavage fluid in patients with idiopathic pulmonary fibrosis. *Jpn J Med* **24**: 236-243, 1985.
7. Garver RI Jr, Mornex JX, Nukiwa T, Brantly M, Courtney M, LeCocq JP, Crystal RG: Alpha 1-antitrypsin deficiency and emphysema caused by homozygous inheritance of nonexpressing alpha 1-antitrypsin genes. *N Engl J Med* **314**: 762-766, 1986.



8. Nukiwa T, Brantly M, Garver R, Paul L, Courtney M, LeCocq JP, Crystal RG: Evaluation of "at risk" alpha1-antitrypsin genotype SZ with synthetic oligonucleotide gene probes. *J Clin Invest* **77**: 528-537, 1986.
9. Nukiwa T, Satoh K, Brantly ML, Ogushi F, Fells GA, Courtney M, Crystal RG: Identification of a second mutation in the protein-coding sequence of the Z type alpha 1-antitrypsin gene. *J Biol Chem* **261**: 15989-15994, 1986.
10. Nukiwa T, Takahashi H, Brantly M, Courtney MJ, Crystal RG: Alpha 1-antitrypsin NullGranite Falls, a nonexpressing alpha 1-antitrypsin gene associated with a frameshift to stop mutation in a coding exon. *J Biol Chem* **252**: 11999-12004, 1987.
11. Okada M, Takahashi H, Nukiwa T, Matsuoka R, Furuse M, Kitamura S, Kira S: Correlative analyses of longitudinal changes in bronchoalveolar lavage, 67 gallium scanning, serum angiotensin-converting enzyme activity, chest X-ray, and pulmonary function tests in pulmonary sarcoidosis. *Jpn J Med* **26**: 360-367, 1987.
12. Nukiwa T, Brantly M, Ogushi F, Fells G, Satoh K, Stier L, Courtney M, Crystal RG: Characterization of the M1 (Ala213) type of alpha 1-antitrypsin, a newly recognized common "normal" alpha 1-antitrypsin haplotype. *Biochemistry* **26**: 5259-5267, 1987.
13. Hofker MH, Nelen M, Klasen EC, Nukiwa T, Curiel D, Crystal RG: Cloning and characterization of an alpha 1-antitrypsin like gene 12KB downstream of the genuine alpha 1-antitrypsin gene. *Biochem Biophys Res Commun* **155**: 634-642, 1988.
14. Nukiwa T, Brantly ML, Ogushi F, Fells GA, Crystal RG. Characterization of the gene and protein of the common alpha 1-antitrypsin normal M2 allele. *Am J Hum Genet* **43**: 322-330, 1988.
15. Takahashi H, Nukiwa T, Brantly M, Garver RI Jr, Hofker M, Courtney M, Crystal RG: Myelomonocytic cell lineage expression of the neutrophil elastase gene. *J Biol Chem* **263**: 2543-2547, 1988.
16. Satoh K, Nukiwa T, Brantly M, Garver RI Jr, Hofker M, Courtney M, Crystal RG. Emphysema associated with complete absence of alpha 1-antitrypsin in serum and the homozygous inheritance of a stop codon in an alpha1-antitrypsin-coding exon. *Am J Hum Genet* **42**: 77-83, 1988.

17. Rom WN, Basset P, Fells GA, Nukiwa T, Trapnell BC, Crystal RG: Alveolar macrophages release an insulin-like growth factor I-type molecule. *J Clin Invest* **82**: 1685-1693, 1988.
18. Takahashi H, Nukiwa T, Satoh K, Ogushi F, Brantly M, Fells G, Stier L, Courtney M, Crystal RG: Characterization of the gene and protein of the alpha 1-antitrypsin "deficiency" allele Mprocida. *J Biol Chem* **263**: 15528-15534, 1988.
19. Takahashi H, Nukiwa T, Yoshimura k, Quick CD, States DJ, Holmes MD, Whang-Peng J, Knutsen T, Crystal RG: Structure of the human neutrophil elastase gene. *J Biol Chem* **263**: 14739-14747, 1988.
20. Hofker MH, Nukiwa T, van Paassen HM, Nelen M, Kramps JA, Klasen EC, Frants RR, Crystal RG: A Pro---Leu substitution in codon 369 of the alpha-1-antitrypsin deficiency variant PI MHeerlen. *Hum Genet* **81**: 264-268, 1989.
21. Seyama K, Nukiwa T, Takabe K, Takahashi H, Miyake K, Kira S: Siiyama (serine 53 (TCC) to phenylalanine 53 (TTC)). A new alpha 1-antitrypsin-deficient vriant with mutation on a predicted conserved residue of the serpin backbone. *J Biol Chem* **266**: 12627-12632, 1991.
22. Takahashi S, Setoguchi Y, Nukiwa T, Kira S: Soluble interleukin-2 receptor in sera of patients with pulmonary tuberculoses. *Chest* **99**: 310-314, 1991.
23. Setoguchi Y, Takahashi S, Nukiwa T, Kira S: Detection of human T-cell lymphotropic virus type I-related antibodies in patients with lumphocytic interstitial pneumonia. *Am Rev Respir Dis* **144**: 1361-1365, 1991.
24. Ohwada A, Takahashi H, Uchida K, Nukiwa T, Kira S: Gene analysis of heterozygous protein C deficiency in a patient with pulmonary arterial thromboembolism. *Am Rev Respir Dis* **145**: 1491-1494, 1992.
25. Takabe K, Seyama K, Shinada H, Nouchi T, Miyahara T, Nukiwa T, Miyaka K, Tsukimoto K, Ichioka M, Marumo F. A new variant of alpha-1-antitrypsin deficiency (Siiyama) associated with pulmonary emphysema. *Intern Med* **31**: 702-707, 1992.
26. Takahashi K, Dambara T, Uekusa T, Nukiwa T, Kira S: Massive Chest Wall Tumor, Diagnosed as a Skin Tumor Successful Treatment by Intensive Combined Modality Therapy in an Adult. *Chest* **104**: 287-288, 1993.

27. Takahashi H, Ishidoh K, Muno D, Ohwada A, Nukiwa T, Kominami E, Kira S: Cathepsin L activity is increased in alveolar macrophages and bronchoalveolar lavage fluid of smokers. *Am Rev Respir Dis* **147**: 1562-1568, 1993.
28. Lomas DA, Finch JT, Seyama K, Nukiwa T, Carrell RW:  $\alpha$  1-antitrypsin Siiyama (Ser 53-->Phe) Further evidence for intracellular loop-sheet polymerization. *J Biol Chem* **26**: 15333-15335, 1993.
29. Narumi K, Satoh K, Isemura M, Sakai T, Abe T, Shindo S, Kikuchi T, Matsushima K, Motomiya M, Nukiwa T: Variety of laminin expressions in murine neoplastic cell lines: Neuroblastoma NA cells produce only laminin B2 chain. *Int J Oncol* **4**:113-136, 1994.
30. Seyama K, Nukiwa T, Takahashi K, Takahashi H, Kira S: Amylase mRNA transcripts in normal tissues and neoplasms: the implication of different expressions of amylase isogenes. *J Cancer Res Clin Oncol* **120**: 213-220, 1994.
31. Homma S, Nagaoka I, Abe H, Takahashi K, Seyama K, Nukiwa T, Kira S: Localization of platelet-derived growth factor and insulin-like growth factor I in the fibrotic lung. *Am J Respir Crit Care Med* **152**: 2084-2089, 1995.
32. Miki M, Isawa T, Teshima T, Anazawa Y, Mahmud AM, Nukiwa T: Establishment of a cell line from an adenocarcinoma of the lung producing carcinoembryonic antigen (CEA) and CA19-9. *Tohoku J Exp Med* **175**: 269-278, 1995.
33. Numasaki M, Fukuoka Y, Kudo T, Saeki H, Tachibana T, Motomiya M, Nukiwa T: A novel human monoclonal antibody, TONO-1, reactive with T-lymphocytic leukemia cells. *Int J Cancer* **62**:42-47, 1995.
34. Ogata K, Mukae N, Suzuki Y, Satoh K, Narumi K, Nukiwa T, Isemura M: Effects of catechins on the mouse tumor cell adhesion to fibronectin. *Planta Med* **61**: 472-474, 1995.
35. Sazuka M, Murakami S, Isemura M, Satoh K, Nukiwa T: Inhibitory effects of green tea infusion on in vitro invasion and in vivo metastasis of mouse lung carcinoma cells. *Cancer Lett* **98**: 27-31, 1995.
36. Seyama K, Nukiwa T, Souma S, Shimizu K, Kira S:  $\alpha$  1-Antitrypsin-deficient variant Siiyama (Ser53 [TCC] to Phe53 [TTC] Phe53 [TTC]) is prevalent in Japan. Status of  $\alpha$  1-Antitrypsin deficiency in Japan. *Am J Respir Crit Care Med* **152**: 2119-2126, 1995.

37. Watanabe A, Kikuchi H, Shoji S, Nukiwa T, Motomiya M, Yoshida T, Takizawa S, Oizumi K: Identification of *Mycobacterium avium* complex isolated in eastern and central Japan by using DNA probes. *Tohoku J Exp Med* **175**: 139-142, 1995.
38. Watanabe A, Oizumi K, Matsumoto K, Nishino T, Motomiya M, Nukiwa T: Antibiotic susceptibility of the sputum pathogens and throat swab pathogens isolated from the patients undergoing treatment in twenty-one private clinics in Japan. *Tohoku J Exp Med* **175**: 235-247, 1995.
39. Isemura M, Satoh K, Narumi K, Shimo-oka T, Mori M, Saito Y, Nukiwa T: Immunohistochemical detection of the laminin receptor polypeptide, a putative precursor of 67 kDa-laminin receptor, in human lung cancer. *Int J Oncol* **7**: 123-126, 1995.
40. Watanabe A, Oizumi K, Motomiya M, Nukiwa T: Daily single-dose regimen and alternate-two-week triple dose/day regimen of oral ofloxacin for the prophylaxis and control of exacerbations of chronic respiratory tract infections. *Tohoku J Exp Med* **176**: 25-33, 1995.
41. Abe K, Murakami S, Mukae N, Mita T, Hashimoto Y, Isemura M, Simooka M, Ii I, Kimata K, Narumi K, Satoh K, Nukiwa T: Presence of atypical laminin on the surface of mouse Lewis lung carcinoma cells. *Tohoku J Exp Med* **180**: 33-44, 1996.
42. Kikuchi T, Saijo Y, Sakai T, Abe T, Ohnuma K, Tezuka F, Terunuma H, Ogata K, Nukiwa T: Human T-cell lymphotropic virus type I (HTLV-1) carrier with clinical manifestations characteristic of diffuse panbronchiolitis. *Internal Medicine* **35**: 305-309, 1996.
43. Mahmud AM, Isawa T, Teshima T, Hirano T, Anazawa Y, Miki M, Nukiwa T: Radionuclide Venography and Its Functional Analysis in superior Vena Cava Syndrome. *J Nucl Med* **37**: 1460-1464, 1996.
44. Mori M, Chiba R, Tezuka F, Kaji M, Kobuto T, Nukiwa T, Takahashi T: Papillary adenoma of type II pneumocytes might have malignant potential. *Virchows Arch* **428**: 195-200, 1996.
45. Mori M, Tezuka F, Chiba R, Funae Y, Watanabe M, Nukiwa T, Takahashi T: Atypical adenomatous hyperplasia and adenocarcinoma of the human lung. Their heterology in form and analogy in immunohistochemical characteristics. *Cancer* **77**: 665-674, 1996.

46. Nukiwa T, Shimada K, Hara K, Odagiri S, Hiroyuki H: Preliminary report on DU-6859a for lower respiratory tract infection. *J Infect Chemother* **1**: 201-206, 1996.
47. Sato H, Miki M, Nakayama S, Abe T, Ohuchi H, Isawa T, Nukiwa T: Chronic solitary pulmonary nodule due to unsuspected pulmonary infarction from silent pulmonary embolism. *Respirology* **1**: 300-303, 1996.
48. Abe T, Tominaga Y, Kikuchi T, Watanabe A, Satoh K, Watanabe Y, Nukiwa T : Bacterial pneumonia causes augmented expression of the secretory leukoprotease inhibitor gene in the murine lung. *Am J Respir Crit Care Med* **156**: 1235-1240, 1997.
49. Kikuchi T, Abe T, Satoh K, Narumi K, Sakai T, Abe S, Shindoh S, Matsushima K, Nukiwa T: Cis-acting region associated with lung cell-specific expression of the secretory leukoprotease inhibitor gene. *Am J Respir Cell Mol Biol* **17**: 361-367, 1997.
50. Maemondo M, Saijo Y, Ebina M, Abe T, Yaekashiwa M, Satoh K, Nukiwa T : A case of rapidly progressive primary adenocarcinoma of the lung with signet-ring cells responding to 5-fluorouracil and leucovorin. *Int J Clin Oncol* **2**: 47-50, 1997.
51. Mori Y, Shiwaku H, Fukushima S, Wakatsuki S, Sato M, Nukiwa T, Horii A: Alternative splicing of hMSH2 in normal human tissues. *Hum Genet* **99**: 590-595, 1997.
52. Saijo Y, Uchiyama B, Abe T, Satoh K, Nukiwa T : Contiguous four-guanosine sequence in c-myc antisense phosphorothioate oligonucleotides inhibits cell growth on human lung cancer cells: Possible involvement of cell adhesion inhibition. *Jpn J Cancer Res* **88**: 26-33, 1997.
53. Sakai T, Satoh K, Matsushima K, Shindoh S, Abe S, Abe T, Motomiya M, Kawamoto T, Kawabata Y, Nakamura T, Nukiwa T : Hepatocyte growth factor in bronchoalveolar lavage fluids and cells in patients with inflammatory chest diseases of the lower respiratory tract : Detection by RIA and in situ hybridization. *Am J Respir Cell Mol Biol* **16**: 388-397, 1997.
54. Uchiyama B, Saijo Y, Kumano N, Abe T, Fujimura S, Ohkuda K, Handa M, Satoh K, Nukiwa T: Expression of nucleolar protein p120 in human lung cancer: difference in histological types as a marker for proliferation. *Clin Cancer Res* **3**: 1873-1877, 1997.

55. Yaekashiwa M, Nakayama S, Ohnuma K, Sakai T, Abe T, Satoh K, Matsumoto K, Nakamura T, Takahashi T, Nukiwa T : Simultaneous or delayed administration of Hepatocyte Growth Factor Equally Represses the Fibrotic Changes in Murine Lung Injury Induced by Bleomycin. *Am J Respir Crit Care Med* **156**: 1937-1944, 1997.
56. Fujimura S, Tokue Y, Takahashi H, Nukiwa T, Hisamichi K, Mikami T, Watanabe A : A newly recognized acetylated metabolite of arbekacin in arbekacin-resistant strains of methicillin-resistant *Staphylococcus aureus*. *J Antimicrob Chemother* **41**: 495-497, 1998.
57. Fujimura S, Tokue Y, Takahashi H, Nukiwa T, Watanabe A : Specificity of 4'-acetylation by an aminoglycoside-modifying enzyme in arbekacin-resistant strains of methicillin-resistant *Staphylococcus aureus*. *Tohoku J Exp Med* **186**: 67-70, 1998.
58. Horiuchi K, Tsurushima H, Berm Soo Kim, Shu Qin Liu, Saijo K, Saijo Y, Nukiwa T, Nomura N, Matsumura M, Ohno T: Expansion of human autologous cytotoxic T lymphocytes on fixed target tumor cells. *Cytotechnol* **26**: 119-124, 1998.
59. Kikuchi T, Abe T, Hoshi S, Matsubara N, Tominaga Y, Satoh K, Nukiwa T: Structure of the murine secretory leukoprotease inhibitor (Slpi) gene and chromosomal localization of the human and murine SLPI genes. *Am J Respir Cell Mol Biol* **19**: 875-880, 1998.
60. Lutfur AB, Kikuchi T, Tokue Y, Takahashi H, Shoji S, Fujimura S, Nukiwa T, Watanabe A: Comparative in vitro activity of vancomycin and other antimicrobial agents against MRSA and enterococcus faecium in Tohoku district of Japan. *Chemother* **44**: 318-323, 1998.
61. Mahmud AM, Teshima T, Isawa T, Miki M, Horikoshi M, Yanagimachi T, Nukiwa T: Follow-up of patients with superior vena cava syndrome by functional analysis of radionuclide venography. *Nucl Med Commun* **19**: 417-426, 1998.
62. Numasaki M, Nakamura K, Fukuoka Y, Sato N, Saeki H, Tachibana T, Hanai N, Nukiwa T, Kudo T : Nucleotide sequence analysis of a human monoclonal antibody 22-13 reactive with lung tumor associated antigen. *Immunology Letters* **60**: 111-120, 1998.

63. Sato M, Mori Y, Sakurada A, Fukushige S, Ishikawa Y, Tsuchiya E, Saito Y, Nukiwa T, Horii A : Identification of 910-Kb region of common allelic loss in chromosome bands 16q24.1-q24.2 in human lung cancer. *Genes Chromosomes and Cancer* **22**: 1-8, 1998.
64. Shiraishi K, Sasaki H, Yaekashiwa M, Motomiya M, Nukiwa T: Total respiratory system compliance after thoracoplasty. *Respir Med* **92**: 810-814, 1998.
65. Suzuki S, Umezu Y, Saijo Y, Satoh G, Abe Y, Satoh K, Nukiwa T: Exogenous recombinant human IL-12 augments MHC class I antigen expression on human cancer cell lines in vitro. *Tohoku J Exp Med* **185**: 223-226, 1998.
66. Takahashi H, Kikuchi T, Shoji S, Fujimura S, Lutfor AB, Tokue Y, Nukiwa T, Watanabe A : Characterization of gyrA, gyrB, grlA and grlB mutations in fluoroquinolone-resistant clinical isolates of Staphylococcus aureus. *J Antimicrob Chemother* **41**: 49-57, 1998.
67. Suzuki T, Saijo Y, Ebina M, Yaekashiwa M, Minegishi M, Tsuchiya S, Konno T, Ono S, Matsumura Y, Fujimura S, Nukiwa T: Bilateral pneumothoraces with multiple bullae in a patient with asymptomatic bronchiolitis obliterans 10 years after bone marrow transplantation. *Bone Marrow Transplant* **23**: 829-831, 1999.
68. Saijo Y, Hong X, Tanaka M, Tazawa R, Lin SQ, Saijo K, Ohno T, Koike K, Ohkuda K, Satoh K, Nukiwa T: Autologous high-killing cytotoxic T lymphocytes against human lung cancer are induced using IL-1  $\beta$  , IL-2, IL-4, and IL-6: Possible involvement of dendritic cells. *Clin Cancer Res* **5**: 1203-1209, 1999.
69. Narumi K, Inoue A, Tanaka M, Isemura M, Shimo-Oka T, Abe T, Nukiwa T, Satoh K: Inhibition of experimental metastasis of human fibrosarcoma cells by antirecombinant 37-kDa laminin binding protein antibody. *Jpn J Cancer Res* **90**: 425-431, 1999.
70. Satoh K, Narumi K, Abe T, Sakai T, Kikuchi T, Tanaka M, Shimo-Oka T, Uchida M, Tezuka F, Isemura M, Nukiwa T: Diminution of 37-kDa laminin binding protein expression reduces tumor formation of murine lung cancer cells. *Br J Cancer* **80**: 1115-1122, 1999.
71. Tahara M, Matsumoto K, Nukiwa T, Nakamura T: Hepatocyte growth factor leads to recovery from alcohol-induced fatty liver in rats. *J Clin Invest* **103**: 313-320, 1999.

72. Watanabe A, Kikuchi T, Lutfor AB, Tokue Y, Takahashi H, Fujimura S, Shoji S, Honda Y, Nakai Y, Nukiwa T: In vitro antimicrobial activity and penetration rate into sputum of gatifloxacin, a novel 6 fluoro 8 methoxy quinolone, and it's therapeutic efficacy in respiratory Infections. *J Infect Chemother* **5**: 149-155, 1999.
73. Hashimoto S, Miyawaki T, Futatani T, Kanegane H, Usui K, Nukiwa T, Namiuchi S, Matsushita M, Yamadori T, Suemura M, Kishimoto T, Tsukada S: Atypical X-linked agamma globulinemia diagnosed in three Adults. *Internal Medicine* **38**: 722-725, 1999.
74. Mori Y, Matsunaga M, Abe T, Fukushige S, Miura K, Sunamura M, Shiiba K, Sato M, Nukiwa T, Horii A: Chromosome band 16q24 is frequently deleted in human gastric cancer. *Br J Cancer* **80**: 556-562, 1999.
75. Sato G, Saijo Y, Uchiyama B, Kumano N, Sugawara S, Fujimura S, Sato M, Sagawa M, Ohkusa K, Koike K, Minami Y, Satoh K, Nukiwa T: Prognostic value of nucleolar protein p120 in patients with resected lung adenocarcinoma. *J Clin Oncol* **17**: 2721-2727, 1999.
76. Watanabe A, Tokue Y, Takahashi H, Kikuchi T, Kobayashi T, Gomi K, Fujimura S, Nukiwa T: In-vitro activity of HSR-903, a new oral quinolone, against bacteria causing respiratory infections. *Antimicrob Agents Chemother* **43**: 1767-1768, 1999.
77. Watanabe A, Kikuchi T, Lutfor AB, Tokue Y, Takahashi H, Fujimura S, Shoji S, Honda Y, Nakai Y, Nukiwa T: In vitro antimicrobial activity and penetration rate into sputum of gatifloxacin, a novel 6-fluoro-8-methoxy quinolone, and its therapeutic efficacy in respiratory infections. *J Infect Chemother* **5**: 149-155, 1999.
78. Watanabe A, Kikuchi H, Kikuchi T, Lutfor AB, Tokue Y, Takahashi H, Fujimura S, Shoji S, Honda Y, Nakai Y, Nukiwa T: Comparative in vitro activity of carbapenem antibiotics against respiratory pathogens isolated in recent ten years. *J Infect Chemother* **5**: 171-175, 1999.
79. Fujimura S, Tokue Y, Takahashi H, Kobayashi T, Gomi K, Abe T, Nukiwa T, Watanabe A : The novel arbekacin- and amikacin-modifying enzyme of methicillin-resistant Staphylococcus aureus. *FEMS Microbiol Lett* **190** : 299-303, 2000.
80. Inoue A, Narumi K, Matsubara N, Sugawara S, Saijo Y, Satoh K, Nukiwa T : Administration of Wild-type p53 Adenoviral Vector Synergistically Enhance the Cytotoxicity of Anti-cancer Drugs in Human Lung Cancer Cells Irrespective of the Status of p53 Gene. *Cancer Lett* **157** : 105-112, 2000.



81. Kikuchi T, Abe T, Yaekashiwa M, Tominaga Y, Mitsunashi H, Satoh K, Nakamura T, Nukiwa T : Secretory leukoprotease inhibitor augments hepatocyte growth factor production in human lung fibroblasts. *Am J Respir Cell Mol Biol* **23**: 364-370,2000.
82. Kanazawa H, Ebina M, Ino-oka N, Shimizukawa M, Takahashi T, Fujimura, S, Imai T, Nukiwa T: Transition from squamous cell carcinoma to adenocarcinoma in adenosquamous carcinoma of the lung. *Am J Pathol* **156** : 1289-1298, 2000.
83. Kitamura T, Uchida K, Tanaka N, Tsuchiya T, Watanabe J, Yamada Y, Hanaoka K, Seymour JF, Schoch OD, Doyle I, Inoue Y, Sakatani M, Kudoh S, Azuma A, Nukiwa T, Tomita T, Katagiri M, Fujita A, Kurasima A, Kanegasaki S, Nakata K: Serological diagnosis of idiopathic pulmonary alveolar protenosis. *Am J Respir Crit Care Med*, **162**: 658-662, 2000.
84. Suzuki T, Hashimoto S, Toyoda N, Nagai S, Yamasaki N, Dong HY, Sakai J, Yamashita T, Nukiwa T, Matsushima K: Comprehensive gene expression profile of LPS-stimulated human monocytes by SAGE. *Blood* **96**: 2584-2591, 2000.
85. Tanaka M, Narumi K, Isemura M, Abe M, Sato Y, Abe T, Saijo Y, Nukiwa T, Satoh K: Expression of the 37-kDa laminin binding protein in murine lung tumor cell correlates with tumor angiogenesis. *Cancer Lett* **153** : 161-168, 2000.
86. Tanaka M, Saijo Y, Suzuki T, Tazawa R, Satoh K, Nukiwa T : Induction of antitumor immunity by combined immunogene therapy using IL-2 and IL-12 in low antigenic Lewis lung carcinoma. *Cancer Gene Ther* **7** : 1481-1491, 2000.
87. Watanabe A, Takahashi H, Kikuchi T, Kobayashi T, Gomi K, Fujimura S, Tokue Y , Nukiwa T : Comparative in vitro activity of S-4661, a new parenteral carbapenem, and other antimicrobial agents against respiratory pathogens. *Chemotherapy* **46**: 184-187, 2000.
88. Nakamura A, Yuasa T, Ujike A, Ono M, Nukiwa T, Ravetch JV, Takai T: Fc $\gamma$  Receptor IIB-deficient mice develop Good pasture's syndrome upon immunization with typeIV collagen: a novel murine model for autoimmune glomerular basement membrane disease. *J Exp Med* **191**: 899-906, 2000.
89. Akiyama K, Miki M, Narumi K, Ebina M, Yaekashiwa M, Nakamura A, Nakamura T, Nukiwa T : Effect of hepatocyte growth factor on lung injury and development of clinical application. *Chest* **120**: 59, 2001.

90. Ebina M, Shimizugawa M, Suzuki T, Onuma K, Kanazawa H, Ino-oka N, Fujimura S, Takahashi T, Kohzuki M, Nukiwa T: Biphasic remodeling of alveolar capillaries in idiopathic pulmonary fibrosis. *Chest* **120**: 59, 2001.
91. Igarashi T, Abe M, Oikawa M, Nukiwa T, Sato Y: Retinoic acid represses the expression of ETS-1 in endothelial cells. *Tohoku J Exp Med* **194**: 35-43, 2001.
92. Nukiwa T: Enigma of  $\alpha$  1-antitrypsin:  $\alpha$  1-antitrypsin deficiency reveals a puzzling physiological function. *Internal Medicine* **40**: 271-272, 2001.
93. Onuma K, Ebina M, Takahashi T, Nukiwa T: Correlation between the airway branching patterns and the heterogeneous distribution of the lesions in bleomycin-injured mouse lung: a 3-D morphometric study. *Tohoku J Exp Med* **194**: 147-156, 2001.
94. Onuma K, Ebina M, Takahashi T, Nukiwa T: Irregularity of airway branching in a mouse bronchial tree: 3-D morphometric study. *Tohoku J Exp Med* **194**: 157-164, 2001.
95. Saito J, Nakai Y, Saijo Y, Nukiwa T, Koinumaru S, Matsuura Y, Aso N, Yamane Y, Tsukamoto T, Sayama T, Nakabayashi T: A phase II trial of oral UFT plus cisplatin (CDDP) in patient with non-small cell lung cancer (NSCLC). *Lung Cancer* **31**: 285-293, 2001.
96. Saijo Y, Sato G, Usui K, Sato M, Sagawa M, Kondo T, Minami Y, Nukiwa T: Expression of Nucleolar Protein p120 Predicts Poor Prognosis in Patients with Stage-I Lung Adenocarcinoma. *Ann Oncol* **12**: 1121-1125, 2001.
97. Usui K, Sasahara Y, Tazawa R, Hagiwara K, Tsukada S, Miyawaki T, Tsuchiya S, Nukiwa T: Recurrent pneumonia with mild hypogammaglobulinemia diagnosed as X-linked agammaglobulinemia in adults. *Respir Res* **2**: 188-192, 2001.
98. Watanabe A, Tokue Y, Takahashi H, Kikuchi T, Kobayashi T, Gomi K, Fujimura S, Yasui S, Murayama Y, Nukiwa T: Comparative in-vitro activity of carbapenem antibiotics against respiratory pathogens isolated between 1999 and 2000. *J Infect Chemother* **7**: 267-271, 2001.
99. Ebina M, Shimizukawa M, Narumi K, Miki M, Koinuma D, Watanabe M, Munakata H, Nukiwa T: Towards effective gene therapy for idiopathic pulmonary fibrosis. *Chest* **121**: 32S-33S, 2002.

100. Hirano S, Yamada Y, Koyama F, Fujimoto H, Takahama Y, Ueno M, Kamada K, Mizuno T, Maemondo M, Nukiwa T, Matsumoto K, Nakamura T, Nakajima Y: Tumor suppression effect using NK4, a molecule acting as an antagonist of HGF, on human gastric carcinoma. *Cancer Gene Ther* **9**: 2002.
101. Inoue A, Kunitoh H, Nukiwa T, et al: Phase I trial of weekly docetaxel in elderly patients with non-small cell lung cancer. *Lung Cancer* **38**: 205-209, 2002.
102. Ishimoto O, Kawahara C, Enjo K, Obinata M, Nukiwa T, Ikawa S: Possible oncogenic potential of  $\Delta$ Np73: a newly identified isoform of human p73. *Cancer Res* **62**: 636-641, 2002.
103. Ishimoto O, Saijo Y, Narumi K, Kimura Y, Ebina M, Matsubara N, Asou N, Nakai Y, Nukiwa T: High level of Vascular Endothelial Growth Factor (VEGF) in haemorrhagic pleural effusion of cancer. *Oncology* **63**: 70-75, 2002.
104. Kikuchi T, Hagiwara K, Honda Y, Gomi K, Kobayashi T, Takahashi H, Tokue Y, Watanabe A, Nukiwa T: Clarithromycin suppresses lipopolysaccharide-induced interleukin-8 production by human monocytes through AP-1 and NF- $\kappa$ B transcription factors. *J Antimicrob Chemother* **49**: 745-755, 2002 .
105. Kikuchi T, Maemondo M, Narumi K, Matsumoto K, Nakamura T, Nukiwa T: Tumor suppression induced by intratumor administration of adenovirus vector expressing NK4, a four-kringle antagonist of hepatocyte growth factor, and naive dendritic cells. *Blood* **2002** **100**: 3950-3959, 2002.
106. Kimura Y, Suzuki T, Kaneko C, Darnel AD, Moriya T, Suzuki S, Handa M, Ebina M, Nukiwa T, Sasano H: Retinoid receptors in the developing human lung. *Clin Sci (Lond)* **103**: 613-621, 2002.
107. Kimura Y, Takahashi K, Totsune K, Muramatsu Y, Kaneko C, Darnel AD, Suzuki T, Ebina M, Nukiwa T, Sasano H: Expression of urocortin and corticotrophin-releasing factor receptor subtypes in the human heart. *J Clin Endocrinol Metab* **87**: 340-346, 2002.
108. Kobayashi T, Tateda K, Matsumoto T, Miyazaki S, Watanabe A, Nukiwa T, Yamaguchi K: Macrolide-treated *Pseudomonas aeruginosa* induces paradoxical host responses in the lungs of mice and a high mortality rate. *J Antimicrob Chemother* **50**: 59-66, 2002.

109. Koinuma D, Miki M, Ebina M, Tahara M, Hagiwara K, Kondo T, Taguchi Y, Nukiwa T: Successful treatment of a case with rapidly progressive Bronchiolitis obliterans organizing pneumonia (BOOP) using cyclosporine A and corticosteroid. *Inter Med* **41**: 26-29, 2002.
110. Maehara N, Nagai E, Mizumoto K, Sato N, Matsumoto K, Nakamura T, Narumi K, Nukiwa T, Tanaka M: Gene transduction of NK4, HGF antagonist, inhibits in vitro invasion and in vivo growth of human pancreatic cancer. *Clin Exp Metastasis* **19**: 417-426, 2002.
111. Maemondo M, Narumi K, Saijo Y, Usui K, Tahara M, Tazawa R, Hagiwara K, Matsumoto K, Nakamura T, Nukiwa T: Targeting angiogenesis and HGF function using an adenoviral vector expressing the HGF antagonist NK4 for cancer therapy. *Mol Ther* **5**: 177-185, 2002.
112. Mori Y, Sato F, Selaru FM, Oлару A, Perry K, Kimos MC, Tamura G, Matsubara N, Wang S, Xu Y, Yin J, Zou TT, Leggett B, Young J, Nukiwa T, Stine OC, Abraham JM, Shibata D, Meltzer SJ: Instabilotyping reveals novel unique mutational spectra in microsatellite-unstable gastric cancers. *Cancer Research* **62**: 3641-3645, 2002.
113. Ohkouchi S, Yamada A, Imai N, Mine T, Harada K, Shichijo S, Maeda Y, Saijo Y, Nukiwa T, Itoh K: Non-mutated tumor-rejection antigen peptides elicit type-I allergy in the majority of healthy individuals. *Tissue Antigens* **59**: 259-272, 2002.
114. Prasenohadi P, Tazawa R, Maemondo M, Tanaka M, Usui K, Saijo Y, Hagiwara K, Nukiwa T: Gene Transfer of Thromboxane (TX) A<sub>2</sub> Synthase and Prostaglandin I (2) Synthase Antithetically Altered Tumor Angiogenesis and Tumor Growth. *Cancer Res* **62**: 63-66, 2002.
115. Saijo Y, Tanaka M, Miki M, Usui K, Suzuki T, Maemondo M, Hong X, Tazawa R, Kikuchi T, Matsushima K, Nukiwa T: Proinflammatory cytokine interleukin-1 $\beta$  promotes tumor growth of Lewis lung carcinoma by induction of angiogenic factors : in vivo analysis of tumor-stromal interaction. *J Immunol* **169**: 469-475, 2002.
116. Saimura M, Nagai E, Mizumoto K, Maehara N, Okino H, Katano M, Matsumoto K, Nakamura T, Narumi K, Nukiwa T, Tanaka M: Intraperitoneal injection of adenovirus-mediated NK4 gene suppresses peritoneal dissemination of pancreatic cancer cell line AsPC-1 in nude mice. *Cancer Gene Ther* **9**: 799-806, 2002.

117. Akiyama K, Ebihara S, Yada A, Matsumura K, Aiba S, Nukiwa T, Takai T: Targeting of apoptotic tumor cells to Fc gamma R provides efficient and versatile vaccination against tumors by dendritic cells. *J Immunol* **170**: 1641-8, 2003.
118. Inoue A, Saijo Y, Maemondo M, Gomi K, Tokue Y, Kimura Y, Ebina M, Moriya T, Nukiwa T: Severe acute interstitial pneumonia and Gefitinib. *Lancet* **361**: 137-9, 2003.
119. Nakamura A, Mori Y, Hagiwara K, Suzuki T, Sakakibara T, Kikuchi T, Igarashi T, Ebina M, Abe T, Miyazaki J, Takai T, Nukiwa T: Increased susceptibility to LPS-induced endotoxin shock in secretory leukoprotease inhibitor (SLPI)-deficient mice. *J Exp Med* **197**: 669-74, 2003.
120. Shimizukawa M, Ebina M, Narumi K, Kikuchi T, Munakata H, Nukiwa T: Intratracheal gene transfer of decorin reduces subpleural fibroproliferation induced by bleomycin. *Am J Physiol Lung Cell Mol Physiol* **284**: L526-L532, 2003.
121. Usui K, Saijo Y, Narumi K, Koyama S, Maemondo M, Kikuchi T, Tazawa R, Hagiwara K, Ishibashi Y, Ohta S, Nukiwa T: N-terminal deletion augments the cell-death inducing activity of BAX in adenoviral gene delivery to non-small cell lung cancers. *Oncogene* **22**: 2655-63, 2003.
122. Yano S, Nokihara H, Yamamoto A, Goto H, Ogawa H, Kanematsu T, Miki T, Saijo Y, Nukiwa T, Sone S: Multifunctional interleukin-1  $\beta$  promotes metastasis of human lung cancer cells in SCID mice by enhancing tumor-cell potential of adhesion, invasion and angiogenesis-related molecules. *Cancer Sci* **94**: 244-52, 2003.
123. Hagiwara K, Kikuchi T, Endo Y, Huqun, Usui K, Takahashi M, Shibata N, Kusakabe T, Xin H, Hoshi S, Miki M, Inooka N, Tokue Y, Nukiwa T: Mouse SWAM1 and SWAM2 are antibacterial proteins composed of a single whey acidic protein motif. *J Immunol* **170**: 1973-1979, 2003.
124. Huqun, Endo Y, Xin H, Takahashi M, Nukiwa T, Hagiwara K: A naturally occurring p73 mutation in a p73-p53 double-mutant lung cancer cell line encodes p73a protein with a dominant negative function. *Cancer Science* **94**: 718-724, 2003.
125. Kawamoto N, Yamada A, Ohkouchi S, Maeda T, Tanaka S, Hashimoto T, Saijo Y, Nukiwa T, Shichijo S, Aizawa H, Itoh K: IgG reactive to CTL-directed epitopes of self-antigens is either lacking or unbalanced in atopic dermatitis patients. *Tissue Antigens* **61**: 352-361, 2003.

126. Kikuchi T, Hagiwara K, Honda Y, Watanabe A, Nukiwa T: Suppressive mechanism of clarithromycin on lipopolysaccharide-induced IL-8 production in human monocytes by mediating AP-1 and NF-kappaB. *Jpn J Antibiot* **56** : 100-105, 2003.
127. Kimura Y, Suzuki T, Kaneko C, Andrew DD, Moriya T, Suzuki S, Ebina M, Nukiwa T, Sasano H: Retinoid receptors in the developing human lung. *Clin Sci* **103**: 613-621, 2003.
128. Kimura Y, Suzuki T, Kaneko C, Darnel AD, Akahira J, Ebina M, Nukiwa T, Sasano H : Expression of androgen receptor, and 5a-reductase type 1 and 2 in early gestation fetal lung : a possible correlation with branching morphogenesis. *Clin Sci* **105**: 709-713, 2003.
129. Koinuma D, Shinozaki M, Komuro A, Goto K, Saitoh M, Hanyu A, Ebina M, Nukiwa T, Miyazawa K, Imamura T, Miyazono K: Arkadia amplifies TGF-  $\beta$  superfamily signalling through degradation of Smad7. *EMBO J* **22**: 6458-6470, 2003.
130. Manabe T, Mizumoto K, Nagai E, Matsumoto K, Nakamura T, Nukiwa T, Tanaka M, Matsuda T: Cell-based protein delivery system for the inhibition of the growth of pancreatic cancer: NK4 gene-transduced oral mucosal epithelial cell sheet. *Clin Cancer Res* **9**: 3158-3166, 2003.
131. Nakamura A, Nukiwa T, Takai T: Deregulation of peripheral B-cell development in enhanced severity of collagen-induced arthritis in FcgammaRIIB-deficient mice. *J Autoimmu* **20**: 227-236, 2003.
132. Ohkouchi S, Kawamoto N, Koga M, Sakanashi F, Shichijo S, Saijo Y, Nukiwa T, Itoh K: Identification of a cytotoxic T lymphocyte-directed epitope encode by an intron of the putative tumor suppressor gene Testin of the common fragile site 7G region : A peptide vaccine candidate for HLA-B52<sup>+</sup> and -62<sup>+</sup> cancer patients. *Eur J Immunol* **33**: 2964-2973, 2003.
133. Andarini S, Kikuchi T, Nukiwa M, Pradono P, Suzuki T, Ohkouchi S, Inoue A, Maemondo M, Ishii N, Saijo Y, Sugamura K, Nukiwa T: Adenovirus vector-Mediated in vivo gene transfer of OX40 ligand to tumor cells enhances antitumor immunity of tumor-bearing hosts. *Cancer Res* **64**: 3281-3287, 2004.
134. Arai T, Hamano E, Inoue Y, Tazawa R, Nukiwa T, Sakatani M, Nakata K: Serum neutralizing capacity of GM-CSF reflects disease severity in a patient with pulmonary alveolar proteinosis successfully treated with z GM-CSF. *Respir Med* **98**: 1227-1230, 2004.

135. Ebina M, Shimizukawa M, Shibata N, Kimura Y, Suzuki T, Endo M, Sasano H, Kondo T, Nukiwa T: Heterogeneous increase in CD34-positive alveolar capillaries in idiopathic pulmonary fibrosis. *Am J respire Crit Care Med* **169**: 1203-1208, 2004.
136. Gomi K, Tokue Y, Kobayashi T, Takahashi H, Watanabe A, Fujita T, Nukiwa T: Mannose-binding lectin gene polymorphism is a modulating factor in repeated respiratory infections. *Chest* **126**: 95-99, 2004.
137. Ichinose Y, Nakai Y, Kudoh S, Semba H, Yoshida S, Nukiwa T, Yamamoto H, Yamane Y, Niitani H: Uracil/tegafur plus cisplatin with concurrent radiotherapy for locally advanced non-small-cell lung cancer: a multi-institutional phase II trial. *Clin Cancer Res* **10**: 4369-4373, 2004.
138. Inoue A, Saijo Y, Kikuchi T, Gomi K, Suzuki T, Maemondo M, Miki M, Sato T, Nukiwa T: Pharmacokinetic analysis of combination chemotherapy with carboplatin and etoposide in small-cell lung cancer patients undergoing hemodialysis. *Ann Oncol* **15**: 51-54, 2004.
139. Kikuchi T, Kobayashi T, Gomi K, Suzuki T, Tokue Y, Watanabe A, Nukiwa T: – Dendritic cells pulsed with live and dead *Legionella pneumophila* elicit distinct immune responses. *J Immunol* **172**: 1727-1734, 2004.
140. Maemondo M, Saijo Y, Narumi K, Kikuchi T, Usui K, Tazawa R, Matsumoto K, Nakamura T, Sasaki K, Takahashi M, Niitsu Y, Nukiwa T: Gene therapy with secretory leukoprotease inhibitor promoter-controlled replication-competent adenovirus for non-small cell lung cancer. *Cancer Res* **64**: 4611-4620, 2004.
141. Sakakibara T, Nemoto Y, Nukiwa T, Takeshima H: Identification and characterization of a novel Rho GTPase activating protein implicated in receptor-mediated endocytosis. *FEBS Lett* **566**: 294-300, 2004.
142. Saito A, Takizawa H, Sato M, Suzuki K, Miyata T, Tazawa R, Nukiwa T, Morita Y: Alpha-1 antitrypsin deficiency with severe pulmonary emphysema. *Intern Med* **43**: 223-226, 2004.
143. Takahashi H, Tokue Y, Kikuchi T, Kobayashi T, Gomi K, Goto I, Shiraishi H, Fukushi H, Hirai K, Nukiwa T, Watanabe A: Prevalence of community acquired respiratory tract infections associated with Q fever in Japan. *Diagnostic Microbiol Infect Dis* **48**: 247-252, 2004.

144. Tanaka T, Shimura H, Sasaki T, Narumi K, Maemondo M, Nukiwa T, Matsumoto K, Nakamura T, Ikeda S: Gallbladder cancer treatment using adenovirus expressing the HGF/NK4 gene in a peritoneal implantation model. *Cancer Gene Ther* **11**: 431-440, 2004.
145. Kikuchi T, Andarini S, Xin H, Gomi K, Tokue Y, Saijo Y, Honjo T, Watanabe A, Nukiwa T: Involvement of fractalkine/CX3CL1 expression by dendritic cells in the enhancement of host immunity against Legionella pneumophila. *Infect Immun* **73**: 5350-7, 2005.
146. Azuma A, Nukiwa T, Tsuboi E, Suga M, Abe S, Nakata K, Taguchi Y, Nagai S, Itoh H, Ohi M, Sato A, Kudoh S: Double-blind, placebo-controlled trial of pirfenidone in patients with idiopathic pulmonary fibrosis. *Am J Respir Crit Care Med* **171**:1040-1047, 2005.
147. Fujiwara H, Kubota T, Amaike H, Inada S, Takashima K, Atsuji K, Yoshimura M, Maemondo M, Nukiwa T, Matsumoto K, Nakamura T, Hagiwara A, Yamagishi H: Suppression of peritoneal implantation of gastric cancer cells by adenovirus vector-mediated NK4 expression. *Cancer Gene Ther* **12**: 206-216, 2005.
148. Hotta K, Inoue A, Kiura K, Ueoka H, Nukiwa T, Tanimoto M: Gefitinib should be cautiously administered to poor performance status patients with non-small-cell lung cancer : results from a prospective feasibility study. *Lung Cancer* **50**: 413-415, 2005.
149. Kikuchi T, Andarini S, Xin H, Gomi K, Tokue Y, Saijo Y, Honjo T, Watanabe A, Nukiwa T: Involvement of fractalkine/CX3CL1 expression by dendritic cells in the enhancement of host immunity against Legionella pneumophila. *Infect Immun* **73**: 5350-5357, 2005.
150. Mori K, Yoshida K, Kikuchi T, Sakakibara T, Hisata O, Nukiwa T, Moriya T, Tani J, Hoshikawa S, Ito S: Thyroid metastasis of pulmonary adenocarcinoma. *Thyroid* **15**:176-177, 2005.
151. Murakami M, Nagai E, Mizumoto K, Saimura M, Ohuchida K, Inadome N, Matsumoto K, Nakamura T, Maemondo M, Nukiwa T, Tanaka M: Suppression of metastasis of human pancreatic cancer to the liver by transportal injection of recombinant adenoviral NK4 in nude mice. *Int J Cancer* **117**: 160-165, 2005.



152. Nakao S, Kuwano T, Tsutsumi-Miyahara C, Ueda S, Kimura YN, Hamano S, Sonoda KH, Saijo Y, Nukiwa T, Strieter RM, Ishibashi T, Kuwano M, Ono M: Infiltration of COX-2-expressing macrophage is a prerequisite for IL-1 beta-induced neovascularization and tumor growth. *J Clin Invest* **115**: 2979-2991, 2005.
153. Suzuki T, Fukuhara T, Tanaka M, Nakamura A, Akiyama K, Sakakibara T, Koinuma D, Kikuchi T, Tazawa R, Maemondo M, Hagiwara K, Saijo Y, Nukiwa T: Vaccination of dendritic cells loaded with Interleukin-12-secreting cancer cells augments in vivo antitumor immunity : Characteristics of syngeneic and allogeneic antigen-presenting cell-cancer hybrid cells. *Clin Cancer Res* **11**: 58-66, 2005.
154. Tazawa R, Hamano E, Arai T, Ohta H, Ishimoto O, Uchida K, Watanabe M, Saito J, Takeshita M, Hirabayashi Y, Ishige I, Eishi Y, Hagiwara K, Ebina M, Inoue Y, Nakata K Nukiwa T: Granulocyte-macrophage colony-stimulating factor and lung immunity in pulmonary alveolar proteinosis. *Am J Respir Crit Care Med* **171**: 1142-1149, 2005.
155. Watanabe M, Ebina M, Orson FM, Nakamura A, Kubota K, Koinuma D, Akiyama K, Maemondo M, Ohkouchi S, Tahara M, Matsumoto K, Nakamura T, Nukiwa T: Hepatocyte growth factor gene transfer to alveolar septa for effective suppression of lung fibrosis. *Mol Ther* **12**: 58-67, 2005.
156. Xin H, Kikuchi T, Andarini S, Ohkouchi S, Suzuki T, Nukiwa T, Huqun, Hagiwara K, Honjo T, Saijo Y: Antitumor immune response by CX3CL1 fractalkine gene transfer depends on both NK and T cells. *Eur J Immunol* **35**: 1371-1380, 2005.
157. Fujiwara T, Tanaka N, Kanazawa S, Ohtani S, Saijo Y, Nukiwa T, Yoshimura K, Sato T, Eto Y, Chada S, Nakamura H, Kato H: Multicenter phase I study of repeated intratumoral delivery of adenoviral p53 in patients with advanced non-small-cell lung cancer. *J Clin Oncol* **24**: 1689-1699, 2006.
158. Gomi K, Kikuchi T, Tokue Y, Fujimura S, Uehara A, Takada H, Watanabe A, Nukiwa T: Mouse and Human Cell Activation by N-Dodecanoyl-DL-Homoserine Lactone, a Chromobacterium violaceum Autoinducer. *Infect Immun* **74**:7029-7031, 2006.
159. Inoue A, Usui K, Ishimoto O, Matsubara N, Tanaka M, Kanbe M, Gomi K, Koinumaru S, Saijo Y, Nukiwa T: A phase II study of weekly paclitaxel combined with carboplatin for elderly patients with advanced non-small cell lung cancer. *Lung Cancer* **52**: 83-87, 2006.

160. Inoue A, Suzuki T, Fukuhara T, Maemondo M, Kimura Y, Morikawa N, Watanabe H, Saijo Y, Nukiwa T: Prospective phase II study of gefitinib for chemotherapy naïve patients with advanced non-small-cell lung cancer with epidermal growth factor receptor gene mutations. *J Clin Oncol* **24**: 3340-3346, 2006.
161. Inoue A, Yamazaki K, Maemondo M, Suzuki T, Kimura Y, Kanbe M, Isobe H, Nishimura M, Saijo Y, Nukiwa T: A phase I study of amrubicin combined with carboplatin for elderly patients with small-cell lung cancer. *J Thorac Oncol* **1**: 551-555, 2006.
162. Inoue Y, Nakata K, Arai T, Tazawa R, Hamano E, Nukiwa T, Kudo K, Keicho N, Hizawa N, Yamaguchi E, Eda R, Oishi K, Maeda Y, Koreeda Y, Kodo N, Sakatani M: Epidemiological and clinical features of idiopathic pulmonary alveolar proteinosis in Japan. *Respirology* **11**: S55-S60, 2006.
163. Ishimoto O, Sugawara S, Inoue A, Ishida T, Munakata M, Koinumaru S, Hasegawa T, Suzuki T, Miki H, Saijo Y, Nukiwa T: Phase II study of carboplatin combined with biweekly docetaxel for advanced non-small cell lung cancer. *J Thorac Oncol* **1**: 979-983, 2006.
164. Nukiwa M, Andarini S, Zaini J, Xin H, Kanehira M, Suzuki T, Fukuhara T, Mizuguchi H, Hayakawa T, Saijo Y, Nukiwa T, Kikuchi T: Dendritic cells modified to express fractalkine /CX3CL1 in treatment of preexisting tumors. *Eur J Immunol* **36**: 1019-1027, 2006.
165. Ogura Y, Mizumoto K, Nagai E, Murakami M, Inadome N, Saimura M, Matsumoto K, Nakamura T, Maemondo M, Nukiwa T, Tanaka M: Peritumoral injection of adenovirus vector expressing NK4 combined with gemcitabine treatment suppresses growth and metastasis of human pancreatic cancer cells implanted orthotopically in nude mice and prolongs survival. *Cancer Gene Ther*. **13**: 520-529, 2006.
166. Ohta H, Tazawa R, Nakamura A, Kimura Y, Maemondo M, Kikuchi T, Ebina M, Nukiwa T: Acute-onset sarcoidosis with erythema nodosum and polyarthralgia (Lofgren's syndrome) in Japan : a case report and a review of the literature. *Intern Med* **45**: 659-662, 2006.
167. Son G, Hirano T, Seki E, Iimuro Y, Nukiwa T, Matsumoto K, Nakamura T, Fujimoto J: Blockage of HGF/c-Met system by gene therapy (adenovirus-mediated NK4 gene) suppresses hepatocellular carcinoma in mice. *J Hepatol* **45**: 688-695, 2006.

168. Tazawa R, Nakata K, Inoue Y, Nukiwa T: Granulocyte-macrophage colony-stimulating factor inhalation therapy for patients with idiopathic pulmonary alveolar proteinosis: a pilot study; and long-term treatment with aerosolized granulocyte-macrophage colony-stimulating factor: a case report. *Respirology* **11**: S61-S64, 2006.
169. Huqun, Izumi S, Miyazawa H, Ishii K, Uchiyama B, Ishida T, Tanaka S, Tazawa R, Fukuyama S, Tanaka T, Nagai Y, Yokote A, Takahashi H, Fukushima T, Kobayashi K, Chiba H, Nagata M, Sakamoto S, Nakata K, Takebayashi Y, Shimizu Y, Kaneko K, Shimizu M, Kanazawa M, Abe S, Inoue Y, Takenoshita S, Yoshimura K, Kudo K, Tachibana T, Nukiwa T, Hagiwara K: Mutations in the SLC34A2 gene are associated with pulmonary alveolar microlithiasis. *Am J Respir Crit Care Med* **175**: 263-268, 2007.
170. Du W, Hattori Y, Yamada T, Matsumoto K, Nakamura T, Sagawa M, Otsuki T, Niikura T, Nukiwa T, Ikeda Y: NK4 an antagonist of hepatocyte growth factor (HGF), inhibits growth of multiple myeloma cells: molecular targeting of angiogenic growth factor. *Blood* **109**: 3042-3049, 2007.
171. Fujimura S, Nakano Y, Sato T, Shirahata K, Watanabe A: Relationship between the usage of carbapenem antibiotics and the incidence of imipenem-resistant *Pseudomonas aeruginosa*. *J Infect Chemother* **13**: 147-150, 2007.
172. Gomi K, Watanabe A, Aoki S, Kikuchi T, Fuse K, Nukiwa T, Kurokawa I, Fujimura S: Antibacterial activity of carbapenems against clinically isolated respiratory bacterial pathogens in Japan between 2005 and 2006. *Int J Antimicrob Agents* **29**: 586-592, 2007.
173. Xin H, Kanehira M, Mizuguchi H, Hayakawa T, Kikuchi T, Nukiwa T, Saijo Y: Targeted Delivery of CX3CL1 to multiple lung tumors by mesenchymal stem cells. *Stem Cells* **25**: 1618-1626, 2007.
174. Kanehira M, Xin H, Hoshino K, Maemondo M, Mizuguchi H, Hayakawa T, Matsumoto K, Nakamura T, Nukiwa T, Saijo Y: Targeted delivery of NK4 to multiple lung tumors by bone marrow-derived mesenchymal stem cells. *Cancer Gene Ther* **14**: 894-903, 2007.
175. Zaini J, Andarini S, Tahara M, Saijo Y, Ishii N, Kawakami K, Taniguchi M, Sugamura K, Nukiwa T, Kikuchi T: OX40 ligand in dendritic cells can costimulate NKT and CD4+ Th cell antitumor immunity in mice. *J Clin Invest* **117**: 3330-3338, 2007.

176. Watanabe A, Fujimura S, Kikuchi T, Gomi K, Fuse K, Nukiwa T: Evaluation of dosing designs of carbapenems for severe respiratory infection using Monte Carlo simulation. *J Infect Chemother* **13**: 332-340, 2007.
177. Asamura H, Goya T, Koshiishi Y, Sohara Y, Eguchi K, Mori M, Nakanishi Y, Tsuchiya R, Shimokata K, Inoue H, Nukiwa T, Miyaoka E: Japanese joint committee of lung cancer registry; A Japanese lung cancer registry study: prognosis of 13,010 resected lung cancers. *J Thorac Oncol* **3**: 46-52, 2008.
178. Morimoto T, Azuma A, Abe S, Usuki J, Kudoh S, Sugisaki K, Oritsu M, Nukiwa T: Epidemiology of sarcoidosis in Japan. *Eur Respir J* **31**: 372-379, 2008.
179. Sakakibara T, Saijo Y, Fukuhara T, Gomi K, Inoue A, Ishimoto O, Sugawara S, Nukiwa T: Adenocarcinoma with epidermal growth factor receptor gene mutations in three sibling. *J Thorac Oncol* **3**: 311-313, 2008.
180. Yamanaka S, Gu Z, Sato M, Fujisaki R, Inomata K, Sakurada A, Inoue A, Nukiwa T, Kondo T, Horii A: siRNA targeting against EGFR, a promising candidate for a novel therapeutic application to lung adenocarcinoma. *Pathobiology* **75**: 2-8, 2008.
181. Miyazawa H, Tanaka T, Nagai Y, Matsuoka M, Huqun, Sutani A, Udagawa K, Zhang J, Hirama T, Murayama Y, Koyama N, Ikebuchi K, Nagata M, Kanazawa M, Nukiwa T, Takenoshita S, Kobayashi K, Hagiwara K: Peptide nucleic acid-locked nucleic acid polymerase chain reaction clamp-based detection test for gefitinib-refractory T790M epidermal growth factor receptor mutation. *Cancer Sci* **99**: 595-600, 2008.
182. Inoue Y, Trapnell BC, Tazawa R, Arai T, Takada T, Hizawa N, Kasahara Y, Tatsumi K, Hojo M, Ichiwata T, Tanaka M, Yamaguchi E, Eda R, Oishi K, Tsuchihashi Y, Kaneko C, Nukiwa T, Sakatani M, Krischer JP, Nakata K: Japanese rare lung diseases consortium: Characteristics of a large cohort of patients with autoimmune pulmonary alveolar proteinosis in Japan. *Am J Respir Crit Care Med* **177**: 752-762, 2008.
183. Fukuhara T, Saijo Y, Sakakibara T, Inoue A, Morikawa N, Kanamori M, Nakashima I, Nukiwa T: Successful treatment of carcinomatous meningitis with gefitinib in a patient with lung adenocarcinoma harboring a mutated EGF receptor gene. *Tohoku J Exp Med* **214**: 359-363, 2008.

184. Inoue A, Xin H, Suzuki T, Kanehira M, Kuroki Y, Fukuhara T, Kikuchi T, Maemondo M, Nukiwa T, Saijo Y: Suppression of surfactant protein A by an epidermal growth factor receptor tyrosine kinase inhibitor exacerbates lung inflammation. *Cancer Sci* **99**: 1679-1684, 2008.
185. Inoue A, Sugawara S, Yamazaki K, Maemondo M, Suzuki T, Gomi K, Takanashi S, Inoue C, Inage M, Yokouchi H, Watanabe H, Tsukamoto T, Saijo Y, Ishimoto O, Hommura F, Nukiwa T: Randomized Phase II trial comparing amrubicin with topotecan in patients with previously treated small-cell lung cancer: North Japan Lung Cancer Study Group Trial 0402. *J Clin Oncol* **26**: 5401-5406, 2008.
186. Mushiroda T, Watanapokayakit S, Takahashi A, Nukiwa T, Kudoh S, Ogura T, Taniguchi H, Kubo M, Kamatani N, Nakamura Y, the pirfenidone clinical study group: A genome-wide association study identifies an association of common variant in TERT with susceptibility to idiopathic pulmonary fibrosis. *J Med Genet* **45**: 654-656, 2008.
187. Inoue A, Kobayashi K, Usui K, Maemondo M, Okinaga S, Mikami I, Ando M, Yamazaki K, Saijo Y, Gemma A, Miyazawa H, Tanaka T, Ikebuchi K, Nukiwa T, Morita S, Hagiwara K ; North East Japan Gefitinib Study Group: First-line Gefitinib for patients with advanced non-small cell lung cancer harboring epidermal growth factor receptor mutations without indication for chemotherapy. *J Clin Oncol* **27**: 1394-1400, 2009.
188. Inoue A, Ishimoto O, Fukumoto S, Usui K, Suzuki T, Yokouchi H, Maemondo M, Kanbe M, Ogura S, Harada T, Oizumi S, Harada M, Sugawara S, Fukuhara T, Nukiwa T (North Japan Lung Cancer Study Group trial 0405): A phase II study of amrubicin combined with carboplatin for elderly patients with small-cell lung cancer. *Ann Oncol* **21**:800-803, 2009.
189. Kikuchi T, Watanabe A, Gomi K, Sakakibara T, Nishimori K, Daito H, Fujimura S, Tazawa R, Inoue A, Ebina M, Tokue Y, Kaku M, Nukiwa T: Association between mycobacterial genotypes and disease progression in Mycobacterium avium pulmonary infection. *Thorax* **64**: 901-907, 2009.
190. Kishi Y, Kubo K, Nakamura T, Wen J, Suzuki Y, Mizuno S, Nukiwa T, Matsumoto K, Nakamura T: Systemic NK4 gene therapy inhibits tumor growth and metastasis of melanoma and lung carcinoma in syngeneic mouse tumor models. *Cancer Sci* **100**: 1351-8, 2009.

191. Morita S, Okamoto I, Kobayashi K, Yamazaki K, Asahina H, Inoue A, Hagiwara K, Sunaga N, Yanagitani N, Hida T, Yoshida K, Hirashima T, Yasumoto K, Sugio K, Mitsudomi T, Fukuoka M, Nukiwa T: Combined survival analysis of prospective clinical trials of gefitinib for non-small cell lung cancer with EGFR mutations. *Clin Cancer Res* **15**: 4493-4498, 2009.
192. Sakakibara T, Inoue A, Sugawara S, Maemondo M, Ishida T, Usui K, Abe T, Kanbe M, Watanabe H, Saijo Y, Nukiwa T: Randomized phase II trial of weekly paclitaxel combined with carboplatin versus standard paclitaxel combined with calboplatin for elderly patients with advanced non-small-cell lung cancer. *Ann Oncol* **21**: 795-799, 2009.
193. Taniguchi H, Ebina M, Kondoh Y, Ogura T, Azuma A, Suga M, Taguchi Y, Takahashi H, Nakata K, Sato A, Takeuchi M, Raghu G, Kudoh S, Nukiwa T, Pirfenidone clinical study group in Japan: Pirfenidone In idiopathic pulmonary fibrosis. *Eur Respir J* **35**: 821-829, 2009.
194. Damayanti T, Kikuchi T, Zaini J, Daito H, Kanehira M, Kohu K, Ishii N, Satake M, Sugamura K, Nukiwa T: Serial OX40 Engagement on CD4+ T Cells and natural killer T Cells Causes Allergic Airway Inflammation. *Am J Respir Crit Care Med* **181**:688-698, 2009.
195. Tanaka K, Ishihara T, Azuma A, Kudoh S, Ebina M, Nukiwa T, Sugiyama Y, Tasaka Y, Namba T, Ishihara T, Sato K, Mizushima Y, Mizushima T: Therapeutic effect of lecithinized superoxide dismutase (PC-SOD) on bleomyin-induced pulmonary fibrosis. *Am J Physiol Lung Cell Mool Physiol* **298**: 348-360, 2009.
196. Suzuki K, Nishimaki K, Okuyama K, Katoh T, Yasujima M, Chihara J, Suwabe A, Shibata Y, Takahashi C, Takeda H, Ida S, Kaku M, Watanabe A, Nukiwa T, Niitsuma K, Kanemitsu K, Takayanagi M, Ohno I: Trends in antimicrobial susceptibility of Streptococcus pneumoniae in the Tohoku district of Japan: a longitudinal analysis from 1998 to 2007. *Tohoku J Exp Med* **220**: 47-57, 2010.
197. Tazawa R, Trapnell BC, Inoue Y, Arai T, Takada T, Nasuhara Y, Hizawa N, Kasahara Y, Tatsumi K, Hojo M, Ishii H, Yokoba M, Tanaka N, Yamaguchi E, Eda R, Tsuchihashi Y, Morimoto K, Akira M, Terada M, Otsuka J, Ebina M, Kaneko C, Nukiwa T, Krischeer JP, Akazawa K, Nakata K: Inhaled Granulocyte/Macrophage-Colony Stimulating Factor as Therapy of Pulmonary Alveolar Proteinosis. *Am J Respir Crit Care Med* **181**:1345-1354, 2010.

198. Takahashi T, Yamamoto N, Nukiwa T, Mori K, Tsuboi M, Horai T, Masuda N, Eguchi K, Mitsudomi T, Yokota S, Segawa Y, Ichinose Y, Fukuoka M, Saijo N: Phase II study of erlotinib in Japanese patients with advanced non-small cell lung cancer. *Anticancer Res* **30**: 557-563, 2010.
199. Satoh H, Moriguchi T, Taguchi K, Takai J, Maher JM, Suzuki T, Winnard PT Jr, Raman V, Ebina M, Nukiwa T, Yamamoto M: Nrf2-deficiency creates a responsive microenvironment for metastasis to the lung. *Carcinogenesis* **31**: 1833-1843, 2010.
200. Maemondo M, Inoue A, Kobayashi K, Sugawara S, Oizumi S, Hoshi H, Gemma A, Harada M, Yoshizawa H, Kinoshita I, Fujita Y, Okinaga S, Hirano H, Yoshimori K, Harada T, Ogura T, Ando M, Miyazawa H, Tanaka T, Saijo Y, Hagiwara K, Morita S, Nukiwa T; North-East Japan Study Group: Gefitinib or chemotherapy for non-small-cell lung cancer with mutated EGFR. *N Engl J Med* **362**: 2380-2388, 2010.
201. Koyama S, Murakami T, Sakakibara S, Muramatsu M, Watanabe M, Ebina M, Nukiwa T: Massive pleural effusion and bronchopleural fistula in Wegener's granulomatosis. *Sarcoidosis Vasc Diffuse Lung Dis* **27**: 76-79, 2010.
202. Ebina M, Shibata N, Ohta H, Hisata S, Tamada T, Ono M, Okaya K, Kondo T, Nukiwa T: The disappearance of subpleural and interlobular lymphatics in idiopathic pulmonary fibrosis. *Lymphatic Research and Biology* **8**:199-207, 2010.
203. Ebina M, Taniguchi H, Miyasho T, Yamada S, Shibata N, Ohta H, Hisata S, Hirota N, Nishimura H, Ishizaka A, Maruyama I, Takashi K, Nukiwa T: Gradual increase of high mobility group protein B1 (HMGB1) in the lungs after the onset of acute exacerbation of idiopathic pulmonary fibrosis. *Pulm Med* **8**:199-207, 2010.
204. Nukiwa T, Ebina M, Takeuchi M: From the authors. *Eur Respir J* **36**: 696-698, 2010.
205. Sakakibara T, Inoue A, Sugawara S, Maemondo M, Ishida T, Usui K, Abe T, Kanbe M, Watanabe H, Saijo Y, Nukiwa T: Randomized phase II trial of weekly paclitaxel combined with carboplatin versus standard paclitaxel combined with carboplatin for elderly patients with advanced non-small-cell lung cancer. *Ann Oncol* **21**: 795-799, 2010.

206. Inoue A, Ishimoto O, Fukumoto S, Usui K, Suzuki T, Yokouchi H, Maemondo M, Kanbe M, Ogura S, Harada T, Oizumi S, Harada M, Sugawara S, Fukuhara T, Nukiwa T: A phase II study of amrubicin combined with carboplatin for elderly patients with small-cell lung cancer: North Japan Lung Cancer Study Group Trial 0405. *Ann Oncol* **21**: 800-803, 2010.
207. Taniguchi H, Ebina M, Kondoh Y, Ogura T, Azuma A, Suga M, Taguchi Y, Takahashi H, Nakata K, Sato A, Takeuchi M, Raghu G, Kudoh S, Nukiwa T; Pirfenidone Clinical Study Group in Japan: Pirfenidone in idiopathic pulmonary fibrosis. *Eur Respir J* **35**: 821-829, 2010.
208. Damayanti T, Kikuchi T, Zaini J, Daito H, Kanehira M, Kohu K, Ishii N, Satake M, Sugamura K, Nukiwa T: Serial OX40 engagement on CD4+ T cells and natural killer T cells causes allergic airway inflammation. *Am J Respir Crit Care Med* **181**: 688-698, 2010.
209. Suzuki K, Nishimaki K, Okuyama K, Katoh T, Yasujima M, Chihara J, Suwabe A, Shibata Y, Takahashi C, Takeda H, Ida S, Kaku M, Watanabe A, Nukiwa T, Niitsuma K, Kanemitsu K, Takayanagi M, Ohno I: Trends in antimicrobial susceptibility of Streptococcus pneumonia in the Tohoku district of Japan: a longitudinal analysis from 1998 to 2007. *Tohoku J Exp Med* **220**: 47-57, 2010.
210. Tazawa R, Trapnell BC, Inoue Y, Arai T, Takada T, Nasuhara Y, Hizawa N, Kansahara Y, Tatsumi K, Hojo M, Ishii H, Yokoba M, Tanaka N, Yamaguchi E, Eda R, Tsuchihashi Y, Morimoto K, Akira M, Terada M, Otsuka J, Ebina M, Kaneko C, Nukiwa T, Krischer JP, Akazawa K, Nakata K: Inhaled granulocyte/ macrophage-colony stimulating factor as therapy for pulmonary alveolar proteinosis. *Am J Respir Crit Care Med* **181**: 1345-1354, 2010.
211. Takahashi T, Yamamoto N, Nukiwa T, Mori K, Tsuboi M, Horai T, Masuda N, Eguchi K, Mitsudomi T, Yokota S, Segawa Y, Ichinose Y, fukuoka M, Saijo N: Phase II study of erlotinib in Japanese patients with advanced non-small cell lung cancer. *Anticancer Res* **30**: 557-563, 2010.
212. Satoh H, Moriguchi T, Taguchi K, Takai J, Maher JM, Suzuki T, Winnard PT Jr, Raman V, Ebina M, Nukiwa T, Yamamoto M: Nrf2-deficiency creates a responsive microenvironment for metastasis to the lung. *Carcinogenesis* **31**: 1833-1843, 2010.
213. Koyama S, Murakami K, Sakakibara T, Muramatsu S, Watanabe M, Miki M, Ebina M, Nukiwa T: Massive pleural effusion and bronchopleural fistula in Wegener's granulomatosis. *Sarcoidosis Vasc Diffuse Lung Dis* **27**: 76-79, 2010.



214. Ebina M, Shibata N, Ohta H, Hisata S, Tamada T, Ono M, Okaya K, Kondo T, Nukiwa T: The disappearance of subpleural and interlobular lymphatics in idiopathic pulmonary fibrosis. *Lymphat Res Biol* **8**: 199-207, 2010.
215. Daito H, Kikuchi T, Sakakibara T, Gomi K, Damayanti T, Zaini J, Tode N, Kanerhira M, Koyama S, Fujimura S, Ebina M, Ishii KJ, Akira S, Takai T, Watanabe A, Nukiwa T: Mycobacterial hypersensitivity pneumonitis requires TLR9-MyD88 in lung CD11b+CD11c+ cells. *Eur Respir J* **38**: 688-701, 2011.
216. Asahina H, Oizumi S, Inoue A, Kinoshita I, Ishida T, Fujita Y, Sukoh N, Harada M, Maemondo M, Saijo Y, Dosaka-Akita H, Isobe H, Nukiwa T, Nishimura M: Phase II Study of Gefitinib Readministration in Patients with Advanced Non-Small Cell Lung Cancer and Previous Response to Gefitinib. *Oncology* **79**: 423-429, 2011.
217. Murakami K, Tamada T, Abe K, Nara M, Hisata S, Mitsuishi Y, Muramatsu S, Gomi K, Ebina M, Nukiwa T: Rapid improvement of osseous sarcoidosis after the treatment of pulmonary aspergillosis by itraconazole. *Sarcoidosis Vasc Diffuse Lung Dis* **28**: 75-78, 2011.
218. Katsha AM, Ohkouchi S, Xin H, Kanehira M, Sun R, Nukiwa T, Saijo Y: Paracrine factors of multipotent stromal cells ameliorate lung injury in an elastase-induced emphysema model. *Mol Ther* **19**: 196-203, 2011.
219. Tamada T, Nara M, Murakami K, Muramatsu S, Ebina M, Nukiwa T: Acute eosinophilic pneumonia associated with the inhalation of phosgene gas under the presence of cigarette smoking. *Respir Med CME* **4**: 96-98, 2011.
220. Satoh H, Inoue A, Kobayashi K, Maemondo M, Oizumi S, Isobe H, Gemma A, Saijo Y, Yoshizaka H, Hagiwara K, Nukiwa T: Low-Dose Gefitinib Treatment for Patients with Advanced Non-small Cell Lung Cancer Harboring Sensitive Epidermal Growth Factor Receptor Mutations. *J Thorac Oncol* **6**: 1413-1417, 2011.
221. Taniguchi H, Kondoh Y, Ebina M, Azuma A, Ogura T, Taguchi Y, Suga M, Takahashi H, Nakata K, Sato A, Sugiyama Y, Kudoh S, Nukiwa T: The clinical significance or 5% change in vital capacity in patients with idiopathic pulmonary fibrosis: extended analysis of the pirfenicone trial. *Respir Res* **12**: 93, 2011.
222. Murakami K, Tamada T, Nara M, Muramatsu S, Kikuchi T, Kanehira M, Maruyama Y, Ebina M, Nukiwa T: Toll-like Receptor 4 Potentiates Ca<sup>2+</sup>-dependent Electrolyte secretion from Swine Tracheal Glands. *Am J Respir Cell Mol Biol*, **45**:1101-1110, 2011.

223. Hisata S, Kimura Y, Shibata N, Ono S, Kobayashi T, Chiba S, Ohta H, Nukiwa T, Ebina M: A Normal range of KL-6/MUC1 Independent of Elevated SP-D Indicates a Better Prognosis in the Patients with Honeycombing on High- Resolution Computed Tomography. *Pulm Med*, **2011**: 806014, 2011.
224. Ohta H, Chiba S, Ebina M, Furuse M, Nukiwa T: Altered expression of tight junction molecules in alveolar septa in lung injury and fibrosis. *Am J Physiol Lung Cell mol Physiol* **302**: L193-205, 2011.
225. Azuma A, Taguchi Y, Ogura T, Ebina M, Taniguchi H, Kondoh Y, Suga M, Takahashi H, Nakata K, Sato A, Kudoh S, Nukiwa T; Pirfenidone Clinical Study Group in Japan: Exploratory analysis of a phase III trial of pirfenidone identifies a subpopulation of patients with idiopathic pulmonary fibrosis as benefiting from treatment. *Respir Res* **12**: 143, 2011.
226. Ohta H, Miyauchi E, Ebina M, Nukiwa T: A case of cutaneous infection caused by mycobacterium szulgai with progression to acute respiratory distress syndrome. *Clin Med Insights Case Rep* **4**: 29-33, 2011.
227. Ohkouchi S, Block GJ, Katsha AM, Kanehira M, Ebina M, Kikuchi T, Saijo Y, Nukiwa T, Prockop DJ: Mesenchymal Stromal Cells Protect Cancer Cells From ROS-induced Apoptosis and Enhance the Warburg Effect Secreting STC1. *Mol Ther*, **20**: 417-423, 2012.
228. Satoh H, Saito R, Hisata S, Shiihara J, Taniuchi S, Nakamura Y, Nukiwa T, Ebina M, Sasano H: An ectopic ACTH-producing small cell lung carcinoma associated with enhanced corticosteroid biosynthesis in the peritumoral areas of adrenal metastasis. *Lung Cancer*, 2012. (in press)
229. Kanehira M, Kikuchi T, Ohkouchi S, Shibahara T, Tode N, Santoso A, Daito H, Ohta H, Tamada T, Nukiwa T: Targeting lysophosphatidic acid signaling retards culture-associated senescence of human marrow stromal cells. *PLoS ONE*, **7**: e32185, 2012.

## 総説 (英文)

1. Brantly M, Nukiwa T, Crystal RG: Molecular basis of alpha-1-antitrypsin deficiency. *Am J Med* **24**: 13-31, 1988.

2. Ebina M, Nukiwa T: Towards an effective gene therapy for idiopathic pulmonary fibrosis. *Current Molecular Medicine*, 2000.
3. Nukiwa T: Pathohistologic background and treatment of idiopathic pulmonary fibrosis-A need to understand as a respiratory disease in the elderly. *Japan Medical Association Journal* **46**: 7-11, 2003.
4. Nukiwa T: Japanese chest physicians face hopes and enigmas of gefitinib, a molecular targeting for lung cancer. *Respirology* **9**: 147, 2004.
5. Inoue A, Nukiwa T: Gene mutations in lung cancer: promising predictive factors for the success of molecular therapy. *PLoS Med* **2**: e13, 2005.
6. Nukiwa T, Suzuki T, Fukuhara T, Kikuchi T: Secretory leukocyte peptidase inhibitor and lung cancer. *Cancer Sci* **99**: 849-855, 2008.

#### 原著論文（和文）

1. 荒木高明, 飯島福生, 松岡緑郎, 玉城繁, 岡崎宣夫, 檀原高, 貫和敏博, 中村泰三, 名取博, 荒井達夫, 吉良枝郎: 治療的気管支洗滌. 日本気管支研究会 **1**: 9-16, 1979.
2. 山田義直, 貫和敏博, 佐藤長夫, 宮川静一郎, 小松邦彦: バリウム腹膜炎に伴って DIC 及び心不全を起こした若年性直腸癌の 1 例. 日立医学会誌 **34**: 1-9, 1979.
3. 荒井達夫, 松岡緑郎, 貫和敏博, 飯島福生, 吉良枝郎: 一側性オレイン酸肺水腫モデル犬の肺表面活性. 日本界面医学界雑誌 **11**: 100-103, 1980.
4. 檀原高, 松岡緑郎, 貫和敏博, 名取博, 荒井達夫, 吉良枝郎: 父娘 3 人に見られ, 寒冷凝集素価の異常高値を伴ったびまん性汎細気管支炎. 日本胸部疾患学会雑誌 **20**: 597-603, 1982.
5. 本間栄, 貫和敏博, 飯島福生, 中村泰三, 荒井達郎, 吉良枝郎, 清川忠男, 長谷川嗣夫, 金森弘明, 小池盛雄: 気管腺様嚢胞癌 (adenoid cystic carcinoma) の 1 手術例 - 気管支狭窄と臨床所見との対 -. 日本胸部臨床 **41**: 826-831, 1982.
6. 貫和敏博: 肺血管障害性薬剤実験の病態と生化学的指標. 日本胸部疾患学会雑誌 **22**: 1072-1076, 1984.

7. 岡田美津子, 松岡緑郎, 小林英夫, 貫和敏博, 名取博, 荒井達夫, 吉良枝郎, 二の村信正: 複数個の空洞形成を認めたサルコイドーシスの一例. 日本胸部疾患学会雑誌 22: 910-914, 1984.
8. 青木茂行, 松岡緑郎, 高橋英気, 貫和敏博, 荒井達夫, 吉良枝郎, 小林誠一: サルコイドーシスの経過中に発症したクリプトコッカス髄膜炎の1例. 呼吸 4: 1283-1288, 1985.
9. 檀原高, 植木純, 饗庭三代治, 玉城繁, 齊藤博之, 松田州弘, 貫和敏博, 吉良枝郎: サルコイドーシスにおけるリンパ節腫大の実態 - 特に心血管系への影響について -. 臨床放射線 34: 137-146, 1989.
10. 斎藤博之, 檀原高, 見元達朗, 山口芳, 岡正彦, 饗庭三代治, 貫和敏博, 吉良枝郎: くも膜下出血に続発して反復憎悪をみた神経原生肺水腫の1症例. 日本胸部疾患学会雑誌 27, 818-824, 1989.
11. 土井義之, 植木純, 檀原高, 貫和敏博, 大瀬良雄, 泉浩, 益田貞彦, 植草利公, 吉良枝郎: 経年的な腫大と気管偏位を確認し, 腫瘍内囊胞液中の甲状腺ホルモンを測定した縦隔内甲状腺腫の2例. 日本胸部疾患学会雑誌 28, 1239-1244, 1990.
12. 見元達郎, 内田和仁, 桜庭晶子, 土井義之, 貫和敏博, 植草利公, 桑原紀之, 稲富恵子, 吉良枝郎. びまん性汎細気管支炎と診断して6年後に開胸肺生検を行ないえた1症例. 日本胸部疾患学会雑誌 29, 893-899, 1991.
13. 岩瀬彰彦, 檀原高, 山田充宏, 前野秀夫, 金光俊尚, 稲富恵子, 貫和敏博, 吉良枝郎: 区域毎の気管支胸下肺腺上の反復で3年間再燃がみられていない肺胞蛋白症の1例. 日本胸部疾患学会雑誌 30: 920-925, 1992.
14. 斎藤博之, 檀原高, 花里紀尚, 貫和敏博, 平野暁, 片山仁, 吉良枝郎: 肺血栓塞栓症のMRI - 経過観察例を中心に -. 臨床放射線 37: 29-36, 1992.
15. 貫和敏博, 瀬山邦明, 高橋英気, 吉良枝郎: 日本の alpha 1-antitrypsin 欠損症における遺伝子変異とその背景. 日本胸部疾患学会雑誌 30: 1420-1426, 1992.
16. 高橋和久, 檀原高, 益田貞彦, 植草利公, 貫和敏博, 吉良枝郎: S3, 4, 5と残部で2葉を形成する左肺分葉異常を術前に診断しえた肺硬化性血管腫の一例. 肺癌 32: 565-570, 1992.

17. 見元達朗, 岩瀬彰彦, 貫和敏博 他: Dumbbell 型縦隔神経原性腫瘍の3手術例 臨床症状を伴わない症例での脊椎管内進展とその評価. 日本胸部疾患学会雑誌 30: 668-672, 1992.
18. 森益子, 千場良司, 手塚文明, 齋藤泰紀, 藤村重文, 大久田和弘, 玉橋信彰, 秋野豊明, 船江良彦, 貫和敏博, 高橋徹: 肺線癌と異型腺腫様過形成 - 免疫組織化学的分化度と細胞異経度の関連づけの試み -. 癌の臨床 39: 1521-1527, 1993.
19. 渡辺彰, 本田芳宏, 徳江豊, 庄司聡, 高橋洋, 菊地宏明, 本宮雅吉, 貫和敏博, 吉田司, 武内健一, 平野春人, 荒井秀夫, 松田堯: SY5555の in vitro 抗菌力と呼吸器感染症に対する臨床的検討. Chemotherapy 42: 292-297, 1994.
20. 渡辺彰, 本田芳宏, 徳江豊, 菊地宏明, 高橋洋, 本宮雅吉, 貫和敏博, 今野淳, 庄司聡, 佐山恒夫, 安西吉行, 滝沢茂夫, 奥坂拓志, 柳瀬賢次, 中村美加栄: Tazobactam/Piperacillin の in vivo 抗菌力, 肺組織内移行および呼吸器感染症に対する臨床的検討. Chemotherapy 42 (S-2): 332-345, 1994.
21. 渡辺彰, 本宮雅吉, 貫和敏博, 中井祐之, 本田芳宏, 今野淳, 武内健一, 中川潤, 荒井秀夫, 下田茂, 佐々木晴邦, 坂本正寛, 石川哲子, 福田洋一, 中村俊夫, 滝沢茂夫, 柳瀬賢次, 中村美加栄, 大泉耕太郎, 市川洋一郎, 徳永尚登, 島留美, 小松滋: 慢性気道感染症反復増悪例に対する ciprofloxacin 単独, erythromycin 単独および併用療法の比較試験. Chemotherapy 42: 1194-1201, 1994.
22. 渡辺彰, 徳江豊, 高橋洋, 庄司聡, 菊地宏明, 本宮雅吉, 貫和敏博, 本田芳宏, 中井祐之, 中村美加栄, 柳瀬賢次, 滝沢茂夫: FK037の in vitro 抗菌力と呼吸器感染症に対する臨床的検討. Chemotherapy 42 (S-3): 145-152, 1994.
23. 渡辺彰, 庄司聡, 貫和敏博, 西野武志, 角田行, 庄司真, 星安治郎, 佐藤茂, 長島道夫, 青沼清一, 松田恵三郎, 本宮雅吉: 一次医療における呼吸器感染症の研究 (V), 開業医受診の呼吸器感染症例から分離される細菌, マイコプラズマ, ウイルスの分布とマクロライド剤, ニューキノロン剤の臨床効果. 感染症学雑誌 68: 1359-1366, 1994.
24. 渡辺彰, 貫和敏博, 松田堯, 荒井秀夫, 新妻一直: 細菌性肺炎に対する SY5555と cefotiam hexetil の薬効比較試験成績. Chemotherapy 42: 619-633, 1994.

25. 渡辺彰, 本宮雅吉, 貫和敏博: 慢性気道感染症反復憎悪例に対する ciprofloxacin (CPEX) 単独, erythromycin (EM) 単独および併用療法の比較試験成績. 日本化学療法学会雑誌 42: 1194-1201, 1994.
26. 貫和敏博, 渡辺彰, 中井祐之, 本田芳宏: 細菌性肺炎に対する cefoselis と ceftazidime の薬効比較試験. 化学療法学会雑誌 43: 421-435, 1995.
27. 貫和敏博, 渡辺彰, 中井祐之, 本田芳宏: 慢性気道感染症に対する cefoselis と ceftazidime の薬効比較試験. 化学療法学会雑誌 43: 436-450, 1995.
28. 貫和敏博, 渡辺彰, 中井祐之, 本田芳宏: 肺炎に対する azithromycin の薬効比較試験成績 - Clarithromycin との二重盲検試験. 化学療法学会雑誌 43: 757-774, 1995.
29. 高橋洋, 庄司聡, 菊地宏明, 渡辺彰, 本田芳宏, 徳江豊, 貫和敏博: 臨床分離黄色ブドウ球菌株のニューキノロン薬を含む各種抗菌剤感受性の年次推移. 日本化学療法学会雑誌 43: 547-550, 1995.
30. 高橋洋, 庄司聡, 菊地宏明, 渡辺彰, 本田芳宏, 徳江豊, 貫和敏博: 臨床分離黄色ブドウ球菌にみられる GyrA 蛋白 Serine-84変異の検討. 日本化学療法学会雑誌 43: 515-519, 1995.
31. 渡辺彰, 菊地宏明, 庄司聡, 高橋洋, 徳江豊, 本宮雅吉, 貫和敏博, 本田芳宏, 中井祐之, 新妻一直, 滝沢茂夫, 柳瀬賢次, 中村美加栄: Grepafloxacin の抗酸菌を含む各種細菌に対する抗菌力と喀痰移行及び呼吸器感染症に対する臨床的検討. 日本化学療法学会雑誌 43: 206-216, 1995.
32. 渡辺彰, 庄司聡, 菊地宏明, 高橋洋, 本宮雅吉, 貫和敏博, 佐藤和男, 武内健一, 長井弘策, 中村俊夫, 滝沢茂夫: Ritipenem acoxil の in vitro 抗菌力および呼吸器感染症に対する臨床的検討. 日本化学療法学会雑誌 43: 121-133, 1995.
33. 渡辺彰, 庄司聡, 高橋洋, 菊地宏明, 貫和敏博, 佐藤和男, 武内健一, 平野春人, 中村俊夫: Pazufloxacin の抗酸菌を含む各種細菌に対する抗菌力と呼吸器感染症に対する臨床的検討. 日本化学療法学会雑誌 43: 208-219, 1995.
34. 渡辺彰, 庄司聡, 高橋洋, 菊地宏明, 貫和敏博, 本田芳宏, 中井祐之, 滝沢茂夫: Azithromycin の in vitro 抗菌力および呼吸器感染症に対する臨床的検討. 日本化学療法学会雑誌 43: 204-211, 1995.

35. 渡辺彰, 庄司聡, 高橋洋, 菊地宏明, 徳江豊, 貫和敏博, 本宮雅吉, 本間光信, 今野淳, 佐山恒夫, 柏木誠, 麻生昇, 新妻一直, 滝沢茂夫, 中村美加栄: Balofloxacin の抗酸菌を含む各種細菌に対する抗菌力と喀痰内移行及び呼吸器感染症に対する臨床的検討. 日本化学療法学会雑誌 43 : 190-201, 1995.
36. 渡辺彰, 徳江豊, 高橋洋, 庄司聡, 菊地宏明, 本宮雅吉, 貫和敏博, 本田芳宏, 中井祐之, 佐藤和男, 長井弘策, 中村俊夫: Cefluprenam の *in vitro* の抗菌力及び呼吸器感染症に対する床的検討. 日本化学療法学会雑誌 43 : 27-33, 1995.
37. 菊地利明, 阿部達也, 佐藤研, 貫和敏博: 気道上皮細胞由来の培養細胞 A549における secretory leukoprotease inhibitor 遺伝子プロモーターの構造と機能. 加齢医学研究所雑誌 48 : 41-47, 1996.
38. 佐藤研, 三浦幸雄, 貫和敏博, 本宮雅吉: 大学における肺結核の集団発生. 結核 71 : 671-675, 1996.
39. 田中正史, 佐藤研, 田中克宏, 安部まゆみ, 伊勢村護, 堀勝義, 佐藤靖史, 貫和敏博: ラミニン結合蛋白37LBP/p40の発現抑制は腫瘍血管新生に影響する. 日本結合組織学会雑誌 28 : 237-245, 1996.
40. 渡辺彰, 高橋洋, 菊地宏明, 徳江豊, 貫和敏博, 本宮雅吉, 中川潤, 人見秀昭, 佐藤和男, 今野淳, 庄司聡: NM441の抗酸菌を含む各種細菌に対する抗菌力と呼吸器感染症に対する臨床的検討. 日本化学療法学会雑誌 44 : 249-255, 1996.
41. 渡辺彰, 庄司聡, 高橋洋, 菊地暢, 藤村茂, 貫和敏博: 抗酸菌を含む呼吸器由来の各種病原に対する DU-6859a の *in vitro* 抗菌力. 日本化学療法学会雑誌 44 : 858-861, 1996.
42. 田澤立之, 西條康夫, 阿部達也, 佐藤研, 渡辺彰, 八巻重雄, 貫和敏博: 肺血栓塞栓症を呈した抗リン脂質抗体症候群・強皮症合併の一例. 日本胸部疾患学会雑誌 35 : 1413-1417, 1997.
43. 内山美寧, 佐藤研, 西條康夫, 城倉英史, 朴永俊, 藤村重文, 阿部由直, 中井祐之, 大久田和弘, 貫和敏博: 原発性肺癌患者転移性脳腫瘍に対する  $\gamma$ -knife 治療の選択. 日本呼吸器学会雑誌 36 : 503-508, 1998.
44. 高橋洋, 菊地暢, 徳江豊, 小林隆夫, 庄司聡, 本田芳宏, 千葉潤一, 藤村茂, 貫和敏博, 渡辺彰: *Eikenella corrodens* による呼吸器感染症3症例の検討. 日本化学療法学会雑誌 46 : 261-265, 1998.

45. 渡辺彰, 貫和敏博, 俵屋幸蔵, 三浦進一, 進藤百合子, 松田堯, 子犬丸貞裕, 麻生昇, 佐山恒夫, 泉山朋政, 柴田陽光, 高田一男, 有坂泰, 新妻一直, 齋藤美和子, 三田正行: 慢性気道感染症を中心とする呼吸器感染症に対する Fleroxacin の臨床効果およびブレイクポイントに関する検討. 化学療法の領域 14 : 1613-1623, 1998.
46. 庄司聡, 渡辺彰, 菊地暢, 高橋洋, 菊地宏明, 本田芳宏, 貫和敏博: Roxithromycin (RXM) のウイルス, 培養細胞に対する影響. Jpn J Antibiotics 50 suppl : 140-141, 1998.
47. 藤村茂, 貫和敏博, 久道周彦, 渡辺彰: 本邦における Arbekacin(ABK) 耐性 Staphylococcus aureus の ABK 修飾酵素の分布状況. 化学療法の領域 14 : 864-868, 1998.
48. 小林隆夫, 海老名雅仁, 大島美和子, 清水川稔, 内山美寧, 西條康夫, 渡辺彰, 貫和敏博: 肺アスペルギルス症に併発した肺胞蛋白症の1例. 日本内科学会雑誌 88 : 135-137, 1999.
49. 新藤哲, 佐藤研, 酒井俊彦, 八重柏政宏, 阿部達也, 貫和敏博: 炎症肺組織好酸球における Hepatocyte Growth Factor (HGF) の発現. 日本呼吸器学会雑誌 37 : 25-30, 1999.
50. 渡辺彰, 徳江豊, 高橋洋, 菊地暢, 小林隆夫, 五味和紀, 藤村茂, 安井聡子, 貫和敏博, 庄司聡, 本田芳宏: 1996年~1998年に分離された呼吸器由来の各種病原細菌に対する biapenem (BIPM) の in vitro 抗菌力. Jpn J Antibiotics 52 : 690-694, 1999.
51. 渡辺彰, 徳江豊, 高橋洋, 佐藤研, 貫和敏博: 肺癌患者に合併する肺結核症の検討. 結核 74 : 157-162, 1999.
52. 島田馨, 岡慎一, 貫和敏博 他: 呼吸器感染症に対する pazufloxacin 注射薬の臨床第 II 相試験. 日本化学療法学会雑誌 47 : 176-195, 1999.
53. 小林淳, 北村諭, 川上義和, 貫和敏博, 工藤翔二, 小倉剛, 福岡正博, 山木戸道郎, 原信之, 菅原正, 石原陽子, 真野健次, 大橋靖雄, 中島光好: 放射線療法に起因する発見球減少症に対する Z-100の臨床的有用性の検討 肺癌患者における感染防御作用を指標として. 炎症 19 : 268-280, 1999.
54. 田中昌史, 佐藤研, 佐藤讓治, 田澤立之, 西條康夫, 貫和敏博: 当科における肺癌告知の実態. 日本胸部臨床 58 : 661-667, 1999.



55. 藤村茂, 徳江豊, 高橋洋, 貫和敏博, 渡辺彰: Arbekacin 耐性 MRSA からの aminoglycoside 修飾酵素による arbekacin の不活化. 日本化学療法学会雑誌 47: 1-8, 1999.
56. 白井一裕, 西條康夫, 貫和敏博, 中邨裕之, 菅原俊二, 中井祐之: 非切除進行期非小細胞肺癌に合併した脳転移に対するガンマナイフ治療. 日本癌治療学会誌 35: 520, 2000.
57. 島田馨, 平賀洋明, 大道光秀, 貫和敏博, 渡辺彰, 他62名: 細菌性肺炎に対する pazufloxacin 注射薬の用量検討試験. 日本化学療法学会雑誌 48: 417-432, 2000.
58. 島田馨, 阿部庄作, 藤嶋卓哉, 貫和敏博, 渡辺彰, 他89名: 慢性気道感染症に対する pazufloxacin 注射薬の臨床評価 - Ceftazidime を対照薬とした臨床第Ⅲ相比較試験. 日本化学療法学会雑誌 48: 464-494, 2000.
59. 掘越理紀, 手島建夫, 柳町智博, 貫和敏博: 99mTc テクネガスを用いた肺換気スキャンの肺癌症例への応用. 臨床放射線 45: 187-198, 2000.
60. 掘越理紀, 手島建夫, 柳町智宏, 尾形優子, 貫和敏博: 肺血流及び換気スキャンの肺癌治療評価への応用. 核医学 37: 653-660, 2000.
61. 掘越理紀, 手島建夫, 柳町智博, Muhammad Babar Imran, 貫和敏博: 肺血流スキャンを用いた肺癌の非観血的治療の評価. 核医学 37: 15-22, 2000.
62. 松本文夫, 井上眞夫, 桜井磐, 貫和敏博, 渡辺彰, 他49名: 慢性気管支炎の急性増悪に対する biapenem の治療効果と臨床用量の検討. 日本化学療法学会雑誌 48: 34-44, 2000.
63. 松本文夫, 井上眞夫, 桜井磐, 貫和敏博, 渡辺彰, 他195名: 下部呼吸器感染症に対する biapenem と imipenem/cilastatin の薬効比較試験. 日本化学療法学会雑誌 48: 45-67, 2000.
64. 島田馨, 阿部庄作, 貫和敏博, 他: 慢性気道感染症に対する pazufloxacin 注射薬の臨床評価 Ceftazidime を対照薬とした臨床第Ⅲ相比較試験. 日本化学療法学会雑誌 48: 464-494, 2000.
65. 菊地暢, 五味和紀, 高橋洋, 渡辺彰, 貫和敏博, 本田芳宏: Bacteria 感染における単球由来炎症性サイトカイン産生に対するクラリスロマイシンの作用 - Mycobacterium avium 感染症を中心に. Jpn J Antibiotics 54: 16-18, 2001.

66. 田澤立之, 前門戸任, 臼井一裕, 鳴海晃, 西條康夫, 萩原弘一, 渡辺彰, 貫和敏博: Vinorelbine が奏効した高齢者非小細胞肺癌の 1 例. 癌と化学療法 28: 697-700, 2001.
67. 小林隆夫, 三木誠, 菊地利明, 高橋洋, 萩原弘一, 渡辺彰, 貫和敏博, 内山美寧, 館田一博, 山口恵三: 尿中抗原検出により確定診断にいたったレジオネラ肺炎の 2 例. 日本内科学会雑誌 91: 221-223, 2002.
68. 田澤立之, 前門戸任, 臼井一裕, 鳴海晃, 西條康夫, 萩原弘一, 渡辺彰, 貫和敏博: Vinorelbine が奏効した高齢者非小細胞肺癌の 1 例. 癌と化学療法 28: 697-700, 2002.
69. 渡辺彰, 安井聡子, 村山泰子, 徳江豊, 高橋洋, 菊地暢, 五味和紀, 小林隆夫, 藤村茂, 貫和敏博, 齋藤美智子, 佐藤延子, 千葉潤一, 及川久雄, 佐藤寿夫: 1999年12月~2000年2月に宮城県で臨床材料から分離された各種病原細菌の薬剤感受性と  $\beta$ -lactamase 産生能. Jpn J Antibiotics 55: 42-53, 2002.
70. 石本修, 佐藤伸之, 今井督, 貫和敏博, 蝦名昭男: 気管支動脈塞栓術が有効であった原発性気管支蔓状血管腫の 2 例. 日本呼吸器学会雑誌 41: 808-812, 2003.
71. 井上彰, 菊地利明, 田澤立之, 徳江豊, 海老名雅仁, 貫和敏博: 脳・脊髄の広範囲に多発性病変を示した神経サルコイドーシスの一例. 日本サルコイドーシス/肉芽腫性疾患 23: S43, 2003.
72. 大河内眞也, 田澤立之, 木村雄一郎, 三浦良, 大島美和子, 海老名雅仁, 萩原弘一, 渡辺彰, 貫和敏博: 特発性甲状腺機能低下症に合併した再発性多発性軟骨炎の一例. 日本呼吸器学会雑誌 41: 315-319, 2003.
73. 大河内眞也, 五味和紀, 徳江豊, 菊地利明, 藤村茂, 貫和敏博, 渡辺彰: Vancomycin 治療の MRSA 腸炎に続発し, Teicoplanin と Arbekacin が無効で Linezolid により救命し得た MRSA 敗血症の一例. 日本化学療法学会雑誌 52: 787-792, 2004.
74. 渡辺洋, 前門戸任, 大河内眞也, 鈴木拓児, 菊地利明, 田澤立之, 海老名雅仁, 西條康夫, 星川康, 貫和敏博: CT 検診で発見され, BAL により経過を観察した Pulmonary Langerhans Cell Histiocytosis の 1 例. 日本呼吸器学会雑誌 44: 869-873, 2006.
75. 森本泰介, 吾妻安良太, 阿部信二, 臼杵二郎, 工藤翔二, 杉崎勝教, 折津愈, 貫和敏博: 2004年サルコイドーシス疫学調査. 日本サルコイドーシス/肉芽腫性疾患 27: 103-108, 2007.

76. 榊原智博, 菊地利明, 井上彰, 五味和紀, 渡辺彰, 貫和敏博: VNTR 型別による *M.avium* 菌の系統樹解析で、同一系統株と考えられた *M.avium* による過敏性肺臓炎の 2 例. 結核 83: 482, 2008.
77. 森本泰介, 吾妻安良太, 阿部信二, 臼杵二郎, 工藤翔二, 杉崎勝教, 折津愈, 貫和敏博: 2004年サルコイドーシス臨床調査個人票における組織診断群と臨床診断群ならびに疑診群の比較. 日本サルコイドーシス/肉芽腫性疾患 28: 113-115, 2008.
78. 鈴木一正, 大野勲, 西巻雄司, 賀来満夫, 柴田陽光, 諏訪部章, 高橋長一郎, 武田博明, 新妻数直, 保嶋実, 渡辺彰, 貫和敏博: 東北地区における過去10年間の肺炎球菌薬剤感受性の推移. 感染症学雑誌 83: 181, 2009.
79. 菊地利明, 渡辺彰, 五味和紀, 藤村茂, 西森敬, 貫和敏博: 多型縦列反復配列 (VNTR) の菌遺伝子型による比結核性抗酸菌症の病勢予測. 結核 84: 407, 2009.
80. 佐藤輝幸, 井上彰, 福原達朗, 榊原智博, 太田洋充, 海老名雅仁, 西條康夫, 貫和敏博: EGFR 遺伝子活性化型変異陽性の非小細胞肺癌患者においてゲフィチニブ治療中に認められた耐性形式の検討. 肺癌 49: 257-261, 2009.
81. 木村弘, 梅博久, 山谷陸雄, 三島理晃, 貫和敏博, 工藤翔二: わが国における呼吸器診療の現状と問題点. 日本医師会雑誌 138: 984-688, 2009.
82. 太田洋充, 佐藤栄三郎, 小野学, 五味和紀, 菊地利明, 海老名雅仁, 貫和敏博, 手塚文明: 今月の症例 下腿の腫脹, 皮疹と多発リンパ節腫大で発症し呼吸不全に進展した *M.szulgai* の 1 症例. 日本内科学会雑誌 98: 1984-1986, 2009.
83. 五味和紀, 玉田勉, 光石陽一郎, 奈良正之, 海老名雅仁, 貫和敏博: BTNL2遺伝子 SNP は本邦のサルコイドーシス症例の有力な宿主因子ではない. 日本サルコイドーシス・肉芽腫性疾患学会雑誌 29: 34, 2010.
84. 光石陽一郎, 玉田勉, 奈良正之, 海老名雅仁, 貫和敏博: 慢性咳嗽を呈するサルコイドーシス患者の臨床的特徴. 日本サルコイドーシス・肉芽腫性疾患学会雑誌 29: 35, 2009.
85. 高根秀成, 藤村茂, 中野禎久, 布施克浩, 五味和紀, 菊地利明, 貫和敏博, 渡辺彰: 市中病院 NICU における *Acinetobacter baumannii* の分離状況. 日本環境感染学会雑誌 25: 242-246, 2010.

86. 白井公紹, 椎原淳, 佐藤大希, 久田修, 海老名雅仁, 貫和敏博: 経過中に著明な低カリウム血漿を認めた肺癌の1例. 気管支学 32: 541, 2010.
87. 太田洋充, 千葉茂樹, 大河内眞也, 宮内栄一, 海老名雅仁, 貫和敏博, 秋山聖子, 渡辺みか: 神経膠芽腫に続発した胸腔原発血管腫の1例. 気管支学 32: 544, 2010.
88. 鳴海創大, 佐々木陽彦, 井上彰, 菊地利明, 海老名雅仁, 貫和敏博: 関節リウマチ治療中に結核性腹膜炎と性器結核を発症した1例. 結核 85: 900, 2010.
89. 山谷睦雄, 木村弘, 梅博久, 別役智子, 貫和敏博, 永井厚志: わが国における呼吸器科勤務医の勤務環境の現状. 日本医師会雑誌 139: 2383-2387, 2011.
90. 木村弘, 駒瀬裕子, 國近尚美, 別役智子, 山谷睦雄, 梅博久, 橋本修, 貫和敏博, 永井厚志: わが国における女性呼吸器科勤務医の勤務環境と課題. 日本医師会雑誌 139: 2388-2394, 2011.

#### 総説 (和文)

1. 吉良枝郎, 荒井達夫, 名取博, 中村泰三, 荒木高明, 飯島福生, 松岡緑郎, 岡崎宣夫, 玉城繁, 貫和敏博, 檀原高: 肺がん治療の現況 - 内科医の立場から -. 治療61: 69-76, 1979.
2. 荒木高明, 飯島福生, 松岡緑郎, 玉城繁, 岡崎宣夫, 檀原高, 貫和敏博, 中村泰三, 名取博, 荒井達夫, 吉良枝郎: 治療的気管支洗浄, 気管支学 1: 9-16, 1979.
3. 吉良枝郎, 貫和敏博, 石原照夫: 自験呼吸不全症例の治療の実態 - 内科医の立場から -. 臨床麻酔 4: 999-1008, 1980.
4. 吉良枝郎, 荒木高明, 石原照夫, 倉富雄四郎, 原洋, 貫和敏博, 吉新通康, 関口忠司: 慢性呼吸不全 - 経年的にみた動脈血液ガス所見の推移. クリニカ 7: 25-30, 1980.
5. 荒井達夫, 貫和敏博, 吉良枝郎: 呼吸不全の診断基準, 病型分類. 内科 45: 938-941, 1980.
6. 貫和敏博, 松岡緑郎, 荒井達夫, 吉良枝郎: 成人呼吸窮迫症候群. 医学のあゆみ 117: 756-765, 1981.

7. 荒井達夫, 貫和敏博, 松岡緑郎, 高木寛: 成人呼吸窮迫症候群 (ARDS). 治療 63 : 97-99, 1981.
8. 倉富雄四郎, 貫和敏博, 松岡緑郎, 吉良枝郎: 肺水腫. 臨床検査 26 : 437-443, 1982.
9. 貫和敏博, 倉富雄四郎, 松岡緑郎, 荒井達夫, 吉良枝郎: 肺水腫 (非心原生肺水腫) の治療. 臨牀と研究 57 : 191-196, 1982.
10. 貫和敏博, 玉城繁, 高橋英気, 吉良枝郎, 二ノ村信正: 薬剤性肺臓炎. 治療学 9 : 528-535, 1982.
11. 長野準, 石部裕一, 木村謙太郎, 寺崎秀則, 貫和敏博, 芳賀敏彦: ARDS をめぐって. 呼吸 2 : 158-173, 1983.
12. 檀原高, 玉城繁, 貫和敏博, 名取博, 荒木達夫, 吉良枝郎: 肺真菌症. 臨床医 9 : 28-33, 1983.
13. 松岡緑郎, 貫和敏博, 荒井達夫, 吉良枝郎, 二ノ村信正, 横山武: びまん性汎細気管支炎. 老人科診療 4 : 392-398, 1983.
14. 貫和敏博, 吉良枝郎: 薬物起因性疾患, g. 肺. 内科 51 : 651-662, 1983.
15. 貫和敏博, 吉良枝郎: ARDS-microvascular injury をめぐって - 肺と心 30 : 196-200, 1983.
16. 名取博, 松岡緑郎, 石原照夫, 檀原高, 貫和敏博, 荒井達夫, 吉良枝郎: 肺・胸郭疾患の超音波診断. 呼吸と循環 32 : 569-574, 1984.
17. 貫和敏博: 中毒症と血液ガス異常. 臨床医 10 : 85-87, 1984.
18. 貫和敏博:  $\alpha 1$ -アンチトリプシン補充療法. 呼吸 7 : 332-337, 1988.
19. 貫和敏博:  $\alpha 1$ アンチトリプシン欠損症の分子免疫診断. Medical Immunology 16 : 877-881, 1988.
20. 貫和敏博:  $\alpha 1$ アンチトリプシン遺伝子異常と肺気腫 一般肺気腫の機序解明に示唆を与える遺伝子解析. Mebio 5 : 12-21, 1988.
21. 貫和敏博, 吉良枝郎: 肺癌先行疾患 - 肺多重複癌の背景 何が発がんの initiation になるのだろうか? 呼吸と循環 36 : 1040-1050, 1988.

22. 高橋英気, 貫和敏博, 瀬山邦明 他: 喫煙と肺気腫—そのメカニズムと分子生物学的アプローチ. 最新医学 44: 1410-1415, 1989.
23. 貫和敏博: 肺胞 macrophage IGF-I (insulin-like growth factor-I). 呼吸 8: 445-452, 1989.
24. 貫和敏博, 渡辺秀一, 大和田明彦 他: 間質性肺炎に合併する肺癌. Geriatric Medicine 27: 1309-1312, 1989.
25. 貫和敏博: 間質性肺炎 病因—分子の立場から. ICU と CCU 13: 1067-1074, 1989.
26. 北村諭, 堀江孝至, 伊藤幸治, 貫和敏博: びまん性肺疾患をめぐる最近の話題. 臨床医 16: 113-123, 1990.
27. 瀬戸口靖弘, 貫和敏博, 吉良枝郎: 呼吸困難. Modern Physician 10: 571-578, 1990.
28. 佐藤一彦, 岡正彦, 山口芳, 貫和敏博, 吉良枝郎: ARDS. 現代医療 22: 1676-1683, 1990.
29. 貫和敏博:  $\alpha 1$ -アンチトリプシン欠損症に見られる prototype としての肺気腫症とその遺伝子変異の多様性. 1.  $\alpha 1$ -アンチトリプシン欠損症の臨床と  $\alpha 1$ -アンチトリプシン研究の背景. 日本胸部臨床 49: 255-266, 1990.
30. 貫和敏博: 肺気腫発症における先天要因と後天要因:  $\alpha 1$ -アンチトリプシン欠損症にみられる prototype としての肺気腫症とその遺伝子変異の多様性. 1.  $\alpha 1$ -アンチトリプシン欠損症の遺伝子解析とその病的機序. 日本胸部臨床 49: 363-377, 1990.
31. 貫和敏博, 高橋さつき, 岩瀬彰彦, 吉良枝郎: 間質性肺炎. 臨床麻酔 14: 229-236, 1990.
32. 貫和敏博: 呼吸器疾患における遺伝子異常: cystic fibrosis, 慢性肉芽腫症,  $\alpha 1$ -antitrypsin 欠損症における遺伝子異常の多様性と異常遺伝子の集積性. 呼吸と循環 38: 747-754, 1990.
33. 貫和敏博: 肺細胞由来増殖因子. 代謝 27: 777-786, 1990.
34. 貫和敏博, 瀬山邦明: 閉塞性肺疾患の診断と治療 (No5).  $\alpha 1$ -アンチトリプシン欠損と肺気腫. 日本医師会雑誌 104: HH13-15, 1990.

35. 檀原高, 家永浩樹, 饗庭三代治, 貫和敏博, 吉良枝郎: 特集老人の呼吸不全 老人の呼吸不全の治療－急性期を中心に－. *Geriatric medicine* 28: 1765-1771, 1990.
36. 瀬山邦明, 貫和敏博, 吉良枝郎: 解説 基礎  $\alpha 1$ -アンチトリプシン遺伝子. *呼吸* 10: 895-903, 1991.
37. 貫和敏博: 特集 新展開する呼吸器病学 肺気腫症における  $\alpha 1$ -アンチトリプシン遺伝子異常. *順天堂医学* 36: 478-488, 1991.
38. 高橋英気, 大和田明彦, 松田州彦, 貫和敏博, 吉良枝郎: 診断の指針・治療の指針 びまん性汎細気管支炎の治療. *総合臨床* 40: 173-174, 1991.
39. 貫和敏博: 肺細胞. *日本胸部臨床* 30: 148-151, 1991.
40. 本間栄, 阿部寛, 貫和敏博: 間質性肺炎の新しい視点 肺の線維化・肉芽腫形成に関する基礎的知見 肺の線維化における増殖性サイトカインをどう考えるか. *Mebio* 9: 45-49, 1992.
41. 貫和敏博, 本間栄, 田村尚亮 他: 間質性肺炎 肺の線維化をめぐる細胞とサイトカイン. *最新医学* 47: 1303-1309, 1992.
42. 貫和敏博: 呼吸器系疾患の遺伝子学 遺伝子解析および遺伝子工学の応用. *最新医学* 47: 1654-1678, 1992.
43. 貫和敏博, 桜庭晶子, 能戸幸司 他: 肺癌治療の実態 肺癌診療における腫瘍マーカーの意義. *内科* 70: 473-475, 1992.
44. 貫和敏博, 瀬山邦明, 花里紀尚: 各種疾患における酸・塩基平衡障害 肺疾患 高炭酸ガス決勝をグラフ上で理解する. *日本臨床* 50: 2166-2172, 1992.
45. 阿部達也, 貫和敏博: 呼吸器疾患の遺伝子学的診断. *医学のあゆみ* 166: 542-546, 1993.
46. 佐藤研, 貫和敏博: 呼吸器疾患の遺伝子診断. *Medical Practice* 10: 2173-2175, 1993.
47. 貫和敏博: 肺気腫: 喫煙による末梢気腔の破壊－何がわかっていて何がわかっていないか. *病理と臨床* 11: 379-382, 1993.
48. 貫和敏博, 瀬山邦明: 肺気腫と  $\alpha 1$ -アンチトリプシン. *診断と治療* 81: 1475-1479, 1993.

49. 森益子, 千葉良司, 手塚文明, 齋藤泰則, 藤村重文, 大久田和弘, 玉橋信彰, 秋野豊明, 船江良彦, 貫和敏博, 高橋徹: 肺腺癌と異型腺腫瘍過形成. 癌の臨床 39 : 1521-1527, 1993.
50. 貫和敏博: 肺気腫: 稀な遺伝子性肺気腫症が明かす喫煙による慢性肺組織破壊の病態. 宮城県医師会会報 575 : 716-721, 1993.
51. 増井徹, 貫和敏博, 吉良枝郎: 正常ヒト気管支上皮細胞の培養系における扁平上皮分化の研究. 呼吸 12 : 176-180, 1993.
52. 貫和敏博, 阿部達也, 菊地利明: 血液凝固・線溶・補体系のプロテアーゼインヒビター補体系他  $\alpha$  アンチトリプシン. Biomedical Perspectives 2 : 333-337, 1993.
53. 貫和敏博: 呼吸器疾患における molecular な解析, biological な解析. 東北医学雑誌 106 : 181-185, 1993.
54. 植松史行, 内山美寧, 佐藤研, 貫和敏博: びまん性肺疾患の遺伝子的アプローチ. 医学のあゆみ 168 : 665-669, 1994.
55. 西條康夫, 貫和敏博: 呼吸器疾患と遺伝子ノックアウトマウス. 呼吸 13 : 1129-1133, 1994.
56. 酒井俊彦, 佐藤研, 貫和敏博: 肺線維化機序の生化学. 治療学 28 : 62-66, 1994.
57. 鳴海晃, 貫和敏博: COPD の発症要因 1 喫煙. 治療学 28 : 761-763, 1994.
58. 貫和敏博, 酒井俊彦, 佐藤研, 瀬山邦明:  $\alpha 1$ -アンチトリプシン欠損症. 日本臨床 (特別号) 52 : 臨床分子生物学 694-700, 1994.
59. 貫和敏博: 病因をめぐる歴史的展開. THE LUNG Perspectives 2 : 69-74, 1994.
60. 瀬山邦明, 相馬早苗, 貫和敏博, 吉良枝郎: DPB 症例の CFTR 遺伝子解析. 医学のあゆみ168 : 754-755, 1994.
61. 瀬戸口靖弘, 貫和敏博, 吉良枝郎: 呼吸器疾患における遺伝子治療の可能性. カレントセラピー 12 : 146-152, 1994.
62. 貫和敏博: 遺伝子治療の背景にあるもの. 呼吸 13 : 433, 1994.



63. 貫和敏博：特発性間質性肺炎（肺線維症）の診断と治療の進歩 特発性間質性肺炎の病態および肺癌の合併. 日本内科学会雑誌 83：739-744, 1994.
64. 貫和敏博, 森田寛, 棟方充, 永井厚志：間質性肺炎の臨床－現状と将来. MEDICO 25：11025-11035, 1994.
65. 貫和敏博, 森ゆり子, 富永泰之：肺血栓促成症（深部静脈血栓症）の遺伝子異常－異常の本態は第V因子にあった－. 最新医学 49：2215-2217, 1994.
66. 貫和敏博： $\alpha 1$ -アンチトリプシン欠損症. 現代化学 23suppl：132-137, 1994.
67. 貫和敏博：もう一つの Bilingual. 呼吸と循環 42：1129, 1994.
68. 八重柏政宏, 貫和敏博：慢性肺気腫－診断のための検査計画. 臨床医 20：199-203, 1994.
69. 八重柏政宏, 貫和敏博：診断のための検査計画 呼吸器疾患 慢性肺気腫. 臨床医 20suppl：735-739, 1994.
70. 鈴木修治, 貫和敏博：異常症状からみた First-line 検査 咯血. Medicina 31：760-761, 1994.
71. 菊地利明, 貫和敏博：呼吸器系の遺伝子疾患  $\alpha 1$ アンチトリプシン欠損症と cystic fibrosis. 医学のあゆみ 170：91-96, 1994.
72. 八重柏政宏, 酒井俊彦, 貫和敏博：HGF と肺. 呼吸 14：1154-1161, 1995.
73. 貫和敏博：特集 気道上皮細胞研究の進展 気道上皮細胞研究の現状. Molecular Medicine 32：804-812, 1995.
74. 貫和敏博： $\alpha 1$ -アンチトリプシン欠損症と日本の症例. 医学のあゆみ 174：319-323, 1995.
75. 貫和敏博：臨床遺伝子学'95 遺伝子治療の基礎と臨床  $\alpha 1$ AT 遺伝子導入－非腫瘍性呼吸器疾患における遺伝子治療の考え方. 最新医学 50suppl：174-181, 1995.
76. 貫和敏博：呼吸器疾患遺伝子治療の展開. 日本胸部臨床 54：1-11, 1995.
77. 貫和敏博, 大田健：気道上皮細胞と肺胞上皮細胞. 日本胸部疾患学会雑誌 32：57, 1995.

78. 沼崎宗夫, 貫和敏博 : ARDS の分子生物学的アプローチ. 臨床医 21 : 76-77, 1995.
79. 渡辺彰, 菊地宏明, 庄司聡, 高橋洋, 藤村茂, 貫和敏博 : 当科における喀痰分離菌の動向とニューロン薬の臨床適応, ブレイクポイントを用いた適応判断. 化学療法の領域 11 : 968-976, 1995.
80. 内山美寧, 貫和敏博 : 肺の繊維化に遺伝素因は関与しているか—呼吸器専門医は胸部 X 線写真によって家族歴を構成すべきである. Mebio 12 : 53-59, 1995.
81. 鈴木修治, 貫和敏博 : 肺癌の遺伝子治療. 医学のあゆみ 175 : 698-700, 1995.
82. 海老名雅仁, 貫和敏博 : 肺癌分子腫瘍学の展望. 日本臨床 54 : 299-303, 1996.
83. 海老名雅仁, 貫和敏博 : Topographic genomapping ; 肺癌組織の in situ PCR. 内科 78 : 900-903, 1996.
84. 貫和敏博 : 健やかな老後は禁煙から—老年医学は20歳から始まる. Geriatric Medicine 34 : 63, 1996.
85. 貫和敏博 :  $\alpha 1$ -アンチトリプシン : 欠損症の臨床とその蛋白分解酵素阻害物質としての生物学的な意義. 加齢医学研究所雑誌 47 : 145-151, 1996.
86. 貫和敏博 : 癌臨床の最前線に立った肺癌. 内科 78 : 802-803, 1996.
87. 貫和敏博, 内山美寧 : 日常的呼吸器疾患における責任遺伝子解析—積極的な家族内疾患集積調査への展開. 呼吸と循環 44 : 263-272, 1996.
88. 辛紅, 西條康夫, 貫和敏博 : 肺癌細胞に対する CTL の誘導と解析. 内科 78 : 915-917, 1996.
89. 西條康夫, 貫和敏博 : 特発性間質性肺炎に対する遺伝子治療の可能性. 内科 77 : 670-672, 1996.
90. 内山美寧, 大島美和子, 城倉英史, 朴永俊, 貫和敏博 : 転移性脳腫瘍に対する  $\gamma$ -ナイフ治療の選択. 内科 78 : 907-910, 1996.
91. 富永泰之, 貫和敏博 : Gene targeting と肺疾患モデル動物. 最新医学 51 : 33-38, 1996.

92. 中山昇一, 貫和敏博: 呼吸器疾患領域. 老化と疾患 9: 1514-1518, 1996.
93. 瀬山邦明, 貫和敏博, 吉良枝郎: 遺伝性呼吸器病の分子遺伝学的研究  $\alpha 1$ -アンチトリプシン欠損症の  $\alpha 1$ -AT 遺伝子型分類と日本人報告例の分析. 日本臨床 54: 533-538, 1996.
94. 貫和敏博: 肺癌の分子生物学 固形癌全般における基礎的理解の展開とその応用. 日本内科学会雑誌 85: 443-448, 1996.
95. 貫和敏博, 内山美寧: 病因解明への新しい戦略 呼吸器疾患における家族集積の登録と遺伝子解析への提言. 日本胸部疾患学会雑誌 34: 204-207, 1996.
96. 貫和敏博: セリン蛋白分解酵素阻害物質  $\alpha 1$ -アンチトリプシンの概要. 日本醫事新報 3838: 90-91, 1997.
97. 海老名雅仁, 貫和敏博: In situ PCR による Topographic genomapping. 最新医学 52: 125-128, 1997.
98. 海老名雅仁, R.I.Linnoila, 貫和敏博: 肺癌組織における癌制御遺伝子 p53の Clonality: In situ PCR を用いた mapping. 癌と化学療法 24: 406-411, 1997.
99. 菊地利明, 貫和敏博: 遺伝子工学の臨床への応用: 疾患解析への応用 呼吸器疾患. Medicina 34: 2141-2144, 1997.
100. 西條康夫, 辛紅, 貫和敏博: 肺がん細胞に対する autologous CTL の誘導. 最新医学 52: 2707-2712, 1997.
101. 酒井俊彦, 佐藤研, 貫和敏博: 呼吸器疾患とアポトーシス. 現代医療 29: 159-163, 1997.
102. 佐藤讓治, 菅原俊一, 貫和敏博: Wegener 肉芽腫症と臨床診断され ST 合剤の使用により小康を得た一例. 分子呼吸器病 1: 64-68, 1997.
103. 田澤立之, 貫和敏博: 呼吸器疾患と遺伝子異常, 遺伝子異常と遺伝子診断の最新知見. 現代医療 29: 241-246, 1997.
104. 徳江豊, 渡辺彰, 貫和敏博: 感染症領域における遺伝子治療の展望. 臨床検査 41: 92-93, 1997.
105. 貫和敏博: ベンチの前に立つ/情報検索. 分子呼吸器病 1: 48-49, 1997.

106. 貫和敏博：呼吸器疾患の遺伝子診療。ドクターサロン増刊号下：394-397, 1997.
107. 貫和敏博：化学療法の20世紀医療からの次世紀医療への展開。化学療法の領域 13：2213, 1997.
108. 貫和敏博：肺がんの診断と治療。仙台市医師会報 369：27-28, 1997.
109. 貫和敏博：序論 肺がん－治療法開発に結びつく気道上皮細胞の生物学的必要性。最新医学 52：2619-2621, 1997.
110. 貫和敏博：肺癌への分子生物学的アプローチ：現状と将来。分子呼吸器病 1：204-205, 1997.
111. 星幸子, 貫和敏博：肺癌。臨床看護 23：1997-1999, 1997.
112. 前門戸任, 貫和敏博：肺癌の家族性因子 遺伝因子。THE LUNG perspectives 5：47-50, 1997.
113. 八重柏政宏, 貫和敏博：呼吸器疾患と増殖因子。現代医療 29：1439-1445, 1997.
114. 酒井俊彦, 佐藤研, 貫和敏博：分子生物学入門シリーズ PCR。分子呼吸器病 1：196-197, 1997.
115. 内山美寧, 阿部達也, 貫和敏博：呼吸器疾患における家族解析と責任遺伝子決定 線維化肺の家族集積。分子呼吸器病 1：258-267, 1997.
116. 貫和敏博：呼吸器疾患における遺伝子治療の基礎と臨床 日本における遺伝子治療施行への問題点の整理。日本胸部疾患学会雑誌 35：41-45, 1997.
117. 海老名雅仁, 貫和敏博：肺癌組織における癌抑制遺伝子 p53異常の分布－in site PCRの新しい応用。日本臨床化学会東北支部会誌 7：26-39, 1998.
118. 金澤裕信, 貫和敏博：ヒト癌と癌遺伝子・癌抑制遺伝子 肺癌。現代医療 30：1981-1984, 1998.
119. 清水川稔, 木村雄一郎, 星幸子, 八重柏政宏, 海老名雅仁, 阿部達也, 渡辺彰, 斉藤淑子, 小林勃志, 若狭治毅, 貫和敏博：原因不明両側胸水の経過中 Streptococcus milleri 感染を認め、その後悪性リンパ腫が顕在化した1例。分子呼吸器病 2：458-462, 1998.

120. 中村晃, 貫和敏博 : 呼吸器疾患とアポトーシス. 医学のあゆみ 187 : 490-494, 1998.
121. 貫和敏博, 佐藤研, 西條康夫, 内山美寧 : 肺癌の生物学 癌関連の遺伝子と肺癌細胞に対する CTL 誘導. 呼吸 17 : 236-246, 1998.
122. 貫和敏博, 西條康夫, 佐藤研, 阿部達也, 徳江豊, 渡辺彰, 海老名雅仁, 八重柏政宏 : 【内科 この1年の進歩】呼吸器疾患. 内科 82 : 1111-1116, 1998.
123. 貫和敏博, 鳴海晃 : 遺伝子治療 - 実験医療の理念と克服すべき問題 -. 日本醫事新報 3878 : 1-6, 1998.
124. 八重柏政宏, 貫和敏博 : Swyer-James syndrome. 診断と治療 (増刊号 症候群辞典) 86 : 348, 1998.
125. 西條康夫, 貫和敏博 : 【症候・病態の分子メカニズム】呼吸器 病態・異常値・異常所見 癌性胸膜炎. Molecular Medicine 35 : 233-234, 1998.
126. 貫和敏博, 阿部達也 : 【間質性肺炎の発症メカニズム】間質性肺炎の遺伝的背景と家計調査システム common disease としての線維化肺家族集積の実態. Molecular Medicine 35 : 4-8, 1998.
127. 阿部成房, 貫和敏博 : ステロイド療法. ICU と CCU 23 : 341-349, 1999.
128. 阿部達也, 三木誠, 貫和敏博 : 間質性肺炎. 内科 83 : 1100-1104, 1999.
129. 阿部達也, 貫和敏博 : 肺の炎症におけるプロテアーゼ・アンチプロテアーゼ. 現代医療 31 : 419-424, 1999.
130. 海老名雅仁, 貫和敏博 : 肺線維症. 現代医療 31 : 1696-1702, 1999.
131. 西條康夫, 貫和敏博 : 肺癌の遺伝子治療. THE LUNG perspectives 7 : 288-292, 1999.
132. 貫和敏博, 阿部達也 : 間質性肺炎の遺伝的背景と家系調査システム. Molecular Medicine 36 : 4-8, 1999.
133. 貫和敏博 : 肺の線維症の現状. THE LUNG perspectives 7 : 15-18, 1999.
134. 貫和敏博 : 間質性肺炎の病因. Clinician 478 : 17-26, 1999.

135. 貫和敏博：肺の傷害・線維化・修復. オーバービュー. 現代医療 31：368-372, 1999.
136. 貫和敏博, 金沢実, 浦部晶夫：成人（急性）呼吸促進症候群（ARDS）の最近の話題. 分子呼吸器病 3：197-204, 1999.
137. 貫和敏博：加齢肺の病態と感染. 感染防止 5：1-8, 1999.
138. 貫和敏博：遺伝子・分子生物学をとり入れた治療の展望. 内科 84：809-812, 1999.
139. 貫和敏博, 阿部達也：家族集積からみた特発性間質性肺炎の病因研究の展望. 呼吸器 News and Views 21：7-9, 1999.
140. 八重柏政宏, 貫和敏博：特発性間質性肺炎の病態と家族背景因子. 現代医療 31：469-474, 1999.
141. 森ゆり子, 貫和敏博：【間質性肺炎 最近の話題】間質性肺炎の病因を考える. BIO Clinical 4：783-787, 1999.
142. 貫和敏博：BALの臨床応用. 日本医事新報 3655, 3-13, 1994.
143. 貫和敏博：肺再生とその臨床応用. 第111回日本医学会シンポジウム抄録集：132-139, 1999.
144. 貫和敏博：急性肺傷害と慢性線維化肺：呼吸器臨床の実態と細胞分子病態の視点. 第20回呼吸器セミナー別冊：1-8, 1999.
145. 中村晃, 小野栄夫, 貫和敏博, 高井俊行：Fc受容体と自己免疫疾患モデルマウス. 最新医学 55：44-49, 2000.
146. 貫和敏博, 西條康夫, 田中昌史：特集：肺癌 治療学 免疫遺伝子療法. 日本臨床 58, 2000.
147. 貫和敏博：蓄積される情報をいかに共有するか. 日本医事新報, 2000.
148. 小野栄夫, 海老原伸, 秋山健一, 貫和敏博, 高井俊行：受容体と腫瘍免疫. 最新医学：50-55, 2000.
149. 貫和敏博：呼吸器疾患の分子病態と臨床. 日本内科学会雑誌 89：97, 2000.

150. 三木誠, 菊地利明, 貫和敏博: Secretory leukoprotease inhibitor (SLPI). The LUNG Perspectives 8 : 275-281, 2000.
151. 森ゆり子, 貫和敏博: 間質性肺炎の病因を考える. BIO Clinica 14 : 783-787, 2000.
152. 中村晃, 貫和敏博, 高井俊行: 免疫疾患 Fc レセプター欠損マウスと免疫異常. Annual Review 免疫 2002 : 283-289, 2001.
153. 田原稔, 貫和敏博: 呼吸器系の生物学 肺における HGF の役割. Annual Review 呼吸器 2001 : 1-7, 2001.
154. 海老名雅仁, 清水川稔, 貫和敏博: 線維化肺形成における angiogenesis : その病態における意義. 分子呼吸器病学 5 : 13-19, 2001.
155. 秋山健一, 三木誠, 海老名雅仁, 貫和敏博: 肺傷害・線維化の細胞分子病態と治療への展望. 日本胸部臨床 60 : 525-533, 2001.
156. 秋山健一, 海老名雅仁, 臼井一裕, 三木誠, 貫和敏博, 斎木茂樹, 河端美則: Nylon flock-associated interstitial lung disease - 日本における第一例 -. 分子呼吸器病学 5 : 87-91, 2001.
157. 臼井一裕, 貫和敏博: 肺癌遺伝子治療の現状. 内科 88 : 897-899, 2001.
158. 海老名雅仁, 貫和敏博: 急性肺傷害の発症における増殖因子の役割. 呼吸と循環 49 : 341-343, 2001.
159. 海老名雅仁, 貫和敏博: 2. 急性肺障害と肺胞毛細血管のリモデリング. 日本胸部臨床 60 : S49-S52, 2001.
160. 菊地利明, 貫和敏博: 呼吸器疾患における遺伝子治療. 内科87 : 1042-1046, 2001.
161. 鯉沼代造, 海老名雅仁, 貫和敏博: 間質性肺炎 特発性間質性肺炎に対するびまん性肺疾患調査研究班の診断基準第 4 次改定. 医学のあゆみ 197 : 313-317, 2001.
162. 田中昌史, 西條康夫, 貫和敏博: 特集 肺癌の診断療法における最近の進歩. 4. 化学療法の進歩. 肺癌の免疫療法. 肺癌の臨床 4 : 231-238, 2001.
163. 田原秀晃, 貫和敏博, 金田安史: 遺伝子治療の動向と今後の展開. カレントセラピー 19 : 94-101, 2001.

164. 徳江豊, 貫和敏博: 特集 呼吸器感染症の話題 - 下気道感染症 -. MEDICAMENT NEWS 1702 : 5-8, 2001.
165. 貫和敏博: 特発性肺線維症の病態と治療 高齢者呼吸器疾患としての理解の必要性. 日本医師会雑誌 125 : 993-996, 2001.
166. 貫和敏博, 西條康夫: 遺伝子治療 アデノウイルスによる p53肺癌遺伝子治療. 宮城県医師会報 667 : 615-621, 2001.
167. 貫和敏博, 海老名雅仁: 我が国の特発性間質性肺炎と ATS/ERS ステートメント. 最新医学 56 : 2504-2511, 2001.
168. 貫和敏博: 特発性間質性肺炎の分子細胞病態. 日本内科学会雑誌 90 : 251-256, 2001.
169. 貫和敏博: 難治である肺癌治療を考える. 治療学 35 : 5-7, 2001.
170. 貫和敏博: 巻頭言 Molecular Biology を基礎とした呼吸器疾患の理解: 2001/2002 Update. 日本胸部臨床 60 : S1, 2001.
171. 貫和敏博, 田中昌史, 鈴木拓児: 6. 腫瘍免疫の分子機構. 日本胸部臨床 60 : S131-S137, 2001.
172. 前門戸任, 貫和敏博: HGF 拮抗遺伝子導入による抗腫瘍効果. 治療学 35 : 18-22, 2001.
173. 渡辺正樹, 海老名雅仁, 貫和敏博: 肺線維症における Th1/Th2細胞バランスと治療開発. 分子呼吸器病学 5 : 561-566, 2001.
174. 中村晃, 小野栄夫, 貫和敏博, 高井俊行: 【慢性関節リウマチ 遺伝子異常とその修復】 遺伝子変異による疾患モデルマウス Fc  $\gamma$  受容体遺伝子欠損マウス. 最新医学 56 : 871-876, 2001.
175. 中村晃, 氏家あづさ, 小野栄夫, 貫和敏博, 高井俊行: 【アレルギーと慢性炎症の分子医学】 炎症と Fc レセプター. Molecular Medicine 38 : 538-543, 2001.
176. 前門戸任, 貫和敏博: 【肺癌 難治性の認識とその克服への課題】 HGF 拮抗遺伝子導入による抗腫瘍効果. 治療学 35 : 712-716, 2001.



177. 貫和敏博, 白井一裕:【臨床遺伝子学'01 遺伝子病研究の最前線】遺伝子病に対する先端治療 がんを標的とする遺伝子治療 phaseIII への苦悩. 最新医学 56: 2273-2282, 2001.
178. 秋山健一, 貫和敏博, 高井俊行:ここまで分かった形づくりのシグナル伝達細胞極性・細胞運動制御から情報伝達破綻による疾病まで(編集竹縄忠臣, 帯刀益夫)第4章シグナリングと病態 6. Fc レセプターによる免疫制御機構. 実験医学 20: 259-266, 2002.
179. 白井一裕, 貫和敏博:プロアポトーシス蛋白 Bax 遺伝子による遺伝子治療. 分子呼吸器病 6: 29-32, 2002.
180. 白井一裕, 貫和敏博:転移性脳腫瘍に対するガンマナイフ治療. 日本医師会雑誌 128, 428-429, 2002.
181. 海老名雅仁, 貫和敏博:Ⅱ 呼吸器疾患の分子医学 2. 急性肺傷害と肺胞毛細血管のリモデリング. 日本胸部臨床 60: S49-S52, 2002.
182. 菊地利明, 前門戸任, 鳴海晃, 貫和敏博:肝細胞増殖因子のアンタゴニスト NK4を用いた抗腫瘍血管療法と樹状細胞を用いた腫瘍免疫療法の併用効果. 日本呼吸器学会雑誌 40: 151, 2002.
183. 木村雄一郎, 海老名雅仁, 貫和敏博:NSIP/UIP: HRCT と肺生検所見. 呼吸器科 1: 63-67, 2002.
184. 木村雄一郎, 海老名雅仁, 貫和敏博:急性肝障害と肺胞毛細血管および肺胞上皮のリモデリング. 呼吸器科 1: 482-484, 2002.
185. 田澤立之, Prasenohadi Pradono, 萩原弘一, 貫和敏博:遺伝子治療の現況と展望. 日本臨床 60: 625-629, 2002.
186. 貫和敏博:肺癌の遺伝子治療. 仙台医師会報 455: 6-8, 2002.
187. 貫和敏博, 福原達朗:自然発生肺癌モデルマウス:ES細胞に組み込んだ K-ras (G12D) 遺伝子の臓器形成過程における homologous recombination と発現 (hit-and-run method). 分子呼吸器病 6 ARCHIVES PART II: 9-11, 2002.
188. 貫和敏博:特集:内科-100年のあゆみ(呼吸器)Ⅲ. 主要疾患の歴史 5. 間質性肺炎. 日本内科学会雑誌 91: 113-119, 2002.

189. 貫和敏博：塩酸アムルピシン (Amurubicin Hydrochloride). 分子呼吸器病 6 : 547-552, 2002.
190. 貫和敏博：実践診断指針 I. 呼吸器・胸壁・縦隔疾患 特発性間質性肺炎. 日本医師会雑誌特別号 8 : 14-17, 2002.
191. 貫和敏博, 清水川稔：特集 間質性肺炎のアップデート2002 Leading Article : 特発性肺線維症研究 - 次なる target は何か? -. 呼吸 8 : 724-725, 2002.
192. 貫和敏博, 前門戸任, 西條康夫：Antiangiogenic gene therapy の展開と将来 HGF antagonist NK4を用いた癌遺伝子治療. 遺伝子医学 21 : 449-454, 2002.
193. 貫和敏博：原因不明の間質性肺炎 (特発性間質性肺炎) をめぐる今日の課題 原因不明の間質性肺炎 (特発性間質性肺炎) と特発性肺線維症. 日本医師会雑誌 128 : 1-6, 2002.
194. 貫和敏博：特集：内科21世紀への展望 I. 内科各領域の21世紀への展望 5. 呼吸器. 日本内科学会雑誌 (創立100周年記念号) 91 : 1-4, 2002.
195. 貫和敏博：Medical topics 第6回 Gefitinib の生物学的意義はどこにあるか. THE LUNG perspective 11 : 76-81, 2002.
196. 渡辺正樹, 海老名雅仁, 貫和敏博：特発性間質性肺炎 サイトカイン・増殖因子の役割. 治療学 36 : 577-581, 2002.
197. 萩原弘一, 菊地暢, 遠藤良幸, 呼群, 徳江豊, 貫和敏博：抗菌蛋白 - その多様性と疾患における役割 -. 最新医学 57 : 1862-1866, 2002.
198. 西條康夫, 前門戸任, 貫和敏博：【肺癌の診断と治療 最新の研究動向】肺癌の新しい治療法 遺伝子療法 HGF アンタゴニスト (HGF/NK4) による遺伝子治療. 日本臨床 60 : 635-642, 2002.
199. 海老名雅仁, 貫和敏博：【EBMのための内科疾患データファイル 治療方針決定のために】呼吸器 特発性間質性肺炎. 内科 89 : 1047-1050, 2002.
200. 中村晃, 臼井一裕, 貫和敏博：【アポトーシスの全て】病態とアポトーシス呼吸器. 臨床免疫 38 : 319-324, 2002.
201. 井上彰, 貫和敏博：イレッサによる間質性肺炎の特徴. 医薬ジャーナル 39 : 1745-1749, 2003.

202. 井上彰, 貫和敏博: 分子標的治療剤. 日本病院薬剤師会雑誌 39 : 745-749, 2003.
203. 海老名雅仁, 貫和敏博: Ⅲ. 新たな分子標的治療と臨床問題. 1. 特発性間質性肺炎その病態と分子標的制御可能性-. 日本内科学会雑誌 92 : 1266-1271, 2003.
204. 海老名雅仁, 清水川稔, 木村雄一郎, 秋山健一, 貫和敏博: Ⅲ. 特発性間質性肺炎の病因・病態 5. 特発性間質性肺炎における肺胞毛細血管の構築変化. 日本胸部臨床 62 : 155-160, 2003.
205. 木村雄一郎, 海老名雅仁, 貫和敏博: 特発性間質性肺炎. 総合臨床 52 : 1864-1865, 2003.
206. 木村雄一郎, 海老名雅仁, 貫和敏博: 薬物による肺障害. 最新医学 58 : 2522-2528, 2003.
207. 清水川稔, 海老名雅仁, 貫和敏博: 特発性間質性肺炎の診断と治療. 治療 85 : 67-72, 2003.
208. 西條康夫, 貫和敏博: ゲフィチニブ急性肺障害・間質性肺炎の発症予防と早期診断・治療. 日本胸部臨床 62 : 522-532, 2003.
209. 田澤立之, 貫和敏博: 肺胞蛋白症に関する GM-CSF 吸入療法. 医学のあゆみ 206 : 174-175, 2003.
210. 貫和敏博: Gefitinib の生理的意義はどこにあるのか. THE LUNG perspective 11 : 75-80, 2003.
211. 貫和敏博, 井上彰: 肺癌の分子標的治療薬 Gefitinib が先駆けた新たな肺癌の臨床と biology. 呼吸と循環 51 : 685-694, 2003.
212. 貫和敏博: イレッサ (非小細胞肺癌に対する). - Con -. 血液・免疫・腫瘍 4 : 85-87, 2003.
213. 貫和敏博: 呼吸器内科医から見た分子標的薬. 第68回間質性肺疾患研究討議録 : 46-52, 2003.
214. 貫和敏博: 話題の疾患と治療 特発性間質性肺炎 (解説). 感染・炎症・免疫 3 : 236-237, 2003.

215. 貫和敏博：1. 序言：わが国の特発性間質性肺炎の歴史と現状. 2. 臨床から. 日本胸部臨床 62, 2003.
216. 貫和敏博：総説：間質性肺炎の病態と治療への展望. 日本呼吸器学会誌41, 2003.
217. 清水川稔, 海老名雅仁, 貫和敏博：【プライマリケアのためのびまん性肺疾患の診かた】特発性間質性肺炎の診断と治療. 治療 85：1891-1896, 2003.
218. 中村晃, 高井俊行, 貫和敏博：炎症反応の制御とプロテアーゼ阻害因子. 臨床免疫 40：576-579, 2003.
219. 井上彰, 貫和敏博：《TOPICS》特発性肺線維症の臨床研究に欠けているものは何か？内科 94：379-381, 2004.
220. 海老名雅仁, 貫和敏博：ピルフェニドン. 日本胸部臨床, 2004.
221. 海老名雅仁, 木村雄一郎, 大河内眞也, 清水川稔, 秋山健一, 田澤立之, 貫和敏博：狭窄性細気管支炎と気胸の密接な関係. Therapeutic Research 25：18-21, 2004.
222. 大河内眞也, 海老名雅仁, 貫和敏博：呼吸器疾患治療ガイドライン－間質性肺疾患 特発性間質性肺炎（特発性肺線維症）. 今月の治療 12：94-97, 2004.
223. 榊原智博, 貫和敏博：甲状腺に転移を認めた非小細胞肺癌の1例. 分子呼吸器病 8：72-76, 2004.
224. 田原稔, 貫和敏博：特集「呼吸器疾患における遺伝子研究：ベンチサイドからベッドサイドへ」1. 呼吸器疾患における遺伝子研究：現状と将来展望. 呼吸器科 6：387-394, 2004.
225. 中村晃, 高井俊之, 貫和敏博：ノックアウトマウスシリーズ SLPI ノックアウトマウス. 分子呼吸器病 8：52-56, 2004.
226. 貫和敏博：序説 肺癌の治療－多様な選択肢の視点から. 治療学 38：5-8, 2004.
227. 貫和敏博：＜特集＞検査値を読む b. 血清（漿）タンパク a1-アンチトリプシン（a1-AT）. 内科 93：1051, 2004.
228. 貫和敏博：Current understanding of interstitial pneumonias and approach for the next treatment. 日本呼吸器学会雑誌 42：3-10, 2004.

229. 貫和敏博：肺癌へのアプローチ その2 肺癌の診断治療の strategy 現状の up date と将来の方向性. Medical Practice 21 : 1218-1226, 2004.
230. 貫和敏博：間質性肺炎の発生機序と治療. 細胞 36 : 518-519, 2004.
231. 貫和敏博：広範囲血液・尿化学検査 免疫学的検査－その数値をどう読むか－第6版(1)Ⅲ. 生化学的検査 [1] A. 蛋白関係 a 1 アンチトリプシン. 日本臨牀 62 : 262-265, 2004.
232. 大河内眞也, 海老名雅仁, 太田洋充, 貫和敏博：【幹細胞・前駆細胞と肺疾患 治療への intervention は可能か?】骨髄前駆細胞の肺の炎症・腫瘍への関与. 分子呼吸器病 8 : 383-387, 2004.
233. 鯉沼代造, 海老名雅仁, 貫和敏博：目でみるバイオサイエンス 肺線維症の分子病態. 内科 94 : 962-966, 2004.
234. 大河内眞也, 木村雄一郎, 海老名雅仁, 鯉沼代造, 久田修, 貫和敏博：シクロスポリン (CyA) を投与した間質性肺炎17例の検討. 第69回間質性肺疾患討議録 : 57-62, 2004.
235. 貫和敏博：[特別講演] 特発性肺線維症の急性増悪：慢性炎症肺における急性肺障害の鑑別. エンドトキシン血症救命治療研究会誌 8 : 11-29, 2004.
236. 前門戸任, 貫和敏博：肺がんの biology. がん分子標的治療 2 : 338-340, 2004.
237. 海老名雅仁, 貫和敏博：I. 呼吸器 特発性間質性肺炎の診断と治療. 内科 95 : 1029-1034, 2005.
238. 海老名雅仁, 貫和敏博：特発性肺線維症治療薬の最近の動向 ピルフェニドン. : 日本胸部臨牀 64 : 117-125, 2005.
239. 貫和敏博：アプローチ 肺線維化の細胞分子病態と治療標的. 最新医学 60 : 2524-2531, 2005.
240. 貫和敏博：遺伝子治療学－遺伝子診断の進歩と遺伝子治療の展望－Ⅱ各論 呼吸器疾患に対する遺伝子治療 概論. 日本臨牀 63 : 598-606, 2005.
241. 貫和敏博：特発性間質性肺線維症：診断と治療の進歩. 日本内科学会雑誌 94 : 1025-1026, 2005.

242. 貫和敏博, 福原達朗, 井上彰, 鈴木拓児: 特集 肺癌診療の新展開 EGF 受容体阻害薬の急性肺毒性対策. *Pharma Medica* 23: 47-51, 2005.
243. 貫和敏博: 特別企画 肺の上皮と EGF シグナルの基礎と臨床: 肺腺癌 - EGFR 変異 - 分子標的治療薬. 企画によせて 異常蛋白を標的とする分子治療薬: oncogene addict と創薬展開. *分子呼吸器病* 9: 93-95, 2005.
244. 貫和敏博: 呼吸器疾患に対する遺伝子治療 概論. *遺伝子診療学, 日本臨床* 63: 598-606, 2005.
245. 貫和敏博, 鈴木拓児, 福原達朗: 基礎研究の新たな方向性を説く17 疾患解明 Overview 今, 肺癌が熱い. *実験医学* 23: 2839-2845, 2005.
246. 大河内眞也, 井上彰, 貫和敏博: 【肺癌の制圧を目指して】 ゲフィチニブの急性肺障害. *成人病と生活習慣病* 35: 328-333, 2005.
247. 木村雄一郎, 福原達朗, 海老名雅仁, 貫和敏博: Cystic Fibrosis に関連する肺病態 Cystic Fibrosis との鑑別を要した難治性の家族性 DPB. *Therapeutic Research* 26: 1457-1460, 2005.
248. 兼平雅彦, 貫和敏博: アネキシン A1 を標的とした肺癌特異的治療の可能性. *BIO Clinica* 20: 1204-1208, 2005.
249. 海老名雅仁, 貫和敏博: 【特発性肺線維症とその周辺 治療の最前線】 期待される薬剤と現況 ピルフェニドン. *最新医学* 60: 2557-2562, 2005.
250. 貫和敏博: 薬剤に起因する間質性肺炎: 病態と対策. *日集中医誌* 13: 106-107, 2006.
251. 貫和敏博: 特集 びまん性肺疾患: 診断と治療の進歩 びまん性肺疾患. *日本内科学会雑誌* 95: 977-979, 2006.
252. 貫和敏博: 肺癌に対するイレッサの効果と EGFR 変異 - 論理的薬剤開発が明かした新規肺腺癌生物学 -. *薬事日報* 10186: 4, 2006.
253. 貫和敏博: 原因の明らかな間質性肺炎: 特発性間質性肺炎の縦外鑑別診断としての意義. *治療学* 40, 2006.
254. 栗山喬之, 久保恵嗣, 貫和敏博 他: 呼吸器疾患治療用薬品の適正使用を目的としたガイドライン 薬剤性肺障害の評価, 治療についてのガイドライン平成16年度報告書. *日本呼吸器学会雑誌* 44: 221-300, 2006.

255. 井上彰, 辛紅, 貫和敏博, 西條康夫: 肺病変の修復・再生へのアプローチ EGFR チロシンキナーゼ阻害薬は II 型肺胞上皮機能を低下させる. 分子呼吸器病 10: 201-203, 2006.
256. 渡辺洋, 貫和敏博: びまん性陰影を示したサルコイドーシスの 1 例. THE LUNG perspectives 14: 369, 2006.
257. 貫和敏博, 審良正則, 山本一彦, 吉澤靖之: 日常臨床で遭遇する原因の明らかな間質性肺炎を理解する. 治療学 40: 11239-1250, 2006.
258. 小山正平, 貫和敏博: Hot tub lung が疑われた過敏性肺臓炎の症例. 治療学 40: 1239-1250, 2006.
259. 鈴木拓児, 貫和敏博: 【シグナル伝達病を知る その分子機序解明から新たな治療戦略まで】臨床応用編 癌とシグナル SLPI と癌. 遺伝子医学 MOOK 6: 186-191, 2006.
260. 中田光, 井上義一, 高田俊範, 寺田正樹, 新井徹, 坂谷光則, 田澤立之, 貫和敏博: 【喀痰学の up-to-date】肺胞蛋白症の臨床. THE LUNG perspectives 15: 59-63, 2007.
261. 中田光, 井上義一, 高田俊範, 寺田正樹, 新井徹, 坂谷光則, 田澤立之, 貫和敏博, 檜澤伸之, 山口悦郎, 江田良輔, 土橋佳子, 田中直彦, 笠原靖紀: 肺障害・線維化に関わる肺細胞とその産生分子 わが国の特発性肺胞蛋白症の病勢, 予後, GM-CSF 吸入療法の Up-to-date. 分子呼吸器病 11: 72-74, 2007.
262. 貫和敏博: 【びまん性肺疾患 病態に基づいた最新治療】びまん性肺疾患 最近の進歩, 内科 99: 198-202, 2007.
263. 海老名雅仁, 木村雄一郎, 玉井ときわ, 佐藤大希, 貫和敏博: 急性肺障害における PMX-DHP 治療の位置付け 進行性肺線維症の急性憎悪に対する PMX-DHP 療法の治療効果. エンドトキシン血症救命治療研究会誌 11: 34, 2007.
264. 井上彰, 貫和敏博: 外科医に必要ながん化学療法の知識 非小細胞肺癌の補助化学療法. 外科治療 98 (2008増刊): 22-234, 2008.
265. 貫和敏博: 呼吸器 7 特発性肺線維症 ガイドライン—グローバルな共通認識とその後の展開—. 最新医学 新しい診断と治療の ABC55 (別冊) 163-170, 2008.

266. 貫和敏博：特集 肺癌－診療最前線 がん対策基本法で何が変わった 巻頭言：肺癌診療と患者の納得. *Modern Physician* 28：815-816, 2008.
267. 五味和紀, 海老名雅仁, 貫和敏博：家族性サルコイドーシスと BTNL2 遺伝子異常. *分子呼吸器病* 12：183-188, 2008.
268. 菊地利明, 渡辺彰, 貫和敏博：感染症における樹状細胞の免疫応答. *臨床薬理の進歩* 29：9-15, 2008.
269. 貫和敏博, 福原達朗, 佐藤輝幸, 井上彰：肺癌－基礎・臨床研究のアップデート－臨床研究 IV. 治療 分子標的治療薬 EGFR-TKI の臨床効果. *日本臨牀* 66：588-593, 2008.
270. 榊原智博, 貫和敏博：【肺がん がん津波への備え】小型肺癌の取り扱い. *総合臨床* 57：2252-2256, 2008.
271. 貫和敏博：特発性肺線維症とその他の特発性間質性肺炎. *日本医師会雑誌* 137特別2：227-231, 2008.
272. 井上彰, 貫和敏博：非小細胞癌の補助化学療法. 外科医に必要ながん化学療法の知識98. *外科治療* 98：229-234, 2008.
273. 貫和敏博, 福原達朗, 佐藤輝明, 井上彰：肺癌－基礎・臨床のアップデート－. *日本臨牀* 66：588-593, 2008.
274. 貫和敏博：肋間陥凹性呼吸と閉塞性細気管支炎症候群 (bronchiolitis obliterans syndrome：BOS). (図説) *Modern Physician* 28：1824, 2008.
275. 久田修, 貫和敏博：分子標的薬と薬剤性肺障害. *コンセンサス癌治療* 8：108-110, 2009.
276. 貫和敏博：特発性肺線維症治療薬：ピレスパ錠 (一般名：ピルフェニドン). *分子呼吸器病* 13：106-108, 2009.
277. 榊原智博, 貫和敏博：非結核性抗酸菌の過敏性肺臓炎. *分子呼吸器病* 13：102-105, 2009.
278. 貫和敏博：第35回内科学の展望 内科学におけるガイドラインとその検証. *日本内科学会雑誌* 98：489-543, 2009.



279. 貫和敏博：特集「呼吸器における薬剤の現状と開発」びまん性肺疾患－特発性肺線維症（IPF）とビルフェニドン－. THE LUNG perspectives 17：270-273, 2009.
280. 太田洋充, 小野学, 榊原智博, 三木誠, 貫和敏博：呼吸器 X 線の読み方・診かた 非結核性抗酸菌症の非典型的な陰影. 総合臨床 58：364-369, 2009.
281. 海老名雅仁, 太田洋充, 宮庄拓, 廣田直, 玉田勉, 大河内眞也, 貫和敏博：特発性肺線維症の急性増悪発症病態に基づく早期診断と早期治療. 日本内科学会雑誌 98：150, 2009.
282. 大河内眞也, 海老名雅仁, 貫和敏博：呼吸器 X 線画像の読み方・診かた 過敏性肺臓炎の画像診断 早期の抗原回避で慢性化を防ごう. 総合臨床 58：497-501, 2009.
283. 菊地利明, 渡辺彰, 五味和紀, 藤村茂, 貫和敏博：多型縦列反復配列（VNTR）の菌遺伝子型による比結核性抗酸菌症の病勢予測. 感染症学雑誌 83：223, 2009.
284. 久田 修, 海老名雅仁, 貫和敏博：呼吸器 X 線画像の読み方・診かた 間質性肺炎の臨床経過. 総合臨床 58:710-715, 2009.
285. 光石陽一郎, 玉田勉, 海老名雅仁, 貫和敏博：呼吸器 X 線画像の読み方・診かた サルコイドーシスの画像所見 非乾酪性肉芽腫がつくりだす多彩な肺病変. 総合臨床 58：1293-1299, 2009.
286. 貫和敏博：びまん性肺疾患－特発性肺線維症（IPF）とビルフェニドン－. THE LUNG perspectives 17, 2009.
287. 五味和紀, 菊地利明, 貫和敏博：呼吸器 X 線画像の読み方・診かた 日和見感染症. 総合臨床 58：1631-1638, 2009.
288. 井上彰, 貫和敏博：呼吸器 X 線画像の読み方・診かた 見逃されやすい肺癌の陰影. 総合臨床 58：1838-1842, 2009.
289. 佐々木陽彦, 井上彰, 榊原智博, 福原達朗, 安田浩康, 貫和敏博：呼吸器 X 線画像の読み方・診かた 非小細胞肺癌における EGFR 変異例でのゲフィチニブ著効例. 総合臨床 58：2015-2018, 2009.
290. 貫和敏博：第106回日本内科学会講演会 招請講演 3. 間質性肺炎の臨床. 日本内科学会雑誌 98：2112-2113, 2009.

291. 玉田 勉, 海老名雅仁, 貫和敏博: 呼吸器 X 線画像の読み方・診かた 慢性閉塞性肺疾患 (COPD) の画像所見. 総合臨床 5 : 1449-1457, 2009.
292. 福原達朗, 井上彰, 佐々木陽彦, 貫和敏博: 呼吸器 X 線画像の読み方・診かた 薬剤性肺障害の画像診断 どんな薬剤でも起こりうる. 総合臨床 58 : 2156-2161, 2009.
293. 貫和敏博: 【間質性肺炎の成因と病態】肺線維症に対する臨床試験とは? 病態から考えられる患者選択と評価戦略. 炎症と免疫 17 : 691-695, 2009.
294. 貫和敏博: 【広範囲血液・尿化学検査免疫学的検査 [第 7 版] その数値をどう読むか】生化学的検査 蛋白関係  $\alpha$ 1アンチトリプシン. 日本臨床 67 : 広範囲血液・尿科学検査免疫学的検査 (1) 300-303, 2009.
295. 貫和敏博: 質疑応答 肺線維化抑制剤ピルフェニドンの薬理作用・適応. 日本医事新報 4486 : 78-79, 2010.
296. 久田修, 貫和敏博: 【ICU における重症肺疾患の早期診断・治療および予防】特発性肺線維症の急性増悪. ICU と CCU 34 : 3-9, 2010.
297. 小山正平, 貫和敏博, 石井健: 【呼吸器病学 TOPICS2009】感染症・結核 インフルエンザウイルスワクチンの考え方と自然免疫. 分子呼吸器病 14 : 42-45, 2010.
298. 貫和敏博, 井上彰: 画像で見る肺癌分子標的薬 EGFR-TKI 治療の著効例 (super-responder). (図説) 日本医事新報 4519 : 69-72, 2010.
299. 太田洋充, 海老名雅仁, 貫和敏博: 【間質性肺炎と肺線維症パラダイムシフト後の臨床】新規概念の展開テロメア遺伝子と特発性間質性肺炎. 治療学 44 : 537-541, 2010.
300. 榊原智博, 田澤立之, 井上彰, 五味和紀, 貫和敏博: 上皮成長因子受容体 (EGFR) 遺伝子変異を認めた肺癌の一家系. 家族性腫瘍 10 : 53, 2010.
301. 貫和敏博: 間質性肺炎臨床の何が変化しているか. 治療学 44 : 517-520, 2010.
302. 大河内真也, 貫和敏博: 治療の歴史 特発性肺線維症臨床試験のエビデンス形成. 治療学 44 : 612-616, 2010.

303. 貫和敏博, 加藤晃史, 田口善夫, 弦間昭彦, 酒井文和, 大江裕一郎: ゲファイチニブによる薬剤性間質性肺炎の管理 一般内科医への解説. 日本胸部臨床 69: 537-551, 2010.
304. 福原達朗, 井上彰, 貫和敏博: 【遺伝子検査の最近の展開 ヒトゲノム多様性と医療応用】 肺癌の遺伝子検査. 臨床検査 54: 1649-1654, 2010.
305. 榊原智博, 貫和敏博: イレッサの有効性. Medical Practice 27: 2144-2145, 2010.
306. 貫和敏博: 【特発性間質性肺炎 最近の進歩と展望】 遺伝子背景と病因論. 最新医学 66: 1108-1114, 2011.
307. 井上彰, 貫和敏博: 【がん患者の周術期管理のすべて】 術後のがん化学療法の実際 肺癌術後化学療法の実際. 外科治療 104増刊: 808-813, 2011.
308. 貫和敏博: 遺伝子背景と病因論. 最新医学 66: 24-30, 2011.
309. 貫和敏博: 呼吸器疾患の70年を振り返る 日本胸部臨床とともに (第7回) 間質性肺炎 日本の貢献, 世界への課題. 日本胸部臨床 70: 733-744, 2011.

国際学会・海外での講演及びセミナー

\* シンポジウム

1. Nukiwa T, Takagi H, Matsuoka R, Arai T, Kira S: Injury of Pulmonary Vasculature and Angiotensin Converting Enzyme. The Seventh Meeting of the Japanese Society for Microcirculation, Suita, 1982.2.
2. Nukiwa T, Matsuoka R, Takagi H, Arai T, Kira S: Unilateral Injury of Pulmonary Vasculature and Angiotensin. Symposium on Lung Water, Kyoto, 1983.4.16.
3. Nukiwa T: Molecular biology of alpha 1-PI variants. Gordon Research Conference. "Elastin". Kimball Union Academy, New Hampshire, 1987.8.
4. Nukiwa T: Idiopathic interstitial pneumonia in Japan: characteristics in the metabolic analysis and the diseases complicated. International Symposium on Pulmonary Fibrosis, Miyajima Hiroshima, 1993.2.

5. Nukiwa T: Status of the Japanese population with genetic defects found in three major causative genes for chest diseases. cornell university, NY, 1995.
6. Miki M, Nukiwa T: Approach to management of idiopathic pulmonary fibrosis (IPF) in Japan and prospective familial study for common accumulation. 1st International Conference on Asthma and Chest Diseases, Dhaka, Bangladesh, 1999.11.
7. Nukiwa T: Lung cancer: A therapeutic challenge of pulmonary medicine in the 21st century. 26<sup>th</sup> International Congress of Internal Medicine, Kyoto, 2002.5.
8. Nukiwa T: Gene transfer therapy: An investigative intervention for lung cancer. PIPKRA2004, Jakarta, 2004.2.
9. Nukiwa T: Meet the Professor Seminar Session: How do we define acute exacerbation in patients with IPF? American Thoracic Society The 101th International Conference, San Diego, 2005.5.
10. Nukiwa T: Lung adenocarcinoma and specific somatic mutations on epidermal growth factor receptor (EGFR) kinase domain: clinical and basic aspects. The 21st century COE program The 3<sup>rd</sup> international symposium on novel perspectives in cancer research and translation to the clinic, Sendai, 2006.11.
11. Nukiwa T: The Targeted Therapy for Cancer-Practical Issue: Should mutation testing be routine? YES. Asian Pacific Society of Respiratory, Australia, 2007.11.
12. Nukiwa T: Accumulation of activating mutations in EGF receptor kinase among patients with lung adenocarcinoma in Asia: biological implication and clinical aspects. Harasawa memorial Lecture, Asian Pacific Society of Respiratory 2007, Australia, 2007.11.
13. Nukiwa T: Exacerbation in interstitial lung disease; A clear picture? European Respiratory Society 2007, Stockholm, 2007.11.
14. Nukiwa T: Idiopathic pulmonary fibrosis and acute exacerbations-current concept and possible interventions, Bangladesh Lung Foundation Pulmocon 2008, Mini symposium v: Recent insights into interstitial lung disease, Bangladesh, 2008.
15. Nukiwa T: Molecular-targeted therapy for lung cancer: accumulation of activating somatic mutations in EGF receptor kinase among patients with lung adenocarcinoma in Asia. Master physicians Class in New Respiratory Pathologies for Pneumologists, Tokyo, 2009.3.

16. Nukiwa T: Idiopathic pulmonary fibrosis and acute exacerbation: current concept and possible interventions. Master physicians class in New Respiratory Pathologies For Pneumologists, Tokyo, 2009.3.
17. Nukiwa T: Translational medicine in lung fibrosis. Plenary Symposia (PS2) PIPKRA VIII, Jakarta, 2010.2.
18. Nukiwa T: Reverse Oncology: Clinical impact of EGFR activating mutation and the personalization of the future therapy. Integration of Targeted Agents in NSCLC Therapy PIPKRA VIII, Jakarta, 2010.2.
19. Nukiwa T: Lobule: Unit structure of mammalian lung and the source of current pulmonary diseases. Andalas University, West Smatra, 2010.2.
20. Nukiwa T: Reverse oncology: Clinical impact of EGFR activating mutation and the personalization of the future therapy. CNIO, Madrid, 2010.9.
21. Nukiwa T: Driver mutations in lung cancer gefitinib for NSCLC with mutated EGFR. The 2<sup>nd</sup> Guangzhou International Symposium on Oncology, 2011.5.
22. Nukiwa T: Why we failed to learn from Banda Aceh, Sumatra- What can doctors do immediately after the disaster? Cornell University, NY, 2011.6.

\*一般演題

1. Takahashi H, Nukiwa T, Matsuoka R, Arai T, Kira S: Carcinoembryonic antigen (CEA) in bronchoalveolar lavage fluid: especially in patients with idiopathic interstitial pneumonia (IIP). International Conference on Bronchoalveolar Lavage, Columbia, 1984.5.
2. Takahashi H, Nukiwa T, Matsuoka R, Arai T, Kira S: High carcinoembryonic antigen in the lower respiratory tract of patients of idiopathic interstitial pneumonia. The American Thoracic Society Annual Meeting, Miami, 1984.5.
3. Nukiwa T, Brantly ML, Paul L, Garver R, Courtney M, Tolstoshev P, LeCocq JP, Crystal, RG: Correlation of  $\alpha$ 1-antitrypsin genotype assessed by gene specific oligonucleotide probes with  $\alpha$ 1-antitrypsin phenotype. Am. Rev. Respir. Dis., Anaheim, 1985.5.

4. Garver RI, Brantly ML, Paul L, Nukiwa T, Courtney M, Tolstoshev P, LeCocq JP, Crystal RG: Structural analysis of the  $\alpha 1$ -antitrypsin gene coding for the "null" haplotype. *Am. Rev. Respir. Dis.*, Anaheim, 1985.5.
5. Nukiwa T, Brantly ML, Paul L, Garver R, Courtney M, Tolstoshev P, LeCocq JP, Crystal RG: Potential misdiagnosis using oligonucleotide probes to evaluate alpha 1-antitrypsin genotype in prenatal diagnosis. *Clin. Res.*, Washington D.C., 1985.5.
6. Garver RI, Monex J-F, Nukiwa T, Brantly ML, Paul L, Courtney M, LeCocq JP, Tolstoshev P, Crystal RG:  $\alpha 1$ -antitrypsin deficiency associated with the absence of a detectable RNA transcript of the  $\alpha 1$ -antitrypsin gene. *Clin. Res.*, Washington, D.C., 1985.5.
7. Nukiwa T, Satoh K, Garver R, Brantly M, Crystal RG: "Null" type  $\alpha 1$ -antitrypsin deficiency associated with the homozygous inheritance of a nonsense (amber) mutation. *Clin. Res.*, Washington, D.C., 1986.5.
8. Brantly ML, Nukiwa T, Stier L, Benavente A, Courtney M, Crystal RG: In vitro demonstration of the molecular basis of the secretory defect associated with expression of the A  $\alpha 1$ -antitrypsin gene. *Am. Rev. Respir. Dis.*, New Orleans, 1987.5.
9. Nukiwa T, Brantly ML, Ogushi F, Fells G, Satoh K, Stier L, Courtney M, Crystal RG: M1 (Ala213) type of  $\alpha 1$ -antitrypsin, a newly recognized, common "normal"  $\alpha 1$ -antitrypsin haplotype. *Am. Rev. Respir. Dis.*, New Orleans, 1987.5.
10. Satoh K, Takahashi H, Nukiwa T, Brantly M, Garver R, Courtney M, Crystal RG: Molecular basis of the "null" status of  $\alpha 1$ -antitrypsin deficiency. *Am. Rev. Respir. Dis.*, New Orleans, 1987.5.
11. Takahashi H, Nukiwa T, Ogushi F, Brantly M, Courtney M, Crystal RG: Identification and molecular analysis of a new variant of  $\alpha 1$ -antitrypsin characterized by marked reduction of serum level. *Am. Rev. Respir. Dis.*, New Orleans, 1987.5.
12. Setoguchi Y, Nukiwa T, Seyama K, Kira S: Lymphocytic interstitial pneumonia of different etiologies including a case of a human T cell lymphotropic virus type 1 (HTLV-1) carrier. American Thoracic Society Annual meeting, Kansas, 1989.5.

13. Takahashi S, Setoguti Y, Seyama K, Nukiwa T, Kira S: Soluble interleukin-2 receptor in patients with pulmonary tuberculosis. ACCP, XXI World congress on diseases of the chest and the 55<sup>th</sup> the Annual scientific assembly, Boston, 1989.10.
14. Setoguchi Y, Nukiwa T, Seyama K, Kira S: Detection of human T-cell Lymphotropic virus type 1 (HTLV-1) antibodies in sera of patients with lymphocytic interstitial pneumonia. ACCP, World congress on diseases of the chest and the 55<sup>th</sup> Annual scientific assembly, Boston, 1989.10.
15. Ueki J, Danbara T, Tamaki S, Nukiwa T, Kira S: How small volume of pleural effusion is enough for the diagnosis of malignancy? – a safe puncture under ultrasonic guidance. 1990 World Conferenge on Lung Health Iualtd, ALA, ATS, Boston, 1990.5.
16. Setoguchi Y, Takahashi S, Uchida K, Nukiwa T, Kira S: Detection of human T cell lymphotropic virus type I (HTLV-I) related antibodies in patients with diffuse panbronchiolitis (DPB). 1990 World Conference on Lung Health IUALTD, ALA, ATS, Boston, 1990.5.
17. Seyama K, Takabe K, Miyake K, Miyahara Y, Takahashi H, Nukiwa T, Kira S, Iiyama M: (Ser53 (TCC) to Phe53 (TTC)), a new  $\alpha$ 1-antitrypsin deficient variant in Janan. 1990 World Conference on Lung Health IUALTD, ALA, ATS, Boston, 1990.5.
18. Nukiwa T, Sakuraba S, Aiba M, Danbara T, Kira S: Does chronic inflammation milieu in the peripheral airspace act as promotor for high incidence carcinogenesis in patients with idiopathic interstitial pneumonia (IIP)? 1990 World Conference on Lung Health IUALTD, ALA, ATS, Boston, 1990.5.
19. Mimoto T, Saito H, Ueki J, Daobra T, Nukiwa T, Kira S: Diverse clinical pictures of intrathoracic neurogenic tumors. Joint international congress 2<sup>nd</sup> Asian Pacific Society of Respiriology and 5<sup>nd</sup> Indonesia association of pulmonologist, Bali, 1990.7.
20. Yamaguchi K, Obata K, Ueki J, Saito H, Danbara T, Nukiwa T, Kira S: Application of ultrasonically guided fine needle aspiration (UGNA) as a steady and safe approach to make diagnosis for mediastinal tumors. Joint international congress 2<sup>nd</sup> Asian Pacific Society of Respiriology and 5<sup>nd</sup> Indonesia association of pulmonologist, Bali, 1990.7.

21. Obata K, Ueki J, Danbara T, Aiba M, Doi Y, Tamaki S, Nukiwa T, Kira S: Usefulness of ultrasonically guided needle aspiration (UGNA) in diagnosis of pulmonary mycobacteriosis with nodular shadow in peripheral lung area. Joint international congress 2<sup>nd</sup> Asian Pacific Society of Respiriology and 5<sup>nd</sup> Indonesia association of pulmonologist, Bali, 1990.7.
22. Doi Y, Danbara T, FCCP, Ueki J, Obata K, Ienaga H, Nukiwa T, Kira S, FCCP: Radiographic visualization of pleural space under negative pleural pressure. American College of Chest Physicians 56<sup>th</sup> Annual Scientific Assembly, Toronto, 1990.10.
23. Saitou H, Danbara T, FCCP, Ienaga H, Nukiwa T, Kira S, FCCP: Significance of MRI as a non-invasive diagnostic modality for evaluation of cor pulmonale. American College of Chest Physicians 56<sup>th</sup> Annual Scientific Assembly, Toronto, 1990.10.
24. Homma S, Mimoto T, Nukiwa T, Kira S: Immunohistochemical localization of PDGF-B protein in bronchoalveolar lavage fluid and lung biopsy specimen of patients with interstitial lung diseases. Annual meeting of American lung association/American Thoracic Society, Anaheim, 1991.5.
25. Ohwada A, Takahashi H, Seyama K, Nukiwa T, Kira S: Gene analisis of a heterozygous protein c deficiency patient with pulmonary arterial thromboembolism. Annual meeting of American lung association American Thoracic Society, Anaheim, 1991.5.
26. Takahashi H, Ishidoh K, Muno D, Ohwada A, Nukiwa T, Kominami E, Kira S: Cathepsin L activity (potent elastinolysis and inactivation of a1-proteinase inhibitor) is increased in alveolar macrophages and alveolar lining fluid of smokers. Am. Rev. of Respir. Dis. 145 (4), A561, Miami Beach, 1992.5.
27. Takahashi K, Seyama K, Noto K, Yagita H, Okumura K, Nukiwa T, Kira S: Small cell lung cancer cell line produces 92kDa type IV collagenase by adhering to laminin with its receptor. Am. Rev. Respir. Dis. 145 (4), A667, Miami Beach, 1992.5.
28. Suzuki K, Tamura N, Takahashi S, Iwase A, Soma S, Nukiwa T, Nakata M, Yagita H, Kira S: Macrophages in the peripheral air space of interstitial lung diseases produce monocyte chemoattractant proten-1 Am. Rev. Respir. Dis. 145 (4), A180, Miami Beach, 1992.5.



29. Tamura N, Takahashi S, Soma S, Nukiwa T, and Kira S: Distinct selecting mechanism of lymphocytes in the alveolar and pleural spaces through lecam-1. *Am. Rev. Respir. Dis.* 145 (4), A189, Miami Beach, 1992.5.
30. Seyama K, Nukiwa T, Souma S, Kira S: Analysis of cystic fibrosis transmembrane conductance regulator gene using single strand conformational polymorphism and direct sequencing in patients with diffuse panbronchiolitis in japan. *Am. Rev. Respir. Dis.* 147 (4), A32, San Fransisco, 1993.5.
31. Ohnishi M, Satoh N, Seyama K, Nukiwa T, Kira S: Obese Smokers with hyperlipidemia are susceptible to chronic interstitial fibrosis: Analysis of Non-Respiratory Backgrounds for Idiopathic interstitial Pneumonia. American Thoracic Society, San Francisco, 1993.5.
32. Kikuchi T, Abe T, Matsushima K, Abe S, Narumi K, Sindoh S, Uematsu F, Sakai K, Satoh K, Nukiwa T: Functional characterization of the secretory leukoprotease inhibitor gene promoter. American Thoracic Society International Conference, Boston, 1994.5.
33. Sakai K, Satoh K, Matsushima K, Abe S, Kikuchi T, Narumi K, Uematsu F, Shindoh S, Abe T, Motomiya M, Nukiwa T: Hepatocyte growth factor, a multifunctional organ regeneration factor, is augmented in the bronchoalveolar lavage fluid and detected in the alveolar macrophages by in situ hybridization in patients with idiopathic pulmonary fibrosis. American Thoracic Society International Conference, Boston, 1994.5.
34. Satoh K, Narumi K, Matsushima K, Sakai T, Shindoh S, Kikuchi T, Uematsu F, Abe S, Abe T, Nukiwa T: Suppression of the 40 kDa-laminin binding protein expression of murine lung cancer cells by retroviral transfer of antisense RNA. American Thoracic Society International Conference. Boston, 1994.5.
35. Numasaki M, Kudo T, Nakamura K, Hanai N, Nukiwa T: Characterization and molecular cloning of a human monoclonal antibody TONO-1 reactive with squamous cell carcinoma of the lung. American Association of Cancer Research meeting, Toronto, 1995.5.
36. Uchiyama B, Mori Y, Sakai T, Yaekashiwa M, abe T, Satoh K, Nukiwa T: Unexpectedly high incidence of idiopathic pulmonary fibrosis (IPF) among siblings of patients with IPF in Japan. American Thoracic Society meeing, Seattle, 1995.5.

37. Satoh K, Narumi K, Tanaka M, Kikuchi K, Abe T, Nukiwa T: Suppressed expression of 40-kDa laminin binding protein reduces tumorigenicity of murine lung cancer cells. American Thoracic Society meeting, Seattle, 1995.5.
38. Satoh K, Narumi K, Sakai T, Shindoh S, Abe S, Tanaka M, Kikuchi T, Kikuchi T, Abe T, Nukiwa T: 40-kDa LBP is not necessarily a precursor of 67-kDa LR in lung cancer cells. American Thoracic Society 1995 International Conference, Seattle, 1995.5.
39. Yaekashiwa M, Onuma K, Sakai T, Mori Y, Abe T, Satoh K, Nakamura T, Nukiwa T: Hepatocyte growth factor (HGF) represses the inflammatory change on lung injury induced by bleomycin in murine. ALA/ATS 1995 International Conference, Seattle, 1995.5.
40. Yaekashiwa M, Onuma K, Sakai T, Mori Y, Abe T, Satoh K, Nakamura T, Nukiwa T: Hepatocyte growth factor (HGF) represses the inflammatory change in murine lung injury induced by bleomycin. Clinical Research Meeting, American Federation for Clinical Research, San Diego, 1995.5.
41. Onuma K, Yaegashi H, Chiba R, Nukiwa T, Takahashi T: The difference between the outer and the inner parts of the lung in terms of bronchial architecture. A 3-D morphometry of mouse lung. 9th International Conference on Diagnostic Quantitative Pathology, Heidelberg, 1995.10.
42. Suzuki S, Umezu Y, Abe Y, Kobayashi S, Satoh J, Saijo Y, Uchiyama B, Satoh K, Nukiwa T: IL-12 induced enhancement of MHC Class I antigen expression on cancer cells. Annual Meeting of American Association of Cancer Research, Washington DC, 1996.4.
43. Miki M, Kudo T, Ebina M, Nukiwa T: Specific reaction of newly established monoclonal antibody SA8-18 with poorly differentiated adenocarcinoma of the lung. Annual Meeting of American Association of Cancer Research, Washington DC, 1996.4.
44. Umezu Y, Suzuki S, Shirai N, Motegi K, Nukiwa T: Characterization of IL-12 induced effector cells and augmentation of susceptibility of tumor cells to effector cells by IL-12 gene-transduction. Annual Meeting of American Association of Cancer Research, Washington DC, 1996.4.

45. Ebina M, Nukiwa T, Steinberg S, Szabo E, Linnoila R: Abnormal expression of p53 and its down-regulation proteins in non-small cell lung cancer (NSCLC). A clinicopathological study. 1996 Annual Meeting of American Association of Cancer Research, Washington D.C., 1996.4.
46. Setoguchi Y, Iwakami S, Saijo Y, Noto K, Tamaki Y, Nukiwa T, Kira S: Induction of antitumor immunity for human lung cancer by using recombinant adenovirus expressing B7-1 (CD80) costimulatory molecule. American Thoracic Society 1996 International Conference, New Orleans, 1996.5.
47. Mahmud AM, Isawa T, Teshima T, Hirano T, Miki M, Nukiwa T: Radionuclide venography for functional assessment of superior vena cava syndrome patients. American Thoracic Society 1996 International Conference, New Orleans, 1996.5
48. Nakayama S, Yaekashiwa M, Onuma K, Sakai T, Abe T, Satoh K, Nakamura T, Nukiwa T: Simultaneous or delayed administration of HGF equally suppressed the fibrotic changes of the lung induced by bleomycin in mice. American Thoracic Society 1996 International Conference, New Orleans, 1996.5.
49. Setoguchi Y, Iwakami S, Saijo Y, Noto K, Tamaki Y, Nukiwa T, Kira S: Induction of autologous tumor-specific CTL for lung cancer by adenovirus vector expressing B7-1 (CD80) co-stimulatory molecules. American Thoracic Society 1996 International Conference, New Orleans, 1996.5.
50. Yaekashiwa M, Nakayama S, Saijo Y, Abe T, Satoh K, Hamada H, Saito I, Nakamura T, Nukiwa T: Gene therapy for lung injury and fibrosis: assessment of adenovirus vector carrying hepatocyte growth factor gene. Japanese Society of Gene Therapy, Tokyo, 1996.6.
51. Onuma K, Chiba R, Yaegashi H, Nukiwa T, Takahashi T: The significance of irregular branching of airways "Recurrent" and "Daughter" branching defined by 3-D morphometry of mouse lung and correlated with the grade of alveolitis after bleomycin administration. 10<sup>th</sup> International Conference On Diagnostic Quantitative Pathology, Sendai, 1996.10.
52. Mahmud AM, Isawa T, Teshima T, Miki M, Nukiwa T: Functional assessment of superior vena cava syndrome patients by radionuclide venography. The 6<sup>th</sup> Asia & Oceania Congress of Nuclear Medicine and Biology, Kyoto, 1996.10.

53. Xin H, Saijo Y, Tanaka M, Satoh K, Liu SO, Saijo K, Ohno T, Koike K, Hokuda K, Nukiwa T: Serial induction of cytotoxic T-lymphocytes for autologous adenocarcinoma of the lung, 1996 Annual Meeting of the Asian Pacific Society for Respiriology, Beijing, 1996.10.
54. Yaekashiwa M, Nakayama S, Onuma K, Abe T, Satoh K, Nakamura T, Nukiwa T: Simultaneous or subsequent administration of HGF equally suppressed the fibrotic changes of the lung induced by blomycin in mice. 1996 Annual Meeting of the Asian Pacific Society for Respiriology, Beijing, 1996.10.
55. Kanazawa H, Ebina M, Takahashi T, Fujimura S, Nukiwa T: The immunohistochemical and genetic approach to the clonality of adenosquamous carcinoma of the lung. 88<sup>th</sup> Annual Meeting of American Association of Cancer Research, San Diego, 1997.4.
56. Saijo Y, Xin H, Tanaka M, Tazawa R, Satoh K, Liu SO, Saijo K, Ohno T, Koike K, Ohkuda K, Nukiwa T: Improved induction of tumor-specific cytotoxic T lymphocytes response to autologous adenocarcinoma of the lung. 86<sup>th</sup> Annual Meeting of American Association of Cancer Research, San Diego, 1997.4.
57. Kikuchi T, Abe T, Tominaga Y, Satoh K, Nukiwa T: Cis-acting region associated with lung cell-specific expression of the secretory leukoprotease inhibitor gene. American Thoracic Society 1997 International Conference, San Francisco, 1997.5.
58. Nakayama S, Sakai T, Yaekashiwa M, Shimizu T, Satoh K, Abe T, Nukiwa T: What do cytokines in sera tell us about inflammatory status in patients with pulmonary fibrosis? American Thoracic Society 1997 International Conference, San Francisco, 1997.5.
59. Onuma K, Ebina M, Takahashi T, Fujimura S, Nukiwa T: Possible roles of vascular growth factors in the pathogenesis of interstitial pneumonitis. American Thoracic Society 1997 International Conference, San Francisco, 1997.5.
60. Tominaga Y, Abe T, Kikuchi T, Watanabe A, Satoh K, Nukiwa T: Direct evidence for augmented expression of secretory leukoprotease inhibitor mRNA in bacterial pneumonia of mouse lung. American Thoracic Society 1997 International Conference, San Francisco, 1997.5.

61. Yaekasiwa M, Nakayama S, Saijo T, Abe T, Satoh K, Nakamura T, Nukiwa T: Treatment of lung fibrosis induced by bleomycin using adenovirus vector carrying hepatocyte growth factor (HGF) Gene. American Thoracic Society 1997 International Conference, San Francisco, 1997.5.
62. Tanaka M, Saijo Y, Tazawa R, Satoh K, Nukiwa T: Significance of different cell types for human IL-12 gene transduction. Japanese Society of Gene Therapy, Tokyo, 1997.6.
63. Abe T, Kikuchi T, Hoshi Y, Tominaga Y, Satoh K, Nukiwa T: Structure of the murine secretory leukoprotease inhibitor (SLPI) gene. European Respiratory Society Annual Congress, Berlin, 1997.9.
64. Uchiyama B, Matsubara N, Tominaga Y, Abe T, Satoh K, Nukiwa T: Intensive interview and examination of family members revealed more than 30% incidence of familial clustering of pulmonary fibrosis. European Respiratory Society Annual Congress, Berlin, 1997.9.
65. Abe S, Sakai T, Shindo S, Abe T, Satoh K, Nukiwa T: Expressions of CD26 and ADA were concomitantly increased on bronchoalveolar lveage fluid (BALF) lymphocytes from patients with pulmonary sarcoidosis. ALA International Conference, Chicago, 1998.4.
66. Inooka N, Ebina M, Kanazawa H, Shimizugawa M, Saijo Y, Takahashi T, Fujimura S, Nukiwa T: Cytokines produced by non-small cell lung cancer (NSCLC) tumors as a shield evading immuno-cytotoxic reaction. American Thoracic Society International Conference, Chicago, 1998.4
67. Kanazawa H, Ebina M, Inooka N, Shimizugawa M, Takahashi T, Fujimura S, Nukiwa T: Aberrant transcription of IRF-1, IRF-2 and FHIT in non-small cell lung cancer (NSCLC). American Thoracic Society International Conference, Chicago, 1998.4.
68. Kikuchi T, Abe T, Tominaga Y, Hoshi S, Matsubara N, Satoh K, Nukiwa T: Chromosomal localization of human and murine genes encoding secretory leukoprotease inhibitor. American Thoracic Society 1998 International Conference, Chicago, 1998.4
69. Matsubara N, Sugawara S, Ono S, Saijo Y, Abe T, Nukiwa T: Retrospective study of the relationship between lung cancer and subclinical pulmonary abnormalities in computed tomography (CT). American Thoracic Society International Conference, Chicago, 1998.4.

70. Shimizugawa M, Ebina M, Onuma K, Kanazawa H, Nakayama S, Yaekashiwa M, Takahashi T, Fujimura S, Nukiwa T: Angiogenetic factors, VEGF and bFGF, as possible pathogenic contribution to interstitial pneumonia. American Thoracic Society International Conference, Chicago, 1998.4.
71. Takahashi H, Tokue Y, Kikuchi T, Nukiwa T, Watanabe A: Retrospective survey of Q fever in Japan by using PCR to detect Coxiella Burnetii DNA in bronchoalveolar lavage fluids. American Thoracic Society International Conference, Chicago, 1998.4.
72. Abe S, Sakai T, Shindo S, Abe T, Satoh K, Nukiwa T: Expression of CD26 and ADA were concomitantly increased on bronchoalveolar lavage fluid (BALF) lymphocytes from patients with pulmonary sarcoidosis. American Thoracic Society International Conference, Chicago, 1998.4.
73. Fujimura S, Tokue Y, Kobayashi T, Abe T, Nukiwa T, Watanabe A: A newly recognized 4' aminoglycoside acetyltransferase in arbekacin-resistant strains of methicillin-resistant Staphylococcus aureus. 38<sup>th</sup> Interscience Conference on Antimicrobial Agents and Chemotherapy, San Diego, 1998.9.
74. Sato G, Saijo Y, Uchiyama B, Satoh K, Fujimura S, Handa M, Koike K, Okuda K, Nukiwa T: Expression of nucleolar protein p120 predicts prognosis of lung adenocarcinoma. American Association of Cancer Research Eighty-Ninth Annual Meeting, New Orleans, 1998.
75. Tanaka M, Saijo Y, Tazawa R, Satoh K, Nukiwa T: Enhancement of antitumor effect by dual transduction of murine IL-2 and IL-12 genes to Lewis lung carcinoma. Am Soc Gene Therapy, Seattle, 1998.
76. Tazawa R, Tanaka M, Suzuki T, Narumi K, Sugawara S, Saijo Y, Satoh K, Nukiwa T: Effect of ex vivo transfection of Mycobacterium tuberculosis heat shock protein 70 gene on the tumorigenesis of mouse lung cancer 3LL cells. Japanese Society of Gene Therapy, Tokyo, 1998.6.
77. Tanaka M, Saijo Y, Tazawa R, Satoh K, Nukiwa T: Dual transduction of murine IL-12 and IL-2 genes enhances host antitumor defence against Lewis lung carcinoma. 5<sup>th</sup> Congress of the Asian Pacific Society of Respiriology, Sydney, 1998.10.
78. Satoh K, Narumi K, Saijo Y, Nukiwa T: Depressed expression of the 37-kDa laminin binding protein (37LBP) affects angiogenesis in murine lung tumor. 5<sup>th</sup> Congress of the Asian Pacific Society of Respiriology, Sydney, 1998.10.

79. Ino-oka N, Ebina M, Shimizukawa M, Abe T, Fukumoto M, Fujimura S, Nukiwa T: SLPI and IL-10 as possible armaments for non-small cell lung cancer against anti-cancer immunoreactions. American Association of Cancer Research Annual Meeting, Philadelphia, 1999.
80. Miki M, Hoshi S, Abe T, Ebina M, Kikuchi T, Mori Y, Yaekashiwa M, Nakamura A, Satoh K, Nukiwa T: Bronchial epithelial cells showed augmented expression of secretory leukoprotease inhibitor (SLPI) gene in bacterial pneumonia. ALA/ATS International Conference, San Diego, 1999.4.
81. Gomi K, Tokue Y, Kobayashi T, Takahashi H, Kikuchi T, Watanabe A, Nukiwa T: High frequent heterozygous and monozygous mutation in codon 54 of mannose-binding lectin gene exists among patients with repeated respiratory infection in Japan. ALA/ATS International Conference, San Diego, 1999.4.
82. Maemondo M, Narumi K, Tanaka M, Saijo Y, Satoh K, Tahara M, Nakamura T, Nukiwa T: Adenoviral mediated hepatocyte growth factor antagonist (HGF/NK4) gene transfer suppresses human lung cancer in vivo in mice. American Society of Gene Therapy, 2<sup>nd</sup> Annual Meeting, Washington, D.C., 1999.6.
83. Maemondo M, Narumi K, Tanaka M, Saijo Y, Satoh K, Tahara M, Nakamura T, Nukiwa T: Adenoviral mediated hepatocyte growth factor antagonist (HGF/NK4) gene transfer suppresses human lung cancer in vivo in mice. American Association of Cancer Research 91<sup>st</sup> Annual Meeting, San Francisco, 2000.4.
84. Ohkouchi S, Tanaka M, Saijo Y, Nukiwa T: Induction of HLA-A24-restricted Cytotoxic T Lymphocytes in vitro by Cyclophilin B peptides from patients with lung cancer. American Association of Cancer Research 91<sup>st</sup> Annual Meeting, San Francisco, 2000.4.
85. Takahashi H, Tokue Y, Gomi K, Kobayashi T, Kikuchi T, Nukiwa T, Watanabe A: Prevalence of Q fever in Japan among patients with community acquired respiratory infection. American Thoracic Society 2000 International Conference, Toronto, 2000.5.
86. Tazawa R, Prasenohadi, Tanaka M, Satoh G, Narumi K, Saijo Y, Satoh K, Nukiwa T: Ex vivo transfection of Prostaglandin (PG) I2 synthase gene reduced tumor growth of Lewis lung carcinoma (LLC) cells. American Thoracic Society 2000 International Conference, Toronto, Canada, 2000.5

87. Tanaka M, Saijo Y, Sato G, Suzuki T, Tazawa R, Satoh K, Nukiwa T: Semi-quantitative assessment of combined immunogene therapy using IL-2 and IL-12 in low antigenic carcinoma for effective anti-tumor response. American Thoracic Society 2000 International Conference, Toronto, Canada, 2000.5.
88. Akiyama K, Miki M, Narumi K, Ebina M, Yaekashiwa M, Nakamura A, Nakamura T, Nukiwa T: Effect of hepatocyte growth factor on lung injury and development of clinical application. 43<sup>rd</sup> Annual Meeting of Aspen Lung Conference, Aspen, Colorado, 2000.6.
89. Miki M, Akiyama K, Ebina M, Saijo Y, Narumi K, Yaekashiwa M, Nakamura A, Nakamura T, Nukiwa T: Adenoviral mediated hepatocyte growth factor (hgf) gene transfer ameliorates bleomycin-induced pulmonary fibrosis. 3<sup>rd</sup> Annual Meeting of American Society of Gene Therapy, Denver, Colorado, 2000.6.
90. Miki M, Akiyama K, Ebina M, Narumi K, Yaekashiwa M, Nakamura A, Nakamura T, Nukiwa T: Intraperitoneal adenoviral mediated hepatocyte growth factor (huff) gene transfer ameliorates bleomycin-induced pulmonary fibrosis more effective than intratracheal administration. 6<sup>th</sup> Annual Meeting of Japan Society of Gene Therapy, Tokyo, 2000.7.
91. Kobayashi T, Tateda K, Matsumoto M, Takahashi H, Watanabe A, Nukiwa T, Yamaguchi K: Macrolide-treated *Pseudomonas aeruginosa* induce paradoxical host responses in the lung and high mortality in mice. 41<sup>st</sup> Annual Meeting of the Japanese Respiratory Society. Tokyo, 2001.4.
92. Usui K, Narumi K, Saijo Y, Hagiwara K, Nukiwa T, Ishibashi Y, Ohta S: Pore forming domain of bax induces effective apoptosis in non-small lung cancer cells. American Association of Cancer Research 92<sup>nd</sup> Annual Meeting, New Orleans, 2001.4.
93. Tazawa R, Prasenhadi P, Tanaka M, Usui K, Narumi K, Saijo Y, Hagiwara K, Nukiwa T: Ex vivo transfection of thromboxane (TX) A2 synthase gene/prostaglandin (PG) I2 synthase gene altered the tumor growth and angiogenesis of C26 colon cancer cells. American Association of Cancer Research 92<sup>nd</sup> Annual Meeting, New Orleans, 2001.4.
94. Kobayashi T, Tateda K, Matsumoto M, Takahashi H, Watanabe A, Yamaguchi K, Nukiwa T: Macrolide-treated *Pseudomonas aeruginosa* induce paradoxical host responses in the lungs and high mortality in mice. 2001 International Conference of American Lung Association and American Thoracic Society. San Francisco, 2001.5.



95. Ishimoto O, Narumi K, Kimura Y, Matsubara N, Asou N, Nakai Y, Ebina M, Saijo Y, Nukiwa T: High level of Vascular Endothelial Growth factor (VEGF) in pleural effusion: VEGF in tuberculosis and malignancy. American Thoracic Society 97<sup>th</sup> International Conference, San Francisco, 2001.5.
96. Koinuma D, Ebina M, Shimizukawa M, Narumi K, Miki M, Satoh K, Watanabe M, Munakata H, Nukiwa T: Anti-fibrotic effect of adenoviral mediated decorin cDNA on bleomycin-induced pulmonary fibrosis of mouse. American Thoracic Society 97<sup>th</sup> International Conference, San Francisco, 2001.5.
97. Miki M, Akiyama K, Watanabe M, Ebina M, Narumi K, Shimizukawa M, Maemondo M, Nakamura A, Koinuma D, Nakamura T, Nukiwa T: Intraperitoneal adenoviral mediated hepatocyte growth factor (HGF) gene transfer ameliorates bleomycin-induced lung injury more effectively than intratracheal injection. American Thoracic Society 97<sup>th</sup> International Conference, San Francisco, 2001.5.
98. Kikuchi T, Hagiwara K, Honda Y, Gomi K, Takahashi H, Watanabe M, Nukiwa T: Tumor necrosis factor-alpha production from human monocytes is repressed by clarithromycin at a messenger RNS level in mycobacterium avium infection . American Thoracic Society 97<sup>th</sup> International Conference, San Francisco, 2001.5.
99. Kobayashi T, Tateda K, Matsumoto T, Takahashi H, Watanabe A, Nukiwa T, Yamaguchi K: Macrolide-treated pseudomonas aeruginosa induce paradoxical host response in the lung and high mortality in mice involvement: of erastase overproduction probabry as a rebound phenomenon. American Thoracic Society 97<sup>th</sup> International Conference, San Francisco, 2001.5.
100. Uchida K, Nakata K, Kitamura T, Tanaka N, Inoue Y, Sakatani M, Kudoh S, Azuma A, Nukiwa T, Tsuchiya T, Matsushita I, Hashimoto M, Tanaka G, Keicho N: Epitope mapping of Autoantibody against GM-CSF isolated from sera of patients with idiopathic pulmonary alveolar proteinosis. American Thoracic Society 97<sup>th</sup> International Conference, San Francisco, 2001.5.
101. Hagiwara K, Hoshi S, Miki M, Nukiwa T: Molecular cloning of mouse small molecular protease inhibitors ELM1 and ELM2 which have structural similarities with human elafin. American Thoracic Society 97<sup>th</sup> International. Conference, San Francisco, 2001.5.
102. Maemondo M, Narumi K, Saijo Y, Usui K, Kikuchi T, Tazawa R, Hagiwara K, Takahashi M, Niitsu Y, Nukiwa T: A replication-selective adenovirus treatment for secretory leukoprotease inhibitor (SLPI) producing lung cancer cells. 4<sup>th</sup> Annual Meeting of ASGT, Seattle, Washington, 2001.5.

103. Usui K, Koyama S, Narumi K, Saijo Y, Hagiwara K, Ishibashi Y, Ohta S, Nukiwa T: Pore forming domain of Bax (deltaN Bax without BH3 domain) induces effective cell death in non-small cell lung cancer cells. 4<sup>th</sup> Annual Meeting of ASGT, Seattle, Washington, 2001.5.
104. Ebina M, Shimizukawa M, Narumi K, Miki M, Koinuma D, Watanabe M, Munakata H, Nukiwa T: Towards an effective gene therapy for idiopathic pulmonary fibrosis: Anti-inflammation, anti-fibrosis and regeneration. 44<sup>th</sup> Annual Meeting of Aspen Lung Conference, Aspen, Colorado, 2001.6.
105. Ishimoto O, Tazawa R, Miki M, Ebina M, Saito J, Nakata K, Nukiwa T: Efficacy of aerosolized granulocyte-macrophage colony stimulating factor (GM-CSF) in a Japanese female patient with alveolar proteinosis (PAP), 11<sup>th</sup> European Respiratory Society Annual Congress, Berlin, 2001.9.
106. Kobayashi T, Takahashi H, Gomi K, Tokue Y, Kikuchi T, Watanabe A, Fujita T, Nukiwa T: Relevance of mannose-binding lectin (MBL) polymorphism in repeated respiratory infections.?11<sup>th</sup> European Respiratory Society Annual Congress. Berlin, 2001.9.
107. Prasenohadi P, Tazawa R, Maemondo M, Tanaka M, Usui K, Narumi K, Kikuchi T, Saijo Y, Hagiwara K, Nukiwa T: Gene transfer of prostaglandin (PG) I2 synthase increases the anti-tumor effect of indomethacin. 93<sup>rd</sup> Annual Meeting of the American Association for Cancer Research, San Francisco, 2002.4.
108. Suzuki T, Fukuhara T, Tanaka M, Saijo Y, Kikuchi T, Tazawa R, Hagiwara K, Nukiwa T: Induction of antitumor immunity by fusion of cancer cells with APCs: Comparison of allogeneic vs. syngeneic and dendritic cells vs. macrophages. 93<sup>rd</sup> Annual Meeting of the American Association for Cancer Research, San Francisco, 2002.4.
109. Huqun, Hagiwara K, Xin H, Nukiwa T: A naturally occurring p73 mutation in a lung cancer cell line encodes a protein with a dominant negative function. 93<sup>rd</sup> Annual Meeting of the American Association for Cancer Research, San Francisco, 2002.4.
110. Watanabe M, Ebina M, Miki M, Tahara M, Hagiwara K, Nakamura T, Nukiwa T: Hepatocyte growth factor gene therapy of bleomycin-induced pulmonary fibrosis by transfer of naked plasmid DNA. American Thoracic Society 98<sup>th</sup> International Conference, Atlanta, 2002.5.

111. Miki M , Watanabe M, Ebina M, Kimura Y, Hagiwara K, Nukiwa T: Topography of the hepatocyte growth factor (HGF) mRNA expression in the mouse bacterial pneumonia. American Thoracic Society 98<sup>th</sup> International Conference, Atlanta, 2002.5.
112. Ebina M, Ino-oka N, Prasenohadi P, Tazawa R, Watanabe M, Hagiwara K, Saijo Y, Ohtani H, Nukiwa T: Secretary Leukocyte Protease Inhibitor (SLPI) negatively regulates host immune responses and tumor progression in Non-Small Cell Lung Cancer (NSCLC). American Thoracic Society 98<sup>th</sup> International Conference, Atlanta, 2002.5.
113. Maemondo M , Narumi K, Saijo Y, Usui K, Kikuchi T, Tazawa R, Hagiwara K, Takahashi M, Niitsu Y, Nukiwa T: A replication-competent adenovirus controlled by Secretary Leukoprotease Inhibitor (SLPI) gene promoter selectively suppressed lung cancer cell tumor. American Thoracic Society 98<sup>th</sup> International Conference, Atlanta, 2002.5.
114. Nakata K, Uchida K, Terakawa T, Inoue Y, Sakatani M, Kudoh S, Azuma A, Nukiwa T, Tsuchiya T, Umemori K, Kamio K, Mushita I, Tanaka G, Keicho N: High avidity GM-CSF neutralizing autoantibody in the sera of patients with idiopathic pulmonary alveolar proteinosis. American Thoracic Society 98<sup>th</sup> International Conference, Atlanta, 2002.5.
115. Hagiwara K, Kikuchi T, Ino-oka N, Hoshi S, Takahashi M, Miki M, Nukiwa T: Mouse ELM1 (Elafin-Like Molecule 1) is an anti-bacterial peptide protein induced in lung inflammation. American Thoracic Society 98<sup>th</sup> International Conference, Atlanta, 2002.5.
116. Tazawa R, Ishimoto O, Miki M, Ebina M, Hagiwara K, Nakata K, Nukiwa T: Aerosolized Granulocyte-Macrophage Colony Stimulating Factor (GM-CSF) treatment reduced Anti-GM-CSF antibody in bronchoalveolar lavage fluid (BALF) of a patient with Pulmonary Alveolar Proteinosis (PAP). American Thoracic Society 98<sup>th</sup> International Conference, Atlanta, 2002.5.
117. Azuma A, Tsuboi E, Abe S, Nukiwa T, Nakata K, Nagai S, Taguchi Y , Suga M, Itoh H, Ohi H, Sato A, Kudoh S: A placebo control and double blind phase II clinical study of pirfenidone in patients with idiopathic pulmonary fibrosis in Japan. American Thoracic Society 98<sup>th</sup> International Conference, Atlanta, 2002.5.

118. Sakakibara T, Fukuhara T, Usui K, Miki M, Ebina M, Nukiwa T: Idiopathic pulmonary fibrosis is susceptible to the fungus infections when treated with steroid pulse therapy. American Thoracic Society 98<sup>th</sup> International Conference, Atlanta, 2002.5.
119. Miki M, Ebina M, Kimura Y, Sakakibara T, Nukiwa T: Clinical significance of KL-6 (MUC1) and surfactant protein D as serum markers for evaluating idiopathic pulmonary fibrosis, collagen vascular disease associated interstitial pneumonia and BOOP. American Thoracic Society 98<sup>th</sup> International Conference, Atlanta, 2002.5.
120. Kimura Y, Ebina M, Hoshi S, Sakakibara T, Ono S, Horikoshi M, Shindo S, Miki M, Watanabe M, Nukiwa T: Serum level of surfactant protein D (SP-D) is elevated in asymptomatic patients in early stages of idiopathic pulmonary fibrosis. American Thoracic Society 98<sup>th</sup> International Conference, Atlanta, 2002.5.
121. Kikuchi T, Saijo Y, Maemondo M, Narumi K, Nukiwa T: Tumor regression induced by intratumor administration of adenovirus vector expressing NK4, a four-kringle antagonist of hepatocyte growth factor, and naive dendritic cells. The 5<sup>th</sup> Annual Meeting of American Society of Gene Therapy, Boston, 2002. 6.
122. Watanabe M, Ebina M, Miki M, Tahara M, Hagiwara K, Nakamura T, Nukiwa T: Systemic Administration of Naked Plasmid Encoding Hepatocyte Growth Factor Ameliorates Bleomycin-Induced Pulmonary Fibrosis. The 5<sup>th</sup> Annual Meeting of American Society of Gene Therapy, Boston, 2002. 6.
123. Ebina M, Ono S, Horikoshi M, Miki M, Nukiwa T: Early stage asymptomatic (HRCT detectable) patients with IPF showed augmented serum surfactant protein D (SP-D). European Respiratory Society, Stockholm, 2002.9.
124. Konishi K, Maemondo M, Sakakibara T, Saijo Y, Tanaka M, Tazawa R, Hagiwara K, Nagai M, Sakai K, Motomura M, Nukiwa T: A case report: Lambert-Eaton myasthenic syndrome and limbic encephalitis associated in a patient with small cell lung cancer. The 7<sup>th</sup> Congress of Asian Pacific Society of Respiriology. Taiwan, 2002.10.
125. Fujiwara H, Kubota T, Amaike H, Inada S, Takashima K, Yosimura M, Atsuji K, Maemondo M, Nukiwa T, Matsumoto K: Suppression of peritoneal dissemination of gastric cancer by adenoviral vector-mediated NK4 gene transfer in mice. American Association for cancer Research 94<sup>th</sup> Annual Meeting 2003, Toronto, 2003.4.

126. Murakami M, Saimura M, Nagai E, Mizumoto K, Maemondo M, Nukiwa T, Matsumoto K, Nakamura T, Tanaka M: Suppression of liver metastasis of human pancreas cancer by transportal injection of recombinant adenovirus NK4 in nude mice. American Association for cancer Research 94<sup>th</sup> Annual Meeting 2003, Toronto, 2003.4.
127. Saimura M, Nagai E, Mizumoto K, Katano M, Matsumoto K, Nakamura T, Maemondo M, Nukiwa T, Tanaka M: Peritumoral injection of adenoviral vector bearing NK4 Gene suppresses growth of orthotopically implanted pancreatic cancer cells in nude mice. American Association for Cancer Research 94<sup>th</sup> Annual Meeting 2003, Toronto, 2003.4.
128. Suzuki T, Fukuhara T, Saijo Y, Tanaka M, Nakamura A, Kikuchi T, Maemondo M, Tazawa R, Hagiwara K, Nukiwa T: Induction of enhanced antitumor immunity by fusion of Interleukin-12 gene-modified cancer cells with dendritic cells. American Association for Cancer Research 94<sup>th</sup> Annual Meeting 2003, Toronto, 2003.4.
129. Xing H, Kikuchi T, Ohkouchi S, Suzuki T, Prasenhadi P, Honjo T, Nukiwa T, Saijo Y: Gene transfer of CX3C chemokine to murine colon carcinoma C26 suppresses tumor growth in vivo. American Association for Cancer Research 94<sup>th</sup> Annual Meeting 2003, Toronto, 2003.4.
130. Ebina M, Simizukawa M, Kimura Y, Kondo T, Suzuki T, Nukiwa T: Three-dimensional reconstruction of alveolar septa in usual interstitial pneumonia (UIP) reveals remodeling patterns of alveolar capillaries. American Thoracic Society 99<sup>th</sup> International Conference, Seattle, 2003.5.
131. Kimura Y, Ebina M, Horikoshi M, Kobayashi T, Ono S, Nukiwa T: Elevation of serum level of surfactant protein D (SP-D) predictis honeycomb lesions on HRCT. American Thoracic Society 99<sup>th</sup> International Conference, Seattle, 2003.5.
132. Shimizukawa M, Ebina M, Inoue A, Kimura Y, Ohkouchi S, Gomi K, Maemondo M, Saijo Y, Nukiwa T: Acute onset of interstitial pneumonia in the patients with non-small cell lung cancer (NSCLC) treated with gefitinib. American Thoracic Society 99<sup>th</sup> International Conference, Seattle, 2003.5.
133. Tazawa R, Ishimoto O, Ohta H, Maemondo M, Ebina M, Hagiwara K, Nakata K, Nukiwa T: Aerosolized Granulocyte-Macrophage colony stimulating Factor (GM-CSF) as treatment for pulmonary alveolar proteinosis (PAP). American Thoracic Society 99<sup>th</sup> International Conference, Seattle, 2003.5.

134. Maemondo M, Narumi K, Saijo Y, Kikuchi T, Tazawa R, Takahashi M, Niitsu Y, Nukiwa T: A replication-competent adenovirus controlled by secretory leukoprotease inhibitor(SLPI) gene promoter is selective gene therapy for non-small cell lung cancer. ASGT 6<sup>th</sup> Annual Meeting, Washington, DC, 2003.6.
135. Suzuki T, Fukuhara T, Tanaka M, Tazawa T, Saijo Y, Nukiwa T: Induction of enhanced antitumor immunity by fusion of interleukin-12 gene-modified cancer cells with dendritic cells. European Respiratory Society Annual Congress 2003, Austria, 2003.9-10.
136. Tazawa R, Ishimoto O, Ohta M, Suzuki T, Maemondo M, Ebina M, Hagiwara K, Nakata K, Nukiwa T: Granulocyte-macrophage colony stimulating factor inhalation therapy as a treatment for pulmonary alveolar proteinosis. European Respiratory Society Annual Congress 2003, Austria, 2003.9-10.
137. Konishi K, Ebina M, Shimizukawa M, Inoue A, Kimura Y, Ohkouchi S, Gomi K, Maemondo M, Saijo Y, Nukiwa T: Diffuse alveolar damage in the patients with NSCLC treated with gefitinib; analysis of 15 cases. 8th Asian Pacific of Society Respirology, Kuala Lumpur, 2003.12.
138. Kimura Y, Ebina M, Ohkouchi S, Koinuma D, Hisata S, Tazawa R, Sasano T, Nukiwa T: Thyroid transcription factor-1 expression in development of human fetal lungs and interstitial lung disease. 100<sup>th</sup> American Thoracic Society International Conference, Orlando, 2004.5.
139. Inoue Y, Arai E, Hamano K, Nakata R, Tazawa R, Nukiwa T, Kudo K, Keicho N, Hizawa N, Yamaguchi E, Eda R, Oishi K, Uchida K, Sakatani M: Idiopathic pulmonary alveolar proteinosis in Japan (epidemiological study). 100<sup>th</sup> American Thoracic Society International Conference, Orlando, 2004.5.
140. Andarini S, Kikuchi T, Nukiwa T: Antitumor immunity induced by adenovirus vector-mediated transduction of OX40 ligand. 100<sup>th</sup> American Thoracic Society International Conference, Orlando, 2004.5.
141. Ohkouchi S, Kimura Y, Ebina M, Nukiwa T: Cyclosporin a provides a promising therapy for the patients with interstitial pneumonia resistant to steroid therapy. 100<sup>th</sup> American Thoracic Society International Conference, Orlando, 2004.5.
142. Ebina M, Watanabe M, Koinuma D, Ohkouchi S, Kimura Y, Orson FM, Nukiwa T: Anti-apoptosis is the main mechanism against bleomycin-induced lung fibrosis by hepatocyte growth factor (HGF) Gene transfer to alveolar septa. 100<sup>th</sup> American Thoracic Society International Conference, Orlando, 2004.5.

143. Konishi K, Maemondo M, Suzuki T, Inoue A, Saijo Y, Nukiwa T: Study of FDG-PET positivity in patients of non small cell lung cancer (NSCLC) with mediastinal lymph nodes under 1cm in CT images. 9<sup>th</sup> Congress of the Asian Pacific Society of Respiriology, Hong Kong, 2004.12.
144. Hisata S, Yara S, Nukiwa M, Suzuki T, Tazawa R, Kimura Y, Ebina M, Nukiwa T: Analysis of nucleotide substitutions in SFTPC and SFTPB genes in young patients with familial pulmonary fibrosis or NSIP in Japan. American Thoracic Society The 101<sup>th</sup> International Conference, San Diego, 2005.5.
145. Andarini S, Nukiwa M, Kikuchi T, Xin H, Mizuguchi H, Ohkouchi S, Konishi K, Tazawa R, Ebina M, Saijo Y, Nukiwa T: Induction of antitumor immunity by intratumoral administration of dendritic cells genetically modified to express fractalkine (CX3CL1). American Thoracic Society The 101<sup>th</sup> International Conference, San Diego, 2005.5.
146. Suzuki T, Maemondo M, Inoue A, Sakakibara T, Konishi K, Kimura Y, Fukuhara T, Tahara M, Kikuchi T, Tazawa R, Saijo Y, Nukiwa T: Prospective study of EGFR mutations analysis in patients with NSCLC: A step to personalized medicine in solid tumor. American Thoracic Society The 101<sup>th</sup> International Conference, San Diego, 2005.5.
147. Ebina M, Kimura Y, Shibata N, Konishi K, Ishizaka A, Hashimoto S, Maruyama I, Nukiwa T: High mobility group protein (HMGB1) as a possible mediator of acute exacerbation in idiopathic pulmonary fibrosis. American Thoracic Society The 101<sup>th</sup> International Conference, San Diego, 2005.5.
148. Konishi K, Ebina M, Sato Y, Shibata N, Kimura Y, Ohkouchi S, Nukiwa T: Production of vasohibin, a new negative feedback regulator of angiogenesis, in idiopathic pulmonary fibrosis. American Thoracic Society The 101<sup>th</sup> International Conference, San Diego, 2005.5.
149. Hagiwara K, Huqun, Izumi S, Uchiyama B, Tanaka S, Ishida T, Tazawa R, Kanazawa M, Yoshimura K, Nukiwa T, Tachibana T, Kudoh K: Identification of a chromosome location linked to pulmonary alveolar Microlithiasis (PAM). American Thoracic Society The 101<sup>th</sup> International Conference, San Diego, 2005.5.
150. Kimura Y, Ebina M, Shibata N, Konishi K, Okouchi S, Nukiwa T: Inconsistent elevations of serum markers, surfactant proteins and KL-6, Are based on different pathophysiology in interstitial pneumonias. American Thoracic Society The 101<sup>th</sup> International Conference, San Diego, 2005.5.

151. Tazawa R, Pradono P, Koinuma D, Ohkouchi S, Kimura Y, Ebina M, Nukiwa T: Gene transfer of prostaglandin I2 synthase and thromboxane A2 synthase in a murine model of bleomycin-induced lung fibrosis. American Thoracic Society The 101<sup>th</sup> International Conference, San Diego, 2005.5.
152. Ohkouchi S, Abe T, Nakata K, Taguchi Y, Ebina M, Nukiwa T: Evaluation of prognosis and frequency of acute exacerbation in patients with IPF using basic clinical parameters at the first visit: A retrospective analysis of 67 cases. American Thoracic Society The 101<sup>th</sup> International Conference, San Diego, 2005.5.
153. Xin H, Kanehira M, Mizuguchi H, Hayakawa T, Nukiwa T, Saijo Y: Tumor-targeting immunogene therapy by mesenchymal stem cells expressing CX3CL1. The 8<sup>th</sup> Annual meeting of the American Society of Gene Therapy, St Louis, 2005.6.
154. Ebina M, Ishizaka A, Kimura Y, Tazawa R, Nukiwa T: High mobility group box protein 1 (HMGB1) production in highly vascularized alveolar lesions causes acute exacerbation in idiopathic pulmonary fibrosis. European Respiratory Society Annual Congress 2005, Denmark, 2005.9.
155. Kanehira M, Xin H, Maemondo M, Mizuguchi H, Hayakawa T, Matsumoto K, Nakamura T, Nukiwa T, Saijo Y :Tumor targeting gene therapy using NK4-expressing bone marrow-derived mesenchymal stem cells. American Association for Cancer Research 97<sup>th</sup> Annual Meeting 2006 , Washington D.C., 2006.4.
156. Fukuhara T, Suzuki T, Inoue A, Memondo M, Kimura Y, Sakakibara T, Koinuma D, Moriya T, Sasano H, Saijo Y, Nukiwa T: Detection of EGFR gene mutations from daily obtained specimens in NSCLC patients. American Association for Cancer Research 97<sup>th</sup> Annual Meeting, Washington D.C., 2006.4.
157. Fukuhara T, Suzuki T, Inoue A, Maemondo M, Moriya T, Sasano H, Kondo T, Saijo Y, Nukiwa T: Prospective analysis of the epidermal growth factor receptor gene mutations from various dairy specimens in Japanese non-small cell lung cancer patients. American Thoracic Society 2006 International Conference, San Diego, 2006.5.



158. Hagiwara K, Huqun, Izumi S, Miyazawa H, Uchiyama B, Ishida T, Tanaka S, Tazawa R, Fukuyama S, Tanaka T, Nagai Y, Takahashi H, Kobayashi K, Chiba H, Nagata M, Sakamoto S, Nakata K, Kanazawa M, Abe S, Inoue Y, Yoshimura K, Kudo K, Tachibana T, Nukiwa T: The autozygous segment predicted by a genomic-wide SNP typing revealed mutations in the type II sodium phosphate Co-transporter (SLC34A2) causing pulmonary alveolar microlithiasis. American Thoracic Society 2006 International Conference, San Diego , 2006.5.
159. Kimura Y, Shibata N, Koyama S, Sasaki T, Tazawa R, Nukiwa T, Ebina M : Elevated expression of erbB families in interstitial pneumonias. American Thoracic Society 2006 International Conference, San Diego , 2006.5.
160. Ebina M, Sibata N, Kimura Y, Sasaki T, Koyama S, Kondo T, Nukiwa T: Description of pulmonary lymphatics in idiopathic pulmonary fibrosis : A new aspect of incurability. American Thoracic Society 2006 International Conference, San Diego , 2006.5.
161. Koyama S, Kondo Y, Taniguchi H, Miyasho T, Nishimura H, Yamada S, Sasaki T, Kimura Y, Ishizaka A, Maruyama I, Nukiwa T, Ebina M: Variations of cytokines in bronchoalveolar lavage fluid (BALF) and serum of patients with idiopathic pulmonary fibrosis on acute exacerbation. American Thoracic Society 2006 International Conference, San Diego , 2006.5.
162. Ohta M, Murayama Y, Nishimura K, Kudo K, Nukiwa T, Johkoh T: Epidemiology of idiopathic pneumonias by low dose thin-section computed tomography for lung cancer screening. American Thoracic Society 2006 International Conference, San Diego, 2006.5.
163. Ebina M, Shibata N, Kimura Y, Takahashi T, Nukiwa T: Drastic decrease of lymphatics in the airway walls of fatal asthmatics: A new concept of severity. American Thoracic Society 2006 International Conference, San Diego, 2006.5.
164. Sasaki T, Konishi K, Kimura Y, Shibata N, Koyama S, Nukiwa T, Ebina M: Heterogeneous distribution of the cell producing Sp-A, Sp-D or KL-6 in the lungs of interstitial pneumonias causes inconsistent rise of these serum markers. American Thoracic Society 2006 International Conference, San Diego, 2006.5.
165. Ebina M, Kimura Y, Sasaki T, Koyama S, Nukiwa T: Refractory Remodeling of lymphatics with rare Lymphangiogenesis as a cause of severity of IPF. European Respiratory Society Annual Congress, Munich, 2006.9.

166. Morikawa N, Inoue A, Fukuhara T, Maemondo M, Sugawara S, Ishimoto O, Saijo Y, Nukiwa T: A perspective phase II study of gefitinib for chemo-naïve patients with advanced non-small cell lung cancer with epidermal growth factor receptor gene mutations. European Respiratory Society Annual Congress, Munich, 2006.9.
167. Sasaki T, Kimura Y, Shibata N, Konishi K, Koyama S, Nukiwa T, Ebina M: The inconsistent serum levels of surfactant proteins and KL-6 among patients with interstitial pneumonias are derived from different pathogenesis. 11<sup>th</sup> Congress of the Asian Pacific Society of Respiriology, Kyoto, 2006.11.
168. Xin H, Kanehira M, Mizuguchi H, Hayakawa T, Nukiwa T, Saijo Y: Intra-tracheal Delivery of Mesenchymal Stem Cells Expressing Fractalkine Inhibits Lung Metastases. 11<sup>th</sup> Congress of the Asian Pacific Society of Respiriology, Kyoto, 2006.11.
169. Morikawa N, Inoue A, Suzuki T, Fukuhara T, Suzuki S, Kondo T, Moriya T, Y. Saijo, Nukiwa T: Prospective Analysis of the Epidermal Growth Factor Receptor Mutations in Patients with Advanced Non-Small Cell Cancer in Japan. 11<sup>th</sup> Congress of the Asian Pacific Society of Respiriology, Kyoto, 2006.11.
170. Inoue A, Suzuki T, Fukuhara T, Maemondo M, Kimura Y, Morikawa N, Watanabe H, Saijo Y, Nukiwa T: A prospective phase II study of gefitinib for chemo-naïve patients with advanced non-small cell lung cancer with epidermal growth factor receptor gene mutations. 11<sup>th</sup> Congress of the Asian Pacific Society of Respiriology, Kyoto, 2006.11.
171. Kikuchi T, Nukiwa T: Involvement of Fractalkine/CX3CL1 Expression by dendritic cells in host immunity against *Legionella pneumophila*. 11<sup>th</sup> Congress of the Asian Pacific Society of Respiriology, Kyoto, 2006.11.
172. Gomi K, Tokue Y, Kobayashi T, Takahashi H, Watanabe A, Fujita T, Nukiwa T: Mannose-binding lectin gene polymorphism is a modulating factor in repeated respiratory infections. 11<sup>th</sup> Congress of the Asian Pacific Society of Respiriology, Kyoto, 2006.11.
173. Ebina M, Taniguchi H, Koyama S, Miyasho T, Yamada S, Taniguchi H, Kimura Y, Sasaki T, Ishizaka A, Maruyama I, Nukiwa T: The refractory factors aggravating acute exacerbation of patients with idiopathic pulmonary fibrosis. 11<sup>th</sup> Congress of the Asian Pacific Society of Respiriology, Kyoto, 2006.11.

174. Tazawa R, Kimura Y, Maemondo M, Ebina M, Inoue Y, Nakata K, Nukiwa T: GM-CSF inhalation therapy for recurrence of pulmonary alveolar proteinosis. 11<sup>th</sup> Congress of the Asian Pacific Society of Respiriology, Kyoto, 2006.11.
175. Ebina M, Koyama S, Kimura Y, Taniguchi H, Ishizaka A, Nukiwa T: Persistent increase of high-mobility group-B1 protein (HMGB1) in the lung by impaired alveolar clearance in acute exacerbation of idiopathic pulmonary fibrosis (IPF). American Thoracic Society Annual Meeting 2007, San Francisco, 2007.5.
176. Tazawa R, Arai T, Kimura Y, Ohtsuka J, Ebina M, Inoue Y, Nakata K, Nukiwa T: Maintenance therapy with intermittent Granulocyte-Macrophage Colony-Stimulating Factor (GM-CS) inhalation for pulmonary alveolar proteinosis. American Thoracic Society Annual Meeting 2007, San Francisco, 2007.5.
177. Gomi K, Ebina M, Abe T, Nukiwa T: A Japanese case of familial sarcoidosis with BTNL 2 gene polymorphism. American Thoracic Society Annual Meeting 2007, San Francisco, 2007.5.
178. Inoue Y, Nakata K, Tazawa R, Nukiwa T, Arai T, Otsuka J, Sakatani M, Trapnell BC: Five Years cohort study of 53 patients with idiopathic pulmonary alveolar proteinosis: Outcome of therapeutic lavage, American Thoracic Society annual Meeting 2007, San Francisco, 2007.5.
179. Nakata K, Inoue Y, Nukiwa T, Tazawa R, Trapnell BC, Takada T: Multicenter Phase II trial of inhaled aerosolized Granulocyte0Macrophage colony-Stimulating Factor for patients with idiopathic pulmonary alveolar proteinosis. American Thoracic Society Annual Meeting 2007, San Francisco, 2007.5.
180. Nishimura K, Johkoh T, Maruyama Y, Ohta M, Nukiwa T, Kudo K: Epidemiology of COPD with low-dose whole lung thin-section CT for lung cancer screening. American Thoracic Society Annual Meeting 2004, San Francisco, 2007.5.
181. Gomi K, Ebina M, Ohta H, Tazawa R, Nukiwa T: A case of familial sarcoidosis with BTNL2 gene polymorphism and a prevalence of the risk of BTNL2 gene mutation in the Japanese sarcoidosis patients. 4<sup>th</sup> international WASOG conference, Tokyo, 2007.10.
182. Andarini S, Zaini J, Kikuchi T, Tahara M, Saijo Y, Ishi N, Sugamura K, Nukiwa T: Induction of antitumor immunity by intratumoral administration of genetically modified dendritic cells (DCs) to overexpress OX40 Ligand. American Thoracic Society International Conference, Toronto, 2008.5.

183. Zaini J, Andarini S, Kikuchi T, Nukiwa T: OX40L-OX40 interactions contribute to NKT activation in a mouse model of allergic airway disease. American Thoracic Society International Conference, Toronto, 2008. 5.
184. Sato T, Inoue A, Fukuhara T, Sakakibara T, Saijo Y, Nukiwa T: Different pattern of resistance against gefitinib treatment in non-small-cell lung cancer harboring epidermal growth factor receptor mutations. American Thoracic Society International Conference, Toronto, 2008.5.
185. Inoue Y, Trapnell BC, Arai T, Tazawa R, Takada T, Nukiwa T, Sakatani M, Krischer JP, Nakata K: Characteristics of a large cohort of autoimmune pulmonary alveolar proteinosis patients in Japan. American Thoracic Society International Conference, Toronto, 2008.5.
186. Ota H, Hirota N, Tamai T, Nukiwa T, Ebina M: Differential expression patterns of claudins, tight junction membrane proteins, in normal and injured mouse lungs. American Thoracic Society International Conference, Toronto, 2008.5.
187. Ogura T, Ebina M, Taniguchi H, Azuma A, Suga M, Taguchi Y, Takahashi H, Nakata K, Sato A, Nukiwa T, Kudoh S: A phase III, double-blind, placebo-controlled clinical trial of pirfenidone in patients with idiopathic pulmonary fibrosis in Japan. American Thoracic Society International Conference, Toronto, 2008.5.
188. Hirota N, Ohta H, Tamai T, Nukiwa T, Ebina M: Cyclosporine reduces collagen synthesis by lung myofibroblasts; a supportive evidence for its treatment of pulmonary fibrosis. American Thoracic Society International Conference, Toronto, 2008.5.
189. Andarini S, Zaini J, Kikuchi T, Tahara M, Saijo Y, Ishi N, Sugamura K, Nukiwa T: Induction of antitumor immunity by intratumoral administration of genetically modified dendritic cells (DCs) to overexpress OX40 Ligand. American Thoracic Society International Conference, Toronto, 2008.5.
190. Zaini J, Andarini S, Kikuchi T, Nukiwa T: OX40L-OX40 Interactions Contribute to NKT Activation in a Mouse Model of Allergic Airway Disease. American Thoracic Society International Conference, Toronto, 2008.5.
191. Sato T, Inoue A, Fukuhara T, Sakakibara T, Saijo Y, Nukiwa T: Different Pattern of Resistance Against Gefitinib Treatment in Non-Small-Cell Lung Cancer Harboring Epidermal Growth Factor Receptor Mutations. American Thoracic Society International Conference, Toronto, 2008.5.

192. Inoue Y, Trapnell BC, Arai T, Tazawa R, Takada T, Nukiwa T, Sakatani M, Krischer JP, Nakata K: Characteristics of a Large Cohort of Autoimmune Pulmonary Alveolar Proteinosis Patients in Japan. American Thoracic Society International Conference, Toronto, 2008.5.
193. Ota H, Hirota N, Tamai T, Nukiwa T, Ebina M: Differential Expression Patterns of Claudins, Tight Junction Membrane Proteins, in Normal and Injured Mouse Lungs. American Thoracic Society International Conference, Toronto, 2008.5.16.
194. Ogura T, Ebina M, Taniguchi H, Azuma A, Suga M, Taguchi Y, Takahashi H, Nakata K, Sato A, Nukiwa T, Kudoh S: A Phase III, Double-Blind, Placebo-Controlled Clinical Trial of Pirfenidone in Patients with Idiopathic Pulmonary Fibrosis in Japan. American Thoracic Society International Conference, Toronto, 2008.5.
195. Hirota N, Ohta H, Tamai T, Nukiwa T, Ebina M: Cyclosporine Reduces Collagen Synthesis by Lung Myofibroblasts; a Supportive Evidence for Its Treatment of Pulmonary Fibrosis. American Thoracic Society International Conference, Toronto, 2008.5.
196. Inoue A, Kobayashi K, Usui K, Maemondo M, Ando M, Gemma A, Morita S, Nukiwa T, Okinaga S, Hagiwara K: Gefitinib provides an beneficial treatment to poor PS or super-elderly patients with EGFR mutation-positive NSCLC (North-East Japan Gefitinib Study Group), European Society For Medical Oncology, Stockholm, 2008.9.
197. Nakamura A, Sugawara S, Harada M, Usui K, Suzuki T, Yokouchi H, Maemondo M, Nukiwa T, Inoue A: Phase II study of American (AMR) combined with carboplatin (CBDCA) for elderly patients with small cell lung cancer (SCLC), (North Japan Lung Cancer Group 0405) European Society For Medical Oncology, Stockholm, 2008.9.
198. Ebina M, Ohta H, Sato E, Hisata S, Hirota N, Miyasho T, Nukiwa T: Effects of neutrophil elastase inhibitor against mediators of acute exacerbation of pulmonary fibrosis: a new therapeutic strategy. European Respiratory Society Annual Congress 2008, Berlin, 2008.10.
199. Ohkouchi S, Block G, Nukiwa T, ProckKop D: Mitochondria related Hormone stanniocalcin-1 (STC-1) derived from human multipotent stromal cells (MSCs) reduce cells death of human lung epithelial cell line (A549) under fetal acidosis and/or hypoxia. European Respiratory Society Annual Congress 2008, Berlin, Germany, 2008.10.

200. Satoh H, Taguchi K, Moriguchi T, Ebina M, Nukiwa T, Yamamoto M: Urethane-induced lung carcinogenesis in Nrf2 knockout mice. JST-international symposium, Sendai, 2009.2.
201. Tazawa R, Inoue Y, Takada T, Arai T, Nasuhara Y, Hizawa N, Kasahara Y, Tatsumi K, Hojo M, Yokoba N, Tanaka N, Yamaguchi E, Eda R, Tuchihashi Y, Oishi K, Terada M, Kaneko C, Nukiwa T, Krischer JP, Trapnell BC, Nakata K: Aerosolized GM-CSF therapy of pulmonary alveolar proteinosis (PAP). American Thoracic Society International Conference 2009, San Diego, 2009.5.
202. Yasuda H, Sasaki T, Asada M, Hatachi Y, Nagai H, Nakayama K, Mio T, Yanagihara K, Nukiwa T, Yamaya M: P-glycoprotein (P-gp) may be associated with chemoresistance to amrubicin (AMR) in Lewis Lung Carcinoma (LLC) cells. American Thoracic Society International Conference 2009, San Diego, 2009.5.
203. Tamai T, Ono M, Sato Y, Ohta H, Hirota N, Okouchi S, Tamada T, Nukiwa T, Ebina M: VASH-1 a negative feedback regulator of angiogenesis, Is produced by lung myofibroblasts after differentiation from fibroblasts and affects their own proliferation. American Thoracic Society International Conference 2009, San Diego, 2009.5.
204. Daito H, Kikuchi T, Zaini J, Sakakibara T, Gomi K, Ebina M, Watanabe A, Nukiwa T: A Mouse model for hot tub lung by using mycobacterium avium from the patient. American Thoracic society International Conference 2009, San Diego, 2009.5.
205. Hirota N, Ohta H, Tamai T, Nukiwa T, Ebina M: Simultaneous alterations of gene expressions in different cell types of alveolar septa induced by transforming growth factor-beta 1 and recovered by cyclosporin A. American Thoracic Society International Conference 2009, San Diego, 2009.5.
206. Ebina M, Ohta H, Miyasho T, Ohkouchi S, Hirota N, Nukiwa T: Diagnosis of early phase of acute exacerbation of idiopathic pulmonary fibrosis and its successful treatment by a neutrophil elastase inhibitor. American Thoracic Society International Conference 2009, San Diego, 2009.5.
207. Sasaki T, Yasuda H, Nakayama K, Ebihara S, Yoshida M, Yamaya M, Nukiwa T: The effects of low dose inhaled carbon monoxide (CO) on dyspnea in patients with chronic obstructive pulmonary disease (COPD). American Thoracic Society International Conference 2009, San Diego, 2009.5.

208. Katsha A, Ohkouchi S, Xin H, Nukiwa T, Saijo Y: MSCs ameliorate elastase induced emphysema by suppressing IL-1b and inducing growth factors. American Thoracic Society International Conference 2009, San Diego, 2009.5.
209. Ohta H, Ebina M, Hirota N, Nukiwa T: Pivotal roles of transforming growth factor-beta 1 in barrier dysfunction of alveolar walls in lung injury prior to fibrogenesis. American Thoracic Society International Conference 2009, San Diego, 2009.5.
210. Ohkouchi S, Block GJ, Prockop DJ, Nukiwa T: Stanniocalcin-1 (STC1) derived from bone multipotent stromal cells (MSCs) inhibit lung epithelial apoptosis under hypoxia and lactic acidosis. American Thoracic Society International Conference 2009, San Diego, 2009.5.
211. Ebina M, Kimura Y, Ohta H, Ohkouchi S, Hisata S, Hirota N, Tamada T, Nukiwa T (Clinical Study Group of Pirfenidone in Japan): Enhanced effects of pirfenidone on the early phase of idiopathic pulmonary fibrosis (IPF). European Respiratory Society Annual Congress 2009, Vienna, 2009.9.
212. Ohkouchi S, Abe T, Taguchi Y, Ebina M, Nukiwa T: Disease severity for enrollment criteria of patients with idiopathic pulmonary fibrosis (IPF) in clinical trial: evaluation of time to first episode of acute exacerbation (TTA). European Respiratory Society Annual Congress 2009, Vienna, 2009.9.
213. Hirota N, Ohta H, Tamai T, Homma S, Nukiwa T, Ebina M: Profiling of gene expressions induced by TGF-1 and cyclosporine a in alveolar cells in vitro. European Respiratory Society Annual Congress 2009, Vienna, 2009.9.
214. Sasaki T, Nakayama K, Yasuda H, Yoshida M, Yamaya M, Araya J, Kuwano K, Nukiwa T: The proton pump inhibitor reduces the frequency of exacerbations in patients with chronic obstructive pulmonary disease (COPD). European Respiratory Society Annual Congress 2009, Vienna, 2009.9.
215. Usuki J, Azuma A, Gemma A, Chida M, Bando M, Sugiyama Y, Nukiwa T, Kudoh S, Lancaster L, Collard H: Comparative study of current practice in the diagnosis and management of idiopathic pulmonary fibrosis between Japan and USA. European Respiratory Society Annual Congress 2009, Vienna, 2009.9.
216. Katsha A, Ohkouchi S, Xin H, Nukiwa T, Saijo Y: MSCS ameliorate elastase induced emphysema by suppressing IL-1b, inducing growth factors and proteinase inhibitors. European Respiratory Society Annual Congress 2009, Vienna, 2009.9.

217. Inoue A, Kobayashi K, Maemondo M, Sugawara S, Oizumi S, Saijo Y, Gemma A, Morita S, Hagiwara K, Nukiwa T: A randomized phase III study comparing gefitinib with carboplatin/paclitaxel for the first-line treatment of non-small cell lung cancer with sensitive EGFR mutations: NEJ002 study. ECCO15/34<sup>th</sup> ESMO multidisciplinary congress, LBA9, Berlin, 2009.
218. Hisata S, Kimura Y, Nukiwa T, Ebina M: Elevation of serum surfactant protein D (SP-D) level predict the early stage of honeycomb lesions on HRCT. 14<sup>th</sup> Congress of the Asian Pacific Society of Respiratory and 3<sup>rd</sup> Joint Congress of the APSR/ACCP, Seoul, 2009.11.
219. Ohkouchi S, Block G, Nukiwa T, Prockop D: Stanniocalcin-1 (STC1) derived from bone multipotent stromal cell (MSCS) inhibit lung epithelia apoptosis under hypoxia and lactic acidosis (mimic ischemia condition). 14<sup>th</sup> Congress of the Asian Pacific Society of Respiratory and 3<sup>rd</sup> Joint Congress of the APSR/ACCP, Seoul, 2009.11.
220. Chiba S, Nukiwa T, Watanuki Z, Okada S: Increased anti-cladosporium cladosporioides antibody titer in the patient with interstitial lung disease. 14<sup>th</sup> Congress of the Asian Pacific Society of Respiratory and 3<sup>rd</sup> Joint Congress of the APSR/ACCP, Seoul, 2009.11.
221. Muramatsu S, Koyama S, Sakakibara T, Murakami K, Watanabe M, Miki M, Ebina M, Nukiwa T: Massive pleural effusion and bronchopleural fistula in wegner granulomatosis (case report). 14<sup>th</sup> Congress of the Asian Pacific Society of Respiratory and 3<sup>rd</sup> Joint Congress of the APSR/ACCP, Seoul, 2009.11.
222. Abe K, Hisata S, Tamada T, Yamada T, Nukiwa T: Tracheal submucosal emphysema in a patient with bronchial asthma. 14<sup>th</sup> Congress of the Asian Pacific Society of Respiratory and 3<sup>rd</sup> Joint Congress of the APSR/ACCP, Seoul, 2009.11.
223. Sasaki T, Muramatsu S, Yasuda H, Inoue D, Nukiwa T: The proton pump inhibitor lansoprazole inhibits rhinovirus infection in the human tracheal epithelial cells. 14<sup>th</sup> Congress of the Asian Pacific Society of Respiratory and 3<sup>rd</sup> Joint Congress of the APSR/ACCP, Seoul, 2009.11.
224. Hisata S, Kimura Y, Chiba S, Abe K, Ohta H, Nukiwa T, Ebina M: Elevation of serum level of SP-D with normal range of KL-6 predicts a good prognosis of patients with honeycomb lesions on HRCT. American Thoracic Society, New Orleans, 2010. 5.



225. Ohta H, Ebina M, Chiba S, Hisata S, Ohkouchi S, Nukiwa T: The occurrence of lung cancer in patients with interstitial pneumonias. American Thoracic Society, New Orleans, 2010. 5.
226. Ebina M, Kimura Y, Ohta H, Hisata S, Tamada T, Nukiwa T, Clinical Study Group of Pirfenidone in Japan: Pirfenidone, a novel anti-fibrotic agent, provides higher benefit for idiopathic pulmonary fibrosis (IPF) patients with better pulmonary function. American Thoracic Society, New Orleans, 2010. 5.
227. Daito H, Kikuchi T, Gomi K, Ebina M, Nukiwa T: Development of a mouse model for hot tub lung. American Thoracic Society, New Orleans, 2010. 5.
228. Ohkouchi S, Katsha A.M., Kanehira M, Kikuchi T, Ebina M, Nukiwa T: Multipotent stromal cell-derived stanniocalcin-1 reduces reactive oxygen species and promotes survival of injured A549 lung cancer cells through upregulation of uncoupling-protein 2 and induction of the Warburg Effect. American Thoracic Society, New Orleans, 2010. 5.
229. Murakami K, Tamada T, Nara M, Kikuchi T, Ebina M, Nukiwa T: Toll-like receptor signaling as a potentiator in the airway submucosal gland secretion. American Thoracic Society, New Orleans, 2010. 5.
230. Inoue A, Maemondo M, Kobayashi K, Oizumi S, Isobe H, Gemma A, Saijo Y, Hagiwara K, Morita S, Nukiwa T: The efficacy of low-dose gefitinib for advanced non-small cell lung cancer: A post-hoc analysis from NEJ002. ASCO annual meeting, abstract 7571, Chicago, 2010.6.
231. Damayanti T, Zaini J, Kikuchi T, Nukiwa T: OX40-OX40L interaction on CD4 T cells and NKT cells contributes to the development of allergic airway inflammation. 14<sup>th</sup> International Congress of Immunology, Kobe, 2010.8.
232. Nukiwa N, Xie M, Fukuhara T, Treda C, Kikuchi T, Ebina M, Nukiwa T: Xenograft Formation, Self Seeding, and Side Population in Lung Adenocarcinoma Cell Lines, PC9 (EGFR deletion) and A549 (k-ras Ser). European Respiratory Society 2010, Barcelona, 2010.9.
233. Azuma A, Taguchi Y, Ogura T, Ebina M, Taniguchi H, Kondoh Y, Suga M, Takahashi H, Nakata K, Sato A, Kudoh S, Nukiwa T: Exploratory analysis of phase III studytrial of pirfenidone: Most population in patients with idiopathic pulmonary fibrosis (IPF). European Respiratory Society 2010, Barcelona, 2010.9.

234. Taguchi Y, Ebina M, Hashimoto S, Ogura T, Azuma A, Taniguchi H, Kondoh Y, Suga M, Takahashi M, Nakata K, Sato A, Kudoh S, Nukiwa T: Pirfenidone clinical study group in Japan: Extended analysis of phase III trial of pirfenidone : More pronounced effect in mild impairment of patients with idiopathic pulmonary fibrosis (IPF). European Respiratory Society 2010, Barcelona, 2010.9.
235. Murakami K, Tamada T, Nara M, Muramatsu S, Kikuchi T, Kanehira M, Ebina M, Nukiwa T: TLR4 signaling as a potentiator in the airway submucosal gland secretion. European Respiratory Society 2010, Barcelona, 2010.9.
236. Sasaki T, Yasuda H, Inoue D, Nukiwa T, Yamaya M: The proton pump inhibitor, lansoprazol, inhibits rhinovirus infection in the cultured human tracheal epithelial cells. European Respiratory Society 2010, Barcelona, 2010.9.
237. Ohkouchi S, Block G, Ahmed K, Darwin P, Nukiwa T: Multipotent stromal cell-derived stanniocalcin-1 reduce reactive oxygen species and promotes survival of injured A549 lung cancer cells through upregulation of uncoupling-protein 2 and induction of the Warburg effect. European Respiratory Society 2010, Barcelona, 2010.9.
238. Taniguchi H, Kondoh Y, Ebina M, Azuma A, Ogura T, Taguchi Y, Suga M, Takahashi H, Nakata A, Sato A, Sugiyama Y, Kudoh S, Nukiwa T (Pirfenidone clinical Study Group In Japan): The clinical significance of >5% change in VC in patients with idiopathic pulmonary fibrosis-extended analysis of the pirfenidone trial in Japan. European Respiratory Society 2010, Barcelona, 2010.9.
239. Hisata S, Kimura Y, Ono S, Kobayashi M, Nukiwa T, Ebina M: High, Level of serum SP-D with normal range of KL-6 predicts a good prognosis of patients with fibrosis changes on HRCT. European Respiratory Society 2010, Barcelona, 2010.9.
240. Inoue A, Minegishi Y, Maemondo M, Okinaga S, Morikawa N, Kobayashi K, Harada M, Hagiwara K, Nukiwa T, Gemma A: A final results of a phase II study of first-line gefitinib for elderly patients with advanced non-small cell lung cancer harboring epidermal growth factor receptor mutations; NEJ 003 study. ESMO congress, abstract 423P, Milano, 2010.10.
241. Chiba S, Ohta H, Narumi S, Ono M, Hisata S, Ohkouchi S, Nukiwa T, Hosihikawa Y, Kondo T, Ebina M: Clinicopathologic Characteristics Of Lung Cancer Occurred In Combined Pulmonary Fibrosis And Emphysema (CPFE). American Thoracic Society International Conference, Denver, 2011.5.

242. Murakami K, Tamada T, Nara M, Muramatsu S, Kikuchi T, Kanehira M, Ebina M, Nukiwa T: Toll-Like Receptor 4 Signaling As A Potentiator In The Airway Submucosal Gland Secretion. American Thoracic Society International Conference, Denver, 2011.5.
243. Damayanti T, Santoso A, Kikuchi T, Nukiwa T: Deletion Of SLPI Reduces Lung Inflammation After Naphthalene Induction. American Thoracic Society International Conference, Denver, 2011.5.
244. Sakakibara T, Inoue A, Fukuhara T, Sasaki T, Nukiwa T: Clinical Aspects Of Non-Small Cell Lung Cancer Harboring EML4-ALK Fusion Gene In Tohoku University Hospital. American Thoracic Society International Conference, Denver, 2011.5.
245. Hisata S, Ito T, Hirota N, Chiba S, Nukiwa T, Ebina M: Liver X Receptor Agonists Inhibit TGF-Beta1 Induced Myofibroblast-Differentiation. American Thoracic Society International Conference, Denver, 2011.5.
246. Ebina M, Shibata N, Narumi S, Chiba S, Ohta H, Hisata S, Tamada T, Ohkouchi S, Nukiwa T: RTP801, An Essential Mediator Of Cigarette Smoke-Induced Emphysema, Is Also Increased In Fibrotic Lesions With And Without Smoking Habits. American Thoracic Society International Conference, Denver, 2011.5.
247. Ohta H, Chiba S, Hisata S, Ebina M, Nukiwa T: Bleomycin-Induced Lung Injury Causes Disturbance Of Tight Junction Of Alveolar Epithelial Cells. American Thoracic Society International Conference, Denver, 2011.5.
248. Ito T, Hirota N, Ono M, Ohta H, Hisata S, Homma s, Nukiwa T, Ebina M: Synergistic Anti-Fibrotic Effects Of Pirfenidone And Cyclosporine A On Lung Fibroblasts. American Thoracic Society International Conference, Denver, 2011.5.
249. Taniguchi H, Kondoh Y, Ebina M, Azuma A, Ogura T, Suga M, Taguchi Y, Takahashi H, Nakata K, Sato A, Sugiyama Y, Kudoh S, Nukiwa T: Risk factors of acute exacerbation of idiopathic pulmonary fibrosis-extended analysis of the pirfenidone trial in Japan. European Respiratory Society Annual Congress, Amsterdam, 2011.9.

250. Ohkouchi S, Kikuchi T, Ebina M, Nukiwa T: Novel functions of stanniocalcin-1 (STC1) through uncoupling protein 2 (UCP2) up-regulation; promoting survival of cancer cells under oxidative stress and inducing the uncoupling respiration (Warburg effect). European Respiratory Society Annual Congress, Amsterdam, 2011.9.
251. Hisata S, Chiba S, Ito T, Ebina M, Nukiwa T: Anti-fibrotic effects of liver X receptor agonists in human fetal lung fibroblasts. European Respiratory Society Annual Congress, Amsterdam, 2011.9.
252. Damaytanti T, Kikuchi T, Nukiwa T: Late-breaking abstract: Secretory leukocyte protease inhibitor plays an essential role in lung inflammation after naphthalene induction. European Respiratory Society Annual Congress, Amsterdam, 2011.9.

#### 国内学会・研究会での発表

##### 特別講演・教育講演

1. 貫和敏博: 肺血管傷害性薬剤実験の病態と生化学的指標. 第24回日本胸部疾患学会総会, 東京, 1984.
2. 貫和敏博: 特発性間質性肺炎と肺癌 自験例と発癌機序の考案. 第30回日本肺癌学会総会, 岡山, 1989.
3. 貫和敏博: なぜ日本人はZ型 $\alpha$ -アンチトリプシン欠損例を認めないのか. 第31回日本胸部疾患学会総会, 大阪, 1991.
4. 貫和敏博: 呼吸器疾患における molecular な解析, biological な解析. 第78回東北医学会総会 教授就任記念講演会, 仙台, 1993.
5. 貫和敏博: 肺疾患の分子生物学-肺気腫症における遺伝子異常-. 第7回細胞生物学シンポジウム 病気の分子細胞生物学, 東京, 1993.
6. 貫和敏博: 呼吸器内科と加齢医学-肺癌を中心とした分子医学, 遺伝子治療の概念-. 胸部疾患学会東北地方会 教育セミナー, 1993.
7. 貫和敏博: 呼吸器疾患と分子生物学. 第33回臨床肺機能講習会, 東京, 1993.
8. 貫和敏博: びまん性汎細気管支炎患者における CFTR 遺伝子の解析. 第79回国際胸部医学会 (IACPS) 日本支部会的講演会, 横浜, 1993.

9. 貫和敏博：分子生物学の展開と臨床医学における意味。第15回日本胸部疾患学会卒後研修セミナー，1994.
10. 貫和敏博：分子生物学の展望と臨床医学における意味。第15回胸部疾患セミナー，千葉，1994.
11. 貫和敏博：周辺領域から見た ME の役割－遺伝子医学から。第34回日本 ME 学会大会，東京，1995.
12. 貫和敏博：アンチセンス配列を用いた遺伝子治療。第13回日本染色体遺伝子検査学会総会，仙台，1995.
13. 貫和敏博：肺癌の分子生物学。日本内科学会生涯教育セミナー，大阪，1995.
14. 貫和敏博：IIP の原因をめぐって－内因性因子－。第5回広島肺線維症セミナー，広島，1996.2
15. 貫和敏博：呼吸器疾患の家系解析：その背景にある理念。第84回国際胸部医学会日本支部定期講演会，1996.3.
16. 貫和敏博：特発性間質性肺炎をめぐって：病因解明への新しい戦略。第36回胸部疾患学会，宇都宮，1996.4.
17. 貫和敏博：呼吸生理学から分子呼吸器病学へ。Fuji Human Science Seminar, 御殿場，1996.8.
18. 貫和敏博：呼吸器疾患の家系解析：その背景にある理念。第84回国際胸部医学会日本支部定期講演会，東京，1996.
19. 貫和敏博：病因解明への新しい戦略：呼吸器疾患における家族集積の登録と遺伝子解析への提言。第37回日本胸部疾患学会シンポジウム 特発性間質性肺炎をめぐって，宇都宮，1996.
20. 貫和敏博：呼吸器疾患における家族歴を再考する。日本内科学会東北地方会生涯教育講演，仙台，1996.
21. 貫和敏博：肺の線維化を考える。日本胸部疾患学会合同北陸地方会，福井，1996.
22. 貫和敏博：日本における遺伝子治療施行への問題点の整理。第37回日本胸部疾患学会，横浜，1997.

23. 貫和敏博：呼吸器臨床の視点から線維化肺病態を考える。第71回日本胸部疾患学会東海地方会，名古屋，1997.
24. 貫和敏博：肺癌の診断と治療。第98回内科医会勉強会・肺シリーズ第1回，仙台，1997.2.
25. 貫和敏博：肺癌。第25回箱根シンポジウム，箱根，1997.5.
26. 貫和敏博：呼吸器臨床の視点から線維化肺病態を考える。第71回日本胸部疾患学会東海地方会，名古屋，1997.6.
27. 貫和敏博：線維化肺：臨床における考察。第18回日本内科学会信越地方会支部生涯教育講演会，新潟，1998.
28. 貫和敏博：再生医学－基礎と治療への応用。第111回医学会シンポジウム，箱根，1998.
29. 貫和敏博：肺癌治療の新たなアプローチ。第38回呼吸機能セミナー，盛岡，1998.
30. 貫和敏博：遺伝子診断・遺伝子治療の進歩。第39回肺癌学会，金沢，1998.
31. 貫和敏博：線維化肺 臨床における考察。第18回日本内科学会信越地方会支部生涯教育講演会，新潟，1998.5.
32. 貫和敏博：肺再生とその臨床応用。第111回医学会シンポジウム，箱根，1998.8.
33. 貫和敏博：肺癌各領域における最近の進歩 遺伝子診断・遺伝子治療の進歩。第39回肺癌学会，金沢，1998.10.
34. 貫和敏博：急性肺障害と慢性線維化肺：呼吸器の臨床の実態と細胞分子病態の視点。第39回日本呼吸器学会学術講演会（第20回呼吸器セミナー），横浜，1999.
35. 貫和敏博：呼吸器疾患遺伝子治療の展望と課題。第25回日本医学会総会，東京，1999.
36. 貫和敏博：分子呼吸器病学の立場：広域アクセスにより Care から Cure へ。第72回日本呼吸器学会北海道地方会総会（第6回教育セミナー），札幌，1999.

37. 貫和敏博：肺の炎症，腫瘍，生体防御：分子呼吸器病の視点．第40回日本呼吸器学会総会特別講演，広島，2000．
38. 貫和敏博：適応進化した身体 capability の覚醒：気功ブームの背景にある身体性（西野流呼吸法を中心に）．日本適応医学会第4回学術集会，仙台，2000．
39. 貫和敏博：呼吸器疾患の分子病態と臨床（シンポジウム）．第97回日本内科学会講演会，京都，2000.2．
40. 海老名雅仁，清水川稔，貫和敏博：血管内皮細胞における線維化肺の分子病態．第40回日本呼吸器学会総会 ワークショップ，広島，2000.3．
41. 貫和敏博：肺の炎症，腫瘍，生体防御：分子呼吸病の視点．第40回日本呼吸器学会総会，広島，2000.3．
42. Nukiwa T: Understanding lung cancers in the context of lung biology and defense. 第41回日本呼吸器学会学術講演会 Leading Lectures，東京，2001．
43. 貫和敏博：特発性間質性肺炎の分子細胞病態．第98回日本内科学会講演会，横浜，2001．
44. 貫和敏博：特発性肺線維症（IPF/UIP）の global な共通認識と今後の課題．日本呼吸器学会東海・中部地方会，浜松，2001．
45. 貫和敏博：加齢肺と再生治療．東北大加齢研－国立長寿研 第1回合同シンポジウム，仙台，2001．
46. 貫和敏博：肺癌遺伝子治療標的と導入遺伝子戦略．第24回日本分子生物学会，横浜，2001．
47. 貫和敏博：間質性肺疾患の病態と分類：Consensus statement 分類による臨床の整理と残された課題．第41回日本呼吸器学会総会，東京，2001.4．
48. 貫和敏博：特発性間質性肺炎の細胞分子病態．第98回日本内科学会講演会，東京，2001.4
49. 貫和敏博：突発性肺線維症（IPF/UIP）の global な共通認識と今後の課題．日本呼吸器学会東海・中部地方会特別講演，浜松，2001.11．
50. 貫和敏博：加齢肺と再生治療．東北大加齢研－国立長寿研第1回合同シンポジウム，仙台，2001.12．

51. 貫和敏博：肺癌の遺伝子治療。仙台市医師会学術講演会，仙台，2002.3.
52. 貫和敏博：呼吸器診療と遺伝子多型。第42回日本呼吸器学会総会シンポジウム，仙台，2002.4.
53. 貫和敏博：肺線維症の成因と治療の進歩。第42回日本呼吸器学会総会イブニングシンポジウム，仙台，2002.4.
54. 海老名雅仁，渡辺正樹，清水川稔，秋山健一，貫和敏博：特発性肺線維症の遺伝子治療は可能か。第42回日本呼吸器学会総会イブニングシンポジウム，仙台，2002.4.
55. 貫和敏博：呼吸器疾患と Translational research：肺癌遺伝子治療と肺胞蛋白 GM-CSF 吸入療法。第51回日本感染症学会東日本地方会総会・第49回日本化学療法学会東日本支部総会合同学会 Translational セミナー，仙台，2002.10.
56. 貫和敏博：肺癌の分子生物学。第43回日本肺癌学会総会モーニングレクチャー，福岡，2002.11.
57. 貫和敏博：今後の治療戦略に求められるもの：今何をしなければならないか。第43回日本呼吸器学会コンgresシンポジウム特別発言，福岡，2003.3.
58. 貫和敏博：21世紀の呼吸器病学 びまん性肺疾患の分子病態と治療。第43回日本呼吸器学会プレナリーシンポジウム，福岡，2003.3.
59. 海老名雅仁，渡辺正樹，秋山健一，貫和敏博：特発性間質性肺炎における分子機構の新たな知見と治療 肺特異的 HGF 遺伝子導入による肺組織再生療法の開発。第43回日本呼吸器学会コンgresシンポジウム，福岡，2003.3.
60. 田澤立之，中田光，貫和敏博：希少疾患に対する未承認製剤による治療：肺胞蛋白症に対する GM-CSF 療法を試みて，第43回日本呼吸器学会ミニシンポジウム，福岡，2003.3.
61. 貫和敏博：呼吸器疾患の克服－新治療の展望－肺の線維化とその防止。第26回日本医学会総会シンポジウム，福岡，2003.4.
62. 貫和敏博：特発性間質性肺炎をめぐる最近の話題。第55回日本結核病学会九州地方会総会・第51回日本呼吸器学会九州地方会総会，筑後市，2003.8.



63. 貫和敏博：(4) 特定疾患認定の立場から 厚生労働省による難病対策の見直しとサルコイドーシス-軽快者の設定-。第23回日本サルコイドーシス/肉芽腫性疾患学会シンポジウム, 2003.11.
64. 貫和敏博：家族性肺線維症の遺伝子病態 OVERVIEW. 厚生労働科学研究特定疾患対策研究事業びまん性肺疾患調査研究班秋保ワークショップ, 仙台, 2003.11.
65. 貫和敏博：なぜ日本の IPF 急性憎悪病態は global EBM にならないのか? 厚生労働科学研究特定疾患対策研究事業びまん性肺疾患調査研究班秋保ワークショップ, 仙台, 2003.11.
66. 貫和敏博：特発性間質性肺炎の診断と治療のガイドライン. 第84回日本呼吸器学会東海地方会, 大垣市, 2003.11.
67. 貫和敏博：各種呼吸器疾患の発症メカニズムから治療への展開-特発性間質性肺炎-。第44回日本呼吸器学会学術講演会シンポジウム, 東京, 2004.3.
68. 貫和敏博：特発性間質性肺炎の治療. 第44回日本呼吸器学会学術講演ランチョンセミナー, 東京, 2004.3.
69. 貫和敏博：進行非小細胞肺癌に対する化学療法薬選択. 第19回肺癌学会ワークショップ, 京都, 2004.7.
70. 貫和敏博：肺癌を対象とした先端医療-遺伝子治療と分子標的薬剤. 先端医学の普及・発展を目指して 市民とともに倫理を語る. 平成16年度厚生労働科学研究費補助金 先端医学研究普及啓発セミナー(主催 財団法人ヒューマンサイエンス振興財団), 東京, 2004.8.
71. 貫和敏博：特発性間質性肺炎-診断基準の推移と最近の話題-。日本内科学会四国支部主催第31回生涯教育講演会, 愛媛, 2004.11.
72. 貫和敏博：特別企画(3) Hepatocyte Growth Factor の最近の知見と今後の展望 肺の抗線維化作用と HGF. 第4回日本再生医療学会総会, 大阪, 2005.3.
73. 貫和敏博：新しい治療薬の話題(1) 新生血管阻害と治療応用. 第6回臨床腫瘍夏期セミナー, 東京, 2005.7.
74. 貫和敏博：特発性間質性肺炎と急性憎悪. 第46回臨床呼吸機能講習会イブニングセミナー, 京都, 2005.8.

75. 貫和敏博, 海老名雅仁: 特発性間質性肺炎と急性憎悪: 日本人に肺障害脆弱性はあるか?, 第19回九州呼吸器シンポジウム, 福岡, 2005.9.
76. 貫和敏博: これからの呼吸器病学. 第14回東北胸部疾患ワークショップ, 仙台, 2007.3.3.
77. 貫和敏博: 呼吸器医が興味をもつ PMX カラムの急性肺障害制御. 第16回日本アフェレーシス学会関東甲信越地方会, 順天堂大学, 東京, 2007.4.7.
78. 中田光, 井上義一, 高田俊範, 寺田正樹, 新井徹, 坂谷光則, 田澤立之, 貫和敏博: 肺胞蛋白症はどこまで明らかとなったか?. 第47回日本呼吸器学会学術講演会 個別化医療講演, 東京, 2007.5.
79. 貫和敏博: 肺生理からゲノム解析へ: 次なる呼吸器病学を探って. 第47回日本呼吸器学会学術講演会会長講演, 東京, 2007.5.10.
80. 貫和敏博: 肺癌化学療法と分子標的薬 日本内科学会東北支部主催 第50回生涯教育講演会, 青森市, 2007.9.1.
81. 貫和敏博: 保険医療機関の敷地内禁煙: 東北大学病院の実際と提案. 第48回日本肺癌学会総会 特別企画「禁煙を推進する保険医療システムの構築」, 名古屋, 2007.11.
82. 貫和敏博: ランチョンセミナー11 間質性肺炎の急性憎悪と治療介入. 第48回日本呼吸器学会学術講演会, 神戸, 2008.6.16.
83. 貫和敏博: イブニングシンポジウム3 特発性肺線維症: 診断と治療の新たな展開. 第48回日本呼吸器学会学術講演会, 神戸, 2008.6.
84. 貫和敏博: 特発性肺線維症. 第48回日本呼吸器学会学術講演会 Respiratory Year in Review 5, 東京, 2008.6.
85. 貫和敏博: Network Medicine 創生拠点キックオフシンポジウムーシグナル伝達病への進化的型挑戦ー. 東北大学医学系研究科, 仙台, 2008.9.
86. 貫和敏博: 大学病院から見た肺癌診療. 第49回日本肺癌学会, 北九州, 2008.11.
87. 貫和敏博: 3. 間質性肺炎の臨床. 第106回日本内科学会総会・講演会招聘講演, 東京, 2009.4.

88. 貫和敏博：特発性間質性肺炎。第49回日本呼吸器学会学術講演会ガイドラインセッション，東京，2009.6.
89. 貫和敏博：薬剤性肺障害の臨床。日本内科学会関東支部会第40回生涯教育講演会，東京，2009.7.
90. 貫和敏博：肺線維症の病態と治療。第49回臨床呼吸機能講習会モーニングセミナー3，仙台，2009.8.
91. 貫和敏博：間質性肺炎の病因論と治療介入。第50回臨床呼吸講習会，奈良，2010.8.
92. 貫和敏博：特発性肺線維症：新規薬剤臨床試験－疾患特性に基づく登録患者選択と評価項目選択－。平成22年度厚生労働科学研究費補助金政策創薬研究推進事業第36回ヒューマンサイエンス総合研究セミナー，東京，2010.11.
93. 貫和敏博：テーラーメイド医療の現状と展望－調べてみれば肺がんはDriver 変異ばかり－平成22年度日本学術会議地域振興・東北フォーラム，仙台，2011.1.

#### 特別授業

1. 貫和敏博：肺癌の内科臨床：固形癌治療への展開。広島大学第二内科学術講演会，広島，1995.
2. 貫和敏博：呼吸器疾患の病態。順天堂大学平成7年度内科学（呼吸器）系統講義，東京，1995.
3. 貫和敏博：自治医科大学呼吸器内科で学んだこと－症例の整理とデータベース－。自治医科大学呼吸器内科開講20周年記念講演会，宇都宮，1995.
4. 貫和敏博：固形癌における免疫遺伝子療法は可能か。東北大学大学院講義，仙台，1996.
5. 貫和敏博：呼吸器の場と呼吸器の内科医の課題。徳島大学第3内科開講25周年記念講演会，徳島，1997.
6. 貫和敏博：肺癌の遺伝子治療：その理念と展望。大学院講義，仙台，1997.

7. 貫和敏博：分子呼吸器病学の展開。東京医科大学呼吸器セミナー，東京，1998.
8. 貫和敏博：肺癌治療における宿主細胞の生物学。久留米大学大学院特別講義，久留米，1999.
9. 貫和敏博：最新の治療法1：肺がんの遺伝子治療。平成11年度東北大学教育開放講座がん治療の最前線，仙台，2000.
10. 貫和敏博：呼吸器の腫瘍・炎症・感染症。平成12年度卒前最終講義，仙台，2000.
11. 貫和敏博：難治肺癌に対する先進医療。秋田大学大学院講義，秋田，2001.
12. 貫和敏博：呼吸器疾患を考えるヒント 原発性肺癌：講義と教科書通読の補助。平成13年度最終講義，仙台，2001.
13. 貫和敏博：難治肺癌に対する先進医療。秋田大学大学院講師，秋田，2001.7.
14. 貫和敏博：分子呼吸器病学。山形大学講師，山形，2002.2.
15. 貫和敏博：遺伝子治療。東北大学講師，仙台，2002.5.
16. 貫和敏博：呼吸器集中講義「肺腫瘍 トピックス：分子標的薬とその副作用」。順天堂大学医学部，2003.2.
17. 貫和敏博：難治癌の生物学と治療へのアプローチ。神戸大学医学部大学院特別講義，神戸，2003.2.
18. 貫和敏博：分子呼吸器病学。山形大学医学部講義，山形，2003.2.
19. 貫和敏博：「遺伝子技術と社会」遺伝子治療。東北大学全学基礎講義カレントトピックス，仙台，2003.5.
20. 貫和敏博：呼吸器難治疾患の薬物療法の考え方。広島大学医歯薬総合研究科大学院講義，広島，2003.6.
21. 貫和敏博：分子呼吸器病学 肺癌：診断から治療－新規治療としての分子標的薬 がん治療薬としての長所と呼吸器副作用の問題点。山形大学医学部講義，山形，2004.1.
22. 貫和敏博：肺腫瘍1。順天堂大学臨床医学Ⅱ講義，東京，2004.2.

23. 貫和敏博：分子呼吸器病学 肺癌：診断から治療－新規治療としての分子標的薬 新たな開発理念と臨床成績：謎の解明が新たな謎を呼ぶ。山形大学医学部3学年講義，山形，2004.6.
24. 貫和敏博：間質性肺炎を巡る最近の話題。徳島大学第3内科開講記念講演，徳島，2004.6.
25. 貫和敏博：肺癌分子標的薬が切り開く癌病態研究と治療の地平。産業医科大学胸部腫瘍学大学院講義，北九州，2004.9.
26. 貫和敏博：特別講演 分子呼吸器病学の臨床展開。九州大学大学院医学研究院附属胸部疾患研究施設第52回開講記念会。福岡，2004.10.
27. 貫和敏博：肺がんの弱点をピンポイントで攻撃する夢の薬剤・分子標的薬と個別化医療。東北大学出前授業南吉成小学校，仙台，2004.11.
28. 貫和敏博：肺腫瘍と縦隔・胸腔腫瘍。順天堂大学 平成16年度M3臨床統合講義，東京，2005.1.
29. 貫和敏博：新しい肺癌治療－oncogene addict と分子標的薬－。東北大学医学部平成16年選択制統合型講義コースC，仙台，2005.2.
30. 貫和敏博：シグナル伝達と肺発癌。東北大学院修士課程講義，仙台，2005.6.
31. 貫和敏博：肺癌診療にみられる分子呼吸器病。山形大学医学部講義，山形，2005.7.
32. 貫和敏博：西野流呼吸法 呼吸は身体に何の刺激を与えているのか（舞踏家・音楽家の身体を流れるエネルギー）。元気スクール東北福祉大学第3回講座，仙台，2006.2.
33. 貫和敏博：タバコの煙が肺にはいると何が起こるか？肺の仕組みと喫煙問題：タバコの煙が肺を破壊する。タバコの問題はニコチンだけではない。平成18年度東北大学全学教育科目「体と健康」，仙台，2006.5.
34. 貫和敏博：呼吸は全身に何の刺激を与えているのか 西野流呼吸法の教養講座21世紀の科学として身体を考える。平成18年度東北大学全学教育科目「体と健康」，仙台，2006.5.
35. 貫和敏博：シグナル伝達と肺発癌・治療。平成18年度東北大学院修士課程講義，仙台，2006.6.

36. 貫和敏博：びまん性呼吸器疾患と間質性肺炎：Guesswork から Evidence への道。山形大学特別講義 分子呼吸器病学，山形，2006.6.
37. 貫和敏博：びまん性呼吸器疾患と間質性肺炎：Guesswork から Evidence への道。亀田総合病院研修医講義，千葉，2006.6.
38. 貫和敏博：これからの呼吸器診療。みやぎ県南中核病院研修医講義，柴田，2007.3.
39. 貫和敏博：呼吸は全身に何の刺激を与えているか 西野流呼吸法の教養講座 21世紀の科学としての身体を考える。平成19年度東北大学全学教育科目「体と健康」，仙台，2007.6.
40. 貫和敏博：138；加齢医学の最前線。平成19年度基礎ゼミ，仙台，2007.6.
41. 貫和敏博：呼吸器疾患とゲノム・個別化医療 呼吸は全身に何の刺激を与えているのか。山形大学医学部3年生講義 分子呼吸器病学，山形，2007.6.
42. 貫和敏博：これからの呼吸器診療。大崎市民病院臨床研修医講義，大崎，2008.5.
43. 貫和敏博：これからの呼吸器診療。平鹿総合病院臨床研修医講義，横手，2008.8.
44. 貫和敏博：分子標的薬：Paradigm shift の中での視点。坂総合病院研修医講義，塩釜，2009.10.
45. 貫和敏博：呼吸器への誘い：肺小葉と疾患，肺癌治療と細胞死。平鹿総合病院：研修医講義，平鹿，2009.11
46. 貫和敏博：喫煙と健康：煙草の煙が肺にはいると何が起こるか？行政のシステムとして何が諸悪の根源か？。平成21年度東北大学全学教育「身近な病気の基礎知識」，仙台，2009.12.
47. 貫和敏博：禁煙と健康 呼吸器性疾患と喫煙 われはすべて毒あるもの，害あるものを絶ち。仙台市医師会高等看護学院特別講義，仙台，2010.1.
48. 玉田勉，大河内眞也，小山正平，貫和敏博：仙台医療センター初期研修医なっとく！胸部写真講義 第1回胸部写真の読影の基礎。仙台医療センター初期研修医講義，仙台，2010.1.

49. 貫和敏博：肺癌分子標的薬 エビデンス創生のダイナミズム。ASC-WTQ 2009 年度 グループ H, 仙台, 2010.1.
50. 貫和敏博：最近考える呼吸器の課題：肺小葉、そしてスーパーレスポンダー。第7回東京大学呼吸器内科同窓会, 東京, 2010.4.
51. 貫和敏博：呼吸器疾患の病態と診断：腫瘍・炎症・感染と線写真・気管支鏡検査。平成22年度東北大学大学院医学研究科 医科学専攻修士課程 内科学概論, 仙台, 2010.6.
52. 貫和敏博：肺ってなんだろう？呼吸ってなんだろう？登山医学から, 肺小葉, 分子標的薬, 呼吸法。H22年度山形大学呼吸器内科学 分子呼吸器病学, 山形, 2010.6.
53. 貫和敏博：肺癌の分子標的薬 うそのような本当の話 新しい肺癌生物学とは？。H22年度東北大学オープンキャンパス医学部模擬講義, 仙台, 2010.7.
54. 貫和敏博：患者に還元する臨床試験：肺癌分子標的薬と抗肺線維症剤臨床試験の経験から。新潟大学医学部・歯学部・医歯学総合病院 臨床研究センター 臨床研究：現場の苦悩と工夫, 新潟, 2010.11.
55. 貫和敏博：呼吸器はなぜ面白いのか？－肺生理、分子生理学、呼吸法まで－。平成22年度平鹿総合病院研修医講義, 横手, 2010.11.
56. 貫和敏博：呼吸器はなぜ面白いのか？－分子生物学から呼吸法「気」まで－。平成22年度岩手県立医学会－, 盛岡, 2010.12.
57. 貫和敏博：呼吸器疾患の病態と診断：腫瘍・炎症・感染と X 線写真・気管支鏡検査。平成23年度東北大学大学院医学研究科医科学専攻修士 内科学概論, 仙台, 2011.6.
58. 貫和敏博：なぜ私は呼吸器科医になったか！私の医師メンター論。平成23年度熊本大学医学部呼吸器内科同門会総会, 熊本, 2011.6.
59. 貫和敏博：医師人生のメンター論：メンターとの出会いが呼吸器研究を展開した。高知大学医学部6年講義, 高知, 2011.7.
60. 貫和敏博：医師人生のメンター論：メンターとの出会いが呼吸器研究を展開した。平鹿総合病院研修医講義, 横手, 2011.7.

61. 貫和敏博：医師人生のメンター論：メンターと出あって呼吸器を専攻。東北呼吸器内科医療推進機構第3回研修医「呼吸器塾」症例検討会，仙台，2011.8.
62. 貫和敏博：医師人生のメンター論：私は呼吸器専攻をメンターとの出会いで決めた。平成23年度卒前最終講義，仙台，2011.9.
63. 貫和敏博：呼吸器病学の20世紀と21世紀 ～異端からみた感染症，炎症，肺癌を考える～。八戸市民病院研修医講義，八戸，2011.9.

#### 市民講座

1. 貫和敏博：未知の身体と呼吸法。講談社野間研究所 評議員対象講演会，東京，1995.
2. 貫和敏博：呼吸法でならう身体のゆるめと健康－西野流呼吸法の身体知。日債銀NBC講演会，仙台，1996.
3. 貫和敏博：公開市民講座「肺がんはどんな病気か」。愛知県がんセンター国際シンポジウム公開がんセミナー，愛知，1998.1.
4. 貫和敏博：肺がんはどんな病気か。加齢研職員，仙台，1998.
5. 貫和敏博：呼吸と健康 呼吸法で習う体のゆるめと健康：西野流呼吸法の身体知。日本酒造組合中央会第14回東北酒造大会，八戸，1998.
6. 貫和敏博：肺とたばこ。第4回たばこ事業等審査会懇談会，東京，1998.
7. 貫和敏博：肺癌の新しい治療：遺伝子治療。第52回日本胸部外科学会市民公開講座「肺癌に挑む」，仙台，1999.
8. 貫和敏博：バーチャル時代の自分の身体・あなたの身体：身体性への回帰が求められる21世紀。高校教育実践研究会第13回研修会，富谷，2000.
9. 貫和敏博：肺の広さは一面のテニスコート。東北肺の日記念・公開市民医学講座「肺ってすごい」，仙台，2000.
10. 貫和敏博：がんと遺伝子治療。第38回日本癌治療学会 市民公開講座：がんと遺伝子，仙台，2000.



11. 貫和敏博：身体が喜ぶ呼吸法：背骨のストレッチと気との交流（由美かおるの西野流呼吸法）。宮城県糖尿病協会友の会集い，仙台，2000.
12. 貫和敏博：肺の呼吸と全身の呼吸－西野流呼吸法の楽しみ－. 多摩在宅酸素の友の会（HOT 友の会）総会，東京，2001.
13. 貫和敏博：肺がんの話。「肺の日」記念・公開市民講座【肺といのちを大切に】，盛岡，2001.8.
14. 貫和敏博：肺の呼吸と全身の呼吸－西野式呼吸法の楽しみ－. 多摩在宅酸素友の会（HOT 友の会）総会，東京，2001.6.
15. 貫和敏博：身体性へのルネサンス. 泉友会 平成14年3月度例会，仙台，2002.3.
16. 貫和敏博：肺癌を考える. 日本呼吸器学会東北支部会第4回東北「肺の日」市民講演会，仙台，2003.8.
17. 貫和敏博：タバコの煙が肺にはいると何が起こるか？「タバコを吸わない」生徒指導のための医学. 平成16年度学校保健研修会，仙台，2004.6.
18. 貫和敏博：肺癌を対象とした先端医学－遺伝子治療と分子標的薬. 先端医学の普及・発展を目指して 市民とともに倫理を語る. 先端医学研究等普及啓発セミナー，仙台，2004.8.
19. 貫和敏博：肺癌治療の customer satisfaction－肺癌分子標的薬はCSを変えるか？－. 東北 PEC 協会 第8回作業改善発表会，仙台，2005.5.
20. 貫和敏博：タバコの煙が肺に入ると何が起こるか？「タバコを吸わない」：患者・同僚指導のための医学. 平成17年度東北大学病院禁煙対策講習会，仙台，2005.11.
21. 貫和敏博：市民公開講座 患者の「やまい」，患者の「こころ」開催にあたって. 第47回日本呼吸器学会学術講演会，東京，2007.5.
22. 貫和敏博：呼吸と健康 肺・喫煙・肺がんそして呼吸法. 平成20年度 真栄会・藤栄工芸合同安全大会，利府町，2008.7.
23. 貫和敏博：現在の肺の病気：肺がんとはどんな病気？. 東北大学病院公開見学会，仙台，2007.5.

24. 貫和敏博：SWC 元気点検票「息」呼吸機能の向上のための実践処方。公開シンポジウム 守りと攻めの健康法，東北福祉大学，仙台，2008.9.
25. 貫和敏博：肺と中高年の息切れ～肺年齢を調べてみませんか～。河北健康フォーラム，仙台，2009.3.
26. 貫和敏博：タバコの煙が身体に入ったらどうなるの？～タバコ病への正しい知識～。豊頃町市民講座，豊頃，2009.10.
27. 貫和敏博：COPD（慢性閉塞性肺疾患）。～キョーリン presents～【笑顔 de 健康 専門医が語る最新医療】福島中央テレビ番組，2009.10.
28. 貫和敏博：喫煙者肺がんとは非喫煙者肺がん：何が違うの？。第2回元気！健康！フェア in とうほく生活習慣を見直していきいきライフ。仙台，2010.2.
29. 貫和敏博：遺伝子診断を基にした肺癌の個別化分子標的治療を確立。記者説明会，仙台・東京，2010.6.
30. 貫和敏博：肺がん：ニコチン弱者とスーパーレスポonder。第4回東北大学病院 市民公開講座 身近な肺の病気からあなたを守る，仙台，2010.7.
31. 貫和敏博：喫煙者肺がんとは非喫煙者肺がん：何が違うの？ ニコチン弱者とスーパーレスポonder。第450回仙台市医師会市民医学講座記念講演会，仙台，2010.9.
32. 貫和敏博：肺がん：ニコチン弱者とスーパーレスポonder。第2回市民健康フォーラム－安全・安心な医療と専門医－，東京，2010.11.
33. 貫和敏博：教えて！ドクター～がん検診受診セミナー肺がんの正体と肺がん検診～。平成22年度がん検診受診促進キャンペーン，仙台，2011.2.

## 研究会

1. 貫和敏博：呼吸器内科と加齢医学－肺癌を中心とした分子医学・遺伝子治療の概念－。第100回加齢研集談会，仙台，1993.
2. 貫和敏博：間質性肺炎と肺癌合併。山水会，仙台，1993.
3. 貫和敏博：肺気腫：最近の話題。宮城県医師会教育講演会，仙台，1993.

4. 貫和敏博：特発性間質性肺炎における肺癌発生. 第72回癌臨床集団会, 仙台, 1993.
5. 貫和敏博：BAL の臨床応用. 第303回臨床予防医学研究会, 東京, 1993.
6. 貫和敏博：診断の困難であった呼吸器感染自験例. 栗原郡医師会学術講演会, 栗原, 1993.
7. 貫和敏博：特発性間質性肺炎における肺癌発生. 第39回呼吸器疾患症例検討会, 名取, 1993.
8. 貫和敏博： $\alpha$ 1-アンチトリプシンは蛋白分解酵素阻害物質であるという理解は正しいか? - その欠損と肺気腫発症の意味の考察. 第101回加齢研集談会, 仙台, 1993.
9. 貫和敏博：肺気腫の成因と臨床像. 会津呼吸器疾患懇話会, 会津若松, 1993.
10. 貫和敏博：HTLV-1キャリアーに発症した重症肺炎の一例. 山水会, 仙台, 1994.
11. 貫和敏博：分子生物学の臨床における展開. 仙台国立病院地域医療研究センター研修会, 仙台, 1994.
12. 貫和敏博：診断の困難であった呼吸器感染症自験例. 石巻医師会学術講演会, 石巻, 1994.
13. 貫和敏博：呼吸器専門医にとって unfamiliar な呼吸について - “気”の現象と呼吸-. 第10回埼玉呼吸器セミナー, 埼玉, 1994.
14. 貫和敏博：呼吸器病学における分子生物学の展開 - 遺伝性疾患と肺癌. 第10回兵庫呼吸器疾患研究会, 神戸, 1994.
15. 貫和敏博：高齢者肺癌の診断と内科的治療. 徳島県学術講演会, 徳島, 1994.
16. 貫和敏博：肺癌の内科的治療 - 難治性の背景. 第67回新庄・最上臨床懇話会, 新庄, 1994.
17. 貫和敏博：呼吸器疾患における単一遺伝子異常 - 日本人と欧米人の差 -. 平成6年度日衛協東北支部月間大会教育講演, 仙台, 1994.

18. 貫和敏博：胸部 X 線写真上びまん性陰影を呈する呼吸器疾患。日医生涯教育講座・救急医療医師研修会，気仙沼，1994.
19. 貫和敏博：“Protease-Antiprotease”その生物学的な意義は何か？. 第2回 Research conference of Lung Injury & Repair プログラム，東京，1994.
20. 貫和敏博：気管支肺胞洗浄法（BAL: Bronchoalveolar lavage). 八戸胸部疾患懇話会講演会，八戸，1995.
21. 貫和敏博：呼吸器疾患における単一遺伝子異常 - 日本人と欧米人の差の背景 -. 第51回松山胸部疾患懇話会特別講演会，松山，1995.
22. 貫和敏博：肺癌の内科治療：化学療法作用機序に対する考え方の最近の展開。第80回肺癌呼吸器疾患勉強会学術講演会，いわき，1995.
23. 貫和敏博：肺癌の分子生物学 - その展開と問題点の整理。肺癌化学療法研究会，東京，1995.
24. 貫和敏博：呼吸器疾患における家族内集積解析の必要性和背景：単一遺伝子異常と多因子要因。第100回山水会記念講演会，仙台，1995.
25. 貫和敏博：呼吸器疾患における家族内集積解析の必要性和背景：呼吸器専門医は胸部写真に拠って家族歴を考えるべきである。香川呼吸器疾患懇話会，高松，1995.
26. 貫和敏博：間質性肺炎（肺線維症）の臨床。大崎地区医師会学術講演会，古川，1995.
27. 貫和敏博：固形癌に関する分子生物学の知見から肺癌を考える。宮城県立がんセンターセミナー，名取，1995.
28. 貫和敏博：呼吸器の臨床。淳医会，姫路，1995.
29. 貫和敏博：治療の観点から見た肺癌（固形癌）の分子生物学。第7回肺血液腫瘍研究会，盛岡，1995.
30. 貫和敏博：アポトーシスとは何か？ - 抗ガン剤の概念が変わっていく。山水会，仙台，1995.
31. 貫和敏博：IIP の病因をめぐって - 内因性因子。第5回広島肺線維症セミナー，広島，1996.

32. 貫和敏博：固形癌研究の現状と肺癌。第64回兵庫県肺癌懇話会，神戸，1996.
33. 貫和敏博：固形癌における免疫遺伝子療法は可能か。第27回静岡県臨床免疫懇話会，浜松，1996.
34. 貫和敏博：呼吸生理学から分子呼吸器病学へ。Fuji Human Science Seminar，裾野，1996.
35. 貫和敏博：Von reckinghausen 病に見られた肺びまん性陰影。山水会，仙台，1996.
36. 貫和敏博：肺シリーズ 第一回肺癌の診断と治療。第98回仙台内科医会勉強会，仙台，1997.
37. 貫和敏博：無ガンマグロブリン血症に見られた気管支拡張症の一例。山水会，仙台，1997.
38. 貫和敏博：Biology of Lung Cancer: Cancer related genes & cancer immunology. 箱根シンポジウム：肺癌，箱根，1997.
39. 貫和敏博：肺癌の臨床／難治癌の診断と治療。柴田町医師会学術講演会，柴田，1997.
40. 貫和敏博：癌遺伝子治療：その理念と日本の問題点。第23回福岡癌化学療法研究会，福岡，1997.
41. 貫和敏博：肺障害と防御・修復：間質性肺炎の臨床と基礎。第8回フォーラム・イン・ドージン，熊本，1997.
42. 貫和敏博：肺癌の遺伝子治療：その理念と展望。黒川郡医師会学術講演会，大和，1997.
43. 貫和敏博：癌生物学の最近の知見と肺がん治療への展開。第15回岩手肺癌懇話会，盛岡，1997.
44. 貫和敏博：特発性上葉限局型肺線維症。第123回山水会，仙台，1997.
45. 貫和敏博：線維化肺の病態と修復－治療のために何が必要か－。第37回肺の免疫と代謝の研究会，福岡，1998.

46. 貫和敏博：呼吸器疾患における遺伝子治療の基礎と臨床。平成9年度第38回結核予防会医師研修会，仙台，1998.
47. 貫和敏博：呼吸器疾患について。第375回八戸胸部疾患懇話会，八戸，1998.
48. 貫和敏博：呼吸器疾患と遺伝子治療。第13回秋田呼吸器疾患フォーラム，秋田，1998.
49. 貫和敏博：最近話題の癌治療戦略。第8回福島呼吸器感染症研究会，福島，1998.
50. 貫和敏博：呼吸器腫瘍研究分野（胸部腫瘍内科）。東北大学加齢医学研究所外部評価委員会，仙台，1998.
51. 貫和敏博：肺障害：急性肺障害と慢性線維化肺の臨床。第3回長崎臓器障害研究会，長崎，1998.
52. 貫和敏博：遺伝子治療－実験医療の理念と克服すべき問題。国立感染症研究所第4回感染研学会セミナー，東京，1998.
53. 貫和敏博：3年間の到達点と今後の課題：特発性間質性肺炎の研究について。厚生省特定疾患調査研究班びまん性肺疾患分科会，東京，1998.
54. 貫和敏博：肺癌診療の現状。白石市医師会勉強会学術講演会，白石，1999.
55. 貫和敏博：肺癌の遺伝子治療。盛岡市医師会内科医会例会，盛岡，1999.
56. 貫和敏博：「癌細胞と宿主の生物学」：肺癌治療のtargetをどう設定するか？。第22回富山肺癌研究会，富山，1999.
57. 貫和敏博：生体防御と呼吸器疾患：炎症と腫瘍。第2回宮崎「感染と免疫」研究会，宮崎，1999.
58. 貫和敏博：肺癌治療の現状。薬剤師学術講演会，仙台，1999.
59. 貫和敏博：家族性線維化肺の家系調査。第3回間質性肺炎分子細胞病態研究会（小野），東京，1999.
60. 貫和敏博：肺癌：難治癌の治療戦略を考える。竹田病院医局講演会，会津若松，1999.
61. 貫和敏博：加齢肺の病態と感染。第48回感染防止研究会，仙台，1999.

62. 貫和敏博：間質性肺炎をめぐって：どういう問題把握が必要か？. ムコダインフォーラム, 東京, 1999.
63. 貫和敏博：特発性間質性肺炎の診断基準をめぐって 分類と名称について：臨床の立場. 第一回間質性肺炎研究会 (山之内), 東京, 2000.
64. 貫和敏博：肺癌の遺伝子治療. 置賜胸部疾患セミナー, 仙台, 2000.
65. 貫和敏博：肺癌治療への新たな戦略. 旭川肺を診る会学術講演会, 旭川, 2000.
66. 貫和敏博：「特発性間質性肺炎：診断と治療－国際共通認識声明」をめぐって. 第33回チェストカンファランス, 新潟, 2000.
67. 貫和敏博：肺癌治療：難治癌治療への諸戦略. 第3回IRC (Ibaraki Respiration Conference), 茨城, 2000.
68. 貫和敏博：肺癌遺伝子治療：臨床試験を開始して. 郡山地区分子生物学勉強会, 郡山, 2000.
69. 貫和敏博：遺伝子治療－アデノウイルスによる p53肺癌遺伝子治療. 宮城県医師会医師研修講習会, 古川, 2000.
70. 貫和敏博：遺伝子治療：21世紀の夢－試行を積み上げて実効性を追求する. 第11回東北動物実験研究会講演会, 仙台, 2000.
71. 貫和敏博：対肺癌前臨床動物実験から「癌」を考える. HCP 研究会, 松山, 2001.
72. 貫和敏博：肺癌遺伝子治療の現状. 第33回山形肺癌懇話会, 山形, 2001.
73. 貫和敏博：分子標的としての肺癌・呼吸器領域遺伝子治療. 第一回岐阜肺癌遺伝子治療研究会, 岐阜, 2001.
74. 貫和敏博：肺癌の遺伝子治療の現状. 第33回山形肺癌懇話会, 山形, 2001.
75. 貫和敏博：分子標的としての肺癌・呼吸器領域遺伝子治療. 第一回岐阜肺癌遺伝子治療研究会, 岐阜, 2001.
76. 貫和敏博：肺癌の診療：最近の話題. 第596回松本市医師会生涯教育講座・第131回松本市医師会肺癌研究会, 松本, 2002.7.

77. 木村雄一郎, 海老名雅仁, 清水川稔, 秋山健一, 小野修一, 堀越理紀, 新藤哲, 貫和敏博: 無症状特発性肺線維症の早期診断は可能か? 第67回間質性肺疾患研究会, 東京, 2002.11.
78. 大河内眞也, 海老名雅仁, 貫和敏博: 超合金肺の一症例. 第28回臨床呼吸器カンファレンス, 東京, 2002.11.
79. 貫和敏博: 難治性肺癌の治療を考える: 最近の話題を巡って. 第11回 Kyoto Chest Club (KCC), 京都, 2003.2.
80. 貫和敏博: 呼吸器の腫瘍と炎症 分子標的治療薬イレッサ (Gefitinib) の臨床効果・副作用・課題. 仙台呼吸器疾患研究会180回記念学術講演会, 仙台, 2003.5.
81. 貫和敏博: イレッサの最近の話題その1: 効果と副作用について. 福島県立医科大学医師会とアストラゼネカ (株) との学術講演会, 福島, 2003.6.
82. 貫和敏博: 第二回岩手県肺癌分子標的フォーラム. 岩手県肺癌分子標的フォーラムとアストラゼネカ (株) との学術講演会, 盛岡, 2003.6.
83. 貫和敏博: 間質性肺炎の現在の考え方. 第43回臨床呼吸機能講習会, 東京, 2003.8.
84. 貫和敏博: 東北大学加齢医学研究所. 財団法人ヒューマンサイエンス振興財団第116回研究委員会勉強会, 東京, 2003.8.
85. 貫和敏博: 肺癌診療と最新の治療薬. 筑後カンファレンス, 筑後市, 2003.11.
86. 貫和敏博: びまん性肺疾患の最近の話題 - とくに IPF 個人表改訂を経て -. 第41回 JR 胸部疾患研究会特別講演. 2004.1.
87. 貫和敏博: 特発性肺線維症の急性増悪: 慢性炎症肺における急性肺障害の鑑別. 第8回エンドトキシン血症救命治療研究会, 名古屋, 2004.1.
88. 貫和敏博: 特発性間質性肺炎の最近の考え方. 第100回仙南呼吸器懇談会, 2004.2.
89. 貫和敏博: 特発性間質性肺炎: 最近の病態解析の話題と新規臨床試験. 第41回日本分子医学会学術集会, 福岡, 2004.7.
90. 貫和敏博: 肺癌に対する分子標的薬剤: 理念と実際 基礎研究と臨床研究が交差する Exciting な肺癌治療. 第44回臨床呼吸機能講習会, 福岡, 2004.8.



91. 貫和敏博：特別講演 Somatic EGFR Activating Mutation の意味を考える：イレッサの真の標的と臨床対応．北九州 IRESSA Round Table Meeting, 北九州, 2004.9.
92. 貫和敏博：間質性肺炎 最近のトピックス．第22回呼吸器・免疫シンポジウム, 東京, 2004.10.
93. 貫和敏博：特別講演 薬剤性肺傷害の診断に不可欠な最新の知見を報告．第1回リウマチ医のための肺傷害研究会, 東京, 2005.1.
94. 貫和敏博：特発性間質性肺炎と膠原病肺 呼吸器内科の立場から．第1回膠原病肺疾患研究会, 東京, 2005.2.
95. 貫和敏博：間質性肺炎の臨床：急性増悪の病態をどう理解するか．姫路肺疾患研究会, 姫路, 2005.8.
96. 貫和敏博：特発性間質性肺炎：急性増悪病態について．第34回愛媛びまん性肺疾患研究会, 松山, 2005.9.
97. 貫和敏博：特発性間質性肺炎：急性増悪をめぐる最近の話題．第4回群馬間質性肺炎講演会, 前橋, 2006.4.
98. 貫和敏博：リウマチ関連疾患の呼吸器病変 随伴病変, 薬剤誘起性感染症・間質性肺炎．第21回ボーンフォーラム, 松山, 2007.2.
99. 貫和敏博：間質性肺炎急性増悪と早期炎症病態制御．TOHOKU SIRS-ALI SEMINAR 2007, 仙台, 2007.2.
100. 貫和敏博：呼吸は全身に何の刺激を与えているか 西野流呼吸法の教養講座 21世紀の科学としての身体を考える．第174回内科懇話会, 仙台, 2007.6.
101. 貫和敏博：肺生理からゲノム解析へ：次なる呼吸器病学を探って．第6回岐阜呼吸器再生治療セミナー, 岐阜市, 2007.9.
102. 海老名雅仁, 佐藤栄三郎, 廣田直, 佐藤大希, 太田洋充, 玉井ときわ, 木村雄一郎, 田澤立之, 貫和敏博：夏型過敏性肺炎の慢性化から狭窄性細気管支炎 + nSIP への進展症例．第9回東北びまん性肺疾患研究会, 仙台, 2007.9.
103. 貫和敏博：間質性肺炎病態とインターベンション．第7回北海道呼吸器疾患フォーラム, 札幌, 2007.10.

104. 貫和敏博：Kilimanjaro 登山と高山医学・負荷医学。第295回心肺会，仙台，2008.1.
105. 貫和敏博：最近の肺疾患の話題 COPD 研究のアイデア・肺がん分子標的治療。第20回宮城県地域医療研究会，仙台，2008.2.
106. 貫和敏博：好中球エラスターゼとその弊害：基礎と間質性肺炎の臨床。ONO-5046・Na 前期第Ⅱ回相試験中間研究会，東京，2008.4.
107. 貫和敏博：EGFR 変異検査とその臨床展開。第1回四国分子標的セミナー，新居浜市，2008.4.
108. 貫和敏博：間質性肺炎の理解と治療 びまん性肺疾患班会議の成果と国内外の展開。工藤翔二教授退任記念ならびに弦間昭彦教授就任祝賀会記念講演会，東京，2008.5.
109. 貫和敏博：間質性肺炎の病態－RA 肺と薬物性肺。平成20年度宮城地区リウマチ教育研修会，仙台，2008.9.
110. 貫和敏博：肺腺癌における EGFR 活性型変異：個別化医療実現への臨床展開。Traceva Excellence Meeting in Akita，秋田，2008.9.
111. 貫和敏博：肺小葉構造と呼吸器炎症性疾患。高知県胸部疾患研究会，高知，2008.11.
112. 貫和敏博：呼吸器における Genetics：最近の話題。第100回呼吸器疾患懇話会，千葉，2008.11.
113. 貫和敏博：2000年以降遺伝子研究に何が起きているか？Chip よ Chip！肺癌の原因遺伝子は何？心肺会，仙台，2009.1.
114. 貫和敏博：IPF の診断と治療の最前線－肺小葉構造と疾患機序を背景に－。第二回呼吸器疾患を語る会，横浜，2009.1.
115. 貫和敏博：肺癌治療の最前線－分子「標的」とは何か？－。柴田郡医師会学術講演会，柴田，2009.1.
116. 貫和敏博：肺小葉構造と呼吸器疾患。Special Lecture，京都，2009.1.
117. 貫和敏博：EGFR－TKI：Paradigm shift の中での視点。肺癌治療 Up to Date 2009，静岡，2009.2.

118. 貫和敏博：肺小葉構造と肺疾患：IPF と COPD, GWAS を含めて. 北和呼吸器疾患カンファレンス, 奈良, 2009.3.
119. 貫和敏博：肺小葉構造と呼吸器疾患－哺乳動物の肺・COPD：Kilimanjaro 経験を研究に－. 心肺会, 仙台, 2009.6.
120. 貫和敏博：特発性間質性肺炎：次なる展開. 第6回北関東信越呼吸器フォーラム, 東京, 2009.7.
121. 貫和敏博：EGFR-TKI：Paradigm shift 中の視点. 第11回東海分子呼吸器研究会, 名古屋, 2009.8.
122. 貫和敏博：西野流呼吸法による「呼吸運動」の可能性－呼吸ケアにどう生かせるか？－. 北陸呼吸ケア研究会第18回富山会, 富山, 2009.8.
123. 貫和敏博：リウマチ関連疾患の呼吸器病変随伴病変, 薬剤誘起性感染症・間質性肺疾患. 第5回骨をかたる会, 松山, 2009.9.
124. 貫和敏博：EGFR - TKI：NSCLC near CR - 次の展開は？. 第4回大阪肺癌ワークショップ, 大阪, 2009.9.
125. 貫和敏博：インフルエンザ肺炎と急性肺損傷. 第314回心肺会, 仙台, 2009.10.
126. 貫和敏博：インフルエンザ肺炎と急性肺損傷. 埼玉急性肺損傷研究会2009, 川越, 2009.10.
127. 貫和敏博：呼吸器への誘い：肺小葉と肺線維症, 肺腺癌治療. 会津肺癌勉強会, 会津若松, 2009.10.
128. 貫和敏博：逆・腫瘍学：肺腺癌分子標的薬の衝撃. 第33回十勝地区呼吸器疾患研究会, 帯広市, 2009.10.
129. 貫和敏博：特発性肺線維症：対応すべき課題. 第41回奈良県呼吸器疾患研究会, 奈良, 2009.11
130. 貫和敏博：肺腺癌分子標的薬：パラダイムシフトのガン生物学から実臨床のEBMへ. がん・エピゲノム研究会, 仙台, 2010.6.
131. 貫和敏博：肺腺癌の新しい時代：分子標的薬とスーパーレスポnder. 第14回湘南呼吸器研究会, 横浜, 2010.7.

132. 貫和敏博：先端技術と臨床研究の統合による創薬研究の新地平～創薬が明かす逆・腫瘍学：肺腺癌変異 EGFR 分子標的薬。創剤フォーラム第16回シンポジウム，東京，2010.10.
133. 貫和敏博：呼吸と運動を通じた身体知の探求からリハビリテーション科学へ。呼吸運動療法研究会ワークショップ，仙台，2011.1.
134. 貫和敏博：現実化するゲノム医学・癌ゲノム。第329回心肺会，仙台，2011.2.2.
135. 貫和敏博：肺腺癌に対する分子標的薬～その後の臨床展開～。第35回東濃喘息対策委員会研究会（肺癌治療セミナー），名古屋，2011.2.
136. 貫和敏博：肺腺癌に対する分子標的薬～気がつけば周りは EGFR 変異陽性ばかり～。石巻赤十字病院肺がん治療セミナー，石巻，2011.2.
137. 貫和敏博：肺小葉が分かれば呼吸器が分かる－動物進化から COPD，IPF，肺がんまで－。第17回東邦大学呼吸器セミナー，東京，2011.2.
138. 貫和敏博：肺腺癌に対する分子標的薬～その後の臨床展開～。第3回 Lung Cancer Academia in SHONAN，藤沢，2011.5.
139. 貫和敏博：これでなっとく！胸部写真講義。第333回心肺会，仙台，2011.6.
140. 貫和敏博：医師人生のメンター論：メンターとの出会いが呼吸器研究を展開した。第19回呼吸器エキスパート懇話会，東京，2011.6.
141. 貫和敏博：IPF 疾患病態から予想される将来の治療。第83回間質性肺疾患研究会，東京，2011.6.
142. 貫和敏博：肺腺癌に対する分子標的薬～気がつけば周りは EGFR 変異陽性ばかり～。第43回山形肺癌懇話会，山形，2011.7.
143. 貫和敏博：肺腺癌分子標的薬：その後の展開～調べれば肺腺癌は driver 変異ばかり～。第4回東京胸部化学療法研究会，東京，2011.9.
144. 貫和敏博：肺腺癌に対する分子標的薬～気がつけば周りは EGFR 変異陽性ばかり～。第6回長崎分子標的治療セミナー，長崎，2011.9.

## 一般演題

1. 貫和敏博, 堀真一郎, 真下陽子, 幕内晴朗, 村松宰, 市山新: 牛松果体からの tryptophan 5-hydroxylase の精製とその性質について. 第44回日本生化学学会大会, 仙台, 1971.
2. 貫和敏博, 遠山千春, 沖田千依子, 片山徹, 市山新: 牛松果体トリプトファン水酸化酵素の基質特異性. 第47回日本生化学学会, 岡山, 1974.
3. 貫和敏博, 岡庭弘, 原田敏雄, 大橋辰哉, 荻家利承, 鎌倉正英, 中原一彦, 岩本愛吉, 久米章司: 末梢血と骨髄とで著しく異なった病像を呈した急性白血病の一例. 第19回日本臨床血液学会総会, 名古屋, 1977.
4. 飯島福生, 松岡緑郎, 貫和敏博, 荒井達夫, 吉良枝郎: 体位変換に伴う動脈血ガスの変化. 第19回日本胸部疾患学会総会, 東京, 1979.
5. 本間栄, 貫和敏博, 飯島福生, 中村泰三, 荒井達夫, 吉良枝郎, 清川忠男, 長谷川嗣夫, 金森弘明, 小池盛雄: 気管腫瘍 (adenoidcystic carcinoma) の1手術例. 第44回日本胸部疾患学会関東地方会, 埼玉, 1979.
6. 名取博, 玉城繁, 石原照夫, 貫和敏博, 荒井達夫, 吉良枝郎: 超音波診断法をモニターとした癌性心嚢炎のコントロール. 第20回日本肺癌学会総会, 東京, 1979.
7. 泉三郎, 玉城繁, 名取博, 三重野龍彦, 倉富雄四郎, 石原照夫, 原洋, 貫和敏博, 中村泰三, 荒井達夫, 吉良枝郎: 超音波ガイド下穿刺の呼吸器疾患への応用. 第21回日本肺癌学会総会, 東京, 1980.
8. 松岡緑郎, 貫和敏博, 飯島福生, 石原照夫, 岡崎宣夫, 荒井達夫, 吉良枝郎: 実験的に作成した片側性肺水腫の特性. 第20回日本胸部疾患学会総会, 広島, 1980.
9. 名取博, 檀原高, 岡崎宣夫, 玉城繁, 松岡枝郎, 石原照夫, 飯島福生, 倉富雄四郎, 原洋, 貫和敏博, 荒木高明, 荒井達夫, 吉良枝郎: パラコートによる肺障害の臨床像とその予後. 第20回日本胸部疾患学会総会, 広島, 1980.
10. 貫和敏博, 檀原高, 名取博, 荒井達夫, 吉良枝郎: 血清アンジオテンシン変換酵素活性を指標としたサルコイドーシス症ステロイド療法の解析. 第20回日本胸部疾患学会総会, 広島, 1980.

11. 三重野龍彦, 玉城繁, 村山直樹, 貫和敏博, 荒井達夫, 吉良枝郎, 辻省治, 植木彰: Eaton-Lamvert 症候群を伴った肺癌(小細胞癌)の一例. 第67回日本肺癌学会関東部会, 東京, 1980.
12. 木村謙一, 玉城繁, 広瀬完夫, 松岡緑郎, 原洋, 貫和敏博, 名取博, 荒井達夫, 吉良枝郎: 喀痰の産生が目立ついわゆる肺胞上皮癌の二例. 第69回日本肺癌学会関東部会, 東京, 1980.
13. 金子健蔵, 玉城繁, 檀原高, 貫和敏博, 名取博, 荒井達郎, 吉良枝郎: サルコイドーシスに合併したアスペルギローマの1例. 第45回日本胸部疾患学会総会関東地方会, 東京, 1980.
14. 野本正嗣, 貫和敏博, 名取博, 荒井達夫, 吉良枝郎, 稲葉直樹, 原田三紀夫, 金森弘明: 自然気胸を併発した Marfan 症候群の1例. 第45回日本胸部疾患学会関東地方会, 東京, 1980.
15. 宮野雅光, 松岡緑郎, 石原照夫, 玉城繁, 檀原高, 貫和敏博, 荒井達夫, 吉良枝郎: 臨床診断法としての気管支肺胞洗浄法. 第22回関東気管支研究会, 東京, 1980.
16. 高木寛, 貫和敏博, 松岡緑郎, 名取博, 荒井達夫, 吉良枝郎: 肺静脈瘤の1例. 第48回日本胸部疾患学会関東地方会, 群馬, 1980.
17. 渡辺修一, 石沢裕子, 岡崎宣夫, 貫和敏博, 荒井達夫, 吉良枝郎, 高橋敦: 両側腎転移による腎不全が主徴となった肺癌(類表皮癌)の一例. 第68回日本肺癌学会関東部会, 東京, 1980.
18. 荒井達夫, 松岡緑郎, 貫和敏博, 飯島福生, 吉良枝郎: 一側性オレイン酸肺水腫モデル犬の肺表面活性. 第11回日本界面医学会学術研究会, 大津, 1980.
19. 吉良枝郎, 貫和敏博, 石原照夫: 自験呼吸不全症例の治療の実態 - 内科医の立場から. 第1回日本臨床麻酔学会, 岡山, 1980.
20. 三重野龍彦, 高木寛, 貫和敏博, 名取博, 荒井達夫, 吉良枝郎, 武藤良知, 齊藤健: 巨大な縦隔腫瘤影を呈した lymphoblastic lymphoma の一例. 第49回日本胸部疾患学会関東地方会, 東京, 1981.
21. 貫和敏博, 松岡緑郎, 石井芳樹, 倉富雄四郎, 高木寛, 荒井達夫, 吉良枝郎: 肺組織及び血清アンジオテンシン変換酵素のオレイン酸肺水腫犬における変化. 第21回日本胸部疾患学会総会, 仙台, 1981.

22. 高木寛, 松岡緑郎, 三重野龍彦, 原洋, 貫和敏博, 荒井達夫, 吉良枝郎, 清水英男, 二ノ村信正, 小池盛雄: サルコイドーシスにおける TBLB の診断的意義. 第4回日本気管支研究会総会, 東京, 1981.
23. 高木寛, 貫和敏博, 高橋英気, 倉富雄四郎, 檀原高, 名取博, 荒井達夫, 吉良枝郎: 細気管支肺胞型腺癌8例の検討-いわゆる肺胞上皮がんの進展形式について. 第22回日本肺癌学会総会, 札幌, 1981.
24. 高橋英気, 泉三郎, 松岡緑郎, 貫和敏博, 名取博, 荒井達夫, 吉良枝郎, 大原務, 羽田圓城, 二ノ村信正, 小池盛雄: 機関腫瘍の3例. 第25回関東気管支研究会, 東京, 1981.
25. 檀原高, 松岡緑郎, 貫和敏博, 名取博, 荒井達夫, 吉良枝郎: 父娘3人に見られ、寒冷凝集素価の以上高値を伴ったびまん性汎細気管支炎. 第22回日本胸部疾患学会総会, 東京, 1982.
26. 本間栄, 貫和敏博, 飯島福生, 中村泰三, 荒井達夫, 吉良枝郎, 清川忠男, 長谷川嗣夫, 金森弘明, 小池盛雄: 気管腺様嚢胞癌 (adenoid cystic carcinoma) の1手術例-気管狭窄と臨床所見との対比-. 第22回日本胸部疾患学会総会, 東京, 1982.
27. 貫和敏博: 肺血管障害性薬剤実験の病態と生化学的指標. 第24回日本胸部疾患学会総会, 東京, 1984.
28. 岡田光子, 松岡緑郎, 小林英夫, 貫和敏博, 名取博, 荒井達夫, 吉良枝郎, 二ノ村信生: 複数個の空洞形成を認めたサルコイドーシスの一例. 第24回日本胸部疾患学会総会, 東京, 1984.
29. 斎藤博之, 檀原高, 見元達朗, 山口芳, 岡正彦, 饗場三代治, 貫和敏博, 吉良枝郎: くも膜下出血に続発して反復憎悪をみた神経性肺水腫の1症例. 第29回日本胸部疾患学会総会, 京都, 1989.
30. 土井義之, 植木純, 檀原高, 貫和敏博, 大瀬良雄, 泉浩, 益田貞彦, 植草利公, 吉良枝郎: 経年的な腫大と気管偏位を確認し, 腫瘍内嚢胞液中の甲状腺ホルモンを測定した縦隔内甲状腺腫の2例. 第30回日本胸部疾患学会総会, 東京, 1990.
31. 見元達朗, 内田和仁, 桜庭晶子, 土井義之, 貫和敏博, 植草利公, 桑原紀之, 稲富恵子, 吉良枝郎: びまん性汎細気管支炎と診断して6年後に開胸肺生検を行いえた1症例. 第31回日本胸部疾患学会総会, 大阪, 1991.

32. 貫和敏博, 瀬山邦明, 高橋英気, 吉良枝郎: 日本の alpha 1-antitrypsin 欠損症における遺伝子変異とその背景. 第32回日本胸部疾患学会総会, 札幌, 1992.
33. 高橋和久, 檀原高, 益田貞彦, 植草利公, 貫和敏博, 吉良枝郎: S3, 4, 5 と残部で2葉を形成する左肺分葉異常を術前に診断しえた肺硬化性血管腫の一例. 第33回日本肺癌学会総会, 名古屋, 1992.
34. 見元達朗, 齊藤博之, 鈴木勉, 檀原高, 饗庭三代治, 貫和敏博, 吉良枝郎: 食道癌による気管狭窄の1例. 第60回日本気管支学会関東支部会, 東京, 1992.3.
35. 金田和彦, 小幡賢一, 田村尚亮, 本間栄, 檀原高, 貫和敏博, 吉良枝郎, 桑原紀之, 植草利公: BALF 中に多核巨細胞の増加を認めた, C 型レトロウイルス様粒子の存在が示唆された間質性肺炎の一症例. 第98回日本胸部疾患学会関東地方会, 東京, 1992.4.
36. 岩神真一郎, 高橋和久, 能戸幸司, 蓮沼紀一, 大西正浩, 桜庭晶子, 貫和敏博, 吉良枝郎: 乳癌術後肺転移病巣の画像と予後に関する臨床的検討. 第33回日本胸部疾患学会総会, 横浜, 1993.4.
37. 本間栄, 高橋和久, 瀬山邦明, 見元達朗, 佐々木信一, 貫和敏博, 吉良枝郎: 間質性肺炎における肺線維化関連増殖因子 (PDGF, IGF-I) の肺内局在. 第33回日本胸部疾患学会総会, 横浜, 1993.4.
38. 佐藤昇, 大西正浩, 瀬山邦明, 本間栄, 貫和敏博, 吉良枝郎: 自験特発性間質性肺炎における背景代謝因子の解析. 第33回日本胸部疾患学会総会, 横浜, 1993.4.
39. 花里紀尚, 蓮沼紀一, 佐藤弘一, 村松正嗣, 山口芳, 佐藤一彦, 岡正彦, 本間栄, 貫和敏博, 吉良枝郎: NO 合成阻害剤 (NAME) の肺高血圧症発症に及ぼす影響 - 病理学的検討を加えて -. 第33回日本胸部疾患学会, 横浜, 1993.4.
40. 瀬山邦明, 相馬早苗, 高橋英気, 清水一枝, 貫和敏博, 吉良枝郎: びまん性汎細気管支炎患者における CFTR 遺伝子異常の解析. 第33回日本胸部疾患学会総会, 横浜, 1993.4.
41. 田村尚亮, 岩瀬彰彦, 鈴木孝次, 高橋さつき, 相馬早苗, 貫和敏博, 吉良枝郎: サルコイドーシスにおけるウイルスの関与に関する検討. 第33回日本胸部疾患学会総会, 横浜, 1993.4.



42. 大和田明彦, 高橋英気, 本間栄, 瀬山邦明, 貫和敏博, 吉良枝郎: 肺癌癌組織における膜貫通型胎児性抗原の mRNA 発現の In situ hybridization 法による検討. 第33回日本胸部疾患学会総会, 横浜, 1993.4.
43. 家永浩樹, 鈴木勉, 大西正浩, 饗庭三代治, 檀原高, 貫和敏博, 吉良枝郎: 呼吸機能・血液ガス分析値から慢性閉塞性肺疾患 (COPD) 症例の運動時肺高血圧は予想できるか. 第33回日本胸部疾患学会総会, 横浜, 1993.4.
44. 大西正浩, 佐藤昇, 瀬山邦明, 本間栄, 貫和敏博, 吉良枝郎: 自験特発性間質性肺炎における背景合併症の解析. 第33回日本胸部疾患学会総会, 横浜, 1993.4.
45. 鈴木孝次, 田村尚亮, 岩瀬彰彦, 貫和敏博, 吉良枝郎: 間質性肺疾患における内在性レトロウイルス活性化に関する基礎的検討. 第33回日本胸部疾患学会総会, 横浜, 1993.4.
46. 松田州弘, 花里紀尚, 村松正嗣, 高橋英気, 貫和敏博, 吉良枝郎: 成人喘息外来におけるベクロメタゾン吸入量に関する検討. 第33回日本胸部疾患学会総会, 横浜, 1993.4.
47. 佐藤研, 鳴海晃, 伊勢村譲, 酒井俊彦, 森益子, 植松史行, 阿部達也, 貫和敏博: 抗体を用いたヒト肺癌細胞における40kDa ラミニン結合蛋白発現の評価. 第52回日本癌学会総会, 仙台, 1993.10.
48. 鈴木修治, 松原信行, 熊野伸子, 菅原俊一, 内山美寧, 貫和敏博: 培養ヒト肺小細胞癌におけるインターフェロン (IFN- $\alpha$ ) とアンチセンスオリゴヌクレオチドによる Rb 遺伝子の発現修飾. 第34回日本肺癌学会総会, 東京, 1993.11.
49. 佐藤研, 新藤哲, 阿部達也, 本宮雅吉, 貫和敏博: マウス肺癌細胞における40kDa ラミニン結合蛋白質発現の抑制. 第34回日本肺癌学会総会, 東京, 1993.11.
50. 内山美寧, 西條康夫, 熊野伸子, 貫和敏博, 斎藤泰紀, 藤村重文, 大久田和弘: 肺組織における核小体蛋白 p120の発現. 第34回日本肺癌学会総会, 長崎, 1993.11.
51. 三木誠, 井沢豊春, 手島建夫, 貫和敏博: 放射能標識したモノクローナル抗体 SA8-18の基礎的検討と認識抗原の解析. 第34回日本肺癌学会総会, 東京, 1993.11.

52. 森益子, 貫和敏博: 肺異型腺腫様過形成の超微形態像－腺癌・腺腫との比較検討. 第34回日本肺癌学会総会, 東京, 1993.11.
53. 井沢豊春, 手島建夫, 穴沢予識, 三木誠, Asif Mujtaba Mahmud, 貫和敏博: エロソール吸入肺スキャン－テクネガス, パーテクネガス, パーテクネテート. 第13回日本画像医学会総会, 東京, 1994.2.
54. 井沢豊春, 手島建夫, 穴沢予識, 三木誠, Asif Mujtaba Mahmud, 貫和敏博: 吸入肺スキャン製剤－テクネガス, パーテクネガス, パーテクネテートによる生理学的差異. 第34回日本胸部疾患学会総会, 千葉, 1994.4.
55. 菊地利明, 阿部達也, 鳴海晃, 新藤哲, 植松史行, 酒井俊彦, 佐藤研, 貫和敏博: Secretory leukoprotease inhibitor (SLPI) 遺伝子プロモーターの機能的解析. 第34回日本胸部疾患学会総会, 千葉, 1994.4.
56. 佐藤研, 鳴海晃, 貫和敏博, 森益子, 伊勢村譲: マウス肺癌細胞への40kDa ラミニン結合蛋白アンチセンス RNA の導入. 第26回日本結合組織学会, 岐阜, 1994.6.
57. 井沢豊春, 手島建夫, 穴沢予識, 三木誠, Asif Mujtaba Mahmud, 貫和敏博: 肺研究におけるパーテクネガスの有用性. 第34回日本核医学会総会, 札幌, 1994.9.
58. 西條康夫, Busch H, 貫和敏博: p120アンチセンスヌクレオチド癌細胞増殖効果と薬理動態. 第53回日本癌学会総会, 1994.10.
59. 佐藤研, 鳴海晃, 伊勢村譲, 本宮雅吉, 貫和敏博: マウス肺癌細胞におけるアンチセンス RNA を用いた40kDa ラミニン結合蛋白の発現抑制. 第53回日本癌学会, 名古屋, 1994.10.
60. 内山美寧, 西條康夫, 熊野伸子, 貫和敏博, 斉藤泰紀, 藤村重文, 大久田和弘: 肺癌組織における核小体蛋白 p120 の発現. 第10回 RMCB 研究会, 東京, 1995.1
61. Mahmud AM, 井澤豊春, 手島建夫, 穴沢予識, 三木誠, 貫和敏博: 上大静脈症候群と RI Venography. 第14回画像医学会, 名古屋, 1995.2.
62. Saijyo Y, Uchiyama B, Nakayama S, Suzuki S, Nukiwa T: C-myc antisense oligonucleotide inhibits cell growth of A549, a human lung cancer cell line. 第1回遺伝子治療学会, 東京, 1995.5.

63. 佐藤研, 鳴海晃, 貫和敏博: Suppression of the 40-kDa Laminin binding protein expression reduces tumorigenicity of murine lung cancer cells. 第1回日本遺伝子治療学会, 東京, 1995.5.
64. 内山美寧, 森ゆり子, 酒井俊彦, 八重柏政宏, 阿部達也, 佐藤研, 貫和敏博: 特発性間質性肺炎家計調査の必要性. 第35回日本胸部疾患学会総会, 名古屋, 1995.5.
65. 西條康夫, 内山美寧, 中山昇一, 貫和敏博: 肺癌細胞に対する c-myc アンチセンスオリゴの増殖抑制効果. 第35回日本胸部疾患学会総会, 名古屋, 1995.5.
66. Mahmud AM, 井澤豊春, 手島建夫, 三木誠, 貫和敏博, 穴沢予識, 平野富男: 上大静脈症候群における RI VENOGRAPHY の特徴. 第35回日本胸部疾患学会, 名古屋, 1995.5.
67. 八重柏政宏, 酒井俊彦, 森ゆり子, 大沼一也, 阿部達也, 佐藤研, 貫和敏博, 中村敏一: Hepatocyte growth factor (HGF) による薬剤有機性肺障害の抑制効果の検討. 第35回日本胸部疾患学会総会, 名古屋, 1995.5.
68. 菅原俊一, 植松史行, 麻生昇, 西條康夫, 鈴木修治, 渡辺彰, 貫和敏博: ホスホマイシンによる抗癌剤の感受性増強作用及びその修飾機構の検討. 第43回日本化学療法学会総会, 東京, 1995.6.
69. 内山美寧, 西條康夫, 熊野伸子, 阿部達也, 鈴木修治, 貫和敏博: 肺癌細胞株における核小体蛋白 p120 の発現. 第54回日本癌学会総会, 京都, 1995.10.
70. 佐藤讓治, 鈴木修治, 沼崎宗男, 西條康夫, 内山美寧, 佐藤研, 小池加保児, 大久田和弘, 岡田全司, 田中文明, 貫和敏博: SCID マウスによる syngeneic ホスト/腫瘍系作成と評価: 第54回日本癌学会総会, 京都, 1995.10.
71. 五十嵐孝之, 西條康夫, 前門戸任, 鈴木修治, 阿部達也, 貫和敏博: 肺癌死亡患者における入院期間と在宅期間の検討: 第36回日本胸部疾患学会, 宇都宮, 1996.4.
72. 内山美寧, 城倉英史, 阿部由直, 阿部達也, 中井祐之, 岡庭群二, 大久田和弘, 藤村重文, 貫和敏博: 肺癌-転移性脳腫瘍に対する  $\gamma$ -knife 治療と, 全脳照射治療との比較考察. 第36回日本胸部疾患学会, 宇都宮, 1996.4.
73. 海老名雅仁, 貫和敏博: 非小細胞肺癌組織内における癌抑制遺伝子 p53 変異の分布: In situ PCR の新手法. 第36回日本胸部疾患学会, 宇都宮, 1996.4.

74. 大島美和子, 富永泰之, 内山美寧, 佐藤秀隆, 阿部達也, 佐藤研, 貫和敏博, 新藤哲, 中井祐之: 当科における好酸球性肺炎に対するステロイド治療の検討. 第36回日本胸部疾患学会, 宇都宮, 1996.4.
75. 田中昌史, 前門戸任, 阿部達也, 佐藤研, 貫和敏博: 当科における肺癌の病名告知の実態. 第36回日本胸部疾患学会, 宇都宮, 1996.4.
76. 中山昇一, 八重柏政宏, 大沼一也, 酒井俊彦, 阿部達也, 佐藤研, 中村敏一, 貫和敏博: HGF は後投与においても BLM 惹起性マウス肺傷害抑制効果を示す. 第36回日本胸部疾患学会, 宇都宮, 1996.4.
77. Mahmud AM, 井沢豊春, 手島建夫, 三木誠, 貫和敏博: 肺癌に合併した上大静脈症候群における RI Venography の有用性～治療前後の比較, 効果判定の検討～. 第36回日本胸部疾患学会, 宇都宮, 1996.4.
78. 前門戸任, 西條康夫, 内山美寧, 五十嵐孝之, 貫和敏博: 家族歴既往歴からみた肺発癌個体背景. 第36回日本胸部疾患学会, 宇都宮, 1996.4.
79. 渡辺彰, 庄司聡, 高橋洋, 菊地暢, 貫和敏博: インフルエンザ流行時の呼吸器感染症症例のインターフェロン産生能推移と抗菌薬の影響. 第36回日本胸部疾患学会総会, 宇都宮, 1996.4.
80. 海老名雅仁, 貫和敏博: 肺癌組織内における癌抑制遺伝子 p53 の変異の分布: In situ PCR を用いた新手法. 第93回内科学会総会, 横浜, 1996.4.
81. Setoguchi Y, Iwakami S, Saijo Y, Noto K, Tamaki Y, Nukiwa T, Kira S: Induction of antitumor immunity for human lung cancer by using recombinant adenovirus expressing B7-1 (CD80) costimulatory molecule. 第2 回日本遺伝子治療学会, 東京, 1996.5.
82. Yaekashiwa M, Nakayama S, Saijo Y, Abe T, Satoh K, Hamada H, Saito I, Nakamura T, Nukiwa T: Gene therapy of lung injury and fibrosis: assessment of adenovirus vector carrying hepatocyte growth factor gene. 第2 回日本遺伝子治療学会, 東京, 1996.5.
83. 大沼一也, 千場良司, 八重樫弘, 貫和敏博, 高橋徹: The structural principle of airway branching and its pathological significance. A3-D morphometry of mouse lung. 第85回日本病理学会, 東京, 1996.4.
84. 新藤哲, 内山美寧, 西條康夫, 大島美和子, 堀越理紀, 阿部達也, 中井祐之, 貫和敏博: HTLV-1 随伴性びまん性肺疾患 (HAB) 4 例における気管支肺胞洗浄 (BAL) の検討. 第19回日本気管支学会総会, 東京, 1996.5.

85. 高橋洋, 庄司聡, 菊地宏明, 藤村茂, 菊地暢, 渡辺彰, 貫和敏博: *Eikenella carrodens* が検出された呼吸器感染症の3例. 第44回日本化学療法学会総会, 鹿児島, 1996.5.
86. 海老名雅仁, 星幸子, 西條康夫, 阿部達也, 貫和敏博, 近藤丘, 藤村重文, 高橋徹: 肺内出血をともなう肺線維症がみられた神経線維腫症1型の1症例. 第54回間質性肺疾患研究会, 東京, 1996.6.
87. 田中昌史, 田中克宏, 安部まゆみ, 伊勢村護, 佐藤研, 佐藤靖史, 貫和敏博: 40kDa ラミニン結合タンパク発現抑制がマウス肺癌細胞の腫瘍血管新生に及ぼす影響. 第29回日本結合組織学会, 金沢, 1996.6.
88. 海老名雅仁, 貫和敏博: 非小細胞肺癌における癌抑制遺伝子 p53 の clonality: In situ PCR による topographic genomapping. 第11回 RMCB 研究会, 東京, 1996.7.
89. 阿部達也, 富永泰之, 菊地利明, 貫和敏博: マウス SLPIcDNA のクローニング. 第69回・19回日本生化学大会・分子生物学会年会合同年会, 札幌, 1996.8.
90. 富永泰之, 阿部達也, 菊地利明, 渡辺彰, 貫和敏博, 渡辺裕二: 実験的細菌性肺炎における肺組織の SLPI 遺伝子の発現. 第69回・第19回日本生化学大会分子生物学会年会合同年会, 札幌, 1996.8.
91. 内山美寧, 西條康夫, 大島美和子, 城倉英史, 阿部由直, 阿部達也, 佐藤研, 中井祐之, 岡庭群二, 大久田和弘, 藤村重文, 貫和敏博: 肺癌-転移性脳腫瘍に対する  $\gamma$ -knife 治療とその適応指標に関する考察. 第37回日本肺癌学会総会, 神戸, 1996.10.
92. 佐藤讓治, 西條康夫, 鈴木修治, 沼崎宗男, 小池加保児, 大久田和弘, 岡田全司, 貫和敏博: SCID マウスにおける肺癌組織移植成績と臨床背景の解析. 第37回日本肺癌学会総会, 神戸, 1996.10.
93. 瀬戸口靖弘, 岩神真一郎, 能戸幸司, 玉木ゆみ, 木戸健治, 佐藤昇, 高橋英気, 檀原高, 西條康夫, 貫和敏博: B7-1 遺伝子を用いた肺癌養子免疫遺伝子治療法の基礎的検討. 第37回日本肺癌学会総会, 神戸, 1996.10.
94. 佐藤研, 鳴海晃, 大久田和弘, 齊藤泰紀, 藤村重文, 田中昌史, 西條康夫, 貫和敏博: ヒト切除肺癌における37LBP/p40の発現と患者予後. 第37回日本肺癌学会, 神戸, 1996.11.

95. 海老名雅仁, 貫和敏博: 非小細胞肺癌組織における癌抑制遺伝子 p53とその標的遺伝子の産物 p21Waf1/Cipl, MDM2の発現異常の病理学的比較及び臨床的意義. 第55回日本癌学会総会, 横浜, 1996.10.
96. 西條康夫, 辛紅, 田中昌史, 佐藤研, 劉書欽, 西條薫, 大野忠夫, 小池加保児, 大久保和弘, 貫和敏博: ヒト自己肺腺癌に対する高活性肺胞障害性 T リンパ球 (CTL) の誘導. 第55回日本癌学会総会, 横浜, 1996.10.
97. 森ゆり子, 佐藤雅美, 貫和敏博, 堀井明: hMSH2 遺伝子の alternative splicing と正常組織における発現. 第55回日本癌学会総会, 横浜, 1996.10.
98. 前門戸任, 西條康夫, 蛭名昭男, 今井督, 内山美寧, 佐藤研, 貫和敏博: 家族内発癌個体と肺発癌個体の解析. 第34回日本癌治療学会総会, 東京, 1996.11.
99. 西條康夫, 辛紅, 田中昌史, 佐藤研, 劉書欽, 西條薫, 大野忠夫, 小池加保児, 貫和敏博: ヒト自己肺腺癌に対する細胞傷害性 T リンパ球 (CTL) の誘導と解析. 第14回 RMCB 研究会, 東京, 1997.1.
100. 猪岡岡, 徳江豊, 渡辺彰, 貫和敏博, 山家智之, 木村光男: 高熱で発症し肺水腫を合併したコクサッキーウイルス B 3 感染の一例. 第153回日本内科学会東北地方会, 郡山, 1997.1.
101. 貫和敏博, 阿部達也, 富永泰之, 菊地利明, 星幸子: マウス SLPI cDNA のクローニングと炎症肺における SLPI 遺伝子の発現亢進. 厚生省特定疾患呼吸器系疾患調査研究班平成8年度総会, 東京, 1997.1.
102. 堀越理紀, 手島建夫, 斉藤純一, 新藤哲, 庄司聡, 柳町智宏, 中井祐之, 貫和敏博: 肺癌の生理学的治療効果判定. 第13回東北肺癌研究談話会, 仙台, 1997.1.
103. 内山美寧, 西條康夫, 阿部達也, 佐藤研, 貫和敏博, 藤村重文, 阿部由直, 城倉英史, 朴永俊, 中井祐之, 半田政志, 大久田和弘, 麻生昇: 肺癌・脳転移巣に対する  $\gamma$ -knife 治療とその適応指標に関する考察. 第13回東北肺癌研究談話会, 仙台, 1997.1.
104. 菊地暢, 海老名雅仁, 八重柏政宏, 阿部達也, 貫和敏博, 近藤丘, 藤村重文, 高橋徹: 肺内出血, マクロファージの浸潤を特徴とする肺病変を伴った神経線維腫症 I 型の一症例. 第151回日本内科学会東北地方会, 仙台, 1997.2.
105. 西條康夫, 辛紅, 貫和敏博: 肺癌に対する CTL の誘導と解析. 第17回東北免疫研究会, 仙台, 1997.3.

106. 大島美和子, 酒井俊彦, 内山美寧, 海老名雅仁, 阿部達也, 佐藤研, 貫和敏博, 新藤哲, 中井祐之: び慢性肺疾患における BALF 中 SCC の検討. 第37回日本胸部疾患学会総会, 横浜, 1997.4.
107. 大沼一也, 海老名雅仁, 高橋徹, 藤村重文, 貫和敏博: 間質性肺疾患における VEGF の関与. 第37回日本胸部疾患学会総会, 横浜, 1997.4.
108. 松原信行, 菅原俊一, 佐藤讓治, 田澤立之, 田中昌史, 西條康夫, 佐藤研, 貫和敏博: 当科における肺癌化学療法関連の早期死亡例の検討. 第37回日本胸部疾患学会総会, 横浜, 1997.4.
109. 八重柏政宏, 中山昇一, 西條康夫, 阿部達也, 佐藤研, 田原稔, 中村敏一, 貫和敏博: HGFcDNA 組込み Adenovirus vector による薬剤性肺傷害に対する遺伝子治療. 第37回日本胸部疾患学会総会, 横浜, 1997.4.
110. 金澤裕信, 海老名雅仁, 藤村重文, 貫和敏博: 肺腺扁平上皮癌における clonality-免疫組織学的および遺伝子学的検討. 第37回日本胸部疾患学会総会, 横浜, 1997.4.
111. 富永泰之, 阿部達也, 菊地利明, 星幸子, 佐藤研, 貫和敏博: 実験的細菌性肺炎における肺組織の SLPI 遺伝子の発現. 第37回日本胸部疾患学会総会, 横浜, 1997.4
112. 阿部達也, 富永泰之, 菊地利明, 星幸子, 佐藤研, 貫和敏博: マウス SLPI cDNA のクローニング. 第37回日本胸部疾患学会総会, 横浜, 1997.4.
113. 中山昇一, 酒井俊彦, 八重柏政宏, 清水智子, 佐藤研, 阿部達也, 貫和敏博: 肺線維症のサイトカインネットワーク. 第37回日本胸部疾患学会総会, 横浜, 1997.4.
114. 高橋洋, 富永泰之, 中山昇一, 麻生昇, 菊地暢, 渡辺彰, 貫和敏博: 結核病棟において集団発生したヒスタミン中毒症例の検討. 第37回日本胸部疾患学会, 横浜, 1997.4
115. 田中昌史, 西條康夫, 田澤立之, 佐藤研, 貫和敏博: ヒト肺癌細胞及び線維芽細胞への IL-12 遺伝子導入と抗腫瘍効果発現に関する検討. 第37回日本胸部疾患学会総会, 横浜, 1997.4.
116. 菊地利明, 阿部達也, 富永泰之, 星幸子, 佐藤研, 貫和敏博: Secretory leukoprotease inhibitor (SLPI) の気道上皮細胞特異的な遺伝子発現機構. 第37回日本胸部疾患学会総会, 横浜, 1997.4.

117. 菅原俊一, 松原信行, 佐藤譲治, 田澤立之, 田中昌史, 西條康夫, 佐藤研, 藤村重文, 貫和敏博: 当科で臨床診断した肺癌手術症例における cTNM と pTNM 解離の検討. 第37回日本胸部疾患学会総会, 横浜, 1997.4.
118. 阿部達也, 富永泰之, 佐藤研, 貫和敏博: 実験的細菌性肺炎における蛋白分解酵素阻害物質 SLPI の遺伝子発現の変化. 第94回日本内科学会講演会, 大阪, 1997.4.
119. 大野勲, 西岡きよ, 萩原央子, 白土邦男, 渡辺彰, 貫和敏博: 東北地区で分離された肺炎球菌の感受性調査成績, 1995年及び1996年の検討. 第45回日本化学療法学会総会, 1997.6.
120. 菊地暢, 庄司聡, 渡辺彰, 貫和敏博, 大野勲, 西岡きよ: 東北地区で分離された黄色ブドウ球菌の感受性調査成績. 第45回日本化学療法学会総会, 東京, 1997.6.
121. 金澤裕信, 海老名雅仁, 藤村重文, 高橋徹, 貫和敏博: 肺腺扁平上皮癌におけるクローナリティー免疫組織学的および遺伝子学的検討. 第108回加齢医学研究所研究会集談会, 仙台, 1997.6
122. 清水川稔, 内山美寧, 菊地利明, 星幸子, 阿部達也, 佐藤研, 貫和敏博: 経過観察中に肺癌を合併し、その診断が困難であった間質性肺炎4症例の検討. 第152回日本内科学会東北地方会, 仙台, 1997.6.
123. 阿部達也, 富永泰之, 菊地利明, 星幸子, 貫和敏博: マウス SLPI cDNA のクローニング. 第15回 RMCB 研究会, 東京, 1997.7.
124. 大野忠夫, 堀内賢一, 鶴島英夫, 西條薫, 八杉朋子, 西條康夫, 貫和敏博, 松村正利: ヒト CTL のホルマリン固定自己腫瘍細胞による増殖促進効果. 第56回日本癌学会総会, 京都, 1997.
125. 佐藤譲治, 菅原俊一, 田中昌史, 西條康夫, 佐藤研, 貫和敏博: 非小細胞肺癌に対する CDDP+CPT-11併用化学療法の検討. 第36回日本肺癌学会東北支部会, 郡山, 1997.7.
126. 金澤裕信, 海老名雅仁, 藤村重文, 高橋徹, 貫和敏博: 肺腺扁平上皮癌におけるクローナリティー免疫組織学的及び遺伝子学的検討. 第4回日本遺伝子診療学会大会, 仙台, 1997.7.
127. 富永泰之, 阿部達也, 星幸子, 菊地利明, 貫和敏博, 渡辺祐二: 実験的細菌性肺炎における肺組織の SLPI 遺伝子の発現. 第24回東北呼吸器談話会, 仙台, 1997.7.



128. 阿部成房, 佐藤研, 阿部達也, 酒井俊彦, 新藤哲, 中川潤, 亀岡淳一, 貫和敏博: サルコイドーシス患者の気管支肺胞洗浄液 (BALF) 中リンパ球における CD26発現. 第17回日本サルコイドーシス学会, 札幌, 1997.9.
129. 金澤裕信, 海老名雅仁, 藤村重文, 貫和敏博: 肺腺扁平上皮癌の発生機序 - 免疫組織学的及び遺伝子学的検討. 第56回日本癌学会総会, 京都, 1997.9.
130. 松原信行, 海老名雅仁, 片倉康次, 西條康夫, 佐藤研, 貫和敏博: 肥大性骨関節症と血小板増多症を伴う肺腺癌の一症例. 第65回日本呼吸器学会東北地方会, 郡山, 1997.9.
131. 小林隆夫, 大島美和子, 清水川稔, 内山美寧, 西條康夫, 渡辺彰, 貫和敏博: 肺胞蛋白症に合併した肺アスペルギルス症の1手術例. 第153回日本内科学会東北地方会, 郡山, 1997.9.
132. 西條康夫, 前門戸任, 新藤哲, 中井祐之, 小犬丸貞裕, 大久田和弘, 蝦名昭男, 佐藤研, 貫和敏博: 原発性肺癌患者における家族内肺発癌の検討. 第56回日本癌学会総会, 京都, 1997.9.
133. 清水川稔, 木村雄一郎, 星幸子, 八重柏政宏, 阿部達也, 渡辺彰, 斎藤淑子, 鈴木勃志, 貫和敏博: 原因不明胸水の経過中に *Streptococcus milleri* 感染を認め、その後 malignant lymphoma が顕在化した1例. 第153回日本内科学会東北地方会, 郡山, 1997.9.
134. 鈴木拓児, 菅原俊一, 森武, 八重柏政宏, 西條康夫, 貫和敏博, 鈴木忠泰, 尾形和夫: 臨床的に閉塞性細気管支炎と診断した慢性関節リウマチ患者の一例. 第65回日本呼吸器学会東北地方会, 郡山, 1997.9.
135. 田中昌史, 西條康夫, 田澤立之, 佐藤研, 貫和敏博: ヒト IL-12遺伝子導入細胞における IL-12蛋白発現と生物学的活性. 第56回日本癌学会総会, 京都, 1997.9.
136. 田原稔, 松本邦夫, 貫和敏博, 中村敏一: アルコール性脂肪肝ラットの HGF 投与による改善・治療作用. 第56回日本癌学会総会, 京都, 1997.9.
137. 田原稔, 松本邦夫, 貫和敏博, 中村敏一: HGF によるアルコール性脂肪肝の改善. 第70回日本生化学大会, 金沢, 1997.9.
138. 森ゆり子, 阿部忠義, 佐藤雅美, 貫和敏博, 堀井明: ヒト胃がんにおける 16q24.1-q24.2の400kbの高頻度の欠失領域の固定, ならびに candidate tumor suppressor gene の検索. 第56回日本癌学会総会, 京都, 1997.9.

139. 金澤裕信, 海老名雅仁, 藤村重文, 貫和敏博: 肺腺扁平上皮癌における肺癌および扁平上皮癌部位のクロナリティーの検討. 第38回日本肺癌学会総会, 仙台, 1997.11.
140. 西條康夫, 辛紅, 田中昌史, 田澤立之, 佐藤研, 貫和敏博, 劉書欽, 西條薫, 大野忠夫, 小池加保児, 大久田和弘: 肺癌に対する細胞傷害性 T リンパ球 (CTL) の解析とその臨床応用. 第38回日本肺癌学会, 仙台, 1997.11.
141. 佐藤讓治, 菅原俊一, 田中昌史, 西條康夫, 佐藤研, 貫和敏博, 齋藤美智子: 原発性肺癌における血清中 ProGRP の検討. 第38回日本肺癌学会総会, 仙台, 1997.11.
142. 菅原俊一, 松原信行, 佐藤讓治, 田澤立之, 田中昌史, 西條康夫, 佐藤研, 貫和敏博: 肺癌化学療法における治療関連死の検討. 第38回日本肺癌学会総会, 仙台, 1997.11.
143. 田澤立之, 西條康夫, 前門戸任, 新藤哲, 中井祐之, 松田堯, 大久田和弘, 蝦名昭男, 佐藤研, 貫和敏博: 原発性肺癌患者における家族内発癌の検討. 第38回日本肺癌学会総会, 仙台, 1997.11.
144. 松原信行, 菅原俊一, 内山美寧, 西條康夫, 阿部達也, 貫和敏博, 小野修一: 胸部 C T 写真による肺発癌基礎病変の検討. 第38回日本肺癌学会総会, 仙台, 1997.11.
145. Tanaka M, Saijo Y, Tazawa R, Satoh K, Nukiwa T: Significance of different cell types for human IL-12 gene transduction. 第3回日本遺伝子治療学会, 1997.
146. 富永泰之, 阿部達也, 菊地利明, 星幸子, 貫和敏博: マウス secretory leukoprotease inhibitor (SLPI) 遺伝子のクローニング. 第3回呼吸器疾患研究会, 東京, 1997.
147. 藤村茂, 渡辺彰, 徳江豊, 高橋洋, 菊地暢, 貫和敏博: 臨床分離 MRSA における arbekacin(ABK) 耐性機序の検討 (第3報). 第44回日本化学療法学会東日本支部総会, 1997.11.
148. 菊地利明, 阿部達也, 星幸子, 富永泰之, 佐藤研, 貫和敏博: 遺伝子の構造と局在から推定される好中球エラスターゼ阻害活性の redundancy. 厚生省特定疾患呼吸器系疾患調査研究班平成9年度総会, 東京, 1998.1.
149. 田中昌史, 西條康夫, 田澤立之, 菅原俊一, 佐藤研, 貫和敏博, 藤村重文: 原発性肺癌非観血的治療著効後経過中に出現した肺扁平上皮癌に対し切除術を施行した肺重複癌の2症例. 第14回東北肺癌研究談話会, 仙台, 1998.1.

150. 鳴海晃, 貫和敏博, 児島章, Ronald G Crystal: アデノウイルスベクターを用いたグルココルチコイドレセプターの外来性過剰発現による, グルココルチコイド作用の増強. 第16回 RMCB 研究会, 東京, 1998.1.
151. 八重柏政宏, 内山美寧, 阿部達也, 富永泰之, 中村晃, 清水川稔, 佐藤研, 貫和敏博: 家族集積を認める線維化肺の現状 (アンケート調査の結果). 厚生省特定疾患呼吸器系疾患調査研究班平成9年度総会, 東京, 1998.1.
152. 井上彰, 徳江豊, 猪岡望, 西條康夫, 渡辺彰, 貫和敏博: 間質性陰影に対するステロイド無効を契機に診断に至ったクラミジア肺炎の一例. 第154回日本内科学会東北地方会, 仙台, 1998.2.
153. 田澤立之, 白井一裕, 菊地利明, 西條康夫, 貫和敏博, 笹原洋二, 土屋滋, 今野多助, 宮脇利男, 有路文雄: 反復性肺炎を契機に確定診断された成人発症型の X 連鎖無  $\gamma$  グロブリン血症 (XLA) の一例. 第154回日本内科学会東北地方会, 仙台, 1998.2.
154. 森武, 鈴木拓児, 八重柏政宏, 西條康夫, 海老名雅仁, 貫和敏博, 藤村重文: 骨髓移植 (BMT) 10年後に診断された気胸を伴う閉塞性気管支炎 (BO) の一例. 第154回日本内科学会東北地方会, 仙台, 1998.2.
155. 鳴海晃, 八重柏政宏, 西條康夫, 貫和敏博, 一迫玲, 木村光男: 結核性膿胸後, 胸壁に発生した非ホジキンリンパ腫の一例. 第66回日本呼吸器学会東北地方会, 仙台, 1998.3.
156. 鳴海晃, 貫和敏博, 児島章, Ronald G Crystal: ステロイドレセプターの外来性過剰発現によるグルココルチコイドの作用の増強の試み. 第38回日本呼吸器学会総会, 熊本, 1998.3.
157. 鈴木拓児, 八重柏政宏, 菅原俊一, 森武, 西條康夫, 海老名雅仁, 藤村重文, 貫和敏博: 当科で経験した閉塞性細気管支炎 (BO) の検討. 第38回日本呼吸器学会総会, 熊本, 1998.3.
158. 猪岡望, 海老名雅仁, 金澤裕信, 藤村重文, 貫和敏博: 非小細胞肺癌 (NSCLC) 産生サイトカイン及び FasL による細胞性免疫制御機構. 第38回日本呼吸器学会総会, 熊本, 1998.3.
159. 白井一裕, 西條康夫, 内山美寧, 菅原俊一, 田澤立之, 松原信行, 朴永俊, 佐藤研, 貫和敏博: 原発性肺癌脳転移に対する  $\gamma$  ナイフ治療の生命予後への寄与. 第38回日本呼吸器学会総会, 熊本, 1998.3.

160. 金澤裕信, 海老名雅仁, 猪岡望, 藤村重文, 貫和敏博: 非小細胞肺癌 (NSCLC) における IRF-1, IRF-2, FHIT 遺伝子の検討. 第38回日本呼吸器学会総会, 熊本, 1998.3.
161. 小林隆夫, 菊地暢, 高橋洋, 徳江豊, 渡辺彰, 貫和敏博: 当科における非定型抗酸菌検出例の検討. 第38回日本呼吸器学会総会, 熊本, 1998.3.
162. 星幸子, 菊地利明, 阿部達也, 富永泰之, 松原信行, 佐藤研, 貫和敏博: ヒトおよびマウスの secretory leukoprotease inhibitor (SLPI) 遺伝子の染色体局在. 第38回日本呼吸器学会総会, 熊本, 1998.3.
163. 小林隆夫, 菊地暢, 八重柏政宏, 海老名雅仁, 西條康夫, 阿部達也, 貫和敏博: 特発性上葉限局型肺線維症の二例. 第66回日本呼吸器学会東北地方会, 仙台, 1998.3.
164. 小林隆夫, 徳江豊, 菊地暢, 高橋洋, 渡辺彰, 貫和敏博: 当施設におけるペニシリン耐性肺炎球菌 (PRSP) 検出例の検討. 第155回日本内科学会東北地方会, 仙台, 1998.6.
165. 高橋洋, 徳江豊, 菊地暢, 小林隆夫, 藤村茂, 渡辺彰, 貫和敏博: 気管支肺炎洗浄液を用いた Q 熱症例の検索. 第46回日本化学療法学会総会, 和歌山, 1998.6.
166. 阿部成房, 新藤哲, 酒井俊彦, 阿部達也, 佐藤研, 貫和敏博: サルコイドーシス患者気管支肺炎洗浄液中リンパ球における CD26 と ADA の発現について. 第25回東北呼吸器談話会, 仙台, 1998.7.
167. 佐藤讓治, 内山美寧, 西條康夫, 貫和敏博, 大久田和弘, 小池加保児: 非小細胞肺癌手術症例における核小体蛋白 p120 の発現と予後. 第17回 RMCB 研究会, 東京, 1998.7
168. Satoh K, Tanaka M, Narumi K, Saijo Y, Nukiwa T: Depressed Expression of the 37-kDa Laminin Binding Protein Affects Angiogenesis in Murine Lung Tumor. 第4回日本遺伝子治療学会, 東京, 1998.7.
169. Tazawa R, Tanaka M, Suzuki T, Narumi K, Sugawara S, Saijo Y, Satoh K, Nukiwa T: Effect of *ex vivo* Transfection of *Mycobacterium Tuberculosis* Heat Shock Protein 70 Gene on the Tumorigenesis of Mouse Lung Cancer 3LL Cells. 第4回日本遺伝子治療学会, 東京, 1998.7.

170. 石本修, 菅原俊一, 松原信行, 田澤立之, 西條康夫, 阿部達也, 佐藤研, 貫和敏博: 間質性肺炎に合併した肺癌症例の検討. 第37回日本肺癌学会東北支部会第24回日本気管支学会東北支部会, 山形, 1998.8.
171. 高橋洋, 五味和紀, 菊地暢, 徳江豊, 渡辺彰, 貫和敏博: 気管支肺洗浄液を用いた Q 熱肺炎症例の検索. 第67回日本呼吸器学会東北地方会, 山形, 1998.8.
172. 井上彰, 鳴海晃, 松原信行, 菅原俊一, 西條康夫, 佐藤研, 貫和敏博: アデノウイルスベクターを用いた野生型 p53 導入による各種抗癌剤の感受性増強効果の検討. 第57回日本癌学会総会, 横浜, 1998.9.
173. 西條康夫, 白井一裕, 鈴木拓児, 田澤立之, 松原信行, 佐藤研, 貫和敏博: ヒトインターロイキン 1b 遺伝子導入はマウスウイルス肺癌細胞の in vivo 増殖を促進する. 第57回日本癌学会総会, 横浜, 1998.9.
174. 田澤立之, 西條康夫, 田中昌史, 佐藤研, 貫和敏博: M.tuberculosis heat shock protein70 遺伝子の導入による抗腫瘍効果. 第57回日本癌学会総会, 横浜, 1998.9.
175. 五味和紀, 徳江豊, 小林隆夫, 菊地暢, 高橋洋, 白井一祐, 田澤立之, 西條康夫, 渡辺彰, 貫和敏博: 若年男性の不明熱に MBL 遺伝子変異の関与が考えられた 1 例. 第156回日本内科学会東北地方会, 山形, 1998.9.
176. 猪岡望, 海老名雅仁, 金澤裕信, 清水川稔, 貫和敏博, 藤村重文: 非小細胞肺癌組織内における免疫環境の変化 - 腫瘍細胞による免疫回避機構 -. 第39回日本肺癌学会総会, 金沢, 1998.9.
177. 松原信行, 菅原俊一, 小野修一, 西條康夫, 阿部達也, 佐藤研, 貫和敏博: 胸部 CT による肺発癌基礎肺病変の検討. 第39回日本肺癌学会総会, 金沢, 1998.9.
178. 齊藤純一, 子犬丸貞裕, 松田堯, 西條康夫, 貫和敏博, 中井祐之: 進展型小細胞肺癌 (ED-SCLC) に対するネダプラチン (CDCP) ・ VP16 併用療法の第 I/II 相試験. 第39回日本肺癌学会総会, 金沢, 1998.9.
179. 佐藤譲治, 西條康夫, 内山美寧, 菅原俊一, 松原信行, 佐藤研, 大久田和弘, 小池加保児, 佐川元保, 佐藤雅美, 藤村重文, 貫和敏博: 非小細胞肺癌手術症例における核小体蛋白 p120 の発現と予後. 第39回日本肺癌学会, 金沢, 1998.9.

180. 菅原俊一, Presenhaldi, 田澤立之, 西條康夫, 佐藤研, 貫和敏博: 肺癌細胞における antioxidant による抗癌剤感受性の増強効果. 第39回日本肺癌学会総会, 金沢, 1998.9.
181. 阿部成房, 海老名雅仁, 阿部達也, 佐藤研, 貫和敏博: 当院における最近のサルコイドーシス症例の検討 臨床経過の視点から. 第18回日本サルコイドーシス学会総会, 東京, 1998.11.
182. 五味和紀, 徳江豊, 小林隆夫, 菊地暢, 高橋洋, 渡辺彰, 貫和敏博, 三橋弘明: colony count assay 方を用いた黄色ブドウ球菌に対する SLPI の抗菌活性の検討. 第47回日本感染症学会東日本地方会総会・第41回日本化学療法学会東日本支部総会・合同学会, 東京, 1998.11.
183. 渡辺彰, 徳江豊, 高橋洋, 菊地暢, 小林隆夫, 五味和紀, 藤村茂, 貫和敏博: 1997年に分離された呼吸由来病原細菌に対するカルバペネム薬 (MEPM, IPM, PAMP, BIPM) の抗菌力, 治験開発時及び1993年分離株との比較. 第47回日本感染症学会東日本地方会総会・第41回日本化学療法学会東日本支部総会・合同学会, 東京, 1998.11.
184. 佐藤研, 鳴海晃, 八重柏政宏, 宗像浩, 中村敏一, 貫和敏博: 作用機序の異なる TGF- $\beta$  アンタゴニスト併用による肺線維症治療の試み. 厚生省特定疾患調査研究 (重点研究) 平成10年度研究発表会, 東京, 1998.11.
185. 田原稔, 宮本一政, 高橋寿明, 小清水右一, 貫和敏博, 松本邦夫, 中村敏一: Two-hybrid system を用いた新規 LIM キナーゼ 2 結合分子のクローニングとその機能解析. 第21回日本分子生物学会年会, 横浜, 1998.12.
186. 中井祐之, 斉藤純一, 子犬丸貞裕, 松田堯, 西條康夫, 貫和敏博: 切除不能非小細胞肺癌に対するネダプラチン (CDCP) UFT 併用療法の第 I/II 相試験. 第39回日本肺癌学会, 金沢, 1998.
187. 貫和敏博, 阿部達也, 八重柏政宏, 三木誠, 阿部成房, 中村晃, 森ゆり子, 佐藤研, 岸一馬, 中田紘一郎, 松村栄久, 田口善夫: 特発性間質性肺炎の重症度分類策定. 厚生省特定疾患呼吸器系疾患調査研究班重点研究事業平成10年度総会, 東京, 1998.12.
188. 貫和敏博, 海老名雅仁, 清水川稔, 猪岡望, 阿部達也: 肺線維化症における新生血管に関する研究. 厚生省特定疾患呼吸器系疾患調査研究班重点研究事業平成10年度総会, 東京, 1998.12.

189. 井上彰, 鳴海晃, 松原信行, 菅原俊一, 西條康夫, 佐藤研, 貫和敏博: アデノウイルスベクターを用いた野生型 p53 導入による各種抗癌剤の感受性増強効果の検討. 第18回 RMCB 研究会, 東京, 1999.1.
190. 石本修, 鳴海晃, 田中昌史, 松原信行, 西條康夫, 佐藤研, 麻生昇, 中井祐之, 貫和敏博: 各胸水中 VEGF 濃度: 胸水性状および病因からみた胸水中 VEGF 濃度の検討. 第39回日本呼吸器学会総会, 横浜, 1999.3.
191. 五味和紀, 徳江豊, 小林隆夫, 高橋洋, 菊地暢, 渡辺彰, 貫和敏博: 呼吸器感染反復例には高頻度の MBL 遺伝子変異がある. 第39回日本呼吸器学会総会, 横浜, 1999.3.
192. Prasenohadi, 田澤立之, 田中昌史, 佐藤譲治, 鳴海晃, 西條康夫, 佐藤研, 貫和敏博: プロスタグランジン (PG) I2 合成酵素遺伝子導入はルイス肺癌細胞増殖を抑制する. 第39回日本呼吸器学会総会, 横浜, 1999.3.
193. 猪岡望, 海老名雅仁, 金澤裕信, 阿部達也, 清水川稔, 藤村重文, 貫和敏博: 非小細胞肺癌は SLPI, Fas-L, Th2 サイトカインを作成し免疫を回避する. 第39回日本呼吸器学会総会, 横浜, 1999.3.
194. 菊地暢, 五味和紀, 高橋洋, 渡辺彰, 貫和敏博, 本田芳宏: Mycobacterium avium 感染症における単球由来炎症性サイトカイン産生に対するクラリスロマイシンの作用の解析. 第47回日本化学療法学会総会, 東京, 1999.6.
195. 高橋洋, 五味和紀, 菊地暢, 渡辺彰, 貫和敏博: Q 熱による市中発症型呼吸器感染症の検討. 第47回日本化学療法学会総会, 東京, 1999.6.
196. 田澤立之, 西條康夫, 海老名雅仁, 阿部達也, 佐藤研, 渡辺彰, 久保祐司, 鈴木聡, 米地稔, 武村民子, 藤村重文, 貫和敏博: 胸腔鏡下肺生検にて診断された過敏性肺炎 (HP), びまん性汎細気管支炎 (DPB) を合併した慢性関節リウマチ (RA) の 1 例. 日本内科学会東北地方会, 仙台, 1999.6.
197. 貫和敏博, 阿部達也, 三木誠, 菊地利明, 森ゆり子: 気道におけるセリン蛋白分解酵素阻害物質の redundancy と特異的機能. 第14回喫煙科学研究財団平成10年度助成研究発表会, 東京, 1999.7.
198. 三木誠, 阿部達也, 海老名雅仁, 星幸子, 菊地利明, 森ゆり子, 五十嵐孝之, 秋山健一, 貫和敏博: In situ hybridization 法による Secretory leukoprotease inhibitor (SLPI) の発現部位の同定: 肺炎マウス肺における経時的変化の解析. 第19回 RMCB 研究会, 東京, 1999.7.

199. 菊地暢, 五味和紀, 高橋洋, 渡辺彰, 貫和敏博, 本田芳宏: *Mycobacterium avium* 感染症における単球由来 TNF- $\alpha$  産生に対するクラリスロマイシンの作用. 第4回南東北化学療法シンポジウム, 仙台, 1999.8.
200. 大河内眞也, 田中昌史, 鳴海晃, 田澤立之, 西條康夫, 貫和敏博, 一迫玲: 汎血球減少を呈した小細胞肺癌の1例. 日本肺癌学会東北地方会, 1999.9.
201. 大河内眞也, 前門戸任, 田中昌史, 鳴海晃, 田澤立之, 西條康夫, 貫和敏博: 当科における TXT + CDDP 使用化学療法の使用経験. タキソテール研究会, 1999.9.
202. 石本修, 遠城健太郎, 川原央, 長田元伸, 貫和敏博, 帯刀益夫, 井川俊太郎: p73 遺伝子のゲノム解析と p73 の Splicing Variants の組織別発現. 第58回日本癌学会総会, 広島, 1999.9.
203. 田澤立之, Prasenohadi, 田中昌史, 佐藤譲治, 鳴海晃, 西條康夫, 佐藤研, 貫和敏博: プロスタグランジ I<sub>2</sub> 合成酵素遺伝子導入はルイス肺癌細胞増殖を抑制する. 第39回日本癌学会総会, 広島, 1999.10.
204. 前門戸任, 鳴海晃, 田原稔, 田中昌史, 田澤立之, 西條康夫, 佐藤研, 中村敏一, 貫和敏博: HGF アンタゴニスト (HGF/NK4) 遺伝子導入による肺癌増殖抑制の検討. 第39回日本癌学会総会, 広島, 1999.10.
205. 石本修, 鳴海晃, 田中昌史, 松原信行, 西條康夫, 佐藤研, 麻生昇, 菅原俊一, 中井祐之, 貫和敏博: 胸水性状および病因からみた胸水中 VEGF 濃度の検討. 第40回日本肺癌学会総会, 札幌, 1999.10.
206. 田中昌史, 西條康夫, 佐藤譲治, 鳴海晃, 田澤立之, 佐藤研, 貫和敏博, 藤村重文: 近年当科において経験された悪性胸腺腫瘍 (胸腺癌, 悪性胸腺腫) 8 症例についての検討. 日本肺癌学会, 札幌, 1999.10.
207. 高橋洋, 渡辺彰, 菊地暢, 五味和紀, 藤村茂, 貫和敏博: 1998年に分離された各種病原細菌の薬剤感受性と  $\beta$ -lactamase 活性について. 第46回日本化学療法学会東日本支部総会, 東京, 1999.10.
208. 五味和紀, 徳江豊, 小林隆夫, 高橋洋, 菊地暢, 渡辺彰, 貫和敏博: 呼吸器感染反復例における MBL 遺伝子変更の検討. 第46回日本化学療法学会東日本支部総会, 東京, 1999.10.
209. 大河内眞也, 田澤立之, 菊地暢, 海老名雅仁, 吉澤靖之, 貫和敏博: 潜行性経過をみた職業性肺疾患としてのイソシアネート過敏性肺臓炎の1例. 日本呼吸器学会東北地方会, 仙台, 1999.10.



210. 鈴木拓児, 橋本真一, 豊田信明, 永井重徳, 貫和敏博, 松島綱治: SAGE (serial analysis of gene expression) 法による LPS 活性化ヒト単球に発現する遺伝子解析. 第29回日本免疫学会総会学術会議, 京都, 1999.12.
211. 石本修, 遠城健太郎, 川原 央, 長田元伸, 貫和敏博, 帯刀益夫, 井川俊太郎: Genomic Organization of p53 family genes, including newly Identified p73 Splicing Variants ( $\Delta$  Np73 and p73  $\zeta$ ). 第4回「先端がん」若手カンファレンス, 長野, 2000.1.
212. 田原稔, 西條康夫, 大河内眞也, 石本修, 前門戸任, 猪岡望, 田中昌史, 佐藤讓治, 鳴海晃, 田澤立之, 萩原弘一, 貫和敏博: 東北大学加齢医学研究所呼吸器腫瘍研究分野における肺小細胞肺癌治療の最近の成績. 第16回東北肺癌研究談話会, 仙台, 2000.1.
213. 三木誠, 田中昌史, 西條康夫, 海老名雅仁, 八重柏政宏, 佐藤研, 貫和敏博: 重症筋無力症を合併し化学療法が奏功した再発性悪性胸腺腫の一例. 第68回日本呼吸器学会東北地方会, 秋田, 2000.2
214. 田原稔, 三木誠, 海老名雅仁, 貫和敏博, 本田芳宏: 急性好酸球性肺炎と診断された3症例の検討. 第160回日本内科学会東北地方会, 仙台, 2000.2.
215. 三木誠, 阿部達也, 海老名雅仁, 星幸子, 菊地利明, 森ゆり子, 五十嵐孝之, 秋山健一, 貫和敏博: In situ hybridization 法による Secretory leukoprotease inhibitor (SLPI) の発現部位の同定: 経時的变化の解析と炎症における発現の意義について. 第12回気道病態シンポジウム, 東京, 2000.2.
216. 大河内眞也, 田澤立之, 木村雄一郎, 三木誠, 海老名雅仁, 大島美和子, 三浦良, 萩原弘一, 渡辺彰, 貫和敏博: 原発性副甲状腺機能低下症に合併した再発性多発性軟骨炎の1例. 第70回日本呼吸器学会東北地方会, 弘前, 2000.3.
217. 田原稔, 西條康夫, 海老名雅仁, 松原信行, 木村雄一郎, 貫和敏博, 高橋徹: 肺外小細胞癌との鑑別が困難で、Merkel 細胞癌と考えられた症例. 第70回日本呼吸器学会東北地方会, 弘前, 2000.3.
218. 田中昌史, 西條康夫, 鈴木拓児, 田澤立之, 佐藤研, 貫和敏博: マウスルス肺癌細胞 (LLC) に対する複数遺伝子導入 (IL-2, IL-12) による抗腫瘍効果増強. 第40回日本呼吸器学会総会, 広島, 2000.3.
219. 五味和紀, 高橋洋, 小林隆夫, 渡辺彰, 貫和敏博: 肺炎急性期における Mannose-Binding Lectin (MBL) の肺内動態の検討. 第40回日本呼吸器学会総会, 広島, 2000.3.

220. 菊地暢, 五味和紀, 高橋洋, 渡辺彰, 貫和敏博, 本田芳宏: Mycobacterium avium 感染症における単球由来 TNF- $\alpha$  産生に対するクラリスロマイシンの作用. 第40回日本呼吸器学会総会, 広島, 2000.3.
221. 萩原弘一, 西條康夫, 田澤立之, 鳴海晃, 貫和敏博, 吉川博秀, 長島誠, Harris CC: 肺癌細胞株における p73 遺伝子の異常. 第40回呼吸器学会総会, 広島, 2000.3.
222. 鯉沼代造, 三木誠, 海老名雅仁, 田原稔, 手塚文明, 田口善夫, 貫和敏博: 吸入性発症が疑われ, ステロイド・シクロスポリンA併用療法が奏功した亜急性肺傷害の一症例. 第161回日本内科学会東北地方会, 仙台, 2000.6.
223. 高橋洋, 五味和紀, 菊地暢, 藤村茂, 小林隆夫, 徳江豊, 渡辺彰, 貫和敏博: 宮城県内における1999年度のQ熱呼吸器感染症サーベイランス解析結果. 第48回日本化学療法学会総会, 岡山, 2000.6.
224. 石本修, 遠城健太郎, 川原央, 長田元伸, 貫和敏博, 帯刀益夫, 井川俊太郎: p53関連遺伝子 p73のアイソフォーム  $\Delta$  Np73の機能解析と p53関連遺伝子の抗腫瘍効果. 加齢医学研究所生化学セミナー, 仙台, 2000.6.
225. 菊地暢, 五味和紀, 高橋洋, 渡辺彰, 貫和敏博, 本田芳宏: bacteria 感染における単球由来サイトカインに対するクラリスロマイシンの作用 - Mycobacterium avium 感染症を中心に -. 第7回マクロライド新作用研究会, 東京, 2000.7.
226. 貫和敏博, 阿部達也, 萩原弘一, 三木誠, 森ゆり子, 菊地利明, 五十嵐孝之: 気道におけるセリン蛋白分解酵素阻害物質の redundancy と特異的機能. 第15回喫煙科学研究財団平成10年度助成研究発表会, 東京, 2000.7.
227. 鯉沼代造, 三木誠, 西條康夫, 成川孝一, 浅野昌宏, 長谷部誠, 古川勝敏, 糸山泰人, 一迫玲, 貫和敏博: Stiff-person syndrome を合併した胸腺腫の一症例. 第162回日本内科学会東北地方会, 仙台, 2000.8.
228. 菊地暢, 鯉沼代造, 三木誠, 高橋洋, 萩原弘一, 貫和敏博: ステロイド療法中に日和見感染を合併した non-HIV 間質性肺病変の2症例. 第71回日本呼吸器学会東北地方会, 仙台, 2000.9.
229. 鯉沼代造, 萩原弘一, 三木誠, 西條康夫, 一迫玲, 長谷部誠, 貫和敏博: Stiff-person syndrome を合併した縦隔腫瘍の一症例. 第39回日本肺癌学会東北支部会, 弘前, 2000.9.

230. 菊地暢, 五味和紀, 小林隆夫, 高橋洋, 徳江豊, 渡辺彰, 貫和敏博: 東北地区で分離された黄色ブドウ球菌の感受性調査成績 - 1999年の検討. 第47回日本化学療法学会東日本地方会, 旭川, 2000.10.
231. 白井一裕, 西條康夫, 貫和敏博, 中邨裕之, 菅原俊二, 中井祐之: 非切除進行期非小細胞肺癌に合併した脳転移に対するガンマナイフ治療. 第38回日本癌治療学会, 仙台, 2000.10.
232. 西條康夫, 前門戸任, 鳴海晃, 田原稔, 田澤立之, 萩原弘一, 松本邦夫, 中村敏一, 貫和敏博: HGF アンタゴニスト (HGF/NK4) を用いた肺癌遺伝子治療の課題. 第38回日本癌治療学会, 仙台, 2000.10.
233. 石本修, 遠城健太郎, 川原央, 帯刀益夫, 貫和敏博, 井川俊太郎: p 53関連遺伝子 p 73 の新規 splicing variant  $\Delta$  Np73 の機能解析. 第59回日本癌学会, 横浜, 2000.10.
234. 辛紅, 西條康夫, 田中昌史, 大河内真也, 萩原弘一, 伊東恭悟, 貫和敏博: 肺癌抗原サイクロフィリンBペプチドを用いた肺癌患者における細胞障害性Tリンパ球の誘導と障害活性. 第59回日本癌学会, 横浜, 2000.10.
235. 前門戸任, 鳴海晃, 田原稔, 田澤立之, 西條康夫, 萩原弘一, 松本邦夫, 中村敏一, 貫和敏博: アデノウイルスベクターを用いた HGF/NK4 遺伝子導入による肺癌増殖抑制及び血管新生抑制効果の検討. 第59回日本癌学会総会, 横浜, 2000.10.
236. 鯉沼代造, 海老名雅仁, 三木誠, 菊地暢, 近藤丘, 手塚文明, 貫和敏博: 自然気胸を繰り返しつつ, 肺の線維化亢進を認める若年男性の一例. 第2回東北びまん性肺疾患研究会, 仙台, 2000.11.
237. 鈴木拓児, 橋本真一, 永井重徳, 豊田信明, 貫和敏博, 松島綱治: LPS 活性化ヒト単球に発現される新規遺伝子の解析. 第30回日本免疫学会総会学術集会, 仙台, 2000.11.
238. 鳴海晃, 前門戸任, 田原稔, 白井一裕, 田澤立之, 西條康夫, 萩原弘一, 貫和敏博, 松本邦夫, 中村敏一: HGF アンタゴニスト (HGF/NK4) 遺伝子導入による肺癌増殖抑制効果の検討. 第41回日本肺癌学会, 東京, 2000.11.
239. 佐藤譲治, 西條康夫, 白井一裕, 貫和敏博, 佐藤雅美, 佐川元保, 近藤丘: I 期肺癌における核小体蛋白 p120 の発現と予後. 第41回日本肺癌学会, 東京, 2000.11.

240. 辛紅, 西條康夫, 田中昌史, 大河内真也, 萩原弘一, 貫和敏博, 伊東恭悟 : 肺腺癌抗原サイクロフィリンBペプチドを用いた肺腺癌患者における細胞傷害性Tリンパ球の誘導と傷害活性. 第41回日本肺癌学会, 東京, 2000.11.
241. 鳴海晃, 前門戸任, 田原稔, 臼井一裕, 田澤立之, 西條康夫, 萩原弘一, 松本邦夫, 中村敏一, 貫和敏博 : HGF アンタゴニスト (HGF/NK4) 遺伝子導入による肺癌増殖抑制効果の検討. 第41回日本肺癌学会, 東京, 2000.11.
242. 石本修, 鳴海晃, 木村雄一郎, 海老名雅仁, 西條康夫, 中井祐之, 松原信行, 麻生昇, 貫和敏博 : 胸水の性状からみた胸水中 Vascular Endothelial Growth Factor 濃度の検討. 第17回東北肺癌研究談話会, 仙台, 2001.1.
243. 鯉沼代造, 秋山健一, 海老名雅仁, 臼井一裕, 三木誠, 斎木茂樹, 河端美則, 近藤丘, 貫和敏博 : ナイロン繊維屑吸入により間質性肺炎を来たした58歳女性 の 1 症例. 第72回日本呼吸器学会東北地方会, 福島, 2001.1.
244. 小林隆夫, 三木 誠, 菊地利明, 高橋洋, 萩原弘一, 渡辺彰, 貫和敏博, 内山美寧, 山口恵三 : 尿中抗原の検出により確定診断に至ったレジオネラ肺炎の2例. 第163回日本内科学会東北地方会, 仙台, 2001.2.
245. 鳴海晃, 貫和敏博 : HGF アンタゴニスト (HGF/NK4) 遺伝子導入による肺癌組織の血管新生・増殖の抑制. NK4遺伝子研究会, 福岡, 2001.3.
246. 臼井一裕, 西條康夫, 中邨裕之, 菅原俊一, 中井祐之, 貫和敏博 : 非切除進行期非小細胞癌に合併した脳転移に対する $\gamma$ ナイフ治療. 第41回日本呼吸器学会, 東京, 2001.4.
247. Hagiwara K, Hoshi S, Miki M, Nukiwa T : Molecular cloning of mouse small-molecular protease inhibitors ELM1 and ELM2 which have structural similarity with human elafin. 第41回日本呼吸器学会, 東京, 2001.4.
248. Kobayashi T, Tateda K, Matsumoto T, Takahashi H, Watanabe A, Nukiwa T, Yamaguchi H : Macrolide-treated pseudomonas aeruginosa induce paradoxical host responses. 第41回日本呼吸器学会, 東京, 2001.4.
249. Miki M, Akiyama K, Watanabe M, Ebina M, Narumi K, Shimizukawa M, Koinuma D, Nakamura T, Nukiwa T : Adenoviral mediated hepatocyte growth factor (HGF) gene transfer ameliorates bleomycin-induced pulmonary fibrosis. 第41回日本呼吸器学会, 東京, 2001.4. "English Poster Session Awards"

250. Koinuma D, Ebina M, Shimizukawa M, Narumi K, Miki M, Satoh K, Watanabe M, Munakata H, Nukiwa T : Anti-fibrotic effect of adenoviral mediated decorin cDNA on bleomycin-induced pulmonary fibrosis of mouse. 第41回日本呼吸器学会, 東京, 2001.4.
251. 石本修, 川原央, 遠城健太郎, 帯刀益夫, 貫和敏博, 井川俊太郎 : p53関連遺伝子 p73の新規 splicing variant  $\Delta$  Np73の機能解析. 第41回日本呼吸器学会, 東京, 2001.4.
252. 前門戸任, 鳴海晃, 西條康夫, 菊地利明, 田澤立之, 萩原弘一, 高橋稔, 新津洋司郎, 貫和敏博 : Secretory leukoprotease inhibitor (SLPI) 遺伝子プロモーターを用いた肺癌特異的遺伝子治療. 第41回日本呼吸器学会, 東京, 2001.4.
253. 小林隆夫, 高橋洋, 五味和紀, 菊地暢, 渡辺彰, 貫和敏博 : 呼吸器系反復感染における mannose-binding lectin (MBL) の遺伝子多型の検討. 第98回日本内科学会講演会, 東京, 2001.4.
254. 高橋洋, 五味和紀, 菊地暢, 藤村茂, 小林隆夫, 徳江豊, 渡辺彰, 貫和敏博 : Q熱呼吸器感染症のサーベランスにより見いだされた急性Q熱症例の臨床像解析. 第49回日本化学療法学会総会, 横浜, 2001.5.
255. 藤村茂, 渡辺彰, 徳江豊, 高橋洋, 貫和敏博 : ムピロシ中等度耐性 MRSA の耐性機構について. 第49回日本化学療法学会総会, 横浜, 2001.5.
256. 石本修, 田澤立之, 三木誠, 海老名雅仁, 萩原弘一, 斉藤純一, 中田光, 貫和敏博 : 顆粒球-マクロファージコロニー刺激因子 (GM-CSF) 吸入による肺胞蛋白症 (PAP) の治療. 第64回間質性肺疾患研究会, 東京, 2001.6.
257. 鈴木拓児, 田澤立之, 井草龍太郎, 三木誠, 高橋洋, 海老名雅仁, 徳江豊, 萩原弘一, 渡辺彰, 貫和敏博 : クロウン病関連肺病変に合併した非定型好酸菌 *Mycobacterium avium* 重症膿瘍の一例. 第164回日本内科学会東北地方会, 仙台, 2001.6.
258. 石本修, 田澤立之, 佐竹宣明, 村川康子, 金丸龍之介, 斉藤亮, 貫和敏博 : 悪性リンパ腫に合併した閉塞性細気管支炎の一例. 第164回日本内科学会東北地方会, 仙台, 2001.6.
259. Usui K, Narumi K, Saijo Y, Hagiwara K, Ohta S, Nukiwa T : Pore forming domain of Bax (DeltaN Bax without BH3 domain) effectively induces cell death in non-small cell lung cancer. 第7回日本遺伝子治療学会, 東京, 2001.7.

260. 白井一裕, 鳴海晃, 西條康夫, 萩原弘一, 太田成男, 貫和敏博: 改變型 Bax 遺伝子発現による肺癌細胞死誘導. 第21回 RMCB 研究会, 東京, 2001.7.
261. 小林隆夫, 菊地利明, 福原達朗, 高橋洋, 徳江豊, 萩原弘一, 渡辺彰, 貫和敏博: 診断が困難であった中耳結核の2例. 第73回日本呼吸器学会東北地方会, 青森, 2001.9.
262. 鈴木拓見, 田澤立之, 三木誠, 徳江豊, 海老名雅仁, 西條康夫, 萩原弘一, 渡辺彰, 貫和敏博, 菅原崇史, 桜田晃, 千田雅之, 佐藤雅美, 近藤丘, 村川康子, 渡辺みか: 検診で発見された平滑筋肉腫の一例. 第73回日本呼吸器学会東北地方会, 青森, 2001.9.
263. 小林隆夫, 菊地利明, 福原達朗, 高橋洋, 徳江豊, 萩原弘一, 渡辺彰, 貫和敏博: 診断が困難であった中耳結核の2例. 第103回日本結核病学会東北地方会, 青森, 2001.9.
264. 白井一裕, 鳴海晃, 西條康夫, 萩原弘一, 太田成男, 貫和敏博: 改變型 Bax 遺伝子 (Pore forming domain of Bax; DeltaN Bax without BH3 domain) 発現による肺癌細胞死誘導. 第60回日本癌学会, 横浜, 2001.9.
265. 田澤立之, プラセノハディプラドノ, 西條康夫, 前門戸任, 白井一裕, 鳴海晃, 萩原弘一, 貫和敏博: トロンボキサン (TX) A2合成酵素遺伝子/プロスタグランジン (PG) I2合成酵素遺伝子導入は腫瘍内血管増殖に影響する, 第60回日本癌学会, 横浜, 2001.9.
266. 前門戸任, 鳴海晃, 西條康夫, 白井一裕, 菊地利明, 田澤立之, 萩原弘一, 高橋稔, 新津洋司郎, 貫和敏博: SLPI 遺伝子プロモーターを用いた複製可能アデノウイルスベクターによる非小細胞肺癌特異的遺伝子治療. 第60回日本癌学会, 横浜, 2001.9.
267. 榊原智博, 白井一裕, 石本修, 田澤立之, 徳江豊, 三木誠, 海老名雅仁, 渡辺彰, 貫和敏博: 薬剤が原因と考えられた間質性肺炎の治療中に縦隔気腫を合併した一例. 第165回日本内科学会東北地方会. 青森, 2001.9.
268. 秋山健一, 海老原伸, 小野栄夫, 貫和敏博, 高井俊行: 樹状細胞 Fcg レセプターを介した細胞の取り込みによる細胞障害活性の効率的誘導. 第74回日本生化学会, 京都, 2001.10.
269. 高橋洋, 徳江豊, 菊地暢, 小林隆夫, 五味和紀, 渡辺彰, 貫和敏博, 平井克哉: 呼吸不全, 黄疸, 血小板減少を併発した重症急性 Q 熱肺炎の1例. 第50回日本感染症学会東日本地方会総会・第48回日本化学療法学会東日本支部総会, 東京, 2001.11.

270. 菊地暢, 五味和紀, 小林隆夫, 高橋洋, 徳江豊, 渡辺彰, 貫和敏博: 東北地区で分離された黄色ぶどう球菌の感受性調査成績-2000年の検討. 第50回日本感染症学会東北地方会総会・第48回日本化学療法学会東日本支部総会, 東京, 2001.11.
271. 渡辺彰, 貫和敏博, 本田芳宏, 中井祐之, 人見秀昭, 穴沢予識, 新妻一直, 池田英樹, 太田隆, 武田博明, 柳瀬賢次, 板橋繁: 肺癌合併呼吸器感染症に対するクリンダマイシンとイミペネム併用療法の検討. 第50回日本感染症学会東北地方会総会・第48回日本化学療法学会東日本支部総会, 東京, 2001.11.
272. 前門戸任, 鳴海晃, 西條康夫, 白井一裕, 菊地利明, 田澤立之, 西條康夫, 萩原弘一, 松本邦夫, 中村敏一, 貫和敏博, 高橋稔, 新津洋司郎: SLPI 遺伝子プロモーターにより発現する複製可能アデノウイルスを用いた非小細胞肺癌特異的遺伝子治療. 第42回日本肺癌学会, 大阪, 2001.11.
273. 福原達朗, 田中昌史, 前門戸任, 菊地利明, 田澤立之, 西條康夫, 萩原弘一, 貫和敏博: 当科で経験した50歳以下原発性肺癌の臨床的検討. 第42回日本肺癌学会, 大阪, 2001.11.
274. 白井一裕, 鳴海晃, 前門戸任, 田澤立之, 西條康夫, 萩原弘一, 貫和敏博, 太田成男: 改変型 Bax 遺伝子発現による肺癌細胞死誘導. 第42回日本肺癌学会, 大阪, 2001.11.
275. 石本修, 鈴木拓児, 田中昌史, 菊地利明, 白井一裕, 田澤立之, 西條康夫, 海老名雅仁, 萩原弘一, 貫和敏博: 当科における癌性胸膜炎の治療成績と合併症, 特に OK432 の肺傷害の検討. 第42回日本肺癌学会, 大阪, 2001.11.
276. 秋山健一, 海老原伸, 貫和敏博, 高井俊行: 樹状細胞 Fcγ レセプターを介した癌細胞ターゲティングによる抗腫瘍免疫応答の効率的誘導. 第31回日本免疫学会, 大阪, 2001.12.
277. 秋山健一, 海老原伸, 貫和敏博, 高井俊行: 樹状細胞 Fcγ レセプターを介した癌細胞ターゲティングによる抗腫瘍免疫応答の効率的誘導. 第117回加齢研集談会, 仙台, 2002.1.
278. 五味和紀, 鈴木拓児, 小林隆夫, 田澤立之, 海老名雅仁, 貫和敏博: 間質性肺炎に対するステロイド治療中に消化管穿孔による急性腹膜炎・脾炎を合併した1例. 第166回日本内科学会東北地方会, 福島, 2002.2.

279. 木村雄一郎, 菊地暢, 猪岡望, 高橋洋, 徳江豊, 西條康夫, 貫和敏博: 化学療法に実施にもかかわらず ACTH が上昇し続けた小細胞肺癌の1例. 第166回日本内科学会東北地方会, 福島, 2002.2.
280. 福原達朗, 田中昌史, 前門戸任, 菊地利明, 田澤立之, 西條康夫, 萩原弘一, 貫和敏博: 50歳以下原発性肺癌の臨床的検討. 第42回日本呼吸器学会, 仙台, 2002.4.
281. 猪岡望, 海老名雅仁, 萩原弘一, プラセノハダイブラドノ, 田澤立之, 西條康夫, 貫和敏博: Serectory leukoproteinase inhibitor (SLPI) は非小細胞肺癌 (NSCLC) の増殖を抑制する. 第42回日本呼吸器学会, 仙台, 2002.4.
282. 臼井一裕, 鳴海晃, 西條康夫, 萩原弘一, 太田成男, 貫和敏博: 改変型 Bax 遺伝子発現による肺癌細胞死誘導. 第42回日本呼吸器学会, 仙台, 2002.4.
283. プラセノハダイブラドノ, 田澤立之, 猪岡望, 海老名雅仁, 前門戸任, 田中昌史, 臼井一裕, 菊地利明, 西條康夫, 萩原弘一, 貫和敏博: Serectory leukoproteinase inhibitor (SLPI) 遺伝子導入は肺癌細胞株 A549移植動物モデルにおいて腫瘍増殖を抑制する. 第42回日本呼吸器学会, 仙台, 2002.4.
284. 石本 修, 田中昌史, 菊地利明, 田澤立之, 西條康夫, 萩原弘一, 貫和敏博: 化学療法+胸部同時照射を行った進行期小細胞肺癌症例の再発様式. 第42回日本呼吸器学会, 仙台, 2002.4.
285. 萩原弘一, 菊地暢, 猪岡望, 星幸子, 貫和敏博: Mouse ELM1 (Elafin-like molecule1) is an antibacterial peptide protein induced in lung inflammation. 第42回日本呼吸器学会, 仙台, 2002.4.
286. 三木誠, 海老名雅仁, 木村雄一郎, 榊原智博, 貫和敏博: 間質性肺炎 (肺線維症, BOOP, 膠原病関連) における新規血清マーカー (KL-6, SP-D) の意義. 第42回日本呼吸器学会, 仙台, 2002.4.
287. 木村雄一郎, 海老名雅仁, 星幸子, 榊原智博, 小野修一, 堀越理紀, 新藤哲, 三木誠, 渡辺正樹, 貫和敏博: 自覚症状のない初期特発性間質性肺炎における血清 SP-D の意義. 第42回日本呼吸器学会, 仙台, 2002.4.
288. 菊地利明, 前門戸任, 鳴海晃, 貫和敏博: 肝細胞増殖因子のアンタゴニスト NK4 を用いた抗腫瘍血管療法と樹状細胞を用いた腫瘍免疫療法の併用効果. 第42回日本呼吸器学会, 仙台, 2002.4.



289. 菊地暢, 萩原弘一, 本田芳宏, 五味和紀, 小林隆夫, 高橋洋, 徳江豊, 渡辺彰, 貫和敏博: クラリスロマイシンは, 転写因子 AP-1, NF- $\kappa$ B を介して単球からの IL-8 産生を抑制する. 第42回日本呼吸器学会, 仙台, 2002.4.
290. 渡辺正樹, 海老名雅仁, 三木誠, 萩原弘一, 中村敏一, 貫和敏博: 肝細胞増殖因子遺伝子導入による肺線維化の抑制. 第42回日本呼吸器学会, 仙台, 2002.4.
291. 前門戸任, 鳴海晃, 西條康夫, 白井一裕, 菊地利明, 田澤立之, 萩原弘一, 高橋稔, 新津洋司郎, 貫和敏博: SLPI 発現肺癌選択的複製可能アデノウイルスによる NK4 遺伝子高発現効果と抗腫瘍効果. 第42回日本呼吸器学会, 仙台, 2002.4.
292. 榊原智博, 福原達朗, 白井一裕, 高橋洋, 三木誠, 徳江豊, 海老名雅仁, 渡辺彰, 貫和敏博: 特発性肺線維症はステロイドパルス療法に日和見感染を高頻度に惹起する. 第42回日本呼吸器学会, 仙台, 2002.4.
293. 鈴木拓児, 田中昌史, 菊地利明, 田澤立之, 西條康夫, 萩原弘一, 貫和敏博: 縦隔または肺門リンパ節転移を認めた原発巣不明癌の検討. 第42回日本呼吸器学会, 仙台, 2002.4.
294. 高橋洋, 五味和紀, 小林隆夫, 菊地暢, 徳江豊, 渡辺彰, 貫和敏博: 宮城県内で見出された急性 Q 熱による呼吸器感染症例の臨床像. 第42回日本呼吸器学会, 仙台, 2002.4.
295. 田澤立之, 石本修, 三木誠, 徳江豊, 海老名雅仁, 萩原弘一, 齋藤純一, 中田光, 渡辺彰, 貫和敏博: 顆粒球-マクロファージコロニー刺激因子吸入療法 (GM-CSF) による肺胞蛋白症 (PAP) の治療. 第42回日本呼吸器学会, 仙台, 2002.4.
296. 小林隆夫, 徳江豊, 高橋洋, 菊地利明, 渡辺彰, 貫和敏博, 内山美寧, 本田芳宏, 米地稔, 佐藤秀隆, 館田一博, 山口恵三: 尿中抗原の検出により診断されたレジオネラ肺炎 (5 例) の臨床像. 第42回日本呼吸器学会, 仙台, 2002.4.
297. Prasenhadi Pradono, Ryushi Tazawa, Makoto Maemondo, Masashi Tanaka, Kazuhiro Usui, Toshiaki Kikuchi, Yasuo Saijo, Koichi Hagiwara, Toshihiro Nukiwa: Gene transfer of prostaglandin (PG) I<sub>2</sub> synthase to Lewis lung carcinoma cell (LLC) increases the anti-tumor effect of indomethacin. 第42回日本呼吸器学会, 仙台, 2002.4.

298. 菊地暢, 小林隆夫, 五味和紀, 高橋洋, 徳江豊, 渡辺彰, 貫和敏博: 当科における非定型抗酸菌検出例の検討. 第76回日本感染症学会総会. 東京, 2002.4
299. 徳江豊, 渡辺彰, 貫和敏博, Nikaido Hiroshi: 抗酸菌において Isoniazid の感受性に影響を与える遺伝子の同定. 第50回日本化学療法学会総会. 神戸, 2002.5.
300. 高橋洋, 五味和紀, 小林隆夫, 菊地暢, 徳江豊, 渡辺彰, 貫和敏博: 当科で経験した non-HIV のカリニ肺炎16症例の臨床像について. 第50回日本化学療法学会総会. 神戸, 2002.5.
301. 五味和紀, 鈴木拓児, 徳江豊, 西條康夫, 三木誠, 貫和敏博: 血液透析患者における Carboplatin および Etoposide 併用療法の経験 - 肺小細胞癌の 1 例 -. 第167回日本内科学会東北地方会, 仙台, 2002.6.
302. 木村雄一郎, 菊地暢, 徳江豊, 海老名雅仁, 貫和敏博: 胃癌, 多発性肝転移に対する CPT-11 を含む化学療法により間質性肺炎が増悪した 1 例. 第167回日本内科学会東北地方会, 仙台, 2002.6.
303. Maemondo M, Narumi K, Saijo Y, Kikuchi T, Tazawa R, Hagiwara K, Takahashi M, Niitsu Y, Nukiwa T: Combination gene therapy of SLPI promoter controlled replication competent adenovirus and NK4 encoding adenovirus vector for non-small cell lung cancer. 第 8 回日本遺伝子治療学会, 東京, 2002.7.
304. Watanabe M, Ebina M, Miki M, Tahara M, Hagiwara K, Nakamura T, Nukiwa T: Intravenous injection of naked plasmid encoding Hepatocyte Growth Factor meliorates Bleomycin-Induced Pulmonary Fibrosis. The 8 th Annual Meeting of Japan Society of Gene Therapy, Tokyo, 2002. 7.
305. 鈴木拓児, 福原達朗, 中村晃, 田中昌史, 西條康夫, 田澤立之, 菊地利明, 萩原弘一, 貫和敏博: 癌細胞と抗原提示細胞の融合細胞を用いた抗腫瘍効果の検討: syngeneic と allogeneic および樹状細胞とマクロファージの比較. 第6回基盤的癌免疫研究会総会, 福岡, 2002.7.
306. 小西一央, 前門戸任, 榊原智博, 西條康夫, 田中昌史, 田澤立之, 萩原弘一, 永井真貴子, 酒井宏一郎, 本村政勝, 貫和敏博: 肺小細胞癌に Lambert-Eaton myasthenic syndrome および limbic encephalitis を合併した症例. 日本肺癌学会東北支部会, 秋田, 2002.8.

307. 小西一央, 前門戸任, 西條康夫, 榊原智博, 田中昌史, 田澤立之, 萩原弘一, 蝦名昭男, 貫和敏博: 両側びまん性肺浸潤影を来たした肺胞上皮癌に対して ZD1839が奏功した一例. 第168回日本内科学会東北地方会, 秋田, 2002.9.
308. 田澤立之, 太田洋充, 海老名雅仁, 萩原弘一, 渡辺彰, 貫和敏博, 竹下美紀, 平林泰彦, 中田光: Wegener 肉芽腫症に合併した原発性肺胞蛋白症 (PAP) に対する顆粒球マクロファージコロニー刺激因子 (GM-CSF) 吸入療法. 第168回日本内科学会東北地方会, 秋田, 2002.9.
309. 太田洋充, 田澤立之, 木村雄一郎, 徳江豊, 海老名雅仁, 萩原弘一, 渡辺彰, 貫和敏博: 14年の経過で緩徐に進行した Pulmonary Langerhans`-cell Histiocytosis の1例. 第75回日本呼吸器会東北地方会. 秋田, 2002.9.
310. 菊地暢, 徳江豊, 海老名雅仁, 岡田克典, 近藤丘, 新藤百合子, 手塚文明, 貫和敏博: ステロイド治療中に血気胸を生じた器質性肺炎の1例. 第75回日本呼吸器学会東北地方会, 秋田, 2002.9.
311. 木村雄一郎, 徳江豊, 海老名雅仁, 近藤丘, 手塚文明, 貫和敏博: 両側肺底部肺胞充満像から気胸を併発した1例. 東北びまん性肺疾患研究会, 仙台, 2002.9.
312. 大河内眞也, 山田晃, 原田守, 七條茂樹, 貫和敏博, 伊東恭悟: 肺腺癌由来 HLA-B52拘束性新規癌拒絶抗原の同定. 第61回日本癌学会総会, 東京, 2002.10.
313. 呼群, 萩原弘一, 辛紅, 貫和敏博: ヒト肺癌細胞における p 73遺伝子異常と顕性阻害機能. 第61回日本癌学会, 東京, 2002.10.
314. 鈴木拓児, 福原達朗, 中村晃, 田中昌史, 西條康夫, 菊地利明, 前門戸任, 田澤立之, 萩原弘一, 貫和敏博: 癌細胞と抗原提示細胞の融合細胞を用いた抗腫瘍効果の検討: syngeneic と allogeneic および樹状細胞とマクロファージの比較. 第61回日本癌学会, 東京, 2002.10.
315. 菊地利明, 前門戸任, 松本邦夫, 中村敏一, 貫和敏博: 肝細胞増殖因子のアンタゴニスト NK4を用いた抗腫瘍血管療法と樹状細胞を用いた腫瘍免疫療法の併用効果. 第61回日本癌学会, 東京, 2002.10.
316. 田澤立之, プラセノハディ プラドノ, 西條康夫, 前門戸任, 鈴木拓児, 菊地利明, 萩原弘一, 貫和敏博: プロスタグランジン (PG) 12合成酵素遺伝子導入はインドメサシンの抗腫瘍効果を増強する. 第61回日本癌学会, 東京, 2002.10.

317. 紀氏優子, 久場敬司, 前門戸任, 貫和敏博, 松本邦夫, 中村敏一: NK4 systemic gene therapy による腫瘍血管新生, 浸潤・転移阻害. 第61回日本癌学会, 東京, 2002.10.
318. 五味和紀, 小林隆夫, 高橋洋, 徳江豊, 貫和敏博, 渡辺彰: Mannose Binding Lectin (MBL) の気道免疫における役割. 第51回日本感染症学会東日本地方会総会・第49回日本化学療法学会東日本支部総会. 仙台, 2002.10.
319. 鈴木拓児, 前門戸任, 田中昌史, 菊地利明, 田澤立之, 西條康夫, 萩原弘一, 貫和敏博: 縦隔または肺門リンパ節転移を認めた原発巣不明癌の検討. 第43回日本肺癌学会, 福岡, 2002.11.
320. 太田洋充, 田澤立之, 鈴木拓児, 前門戸任, 田中昌史, 菊地利明, 西條康夫, 萩原弘一, 高井良尋, 貫和敏博: 当科における進行期肺癌に対する定位放射線照射の検討. 第43回日本肺癌学会, 福岡, 2002.11.
321. 呼群, 萩原弘一, 辛紅, 貫和敏博: Naturally occurring p73 mutation in a lung cancer cell line with a dominant negative function. 第43回日本肺癌学会, 福岡, 2002.11.
322. 前門戸任, 鳴海晃, 西條康夫, 菊地利明, 田澤立之, 萩原弘一, 高橋稔, 新津洋司郎, 貫和敏博: SLPI 遺伝子プロモーターをもつ複製可能 adenovirus と NK4 adenovirus を併用した非小細胞肺癌特異的遺伝子治療. 第43回日本肺癌学会, 福岡, 2002.11.
323. 井上 彰, 西條康夫, 貫和敏博ら: 透析施行中の小細胞肺癌患者におけるカルボプラチン・エトポシド併用療法の有用性及び薬物動態の検討. 第1回日本臨床腫瘍学会, 福岡, 2003.2.
324. 木村雄一郎, 井上彰, 海老名雅仁, 菊地利明, 徳江豊, 鯉沼代造, 手塚文明, 貫和敏博: 非典型的な画像所見を呈した器質化肺炎の2例. 第76回日本呼吸器学会東北地方会, 第106回日本結核病学会東北地方会, 盛岡, 2003.2.
325. 鈴木拓児, 五味和紀, 西條康夫, 徳江豊, 遠藤希之, 渡辺みか, 笹野公伸, 貫和敏博: 小腸転移による消化管穿孔で汎発性腹膜炎を来した肺腺癌の一例. 第169回日本内科学会東北地方会, 仙台, 2003.2.
326. 井上彰, 西條康夫, 貫和敏博ら: 血液透析施行中の小細胞肺癌患者におけるカルボプラチン・エトポシド併用療法の薬物動態学的検討. 第43回日本呼吸器学会, 福岡, 2003.3.

327. 鈴木拓児, 福原達朗, 中村晃, 田中昌史, 西條康夫, 菊地利明, 前門戸任, 田澤立之, 萩原弘一, 貫和敏博: IL-12産生遺伝子改変癌細胞および allogeneic 抗原提示細胞を用いた融合細胞による癌免疫療法. 第43回日本呼吸器学会, 福岡, 2003.3.
328. 清水川稔, 井上彰, 海老名雅仁, 小西一央, 大河内眞也, 五味和紀, 前門戸任, 西條康夫, 貫和敏博: Gefitinib (イレッサ<sup>®</sup>) 投与後に間質性肺炎を発症した進行非小細胞肺癌の4例. 第43回日本呼吸器学会, 福岡, 2003.3.
329. 菊地利明, 貫和敏博: 樹状細胞を用いたレジオネラ肺炎ワクチンの開発. 第43回日本呼吸器学会, 福岡, 2003.3.
330. 木村雄一郎, 海老名雅仁, 堀越理紀, 小林隆夫, 小野修一, 貫和敏博: 線維化病態における血清 SP-D の重要性. 第43回日本呼吸器学会, 福岡, 2003.3.
331. 田澤立之, 石本修, 太田洋充, 海老名雅仁, 萩原弘一, 渡辺彰, 中田光, 貫和敏博: 特発性肺胞蛋白症 (PAP) に対する顆粒球-マクロファージコロニー刺激因子 (GM-CSF) 吸入療法. 第100回日本内科学会講演会, 福岡, 2003.4.
332. 木村雄一郎, 海老名雅仁, 小林隆夫, 小野修一, 貫和敏博: 蜂巣肺病変の拡がり と血清 SP-D 及び血清 KL-6 との関連性. 第100回日本内科学会講演会, 福岡, 2003.4.
333. 徳江豊, 渡辺彰, 貫和敏博, Nikaido Hiroshi: 抗結核薬ピラジナミドの感受性に影響を与える遺伝子の同定. 第77回日本感染症学会総会, 福岡, 2003.4.
334. 太田洋充, 海老名雅仁, 木村雄一郎, 五味和紀, 大河内眞也, 田澤立之, 貫和敏博: 発症後5年で死亡した, 蜂巣肺病変がない進行性線維症. 第68回間質性肺疾患研究会, 東京, 2003.6.
335. 木村雄一郎, 海老名雅仁, 井上彰, 五味和紀, 前門戸任, 西條康夫, 貫和敏博: Gefitinib 投与後に間質性肺炎を発症した進行性非小細胞癌の4例. 第68回間質性肺疾患研究会, 東京, 2003.6.
336. 鈴木拓児, 福原達朗, 中村晃, 田中昌史, 西條康夫, 田澤立之, 前門戸任, 菊地利明, 萩原弘一, 貫和敏博: IL-12産生遺伝子改変癌細胞および allogeneic 樹状細胞の融合細胞による癌免疫療法. 第7回基盤の癌免疫研究会総会, 岡山, 2003.7.

337. 前門戸任, 西條康夫, 鳴海晃, 菊地利明, 田澤立之, 松本邦夫, 中村敏一, 高橋稔, 新津洋四郎, 貫和敏博: SLPI プロモーター複製可能アデノウイルスと NK4アデノウイルスの併用による非小細胞肺癌選択的遺伝子治療. 第62回日本癌学会, 名古屋, 2003.9
338. 鯉沼代造, 篠崎正彦, 古室暁義, 後藤幸一郎, 斉藤正夫, 海老名雅仁, 貫和敏博, 宮澤恵二, 今村健志, 宮園浩平: Smad7の分解による Arkadia の TGF- $\beta$  /BMP シグナル増強作用. 第62回日本癌学会, 名古屋, 2003.9.
339. 中村治彦, 加藤治文, 西條康夫, 貫和敏博, 吉村邦彦, 佐藤哲夫, 衛藤義勝, 藤原俊義, 田中紀章: 非小細胞肺癌に対する正常型 p53遺伝子発現アデノウイルスベクター及びシスプラスチンを用いた遺伝子治療研究 - 第1相試験 -. 第44回日本肺癌学会, 東京, 2003.10.
340. 鈴木拓児, 福原達朗, 田中昌史, 西條康夫, 菊地利明, 前門戸任, 田澤立之, 萩原弘一, 貫和敏博: IL-12産生遺伝子改変癌細胞および allogenic 抗原提示細胞を用いた融合細胞による癌免疫療法. 第44回日本肺癌学会, 東京, 2003.10.
341. 辛紅, 菊地利明, 大河内眞也, シタアンダリーニ, 鈴木拓児, 本庶佑, 貫和敏博, 西條康夫: CX3CL1を発現するアデノウイルスベクターを用いた固形腫瘍に対する免疫遺伝子療法. 第44回日本肺癌学会, 東京, 2003.10.
342. 井上彰, 白井一裕, 西條康夫, 前門戸任, 小犬丸貞裕, 田中昌史, 石本修, 松原信行, 大河内眞也, 木村雄一郎, 太田洋充, 徳江豊, 貫和敏博: 高齢者非小細胞肺癌に対するカルボプラチン, パクリタキセル (毎週投与) 併用療法の第2相試験. 第44回日本肺癌学会, 東京, 2003.10.
343. 五味和紀, 徳江豊, 渡辺彰, 貫和敏博, 高橋洋, 藤村茂: 2002年度に東北地区で分離された黄色ブドウ球菌の疫学調査成績. 第50回日本化学療法学会東日本支部総会, 横浜, 2003.10.
344. 井上彰, 菊地利明, 貫和敏博ら: 脳・脊髄の広範囲に多発性病変を示した神経サルコイドーシスの1例. 第23回日本サルコイドーシス学会, 東京, 2003.11.
345. 大河内眞也, 木村雄一郎, 海老名雅仁, 鯉沼代造, 久田修, 貫和敏博: シクロスポリン (CyA) を投与した間質性肺炎17例の検討. 第69回間質性肺疾患研究会, 東京, 2003.12.

346. 鯉沼代造, 篠崎正彦, 古室暁義, 後藤幸一郎, 齊藤正夫, 海老名雅仁, 貫和敏博, 宮澤恵二, 今村健志, 宮園浩平: Smad7の分解による Arkadia の TGF- $\beta$ /BMP シグナル増強作用. 第26回 日本分子生物学会年会, 神戸, 2003.12.
347. 海老名雅仁, 大河内眞也, 太田洋充, 木村雄一郎, 田澤立之, 貫和敏博: HGF による線維化肺組織修復における骨髄由来細胞の役割. びまん性肺疾患調査研究第2回合同会議, 東京, 2004.1.
348. 鈴木拓児, 前門戸任, 井上 彰, 田澤立之, 菊地利明, 西條康夫, 貫和敏博, 森谷卓也: BEP 療法が有効であった, 一部に絨毛癌様細胞を示した hCG 産生性肺扁平上皮癌の一例, 第78回日本呼吸器学会東北地方会, 仙台, 2004.2.
349. 鈴木拓児, 西條康夫, 井上彰, 壺井匡浩, 渡辺みか, 星川康, 近藤丘, 木村光男, 貫和敏博: 大腸癌術後に CEA 異常高値を示しながら診断に難渋し, PET が有用であった肺癌の一例, 第172回日本内科学会東北地方会, 仙台, 2004.2.
350. 大河内眞也, 久田修, 秋山健一, 菊地利明, 西條康夫, 渡辺彰, 貫和敏博: シクロスポリン (CyA) を投与した間質性肺炎18例の検討. 第44回日本呼吸器学会学術講演会, 東京, 2004.3.
351. 久田修, 海老名雅仁, 木村雄一郎, 太田充洋, 貫和敏博, 齊木茂樹: 間質性肺炎: 蜂巣病変がなくても肺の線維化は進行しうる. 第44回日本呼吸器学会学術講演会, 東京, 2004.3.
352. 五味和紀, 徳江豊, 渡辺彰, 貫和敏博: 日和見感染菌 *C.violaceum* の Quorum sensing システムと宿主免疫の関わり. 第44回日本呼吸器学会学術講演会, 東京, 2004.4.
353. 大河内眞也, 久田修, 秋山健一, 菊地利明, 西條康夫, 渡辺彰, 貫和敏博: 若年で発症し診断に難渋した mucoepidermoid carcinoma の一例. 第27回日本呼吸器内視鏡学会総会, 大阪, 2004.6.
354. 大河内眞也, 徳江豊, 菊地利明, 渡辺彰, 貫和敏博: VCM, TEIC, ABK が無効で linezolid により救命し得た MRSA 敗血症の一例. 第52回日本化学療法学会総会, 宜野湾, 2004.6.
355. 五味和紀, 徳江豊, 渡辺彰, 貫和敏博, 高橋洋, 藤村茂: 2003年度に東北地区で分離された緑膿菌の疫学調査成績. 第52回日本化学療法学会総会, 宜野湾, 2004.6.

356. Xin H, Kanehira M, Andarini S, Kikuchi T, Mizuguchi H, Hayakawa T, Nukiwa T, Saijo Y : Tumor-targeting immunogene therapy by mesenchymal stem cells expressing CX3CL1 (poster session). The Japan Society of Gene Therapy the 10 t h Annual Meeting 2004, Tokyo, 2004.8.
357. 小西一央, 前門戸任, 鈴木拓児, 井上彰, 木村雄一郎, 菊地正, 大河原雄一, 服部俊夫, 西條康夫, 貫和敏博 : びまん性肺疾患を疑う陰影を呈した細気管支肺胞上皮癌 (BAC) の一例. 第79回日本呼吸器学会東北地方会, 山形, 2004.9.
358. 井上彰, 白井一裕, 貫和敏博ら : 高齢者進行非小細胞肺癌に対するカルボプラチン, パクリタキセル (毎週投与) 併用療法の第2相試験. 第45回日本肺癌学会, 横浜, 2004.10.
359. 小西一央, 前門戸任, 鈴木拓児, 井上彰, 井上健太郎, 西條康夫, 貫和敏博 : 胸部 CT 画像上短径 1 cm 以下の縦隔リンパ節における FDG-PET 陽性例の検討. 第45回日本肺癌学会, 横浜, 2004.10.
360. Hisata S, Yara S, Nukiwa M, Suzuki T, Tazawa R, Kimura Y, Ebina M, Nukiwa T: Analysis of nucleotide substitutions in SFTPC Gene in young patients with familial pulmonary fibrosis or NSIP in Japan. 第3回肺サーファクタント分子病態研究会 The international symposium, 大阪, 2004.11.
361. 大河内眞也, 久田修, 木村雄一郎, 榊原智博, 菊地利明, 海老名雅仁, 屋良さとみ, 貫和敏博 : 家族性および若年性肺線維症12例における SP-C (Surfactant ProteinC) 遺伝子の配列解析. 第71回間質性肺疾患研究会, 東京, 2004.11.
362. 海老名雅仁, 木村雄一郎, 大河内眞也, 小西一央, 榊原智博, 田澤立之, 貫和敏博 : リンパ管構築変化の特発性間質性肺炎病態に与える影響. 平成16年度びまん性肺疾患調査研究班第2回班会議総会, 東京, 2004.12.
363. 岡田克典, 大石久, 菊地利明, 佐渡哲, 松村輔二, 田畑俊治, 星川康, 鈴木聡, 貫和敏博, 近藤丘 : ラット移植肺へのインターロイキン場 IL-10遺伝子経気道的導入による拒絶反応抑制の試み. 平成16年度びまん性肺疾患調査研究班第2回班会議総会, 東京, 2004.12.
364. 木村雄一郎, 福原達朗, 海老名雅仁, 貫和敏博 : Cystic Fibrosis との鑑別を要した難治性の家族性 DPB. 第3回 DPB・難治性気道疾患会, 東京, 2005.1.
365. 木村雄一郎, 海老名雅仁, 小西一央, 貫和敏博 : 咯血を繰り返す18歳の男性. 第26回呼吸器病理研究会, 東京, 2005.2.



366. 貫和敏博：特発性間質性肺炎と膠原病肺 呼吸器内科の立場から. 第1回膠原病肺疾患研究会, 仙台, 2005.2.
367. 榊原智博, 鈴木拓児, 菊地利明, 田澤立之, 渡辺彰, 貫和敏博, 高橋洋：温泉水の飲用が原因と疑われた重症レジオネラ肺炎の1例. 第175回日本内科学会東北地方会, 仙台, 2005.2.
368. 井上彰, 鈴木拓児, 貫和敏博ら：ゲフィチニブの前向き臨床試験. 第3回日本臨床腫瘍学会, 横浜, 2005.3.
369. 木村雄一郎, 福原達朗, 前門戸任, 菊地利明, 田澤立之, 西條康夫, 貫和敏博：ぶどう膜炎を併発した胸腺癌の1例. 第80回日本呼吸器学会東北地方会, 第110回日本結核病学会東北地方会, 秋田, 2005.3.
370. 福原達朗, 木村雄一郎, 菊地利明, 田澤立之, 西條康夫, 貫和敏博：PETにより発見された難治性肺動脈腫瘍の一例. 第80回日本呼吸器学会東北地方会, 第110回日本結核病学会東北地方会, 秋田, 2005.3.
371. 貫和敏博：がん（2）遺伝子導入によるシグナル増強と抗腫瘍免疫. 21世紀COEプログラム「シグナル伝達病の治療戦略創生拠点」, 仙台, 2005.4.
372. 辛紅, 兼平雅彦, 鈴木拓児, 前門戸任, 菊地利明, 水口裕之, 早川堯夫, 貫和敏博, 西條康夫：CX3CL1遺伝子導入による抗腫瘍免疫の誘導と骨髄由来間葉系幹細胞を用いた癌組織のターゲティング. 21世紀COEプログラム「シグナル伝達病の治療戦略創生拠点」, 仙台, 2005.4.
373. 高橋洋, 生方智, 森川直人, 庄司淳, 佐々木泰夫, 佐藤忍, 徳江豊, 五味和紀, 渡辺彰, 貫和敏博：Q熱肺炎症例におけるBAL所見に関する検討. 第45回日本呼吸器学会学術講演会, 千葉, 2005.4.
374. 福原達朗, 鈴木拓児, 井上彰, 前門戸任, 田澤立之, 西條康夫, 貫和敏博：当科12年間における肺癌治療時に合併した薬剤性肺炎の検討. 第45回日本呼吸器学会学術講演会, 千葉, 2005.4.
375. 木村雄一郎, 海老名雅仁, 大河内真也, 田澤立之, 貫和敏博：経年的に画像で蜂巢肺病変が進行しない群と進行する群における血清マーカーを含めた関連の検討. 第45回日本呼吸器学会学術講演会, 千葉, 2005.4.
376. 菊地利明, 渡辺彰, 貫和敏博：樹状細胞によるフラクタルカイン発現がレジオネラ感染防御に果たす役割. 第45回日本呼吸器学会学術講演会, 千葉, 2005.4.

377. 榊原智博, 鈴木拓児, 前門戸任, 井上彰, 木村雄一郎, 菊地利明, 田澤立之, 西條康夫, 貫和敏博: 内科治療前後における FDG-PET の検討. 第45回日本呼吸器学会学術講演会, 千葉, 2005.4.
378. 井上彰, 山崎浩一, 西條康夫, 貫和敏博: 高齢者小細胞肺癌に対するアムルピシン, カルボプラチン併用第 I 相試験. 第45回日本呼吸器学会学術講演会, 千葉, 2005.4
379. 貫和敏博: 特発性肺線維症急性増悪治療の対象としての肺泡毛細血管増殖病変: 治療戦略再構築の必要性. 第45回日本呼吸器学会学術講演会, 千葉, 2005.4.
380. 田澤立之, 木村雄一郎, 前門戸任, 鈴木拓児, 海老名雅仁, 中田光, 貫和敏博: 特発性肺蛋白症の GM-CSF 吸入治療例の予後と再治療. 第45回日本呼吸器学会学術講演会, 千葉, 2005.4.
381. 鈴木拓児, 前門戸任, 井上彰, 福原達朗, 榊原智博, 田原稔, 小西一央, 田澤立之, 菊地利明, 西條康夫, 貫和敏博: 非小細胞肺癌 EGFR 遺伝子変異の検索: 個別化医療を視野においた臨床研究. 第45回日本呼吸器学会学術講演会, 千葉, 2005.4.
382. 木村雄一郎, 海老名雅仁, 福原達朗, 大河内真也, 小西一央, 榊原智博, 田澤立之, 貫和敏博: エラスボールによる特発性肺線維症急性増悪の予防効果. 第72回間質性肺疾患研究会, 東京, 2005.6.
383. 貫和敏博, 鈴木拓児: II 型肺胞上皮細胞細胞内 trafficking 関与蛋白へのたばこ煙の影響. 財団法人喫煙科学研究財団平成16年度助成金発表会, 東京, 2005.7.
384. 鈴木拓児, 福原達朗, 前門戸任, 菊地利明, 萩原弘一, 西條康夫, 貫和敏博: 蛋白分解酵素阻害物質 Secretory leukoprotease inhibitor (SLPI) ノックアウトマウスでは肺発癌が減少する. 第25回 RMCB 研究会, 東京, 2005.7.
385. Kanehira M, Xin H, Maemondo M, Mizuguchi H, Hayakawa T, Matsumoto K, Nakamura T, Nukiwa T, Saijo Y: Tumor targeting anti-angiogenic gene therapy using NK4-expressing bone marrow-derived mesenchymal stem cells. The Japan society of gene therapy the 11th annual meeting 2005, 東京, 2005.7.
386. 小山正平, 木村雄一郎, 井上彰, 鈴木拓児, 前門戸任, 西條康夫, 貫和敏博: 両側肺野にびまん性小粒状影を呈した高分化型肺腺癌の 1 例. 日本肺癌学会東北地方会, 山形, 2005.7.

387. 木村雄一郎, 海老名雅仁, 佐々木ときわ, 小山正平, 田澤立之, 貫和敏博, 手塚文明: 左右差が明瞭な UIP パターンを呈した間質性肺炎の一例 その発生機所を探る. 第7回東北びまん性肺疾患研究会, 仙台, 2005.9.
388. 佐々木ときわ, 海老名雅仁, 木村雄一郎, 田澤立之, 貫和敏博: ステロイドを中止後に新たに発症した筋サルコイドーシスの一例. 第1回日本サルコイドーシス・肉芽腫性疾患学会東北地方会, 仙台, 2005.9.
389. 井上彰, 石本修, 貫和敏博ら: カルボプラチン, 隔週ドセタキセル併用療法の第II相試験. 第46回日本肺癌学会, 千葉, 2005.11.
390. 井上彰, 福原達朗, 森川直人, 渡辺洋, 木村雄一郎, 鈴木拓児, 前門戸任, 西條康夫, 貫和敏博: EGF 受容体遺伝子変異と非小細胞肺癌のゲフィチニブ治療. 第125回東北大学加齢医学研究所集談会, 2006.1.
391. 小山正平, 木村雄一郎, 田澤立之, 海老名雅仁, 貫和敏博: 肺胞出血の1例. 膠原病肺疾患研究会, 2006.2.
392. 小山正平, 木村雄一郎, 菊地利明, 田澤立之, 海老名雅仁, 渡辺彰, 貫和敏博, 北室知巳, 芦野有吾, 服部俊夫: Hot tub lung が疑われた過敏性肺臓炎の1例. 第178回日本内科学会東北地方会, 仙台, 2006.2.
393. 渡辺洋, 小山正平, 榊原智博, 井上彰, 前門戸任, 西條康夫, 貫和敏博, 濱谷豊, 高橋潤: バクリタキセルによるアナフィラキシー, たこつぼ心筋症を来した一例. 第4回日本臨床腫瘍学会総会, 大阪, 2006.3.
394. 小山正平, 木村雄一郎, 菊地利明, 田澤立之, 海老名雅仁, 渡辺彰, 貫和敏博: 肺ランゲルハンス組織球症 (LCH) 5 症例の臨床的検討. 第103回日本内科学会, 横浜, 2006.4.
395. 辛 紅, 兼平雅彦, 水口裕之, 早川堯夫, 貫和敏博, 西條康夫: 骨髄由来間葉系幹細胞 (MSC) を用いた癌組織をターゲティングする免疫遺伝子細胞治療開発. 第4回幹細胞シンポジウム, 東京, 2006.5.
396. 兼平雅彦, 辛紅, 前門戸任, 水口裕之, 早川堯夫, 松本邦夫, 中村敏一, 貫和敏博, 西條康夫: 肺がん転移モデルにおける NK4 発現骨髄由来間葉系幹細胞 (NK4-MSCs) を用いた抗腫瘍効果の検討. 第3回東北大学バイオサイエンスシンポジウム, 仙台, 2006.5.

397. 田澤立之, 小山正平, 佐々木ときわ, 渡辺洋, 木村雄一郎, 前門戸任, 鈴木拓児, 海老名雅仁, 中田光, 貫和敏博: 特発性肺胞蛋白症 GM-CSF 吸入治療後の再憎悪に対する再治療と維持療法. 第46回日本呼吸器学会学術講演会, 東京, 2006.6.
398. 木村雄一郎, 海老名雅仁, 小山正平, 佐々木ときわ, 田澤立之, 貫和敏博: 特発性肺線維症を含む間質性肺炎における erbB ファミリーについて. 第46回日本呼吸器学会学術講演会, 東京, 2006.6.
399. 森川直人, 井上彰, 福原達朗, 渡辺洋, 木村雄一郎, 前門戸任, 高橋洋, 西條康夫, 貫和敏博: 当科における悪性胸膜中皮腫症例の検討. 第46回日本呼吸器学会学術講演会, 東京, 2006.6.
400. Igusa R, Taniguchi H, Miyasho T, Sasaki T, Kimura Y, Ishizaka A, Kondo T, Ebina M, Nukiwa T: Analyzing of cytokines and viral infection bronchoalveolar lavage fluid and serum of patients with interstitial pneumonias on acute exacerbation. 第46回日本呼吸器学会学術講演会, 東京, 2006.6.
401. Sasaki T, kimura Y, Konishi K, Koyama S, Nukiwa T, Ebina M: Heterogeneous distribution of the cells producing serum makers in the lungs of interstitial pneumonias. 第46回日本呼吸器学会学術講演会, 東京, 2006.6.
402. Zaini J, Andarini S, kikuchi T, Nukiwa T: Antitumor immunity induced by intratumoral administration of dendritic cells transduced with adenovirus vectorexpressing OX40 ligand. 第46回日本呼吸器学会学術講演会, 東京, 2006.6.
403. 海老名雅仁, 木村雄一郎, 佐々木ときわ, 小山正平, 貫和敏博: 薬剤性肺障害が健側におこりやすい機序. 第74回間質性肺疾患研究会, 東京, 2006.6.
404. 佐々木ときわ, 五味和紀, 菊地利明, 貫和敏博, 森建文, 星史彦, 野田雅史, 渡辺みか, 遠藤希之: 中枢性尿崩症発4年後に Pulmonary Langerhans Cell Histiocytosis (LCH) が発見された1例. 第179回日本内科学会東北地方会, 仙台, 2006.6.
405. 佐藤大希, 田澤立之, 木村雄一郎, 菊地利明, 海老名雅仁, 貫和敏博, 三木誠: 両側末梢優位の陰影を呈し診断に苦渋した肺胞蛋白症の1例. 第179回日本内科学会東北地方会, 仙台, 2006.6.

406. 酒谷俊雄, 森川直人, 井上彰, 五味和紀, 福原達朗, 榊原智博, 木村雄一郎, 西條康夫, 貫和敏博: Gefitinib による interstitial Lung Disease (ILD) を発症した後, 再投与が有効であった EGFR 変異陽性肺腺癌の 1 例. 第45回日本肺癌学会東北支部会, 弘前, 2006.7.
407. 佐々木ときわ, 木村雄一郎, 柴田尚子, 小西一央, 小山正平, 貫和敏博, 海老名雅仁: 間質性肺炎患者における肺サーファクタントタンパクおよび KL-6 の血清濃度の乖離は, 異なる病態に由来する. 21世紀 COE プログラム 共同開催第 1 回 COE 相互交流若手研究者の会, 大崎市, 2006.7.
408. ザイニジャマル, 菊地利明, 貫和敏博: 樹状細胞の抗腫瘍免疫誘導における OX40リガンドの働き. 第65回日本癌学会学術総会, 横浜, 2006.9.
409. 福原達朗, 鈴木拓児, 榊原智博, 田原稔, 菊地利明, 西條康夫, 貫和敏博: 肺癌細胞と蛋白分解酵素阻害物質 Secretory Leukoprotease inhibitor (SLPI). 第65回日本癌学会学術総会, 横浜, 2006.9.
410. 佐々木ときわ, 木村雄一郎, 佐藤大希, 菊地利明, 海老名雅仁, 貫和敏博: fibrotic NSIP の急性増悪にて急速に呼吸不全が進行し死亡した 1 例. 第83回日本呼吸器学会東北地方会第113回日本結核病学会東北地方会, 仙台, 2006.9.
411. 五味和紀, 渡辺彰, 菊地利明, 藤村茂, 布施克浩, 貫和敏博: 2005年度に東北地方で分離された緑膿菌の薬剤感受性疫学調査成績. 第55回日本感染症学会東日本地方会総会・第53回日本化学療法学会東日本支部総会・合同学会, 東京, 2006.10.
412. 五味和紀, 渡辺彰, 菊地利明, 藤村茂, 布施克浩, 黒川いく, 貫和敏博: 2005~2006年分離の呼吸器病原細菌に対するカルバペネム 4 薬剤 (MEPM, IPM, PAMP, BIPM) の抗菌力. 第55回日本感染症学会東日本地方会総会・第53回日本化学療法学会東日本支部総会・合同学会. 東京, 2006.10.
413. Zaini J, Kikuchi T, Andarini S, Nukiwa T: Antitumor immunity induced by intratumoral administration dendritic cells expressing OX40 ligand. The 21st century COE program The 3rd international symposium on novel perspectives in cancer research and translation to the clinic, Sendai, 2006.11.
414. 辛紅, 兼平雅彦, 水口裕之, 早川堯夫, 貫和敏博, 西條康夫: CX3CL1 遺伝子導入骨髄由来間葉系幹細胞 (MSC) の気道投与による多発肺腫瘍の抑制. 第47回日本肺癌学会, 東京, 2006.12.

415. 森川直人, 井上彰, 福原達郎, 五味和紀, 木村雄一郎, 高橋洋, 前門戸任, 西條康夫, 貫和敏博: 当科における悪性胸膜中皮腫症例の検討. 第47回日本肺癌学会, 東京, 2006.12.
416. 海老名雅仁, 小山正平, 谷口博之, 宮庄拓, 玉井ときわ, 木村雄一郎, 田澤立之, 石坂彰敏, 近藤丘, 貫和敏博: 特発性肺線維症患者肺の血管・リンパ管構造変化による急性憎悪の発生機序. 厚生労働科学研究 難治性疾患克服研究事業 びまん性肺疾患に関する調査研究班平成18年度第2回班会議総会, 東京, 2007.1.
417. 五味和紀, 海老名雅仁, 阿部達也, 井上国彦, 村上一宏, 貫和敏博: 日本における家族性サルコイドーシス患者の BTNL2 遺伝子異常. 厚生労働科学研究 難治性疾患克服研究事業 びまん性肺疾患に関する調査研究班平成18年度第2回班会議総会, 東京, 2007.1.
418. 榊原智博, 西條康夫, 森川直人, 井上彰, 貫和敏博: 癌性髄膜炎で発症し, イレッサを投与した肺腺癌の一例. 第23回東北肺癌研究談話会, 2007.1.
419. Zaini J, Kikuchi T, Saijo Y, Nukiwa T: Role of SLPI expression on tumor growth. 第127回東北大学加齢医学研究所集談会, 仙台, 2007.1.
420. 榊原智博, 菊地利明, 田澤立之, 貫和敏博: Mycobacterium avium complex が原因抗原と考えられた過敏性肺臓炎の一例. 第181回日本内科学会東北地方会, 仙台, 2007.2.
421. 太田洋充, 榊原智博, 福原達郎, 井上彰, 貫和敏博, 西條康夫, 進藤百合子: gefitinib による救済治療が奏功した小細胞肺癌の症例. 第181回日本内科学会東北地方会, 仙台, 2007.2.
422. 榊原智博, 西條康夫, 森川直人, 井上彰, 貫和敏博: 癌性髄膜炎で発症し, イレッサを投与した肺腺癌の一例. 第84回日本呼吸器学会東北地方会第14回日本結核病学会東北地方会, 八戸, 2007.2.
423. 榊原智博, 菊地利明, 田澤立之, 貫和敏博: 労作時呼吸困難を主訴に, 胸部CTでスリガラス状陰影を認めた一例. 第14回東北胸部疾患ワークショップ, 2007.3.
424. 五味和紀, 海老名雅仁, 阿部達也, 貫和敏博: BTNL2 遺伝子変異を認めた家族性サルコイドーシスの一例. 第104回日本内科学会, 大阪, 2007.4.3.

425. 五味和紀, 渡辺彰, 菊地利明, 藤村茂, 貫和敏博: 2005~2006年度に東北地区で分離された緑膿菌の薬剤感受性疫学調査成績. 第81回日本感染症学会総会, 京都, 2007.4.
426. 五味和紀, 海老名雅仁, 阿部達也, 貫和敏博: BTNL2遺伝子変異を認めた家族性サルコイドーシスの一例. 第47回日本呼吸器学会学術講演会, 東京, 2007.5.
427. 兼平雅彦, 辛紅, 前門戸任, 水口裕之, 早川克夫, 松本邦夫, 中村敏一, 貫和敏博, 西條康夫: 肺がん転移モデルにおけるNK4発現骨髄由来間葉系幹細胞(NK4-MSCs)を用いた抗腫瘍効果の検討. 第47回日本呼吸器学会学術講演会, 東京, 2007.5.
428. 森本泰介, 阿部信二, 臼杵二郎, 吾妻安良太, 工藤翔二, 折津愈, 杉崎勝教, 貫和敏博: 2004年サルコイドーシス全国疫学調査. 第47回日本呼吸器学会学術講演会, 東京, 2007.5.
429. 太田洋充, 榊原智博, 福原達朗, 井上彰, 貫和敏博, 西條康夫, 進藤百合子: gefitinibによる救済治療が奏功した非小細胞肺癌の症例. 第47回日本呼吸器学会学術講演会, 東京, 2007.5.
430. 田澤立之, 新井徹, 木村雄一郎, 大塚淳司, 海老名雅仁, 井上義一, 中田光, 貫和敏博: 特発性肺胞蛋白症に対する間欠的な顆粒球マクロファージコロニー刺激因子(GM-CSF)吸入による維持療法. 第47回日本呼吸器学会学術講演会, 東京, 2007.5.
431. Katsha a, Xin H, Kanehira M, Nukiwa T, Saijo Y: Intratracheal delivery of mesenchymal stem cells ameliorates elastase-induced emphysema. 第47回日本呼吸器学会学術講演会, 2007.5.
432. 榊原智博, 菊地利明, 田澤立之, 貫和敏博, 佐渡哲, 星川康, 近藤丘, 佐藤秀隆: 背部痛を主訴に胸水を指摘され悪性リンパ腫と診断された一例. 内科学会東北地方会, 仙台, 2007.6.
433. 榊原智博, 菊地利明, 田澤立之, 貫和敏博: Mycobacterium avium complexが原因抗原と考えられた過敏性肺臓炎の一例. 第289心肺会, 仙台, 2007.6.
434. 佐藤輝幸, 久田修, 福原達朗, 菊地利明, 西條康夫, 貫和敏博: 1年の経過で悪性胸膜中皮腫と確定診断した1症例. 第183回日本内科学会東北地方会, 2007.9.

435. 佐藤栄三郎, 海老名雅仁, 廣田直, 佐藤大希, 太田洋充, 玉井とさわ, 木村雄一郎, 田澤立之, 貫和敏博: 夏型過敏性肺炎から狭窄性細気管支炎を進行した若年男性の症例. 第85回日本呼吸器学会東北地方会, 青森, 2007.9.
436. 太田洋充, 海老名雅仁, 佐藤栄三郎, 廣田直, 佐藤大希, 玉井とさわ, 木村雄一郎, 田澤立之, 貫和敏博: 間質性肺炎急性増悪早期病変に対する好中球エラスターゼ阻害薬の効果. 第85回日本呼吸器学会東北地方会, 青森, 2007.9.
437. 久田修, 福原達朗, 菊地利明, 井上彰, 海老名雅仁, 西條康夫, 貫和敏博, 渡辺みか, 石田和之: 無加療で縮小した多発肺結節・多発骨腫瘍・脳腫瘍の一例. 東北胸部疾患ワークショップ, 仙台, 2007.9.
438. 五味和紀, 海老名雅仁, 田澤立之, 貫和敏博: 当科におけるサルコイドーシス症例の BTNL 2 遺伝子変異の疫学調査成績. 第三回日本サルコイドーシス・肉芽腫性疾患東北地方会, 2007.9.
439. Origuchi M, Kanehira M, Xin H, Nukiwa T, Saijo Y: Mesenchymal stem cells promote tumor cell proliferation and endow tumor cells with resistance to antitumor agent. 66<sup>th</sup> Annual Meeting of the Japanese Cancer Association, Yokohama, 2007.10.
440. Fukuhara T, Suzuki T, Sakakibara T, Tahara M, Inoue A, Kikuchi T, Saijo Y, Nukiwa T: The role of secretory leukoprotease inhibitor (SLPI) in lung tumor formation. 66<sup>th</sup> Annual Meeting of the Japanese Cancer Association, Yokohama, 2007.10.
441. Xin H, Kanehira M, Katsha A, Sun R, Mizuguchi H, Hayakawa T, Nukiwa T, Saijo Y: Intra-tracheal delivery of mesenchymal stem cells expressing fractalkine inhibits lung metastases. 66<sup>th</sup> Annual Meeting of the Japanese Cancer Association, Yokohama, 2007.10.
442. 榊原智博, 井上彰, 福原達朗, 五味和紀, 菊地利明, 石本修, 西條康夫, 貫和敏博: 上皮成長因子受容体 (EGFR) 遺伝子変異を認めた肺癌の一家系. 第48回日本肺癌学会, 名古屋, 2007.11.
443. 谷口博之, 海老名雅仁, 田口善夫, 菅守隆, 井上義一, 貫和敏博: 特発性肺線維症の急性増悪に関する 2 次アンケート調査研究. 厚生労働科学研究 難治性疾患克服研究事業 びまん性肺疾患調査研究班平成19年度第 2 回班会議総会, 東京, 2007.12.



444. 海老名雅仁, 佐藤栄三郎, 太田洋充, 玉井ときわ, 廣田直, 久田修, 田澤立之, 貫和敏博: Several/Fetal fibrotic non-specific interstitial pneumonia (f-NSIP) の提唱とその患者群の臨床・病理学的検討. 厚生労働科学研究 難治性疾患克服研究事業 びまん性肺疾患に関する調査研究班平成19年度第2回班会議総会, 東京, 2007.12.
445. 榊原智博, 菊地利明, 井上彰, 五味和紀, 渡辺彰, 貫和敏博: VNTR 型別による *M.avium* 菌の系統樹解析で, 同一系統株と考えられた *M.avium* による過敏性肺臓炎の2例. 第86回日本呼吸器学会東北地方会, 仙台, 2008.3.
446. 福原達朗, 西條康夫, 榊原智博, 井上彰, 森川直人, 中島一郎, 金森政之, 貫和敏博: 癌性髄膜炎を発症し, 脳脊髄液より gefitinib 濃度を測定し得た EGFR 変異陽性肺癌の一例. 第6回臨床腫瘍学会学術集会, 福岡, 2008.3.
447. 榊原智博, 井上彰, 福原達朗, 五味和紀, 菊地利明, 石本修, 菅原俊一, 西條康夫, 貫和敏博: 上皮成長因子受容体 (EGFR) 遺伝子変異を認めた肺がんの一家系. 第105回日本内科学会総会講演会, 東京, 2008.4.
448. 北日本ゲフィチニブ研究グループ (NEJ Gefitinib Study Group): 白井一裕, 井上彰, 小林国彦, 前門戸任, 沖永莊治, 植松和嗣, 安藤真弘, 山崎浩一, 西條康夫, 弦間昭彦, 貫和敏博, 萩原弘一: EGFR 遺伝子変異を有する PS 不良非小細胞癌 (NSCLC) に対する救済初回ゲフィチニブ療法. 第48回日本呼吸器学会学術講演会, 神戸, 2008.6.
449. 渡辺洋, 井上彰, 西條康夫, 榊原智博, 菅原俊一, 石本修, 前門戸任, 松原信行, 石田卓, 白井一裕, 阿部達也, 神部眞理子, 山崎浩一, 武内健一, 似内郊雄, 井上千恵子, 貫和敏博: 高齢者進行非小細胞肺癌 (NSCLC) に対する CBDCA + TXL (一括投与方法) と CBDCA+TXL (毎週投与方法) との無作為化第II相試験. 第48回日本呼吸器学会学術講演会, 神戸, 2008.6.
450. 田口善夫, 海老名雅仁, 菅守隆, 井上義一, 谷口博之, 貫和敏博: WEB 登録による急性憎悪症例のレトロスペクティブ調査の解析結果. 第48回日本呼吸器学会学術講演会, 神戸, 2008.6.
451. 太田洋充, 佐藤栄三郎, 久田修, 貫和敏博, 海老名雅仁: 間質性肺炎急性憎悪早期段階に対する好中球エラスターゼ阻害剤の治療効果の検討. 第48回日本呼吸器学会学術講演会, 神戸, 2008.6.
452. 廣田直, 太田洋充, 玉井ときわ, 貫和敏博, 海老名雅仁: サイクロスポリンによる筋線維芽細胞のコラーゲン合成抑制効果について. 第48回日本呼吸器学会学術講演会, 神戸, 2008.6.

453. 大東久佳, 井上彰, 貫和敏博: EGFR 変異陽性肺癌における血清 KL-6 の臨床的意義の検討. 第48回日本呼吸器学会学術講演会, 神戸, 2008.6.
454. 佐藤栄三郎, 太田洋充, 玉井ときわ, 廣田直, 久田修, 貫和敏博, 海老名雅仁: 進行性肺線維症患者の臨床・病理学的検討からの疾患病態の独立性を探る. 第48回日本呼吸器学会学術講演会, 神戸, 2008.6.
455. 田澤立之, 中田光, 審良正則, 井上義一, 貫和敏博: GM-CSF 吸入による特発性肺胞蛋白症の治療研究—画像所見の改善と治療終了後の経過. 第48回日本呼吸器学会学術講演会, 神戸, 2008.6.
456. 松原信行, 井上彰, 西條康夫, 五味和紀, 菅原俊一, 石本修, 山崎浩一, 本村文宏, 鈴木俊郎, 高梨信吾, 井上千恵子, 長谷川幸裕, 稲毛稔, 横内浩, 木村雄一郎, 塚本東明, 貫和敏博: 小細胞肺癌 (SCLC) 二次治療における塩酸アムルピシン (A) とトポテカン (T) との無作為化第 II 相試験. 第48回日本呼吸器学会学術講演会, 神戸, 2008.6.
457. 大河内眞也, 貫和敏博: 骨髄間葉系幹細胞由来ミトコンドリア関連ホルモン (STC -1) は, 低酸素およびアシドーシス下における細胞死を抑制する. 第48回日本呼吸器学会学術講演会, 神戸, 2008.6.
458. 村上康司, 井上彰, 榊原智博, 貫和敏博: Gefitinib 治療中に微細粒状影を呈する脳転移を認めた一例. 第47回日本肺癌学会東北支部会, 秋田, 2008.8.
459. 小野学, 太田洋充, 久田修, 大河内眞也, 海老名雅仁, 貫和敏博: 長期にわたって肺線維化の経緯を追えた, Hermansky-Pudlack 症候群の 1 例. 第186回日本内科学会東北地方会, 秋田, 2008.9.
460. 大河内眞也, 小野学, 太田洋充, 木村雄一郎, 海老名雅仁, 貫和敏博: 経過中に SIADH を合併した上葉優位型肺線維症の一例. 第87回日本呼吸器学会東北地方会, 第117回日本結核病学会東北地方会, 秋田, 2008.9.
461. 西巻雄司, 大野勲, 井田士朗, 賀来満夫, 柴田陽光, 諏訪部章, 高橋長一郎, 武田博明, 新妻一直, 保嶋稔, 渡辺彰, 貫和敏博: 東北地区における過去10年間の肺炎球菌薬剤感受性の推移. 第87回日本呼吸器学会東北地方会, 秋田, 2008.9.
462. 鈴木和正, 大野勲, 西巻雄司, 賀来満夫, 柴田陽光, 諏訪部章, 高橋長一郎, 武田博明, 新妻一直, 保嶋稔, 渡辺彰, 貫和敏博: 東北地区における過去10年間の肺炎球菌薬剤感受性の推移. 第57回日本感染症学会東北地方会総会・第55回日本化学療法学会東日本支部総会・合同学会, 大宮, 2008.10.

463. 村上康司, 榊原智博, 井上彰, 海老名雅仁, 貫和敏博: 当科における神経サルコイドーシス 3 例の治療経験. 第28回日本サルコイドーシス・肉芽腫性疾患学会総会, 仙台, 2008.11.
464. 大東久佳, 菊地利明, 貫和敏博: 非結核性抗酸菌による過敏性肺臓炎の病態解明・動物実験モデルの確立. 第2回リトリート大学院研究発表会, 東北大学川内萩ホール, 2008.12.
465. 廣田直, 海老名雅仁, 太田洋充, 玉井ときわ, 小野学, 久田修, 大河内眞也, 玉田勉, 光石陽一郎, 貫和敏博: サイクロsporin A の線維化抑制効果に関する遺伝子発現プロファイリング. 厚生労働科学研究 難治性疾患克服研究事業, 東京, 2009.1.
466. 玉田勉, 奈良正之, 村上康司, 海老名雅仁, 貫和敏博: Calu-3細胞からのHCO<sub>3</sub><sup>-</sup>分泌に伴う気道被覆液 pH 変化の検討. 第21回気道病態研究会, 東京, 2009.2.
467. 井上彰, 朝比奈肇, 砂長則明, 須谷顕尚, 吉田公秀, 岡本勇, 杉尾賢二, 森田智視, 小林国彦, 貫和敏博, 福岡正博: I-CAMP: EGFR 遺伝子変異陽性 NSCLC に対するゲフィニチブ治療の統合解析. 第7回日本臨床腫瘍学会総会, 名古屋, 2009.3.
468. 小山正平, 榊原智博, 村上康司, 渡辺みか, 清水川稔, 三木誠, 井上彰, 海老名雅仁, 岡山博, 貫和敏博: 急激な胸水貯留を呈した Wegnaer 肉芽腫症の一例. 第88回日本呼吸器学会東北地方会, 第118回日本結核病学会東北地方会, 福島, 2009.3.
469. 色川俊也, 小川浩正, 飛田渉, 貫和敏博, 杉村宏一郎, 福本義弘: 閉塞性睡眠時無呼吸症候群 (OSAS) に合併した肺血栓塞栓症の一例. 第88回日本呼吸器学会東北地方会, 第118回日本結核病学会東北地方会, 福島, 2009.3.
470. 海老名雅仁, 宮庄拓, 廣田直, 玉田勉, 大河内眞也, 貫和敏博: 特発性肺線維症の急性憎悪発症病態に基づく早期診断と早期治療. 第106回日本内科学会総会・講演会, 東京, 2009.4.
471. 菊地利明, 渡辺彰, 五味和紀, 藤村茂, 貫和敏博: 多型縦列反復配列 (VNTR) の菌遺伝子型による非結核性抗酸菌症の病態予測. 第83回日本感染症学会学術講演会, 東京, 2009.4.
472. 高根秀成, 藤村茂, 中野禎久, 貫和敏博, 渡辺彰: 宮城県における Acinetobacter Spp. の薬剤感受性調査. 第57回日本化学療法学会総会, 東京, 2009.6.

473. 布施克浩, 藤村茂, 五味和紀, 菊地利明, 高根秀成, 中野禎久, 渡辺彰, 貫和敏博: メタロ-β-ラクタマーゼ産生 *pseudomonas aeruginosa* における pyocyanin 産生について. 第57回日本化学療法学会総会, 東京, 2009.6.
474. 榊原智博, 井上彰, 前門戸任, 菅原俊一, 小林国彦, 貫和敏博, 西條康夫: 切除不能非小細胞肺癌に対するゲムシタピン+カルボプラチン+デキサメサゾン併用化学療法第II相試験. 第49回日本呼吸器学会学術講演会, 東京, 2009.6.
475. Ahmad MA Katsha, Ohkouchi S, Xin H, Nukiwa T, Saijo Y: MSC sameliorate elastase emphysema by suppressing IL-1b and inducing growth factors. 第49回日本呼吸器学会学術講演会, 東京, 2009.6.
476. 井上彰, 朝比奈肇, 大泉聡士, 木下一郎, 石田卓, 藤田結花, 須甲憲明, 原田眞雄, 前門戸任, 西條康夫, 貫和敏博, 秋田弘俊, 西村正治, 磯部宏: ゲフィチニブ既治療進行小細胞肺癌に対するゲフィチニブ再治療の第II相試験. 第49回日本呼吸器学会学術講演会, 東京, 2009.6.
477. 菊地利明, 渡辺彰, 五味和紀, 榊原智博, 海老名雅仁, 貫和敏博: 多型縦列反復配列 (VNTR) の菌遺伝子型による非結核性抗酸菌症の病態予測. 第49回日本呼吸器学会学術講演会, 東京, 2009.6.
478. 孫若文, 辛紅, 高畑武功, 伊東重豪, 鬼島宏, 貫和敏博, 西條康夫: マウス肺の成長過程における肺肝細胞の動体解析. 第49回日本呼吸器学会学術講演会, 東京, 2009.6.
479. 大河内眞也, 阿部達也, 海老名雅仁, 田口善夫, 中田紘一郎, 貫和敏博: 特発性肺線維症 (IPF) 臨床試験患者登録における重症度指標取り込みへの提言. 第49回日本呼吸器学会学術講演会, 東京, 2009.6.
480. 光石陽一郎, 玉田勉, 奈良正之, 海老名雅仁, 貫和敏博: サルコイドーシスと気管支喘息は合併しうるか?. 第49回日本呼吸器学会学術講演会, 東京, 2009.6.
481. 大東久佳, 菊地利明, 榊原智博, 五味和紀, 渡辺彰, 貫和敏博: 非結核性抗酸菌による過敏性肺炎動物実験モデルの確立. 第49回日本呼吸器学会学術講演会, 東京, 2009.6.
482. 三橋善哉, 五味和紀, 大東久佳, 菊地利明, 海老名雅仁, 渡辺彰, 貫和敏博: 嚢胞性線維症で呼吸器感染症を繰り返し肺移植を検討するに至った一例. 第49回日本呼吸器学会学術講演会, 東京, 2009.6.

483. 中村敦, 井上彰, 太田洋充, 大河内眞也, 海老名雅仁, 貫和敏博: 原発性肺癌で根治的放射線治療における重症放射線肺臓炎の検討. 第49回日本呼吸器学会学術講演会, 東京, 2009.6.
484. 村上康司, 井上彰, 貫和敏博: ゲフィチニブ耐性例における個別化治療に関する検討. 第49回日本呼吸器学会学術講演会, 東京, 2009.6.
485. 太田洋充, 廣田直, 久田修, 大河内眞也, 海老名雅仁, 貫和敏博: TGF- $\beta$  は肺障害後の線維化の過程で肺胞上皮と内皮細胞のバリアの低下を誘導する. 第49回日本呼吸器学会学術講演会, 東京, 2009.6.
486. 小林誠, 大河内眞也, 海老名雅仁, 貫和敏博: 喫煙指数分布から見た肺癌, IIPs の nicotine 依存性. 第49回日本呼吸器学会学術講演会, 東京, 2009.6.
487. 玉井ときわ, 小野学, 佐藤靖史, 太田洋充, 廣田直, 大河内眞也, 久田修, 玉田勉, 貫和敏博, 海老名雅仁: 筋線維芽細胞分化に伴う VASH1 の発現と細胞増殖に対する影響. 第49回日本呼吸器学会学術講演会, 東京, 2009.6.
488. Damayanti T, Zaini J, Kikuchi T, Nukiwa T: The Role of OX40-OX40 ligand interaction on NKT cells in mouse model of allergic airway inflammation. 第49回日本呼吸器学会学術講演会, 東京, 2009.6.
489. 村松聡士, 榊原智博, 小山正平, 村上康司, 井上彰, 渡辺みか, 清水川稔, 三木誠, 海老名雅仁, 貫和敏博: エンドキサンパルス療法によって気管支胸腔瘻が改善した Wegener 肉芽腫症の1例. 第188回日本内科学会東北支部主催東北地方会, 仙台, 2009.6.
490. 千葉茂樹, 太田洋充, 大河内眞也, 海老名雅仁, 貫和敏博: 呼吸困難から始まった皮膚疾患を伴わない多発性筋炎の難治症例. 第9回膠原病肺疾患研究会, 2009.7.
491. 久田修, 玉田勉, 海老名雅仁, 石井智徳, 貫和敏博: 季節性気管支喘息から急速に進行した Churg-Strauss 症候群の一例. 第9回膠原病肺研究会, 仙台, 2009.7.
492. 森戸正顕, 久田修, 阿部恭子, 玉田勉, 井上彰, 海老名雅仁, 貫和敏博: 意識消失で発見された SIASH 合併肺小細胞癌の1例. 第49回日本肺癌学会東北支部第36回日本呼吸器内視鏡学会東北支部, 郡山, 2009.8.
493. 久田修, 福原達朗, 中村敦, 海老名雅仁, 貫和敏博: 人工弁機能不全と肺のすりガラス影との関連を疑われた一例. 第89回日本呼吸器学会東北地方会, 第119回日本結核学会東北地方会, 福島, 2009.9.

494. 阿部恭子, 久田修, 玉田勉, 山田隆之, 貫和敏博: 気管支喘息発作に伴い全周性の気管粘膜下気腫をきた一例. 第89回日本呼吸器学会東北地方会, 第119回日本結核学会東北地方会, 福島, 2009.9.
495. 千葉茂樹, 太田洋充, 大河内眞也, 海老名雅仁, 貫和敏博, 田澤立之, 中田光: 低身長症の男児に発症した肺胞蛋白症の1例. 第189回日本内科学会東北地方会, 福島, 2009.
496. Satoh H, Taguchi K, Moriguchi T, Suzuki T, Ebina M, Nukiwa T, Yamamoto M: Nrf2 acts as a novel metastasis suppressor in the lung. 第68回日本癌学会学術総会, 横浜, 2009.10.
497. Ohkouchi S, Nukiwa T: Multipotent stromal cells (MSCs) secrete stanniocalcin-1 (STC-1) and inhibit lung cancer cell death caused by ischemia. 第68回日本癌学会学術総会, 横浜, 2009.10.
498. 阿部恭子, 玉田勉, 奈良正之, 久田修, 光石陽一郎, 五味和紀, 海老名雅仁, 貫和敏博: 当科における骨サルコイドーシス4例の臨床的検討. 第29回日本サルコイドーシス学会/肉芽腫性肺疾患学会総会, 宇都宮, 2009.10.
499. 五味和紀, 玉田勉, 光石陽一郎, 奈良正之, 海老名雅仁, 貫和敏博: BTNL 遺伝子 SNP は本邦のサルコイドーシス症例の有力な宿主因子ではない. 第29回サルコイドーシス/肉芽腫性肺疾患学会総会, 宇都宮, 2009.10.
500. 光石陽一郎, 玉田勉, 奈良正之, 海老名雅仁, 貫和敏博: 慢性咳嗽を呈するサルコイドーシス患者の臨床的特徴. 第29回サルコイドーシス/肉芽腫性肺疾患学会総会, 宇都宮, 2009.10.
501. 久田修, 海老名雅仁, 千葉茂樹, 阿部恭子, 木村雄一郎, 谷口博之, 太田洋充, 大河内眞也, 貫和敏博: 早期診断と生存期間の予測からみた結成バイオマーカー SP-D と KL-6 の有用性と限界. 第80回間質性肺疾患研究会, 東京, 2009.11.
502. 磯部宏, 井上彰, 小林国彦, 前門戸任, 菅原俊一, 大泉聡史, 西條康夫, 弦周明彦, 森田智視, 萩原弘一, 貫和敏博: Star Trials from Japan 1: EGFR 変異遺伝子陽性の進行非小細胞肺癌における第 III 相試験 (NEJ002) の中間解析結果. 第50回日本肺癌学会, 東京, 2009.11.
503. 榊原智博, 井上彰, 石本修, 前門戸任, 松原信行, 森川直人, 奥寺弘一, 白井一裕, 鈴木俊郎, 貫和敏博, 菅原俊一: プラセナ併用療法後の二次化学療法における S-1 と 隔週ドセタキセル併用療法の第二相試験. 第50回日本肺癌学会, 東京, 2009.11.

504. 阿部恭子, 玉田勉, 久田修, 奈良正之, 海老名雅仁, 貫和敏博: オマリズマブによって著し改善が得られた重症気管支喘息の1症例. 第190回日本内科学会東北地方会, 仙台, 2010.2.
505. 久田修, 阿部恭子, 玉田勉, 海老名雅仁, 貫和敏博: 視野欠損で発見され gefitinib が著効した肺癌の1例. 第90回日本内科学会東北地方会, 仙台, 2010.2.
506. 早坂礼, 太田洋充, 千葉茂樹, 大河内眞也, 海老名雅仁, 貫和敏博, 桜田晃, 佐渡哲, 近藤丘, 渡辺みか: 術前診断に難渋した FDG-PET で低吸収を示す肺腫瘍の1例. 第90回日本内科学会東北地方会, 仙台, 2010.2.
507. 村松聡士, 榊原智博, 佐々木陽彦, 福原達朗, 井上英行, 佐藤博, 渡辺みか, 井上彰, 貫和敏博: 膜性腎症を契機に発見された肺腺癌の1例. 第90回日本内科学会東北地方会, 仙台, 2010.2.
508. 佐藤健太, 福原達朗, 佐々木陽彦, 村松聡士, 玉田勉, 久田修, 阿部恭子, 山谷陸雄, 海老名雅仁, 貫和敏博: ゼオライトが原因と思われ治療に難渋している慢性過敏性肺臓炎の一例. 第90回日本呼吸器学会東北地方会, 山形, 2010.3.
509. 阿部恭子, 玉田勉, 久田修, 奈良正之, 海老名雅仁, 貫和敏博: Omalizumab を使用したコントロール不良な喘息患者4例の臨床的検討. 第90回日本呼吸器学会東北地方会, 山形, 2010.3.
510. 鈴木一正, 西巻雄司, 奥山香織, 大野勲, 保嶋稔, 荻原順一, 諏訪部章, 柴田陽光, 高橋長一郎, 武田博昭, 井田士朗, 賀来満夫, 渡辺彰, 貫和敏博, 新妻一直, 金光敬二: 抗菌剤使用と肺炎球菌薬剤性耐性化に関する臨床疫学的調査. 第90回日本呼吸器学会東北地方会, 山形, 2010.3.
511. 千葉茂樹, 太田洋充, 大河内眞也, 海老名雅仁, 貫和敏博, 中嶋蘭, 三森経世: 卵巣癌を合併した, 抗 PL-7抗体陽性の難知性多発性筋炎の1症例. 第90回日本呼吸器学会東北地方会, 山形, 2010.3.
512. 大河内眞也, カッチャ アハマド, 兼平雅彦, 菊地利明, 貫和敏博: 間葉系幹細胞が誘導する UncouplingProtein2依存性 ROS 抑制作用と Warburg 効果. 第9回日本再生医療学会総会, 広島, 2010.3.
513. 佐藤大希, 田口恵子, 森口尚, 海老名雅仁, 貫和敏博, 山本雅之: 転写因子 Nrf2は宿主肺における癌転移性因子である. 第50回日本呼吸器学会学術講演会, 京都, 2010.4.

514. 村上康司, 玉田勉, 奈良正之, 菊地利明, 海老名雅仁, 貫和敏博: 気道粘膜下腺細胞における Toll 様受容体シグナリングによる分泌調節機序の検討. 第50回日本呼吸器学会学術講演会, 京都, 2010.4.
515. 千葉茂樹, 太田洋充, 久田修, 大河内眞也, 阿部恭子, 村松聡士, 海老名雅仁, 貫和敏博: 特発性間質性肺炎急性増悪に関する臨床的検討と肺線維症の予後調査. 第50回日本呼吸器学会学術講演会, 京都, 2010.4.
516. 孫若文, 辛紅, 鈴木一宏, 花田直之, 石黒敦, 高畑武功, 伊東重豪, 鬼島宏, 貫和敏博, 西條康夫: マウス肺の成長と傷害修復過程における肺幹細胞の動態解析. 第50回日本呼吸器学会学術講演会, 京都, 2010.4.
517. 大河内眞也, Ahmed Katcha, 兼平雅彦, 菊地利明, 海老名雅仁, 貫和敏博: 間葉系幹細胞 (MSCs) 分泌 Stanniocalcin1 (STC1) が誘導する Uncoupling Protein2 (UCP2) 依存性 Reactive Oxygen Species (ROS) 抑制作用と Warburg 効果. 第50回日本呼吸器学会学術講演会, 京都, 2010.4.
518. 村松聡士, 佐々木陽彦, 井上彰, 福原達朗, 大河内眞也, 榊原智博, 千葉茂樹, 阿部恭子, 小山正平, 沖永壮治, 前門戸任, 大内讓, 安田浩康, 海老名雅仁, 貫和敏博: 進行非小細胞癌で化学療法を施行した患者の予後調査に基づく, 全生存期間, 2年生存率の10年の変化. 第50回日本呼吸器学会学術講演会, 京都, 2010.4.
519. 太田洋充, 千葉茂樹, 久田修, 大河内眞也, 海老名雅仁, 貫和敏博: 特発性間質性肺炎と肺癌の合併についての臨床的検討. 第50回日本呼吸器学会学術講演会, 京都, 2010.4.
520. 大東久佳, 菊地利明, 五味和紀, 渡辺彰, 貫和敏博: 非結核性抗酸菌による過敏性肺臓炎動物実験モデルの確立・病態解明. 第50回日本呼吸器学会学術講演会, 京都, 2010.4.
521. 阿部恭子, 玉田勉, 奈良正之, 久田修, 光石陽一郎, 五味和紀, 海老名雅仁, 貫和敏博: 当科における骨サルコイドーシス4例の臨床的検討. 第50回日本呼吸器学会学術講演会, 京都, 2010.4.
522. 萩原弘一, 貫和敏博, 杉山幸比古他 (特発性肺線維症急性増悪, 薬剤性肺障害遺伝子研究グループ): 特発性間質性肺線維症急性増悪, 薬剤性肺障害の遺伝学的検討. 第50回日本呼吸器学会学術講演会, 京都, 2010.4.



523. Triya Damayanti, Jamal Zaini, Toshiaki Kikuchi, Toshihiro Nukiwa: OX40-OX40L interactions on NKT cells contribute development of airway inflammation in mouse model of allergic airway inflammation, 第50回日本呼吸器学会学術講演会, 京都, 2010.4.
524. 田澤立之, 浦野真也, 金子千夏, 元井奈都紀, 根井貴仁, 中山秀章, 寺田正樹, 高田俊範, 井上義一, 貫和敏博, 中田光: 肺胞蛋白症に対する GM-CSF 吸入療法の効果予測因子の検討, 第50回日本呼吸器学会学術講演会, 京都, 2010.4.
525. 貫和敏博: 登山・低地での低酸素・運動負荷 SpO<sub>2</sub>評価と呼吸機能の登山活動能力予測への意義-キリマンジャロ高齢登山経験からの展開-. 第30回日本登山医学会学術集会, 群馬, 2010.5.
526. 大河内眞也, 千葉茂樹, 太田洋光, 海老名雅仁, 貫和敏博, 秋山聖子, 渡辺みか: 神経膠芽腫に続発した胸腔原発血管肉腫の1例. 第191回日本内科学会東北地方会, 仙台, 2010.6.
527. 阿部恭子, 久田修, 玉田勉, 五味和紀, 貫和敏博, 沖永壮治, 三浦元彦: ステロイド投与にて改善がみられたマイコプラズマ肺炎の1例. 第191回日本内科学会東北地方会, 仙台, 2010.6.
528. 井草龍太郎, 柴原泰三, 佐藤悠子, 貫和敏博: 緑膿菌の慢性持続感染症を伴う気管支拡張症に対して大量トブラマイシン吸入を施行した2例の検討. 第191回日本内科学会東北地方会, 仙台, 2010.6.
529. 白井公紹, 椎原淳, 佐藤大希, 久田修, 海老名雅仁, 貫和敏博: 経過中に著明なカリウム血症を認めた肺癌の一例. 第49回日本肺癌学会東北支部会・第36回日本呼吸器内視鏡学会東北支部会, 仙台, 2010.7.
530. 太田洋充, 千葉茂樹, 大河内眞也, 宮内栄一, 秋山聖子, 渡辺みか, 海老名雅仁, 貫和敏博: 神経膠腫に続発した胸腔原発血管腫の一例. 第49回日本肺癌学会東北支部会・第36回日本呼吸器内視鏡学会東北支部会, 仙台, 2010.7.
531. 久田修, 海老名雅仁, 貫和敏博: KL-6は胸部網状陰影の予後予測に有用である. 第1回びまん性肺疾バイオマーカー研究会, 東京, 2010.8.
532. 椎原淳, 久田修, 玉田勉, 海老名雅仁, 貫和敏博: 美容従事者に認めたびまん性気管支粘液栓の一例. 第91回日本呼吸器学会東北地方会, 山形, 2010.9.

533. 鳴海創大, 佐々木陽彦, 井上彰, 菊地利明, 海老名雅仁, 貫和敏博: 関節リウマチ治療中に結核性腹膜炎と性器結核を発症した一例. 第91回日本呼吸器学会東北地方会, 山形, 2010.9.
534. 天内絵里香, 椎原淳, 佐藤大希, 久田修, 海老名雅仁, 貫和敏博: 三姉妹の胸部画像を比較し得た家族性間質性肺炎の1症例. 第192回日本内科学会東北地方会, 山形, 2010.9.
535. 大野勲, 鈴木一正, 西巻雄司, 奥山香織, 保嶋実, 荏原順一, 諏訪部章, 柴田陽光, 高橋長一郎, 武田博明, 井田士朗, 賀来満夫, 渡辺彰, 貫和敏博, 新妻一直, 金光敬二: 東北地方で分離された肺炎球菌のペニシリン結合蛋白(PBP) 遺伝子変異と経口 $\beta$ -ラクタム剤感受性に関する臨床疫学的調査. 第91回日本呼吸器学会東北地方会・第121回日本結核病学会東北支部学会, 山形, 2010.9.
536. 貫和紀子, 謝勉, 福原達朗, トレダセザリ, 菊地利明, 海老名雅仁, 貫和敏博: 肺癌細胞株 PC9 (EGFR deletion) と A549 (k-ras ser) における side population, self seeding, 肺 Xenograft 形成. 第69回日本癌学会学術講演会, 大阪, 2010.9.
537. 佐藤輝幸, 砂河孝行, 石川俊平, 永江玄太, 野中綾, 石川雄一, 金田篤志, 貫和敏博, 油谷浩幸: 肺小細胞癌株のヒストン修飾異常に関する検討. 第69回日本癌学会学術講演会, 大阪, 2010.9.
538. 孫若文, 西條康夫, 貫和敏博, 鬼島宏, 伊東重豪, 高畑武功, 石黒敦: マウス肺の成長と損傷過程における肺前駆細胞の動態解析. 第69回日本癌学会学術講演会, 大阪, 2010.9.
539. 光石陽一郎, 本橋ほづみ, 油谷浩幸, 貫和敏博, 山本雅之: 転写因子 Nfr2 はヒト肺線癌細胞株 A549で osteopontin の発現を増加させる. 第69回日本癌学会学術講演会, 大阪, 2010.9.
540. 村松聡士, 玉田勉, 海老名雅仁, 貫和敏博: 喘息合併 COPD を念頭に置いた治療が奏功した症例の検討 臨床喘息研究会 第18回学術講演会, 東京, 2010.10.
541. 榊原智博, 菅原俊一, 前門戸任, 石田卓, 白井一裕, 井上彰, 石本修, 松原信行, 西條康夫, 貫和敏博: 切除不能局所進行非小細胞肺癌の化学放射線療法における UFT+CDDP 対 VNR+CDDP の無作為化比較第二相試験. 第51回日本肺癌学会, 広島, 2010.11.

542. 渡辺洋, 前門戸任, 井上彰, 菅原俊一, 森川直人, 松原信行, 榊原智博, 石本修, 渡邊香奈, 福原達朗, 貫和敏博: 進行非小細胞肺癌三次治療におけるイリノテカン療法の第2相試験. 第51回日本肺癌学会, 広島, 2010.11.
543. 佐々木陽彦, 井上彰, 福原達朗, 榊原智博, 前門戸任, 沖永壮治, 安田浩康, 海老名雅仁, 貫和敏博: 非小細胞肺癌 (NSCLC) の2年生存率・全生存期間の10年間の変化. 第51回日本肺癌学会, 広島, 2010.11.
544. 宮内栄作, 太田洋充, 久田修, 大河内眞也, 井上彰, 海老名雅仁, 貫和敏博: 間質性肺炎と肺癌の合併に関する臨床的検討. 第51回日本肺癌学会, 広島, 2010.11.
545. 久田修, 阿部恭子, 玉田勉, 福原達朗, 海老名雅仁, 貫和敏博: 抗原隔離後も進行したゼオライトによる肺障害の一例. 第12回東北びまん性肺疾患研究会, 仙台, 2010.11.
546. 椎原淳, 久田修, 海老名雅仁, 貫和敏博: HRCT で小葉中心性すりガラス陰影を呈したメサラジンによる薬剤性肺障害の1例. 第193回日本内科学会東北地方会, 仙台, 2011.2.
547. 大河内眞也, 千葉茂樹, 菊地利明, 海老名雅仁, 貫和敏博: 間葉系幹細胞 (MSC s) 由来ミトコンドリア関連ホルモン STC1 を用いた肺微小環境恒常性維持の可能性. 第51回日本呼吸器学会学術講演会, 東京, 2011.4.
548. 沖永壮治, 峯岸裕司, 前門戸任, 森川直人, 井上彰, 小林国彦, 原田眞雄, 萩原弘一, 貫和敏博, 弦間昭彦: 高齢者における EGFR 変異陽性進行非小細胞肺癌 (NSCLC) に対する初回 gefitinib の第2相試験 (NEJ003). 第51回日本呼吸器学会学術講演会, 東京, 2011.4.
549. 千葉茂樹, 太田洋充, 鳴海創大, 久田修, 海老名雅仁, 貫和敏博: 肺気腫合併肺線維症 (CPFE) 臨床背景と発癌に関する検討. 第51回日本呼吸器学会学術講演会, 東京, 2011.4.
550. 久田修, 木村雄一郎, 千葉茂樹, 鳴海創大, 太田洋充, 大河内眞也, 玉田勉, 海老名雅仁, 貫和敏博: 血清 SP-D と KL-6 の乖離を伴う蜂巢病変: その病態と患者予後. 第51回日本呼吸器学会学術講演会, 東京, 2011.4.
551. 東出直樹, 菊地利明, 大東久佳, 海老名雅仁, 渡辺彰, 貫和敏博: Hot tub lung 動物実験モデルにおける NKT 細胞の役割. 第51回日本呼吸器学会学術講演会, 東京, 2011.4.

552. 大東久佳, 菊地利明, 東出直樹, 海老名雅仁, 渡辺彰, 貫和敏博: Hot tub lung 動物実験モデルにおいて肺 CD11b<sup>+</sup>樹状細胞は TLR9-M y D88経路依存性炎症を惹起する. 第51回日本呼吸器学会学術講演会, 東京, 2011.4.
553. 白井一裕, 菅原俊一, 前門戸任, 石田卓, 榊原智博, 井上彰, 石本修, 松原信行, 西條康夫, 貫和敏博: III 期局所進行切除不能非小細胞肺癌に対する CDDP + UFT (UP) と CDDP+VNR (NP) 併用化学放射線療法の無作為化比較第二相試験. 第51回日本呼吸器学会学術講演会, 東京, 2011.4.
554. 鳴海創大, 海老名雅仁, 久田修, 千葉茂樹, 太田洋充, 大河内眞也, 玉田勉, 貫和敏博: pirfenidone による間質性肺炎血清マーカー SP-D と KL-6の減少効果: 初回単独治療と追加投与と症例の検討. 第51回日本呼吸器学会学術講演会, 東京, 2011.4.
555. 村松聡士, 玉田勉, 奈良正之, 村上康司, 海老名雅仁, 貫和敏博: 気道粘膜下腺細胞からの電解質分泌に対する PDE 阻害効果の影響. 第51回日本呼吸器学会学術講演会, 東京, 2011.4.
556. 村上康司, 玉田勉, 奈良正之, 村松聡士, 菊地利明, 兼平雅彦, 海老名雅仁, 貫和敏博: 気道粘膜下腺細胞における Toll 様受容体4シグナリングによる分泌調節機序の検討. 第51回日本呼吸器学会学術講演会, 東京, 2011.4.
557. 綿貫善太, 井上彰, 福原達朗, 榊原智博, 太田洋充, 久田修, 佐々木陽彦, 大河内眞也, 海老名雅仁, 貫和敏博: 悪性胸膜中皮腫 (MPM) に対する桐蔭でのペメトレキセド (PEM) 化学療法の治療成績. 第51回日本呼吸器学会学術講演会, 東京, 2011.4.
558. 貫和紀子, 謝勉, 福原達朗, Cezary Treda, 菊地利明, 海老名雅仁, 谷田部恭, 貫和敏博: 肺腺癌細胞株 PC9による特異 xenograft 形成: PC9と A549の比較. 第10回肺癌分子病態治療研究会, 札幌, 2011.5.
559. 榊原智博, 小林誠, 井上彰, 福原達朗, 貫和敏博: 東北大学病院における EML4 - ALK 融合遺伝子陽性肺癌の臨床的特徴. 第50回日本肺癌学会東北支部会, 山形, 2011.7.
560. 千葉茂樹, 太田洋充, 大河内眞也, 海老名雅仁, 貫和敏博, 齊藤涼子, 藤島史喜: 肺炎症状で発症、急速に進行し死亡に至った気管支肺胞上皮癌の一例. 第50回日本肺癌学会東北支部会, 山形, 2011.7.
561. 二瓶真由美, 久田修, 東條裕, 椎原淳, 海老名雅仁, 貫和敏博: 特発性間質性肺炎へのステロイド維持療法中に水痘を発症した一例. 第93回日本呼吸器学会東北地方会, 盛岡, 2011.9.

## V. 書評・紹介

1. 貫和敏博：書評 呼吸器臨床を学ぶ若い医師に. 週刊医学会新聞2415, 2000.
2. 貫和敏博：書評 呼吸器科医が座右に置く最善の書の1つ 胸部のCT第2版. 週刊医学会新聞2592, 2004.
3. Nukiwa T: Diffuse Lung Disease: A Practical Approach (Baughman RP, duBois RM, Lynch JP, Wells AU edits). N Engl J Med 352: 2360, 2005.
4. 貫和敏博：書評 肺がん薬物療法 Q&A - 臨床現場での考え方 (編集：中西洋一), 南江堂, 2009.
5. 貫和敏博：書評 チーム医療のための呼吸ケアハンドブック 週刊医学会新聞 2885, 2010.

## VI. 解説・評論等 (新聞・広報誌等での解説記事、事典の執筆等)

1. 貫和敏博：健康法師の世界46. 体が喜ぶ健康法 西野流呼吸法. サンデー毎日：78-79, 1994.
2. 貫和敏博：最近の話題から 肺がん新薬の効果と副作用. きょうの健康 (NHK)：115-117, 2003.
3. 貫和敏博：工学的発想が要求される bioinformatics と臨床応用 - 東北大学における応用情報生物学と工学の融合促進を期待する -. 東北大学広報2003年度特集：19, 2003.
4. 貫和敏博：癌遺伝子治療. Medical Briefs in Cancer 9：12-13, 2004.
5. 貫和敏博：Gefitinib (イレッサ) と副作用. メディカルサイエンスダイジェスト30：47-48, 2004.
6. 貫和敏博：特発性間質性肺炎の新分類. 話題の医学, 2005.6.
7. 貫和敏博, 木村雄一郎：呼吸器の病気 肺線維症. 毎日ライフ, 2006.
8. 光富徹哉, 貫和敏博：肺腺癌 EGFR 遺伝子特異変異に基づく gefitinib 投与とその効果・長期予後 (現状と前向き臨床試験). 日経 CME 3：2, 2006.

9. 貫和敏博：私の視点 たばこ－「嗜好品」幻想を捨てよ。朝日新聞，2007.02.15.
10. 貫和敏博，渋谷章，遠山雄二：2007年度 J-Breath 鼎談「呼吸器学会長を囲んで」。2007.
11. 福地義之助，永井厚志，貫和敏博：日本の呼吸器領域における禁煙推進の今後の方針。Smoke free views 4：2-8，2007.
12. 貫和敏博：市民公開講座 患者の「やまい」，患者の「こころ」。朝日新聞，2007.
13. 貫和敏博：禁煙で加速する肺の老化。なるほど健康雑学55 東北大リレー講座 河北新報，2007.
14. 貫和敏博：肺がん分子標的薬。なるほど健康雑学56 東北大リレー講座 河北新報，2007.
15. 貫和敏博：あくび・背伸びは何のため？。なるほど健康雑学57 東北大リレー講座 河北新報，2007.
16. 貫和敏博：呼吸器内科の診療紹介。With 東北大学病院地域医療連携センター通信第9号8，2008.
17. 貫和敏博：気軽に「いきいき」呼吸法。河北新報，2008..
18. 貫和敏博：「気」の解明は Brain Science から？(西野流呼吸法)。東北大学 Column 026，2008
19. 貫和敏博：広報誌創刊号によせて。PULMO 東北呼吸器内科医療推進機構広報誌，2010.

## VII. その他（随想など）

1. 貫和敏博：マイクロコンピューターと data base 用 application program. 内科 51：1540，1983.
2. 貫和敏博：アメリカのジョギング・日本のジョギングーボストンマラソンが楽しめた留学生活ー。呼吸10：610-612，1991.

3. 貫和敏博：わが留学記－米国国立衛生研究所（NIH）. Lilly DATE 3, 21, 1994.
4. 貫和敏博：もう一つの Bilingual 呼吸器における母国語と共通語. 呼吸と循環42：1129, 1994.
5. 貫和敏博, 江口研二, 宝来威, 加藤治文：(座談会) 肺癌患者数増加の現状と治療成績停滞の打破を考える. 内科78：921-933, 1996.
6. 松澤佑次, 千葉勉, 友池仁暢, 貫和敏博：「症候・病態の分子メカニズム」分子時代におこる臨床医学のあり方(座談会). Molecular Medicine 35 suppl, 586-596, 1999.
7. 工藤翔二, 貫和敏博：この人に聞く：(対談) 呼吸器疾患. アニムス 冬：4-11, 2000.
8. 貫和敏博：身体性へのルネサンス：西野流呼吸法と健康. モダンメディア46 suppl：201-209, 2000.
9. 貫和敏博, 加藤治文, 福岡正博：肺癌治療の現状と課題(座談会). 治療学35：77-84, 2001.
10. 工藤翔二, 滝澤始, 貫和敏博：「座談会」びまん性肺疾患 特発性肺線維症の治療をめぐる. 治療学36：101-112, 2002.
11. 貫和敏博：たばこをめぐる二つの話題. 白鳥150記念特集号：9-11, 2002.
12. 貫和敏博：西野流呼吸法の15年－われわれの身体は何なんだ－. 尚志 育英事業開始80周年記念号34：47-51, 2003.
13. 貫和敏博：呼吸法のどこが身体にいいの？知っているようで知らない呼吸. 週刊女性：64, 2003.
14. 貫和敏博, 宮園浩平, 秋山徹：シグナル伝達研究と分子標的治療(座談会). 現代医療12：2-17, 2003.
15. 工藤翔二, 貫和敏博, 上甲剛, 田口善夫, 吾妻安良太：間質性肺炎をめぐる(座談会). MEDICO 34, 2003.
16. 貫和敏博：工学的発想が要求される bioinformatics と臨床応用－東北大学における応用情報生物学と工学の融合促進を期待する－. 東北大学広報2003年度特集：19, 2003.

17. 貫和敏博ほか：呼吸法で少年少女時代の細胞が蘇る！（座談会）。由美かおる「若さのビューティー・スパーク」, 120-147, 竹書房, 2003.
18. 貫和敏博：西野流呼吸法の薦め. 生きるパワー西野流呼吸法（西野皓三 著）, 237-238, ちくま文庫, 2003.
19. 西條長宏, 横田淳, 貫和敏博（司会）：鼎談 基礎からみた肺癌, 臨床からみた肺癌－交差する肺癌基礎研究と臨床研究－. 現代医療36：1976-1990, 2004.
20. 貫和敏博：肺癌治療－多様な選択肢と患者への説明（座談会・司会）. 治療学38：89-97, 2004.
21. 貫和敏博（司会）, 大江裕一郎, 工藤翔二, 曾根三郎：肺癌治療における gefitinib（イレッサ）の臨床的有用性と問題点（座談会）. 呼吸23：98-109, 2004.
22. 貫和敏博：村上きみ子さんの身体が発するエネルギー・追悼によせて. 白鳥166：17, 2004.
23. 貫和敏博：特集 漢方と相補・代替医療 西野流呼吸法. 成人病と生活習慣病34：1047-1052, 2004.
24. 貫和敏博：西野流呼吸法体験記 身体が喜ぶのにはわけがある：天才の直覚した呼吸法動作. 西野皓三著「呼吸力を鍛える－西野流呼吸法」, 164-167, PHP 出版, 2004.
25. 貫和敏博：ペルソナの奥で元型の身体が弾む. 西野皓三著「西野流呼吸法生命のエネルギーの躍動」第五章. 248-251, 講談社, 2004.
26. 貫和敏博：西野先生の直覚：対気・気育・細胞・ミトコンドリア. 西野流呼吸法自己エネルギー昂揚（西野皓三 著）, 185-188, 学習研究社, 2005.
27. 長瀬隆英, 貫和敏博：慢性呼吸器疾患の急性増悪・その管理と予防（座談会）. COPD update 2：1-3, 2005.
28. 工藤翔二, 平山佳伸, 西條長宏, 宮坂信之, 貫和敏博：薬剤性肺障害の今日的課題. 日本医師会雑誌134：2093-2106, 2006.
29. 貫和敏博, 小橋陽一郎, 上甲剛, 吉澤靖之：間質性肺炎の診断はなぜ難しいか？（座談会）. 呼吸25：251-261, 2006.



30. 貫和敏博：View Spot Guesswork：ある米国教授の感受性あふれる言葉。内科98, 2006.
31. 貫和敏博：巻頭言 呼吸器疾患に対するゲノム医療と個別化医療。日本呼吸器学会雑誌45：1-2, 2007.
32. 貫和敏博：Research 最前線「第47回日本呼吸器学会」。内科, 2007.
33. 貫和敏博：間質性肺炎－分類から診断・治療へ。「INTERVIEW」在宅酸素療法による QOL 向上。呼吸器 NEWS&VIEWS31：14-16, 2007.
34. 貫和敏博：視座 一女医の追憶と医療の今日的課題。宮医報749, 2008.
35. 貫和敏博他：座談会「新会長・副会長に聞く」。宮医報749, 403-417, 2008.
36. 貫和敏博：アフリカ“キリマンジャロの雪”を見てきました！－海拔5千メートルで、HOT 患者の気持ち実感－。テイジン HOT 37, 2008.
37. 貫和敏博：西野流呼吸法：数億年前の脊椎動物につながる内なる野生を実体験しませんか？。心城会会報, 2008.
38. 貫和敏博, 瀬戸口靖弘, 瀬山邦明, 萩原弘一：遺伝子異常と肺疾患：21世紀ゲノム医学に向けて（座談会）。呼吸27：859-868, 2008.
39. 諏訪邦夫, 貫和敏博, 増山茂, 結城禎一：各種エクササイズの運動生理とその問題点。呼吸27：1030-1043, 2008.
40. 鴨下一郎, 貫和敏博：対談 肺の生活習慣病「慢性閉塞性肺疾患（COPD）」政治, 学会も COPD 対策で本腰 スパイロメトリーで肺年齢への理解を。Japan Medicine, 2008.
41. 貫和敏博, 飛田渉, 中井裕之：息（呼吸）呼吸機能の向上のための実践処方。SWC 元気点検票活用ガイドブック2009, 2009.
42. 貫和敏博：理事長挨拶 「公器」としての日本呼吸器学会。日呼吸会誌47：2009.
43. 貫和敏博：巻頭言 個別化医療と感性の医学－「感性」を訓練する。漢方医学33：2009.
44. 貫和敏博：Research 最前線 第28回日本サルコイドーシス/肉芽腫性疾患学会総会。内科103：380, 2009.

45. 杉山幸比古, 工藤翔二, 貫和敏博: 特発性肺線維症の過去と未来 (鼎談). 医薬ジャーナル45: 2009.
46. 貫和敏博: 歴史から学ぶ - déjà vu はあるか?. 日本呼吸器学会50周年記念誌: 17, 2010.
47. 貫和敏博: 第47回日本呼吸器学会学術講演会 ～学術部会の誕生から全プログラム関与まで～. 日本呼吸器学会50周年記念誌: 39-40, 2010.
48. 貫和敏博: 総務委員会 ～ATS にみる理事選考、中央執行部選考から考える～. 日本呼吸器学会50周年記念誌: 143-144, 2010.
49. 貫和敏博他: 座談会「政権と医療政策」. 宮医報768, 2010.
50. 貫和敏博, 杉山幸比古, 井上義一, 吾妻安良太: 【間質性肺炎と肺線維症パラダイムシフト後の臨床】新しい時代に入った肺線維症治療. (座談会) 治療学44: 599-605, 2010.
51. 貫和敏博: 理事長挨拶 社団法人日本呼吸器学会の持続可能性 (sustainability) と説明責任 (accountability). 日呼吸会誌48, 2010.
52. 貫和敏博: 還暦キリマンジャロ登山顛末記. 尚志41: 18-21, 2010.
53. 杉山幸比古, 三嶋理晃, 中田光, 貫和敏博: 難治性呼吸器疾患の現状と将来. (座談会) HUMAN SCIENCE 21: 4-13, 2010.
54. 寺本民生, 岩本愛吉, 貫和敏博, 菅野健太郎, 山本一彦, 豊岡照彦, 島田和幸: 治療学の来し方・行く末. (座談会) 治療学44: 1445-1454, 2010.
55. 貫和敏博: View Spot 日本医学「再開国」戦略: 留学生生活経費付き若手科学研究費枠の拡大とその目的. 内科108: 462, 2011.